

科目名	基礎演習	
科目責任者	新宮 尚人	
単位数他	1 単位(30 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セメスター	
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。	
科目概要	リハビリテーション専門職者を目指す学生として、基本的な心構えと態度(スチューデントスキル)と、大学での学びを円滑に進めるための学習の基礎技能(スタディスキル)を学修する。授業を通して4年間の学びの基盤を作ることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション専門職者を目指す大学生としてのマナーや社会規範を身につけ実践できる。 2. 国際的視野に立ち、リハビリテーション専門職者に求められるコミュニケーションスキル、情報スキルの基礎を身につけ実践できる 3. 課題の発見と解決力を養う方法について知り、4年間の学びの基礎を理解できる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション、建学の精神と本学での学び</p> <p>第2回：大学で学ぶということ、リハ専門職者としての必要な資質</p> <p>第3回：リハビリテーション専門職の国際支援・援助活動</p> <p>第4回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル①</p> <p>第5回：専門職を目指す者としてのコミュニケーションスキル②</p> <p>第6回：アクティブラーニング、情報スキル、情報倫理</p> <p>第7回：グループワーク 前半のまとめ</p> <p>第8回-15回：学科に分かれて実施</p>	<p><担当教員名></p> <p>新宮尚人</p> <p>新宮尚人</p> <p>鈴木達也ほか</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>津森伸一</p> <p>新宮尚人</p> <p>根地嶋誠、鈴木達也、石津希代子</p>

アクティブラーニング	テーマの内容を深めるためにグループ学修を行います。また、スチューデントスキル、スタディスキル獲得のために演習を取り入れます。
評価方法	1-7回の内容でレポート提出 50%、8-15回の内容でレポート提出 50%
課題に対するフィードバック	レポートもしくはグループ発表に対してコメントをします。
指定図書	知へのステップ 第4版 -大学生からのスタディ・スキルズ-くろしお出版, 東京. 2015
事前・事後学修	事前・事後学習は 40 分を目安としますが、事前学習は時間外でのグループの打ち合わせや準備なども含みます。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを確認し、大学生活で活用することで定着をはかるように努力してください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	基礎化学
科目責任者	大場 浩
単位数他	1単位（15時間）理学選択・作業選択・言語選択 1 Semester
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	物質がどんな元素からどのような結合で構成されているか、物質の量や濃度、さらにどのような変化を示すか（化学反応）についての基礎的な内容が主である。日常環境内や生体内の化学変化（酵素反応）にも言及する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常環境に関連した物質の構成元素とそれらの化学結合が理解できる。 2. 物質の量や濃度変化を化学反応に基づいて理解できる。 3. 酸、塩基と中和、酸化還元反応を日常環境と関連づけて理解できる。 4. 生体内の主な成分や基本的な酵素反応が理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大場 浩</p> <p>第1章 物質の構成、状態、分類および用途</p> <p>第1回：物質構成要素（元素・原子・分子・イオン）と物質の三態</p> <p>第2回：元素の周期律表と原子構造</p> <p>第3回：化学結合と物質の分類・用途</p> <p>第2章 物質量、濃度および化学反応</p> <p>第4回：物質量と濃度計算（原子量・分子量・%・モル・モル濃度など） （中間試験：第1章の範囲 30分）</p> <p>第5回：量や濃度変化と化学反応式および可逆反応と化学平衡</p> <p>第6回：酸と塩基、電離度、中和反応と塩</p> <p>第7回：酸化還元反応</p> <p>第8回 生体を構成する主な有機物質と生体内酵素反応</p>

アクティブラーニング	特に物質量や濃度計算は、演習問題（配布）で理解をはかる。
評価方法	中間試験（40%）、定期試験（60%）で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回の提出のリアクションペーパーでの質問に答えるほか、中間試験の解答・解説や定期試験の解答例を提示する。
指定図書	なし
事前・事後学修	講義でのポイントや演習問題を中心に事後学修を40分程度してください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	基礎物理学
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 1 セメスター
科目の位置付	DP(2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している.
科目概要	人間の身体は物理法則に従って動いているため、運動やリハビリテーションに用いる道具・器械の働きを理解するためには物理学の知識が不可欠である. 本科目は「運動学」などのリハビリテーション学の前提知識となる力学や波動の分野を対象とし、高等学校「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生にも配慮する.
到達目標	1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる. 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる. 3. 物理法則や数式の持つ意味を言葉で分かり易く説明できる.
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>津森 伸一</p> <p>第 1 回： ガイダンス，物理量とその表し方，物理学で使うグラフと関数</p> <p>第 2 回： いろいろな運動</p> <p>第 3 回： さまざまな力(1) (重力，張力，垂直抗力など)</p> <p>第 4 回： さまざまな力(2) (摩擦力，弾性力など)</p> <p>第 5 回： 力のつり合いと運動の法則</p> <p>第 6 回： 物体の重心と回転運動</p> <p>第 7 回： 運動量，仕事とエネルギー</p> <p>第 8 回： 波の運動</p>

アクティブラーニング	Moodle を用いたビデオ閲覧・副教材提示及び小テストを行う。反転授業を実施するものとし、ビデオやテキストを用いた自宅での事前学習と問題演習やディスカッションを中心とする教室授業により進行する。
評価方法	小テスト(ほぼ毎回の授業で実施)30%, 定期試験 70%として評価する。
課題に対するフィードバック	毎週の小テストを Moodle 上で行い、解答後即座に正解・解説と採点結果を返す。また、授業毎のリアクションペーパーを Moodle を用いて提出してもらい、質問や意見については個別に返信を行う。
指定図書	『PT・OT ゼロからの物理学』 望月久, 棚橋信雄 編著, 羊土社
事前・事後学修	事前学修として、指定されたビデオ教材を閲覧し教科書の該当ページにも目を通しておくこと (30 分程度) 事後学修として、授業中に指定する問題を解き理解を深めること (10 分程度)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9 時～12 時 上記以外でもメール(shinichi-t@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	統計学・疫学 概論
科目責任者	石井敏弘
単位数他	2単位 (30時間) 理学選択・作業選択 1 Semester 言語必修 3 Semester
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	<p>〈隆朋也 担当分〉 医療分野で必要となるデータ処理方法としての統計学の基礎的事項について、問題を科学的に解決するための論理および手法を学びます。主に1つの変数について分析する手法を扱います。</p> <p>〈石井敏弘 担当分〉 疫学の基礎的事項を系統的に学修し、リハビリテーションに関わる問題を科学的に解決するための論理および手法を習得することを目的とします。講義と演習を組み合わせて行います。</p>
到達目標	<p>〈隆朋也 担当分〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。 2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。 3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。 <p>〈石井敏弘 担当分〉</p> <p>つぎの課題に疫学がいかにより用いられているかを説明し、具体的な問題を解決できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病の頻度を測定する ・ 疾病の発生原因を明らかにする ・ 治療の有効性を評価する ・ 診断用検査の正確さを査定する
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>石井敏弘、隆朋也</p> <p>〈隆朋也 担当分〉</p> <p>第1回： ガイダンス、母集団と標本</p> <p>第2回： 分布を描く</p> <p>第3回： 分布の代表値と散布度</p> <p>第4回： 正規分布</p> <p>第5回： 母集団での平均値の推定</p> <p>第6回： 割合に関する分布と検定</p> <p>第7回： 母平均値の差の検定</p> <p>第8回： 分布を仮定しない検定法</p> <p>〈石井敏弘 担当分〉</p> <p>第9回： ガイダンス、疫学入門 (疫学とは、疫学的アプローチ、疫学の適用)</p> <p>第10回： 疫学で用いられる尺度 (有病率、罹患率、リスク、生存率、致命率)</p> <p>第11回： 疾病、障害の発生パターン (記述疫学、生態学的研究)</p> <p>第12回： コホート研究 (研究デザイン、対象者の選択、データ収集、解析)</p> <p>第13回： 症例対照研究 (研究デザイン、対象者の選択、データ収集、解析)</p> <p>第14回： 臨床試験 (研究デザイン、偶然による過誤、仮説検定の理論と方法) 対策</p> <p>第15回： 診断学的検査 (検査精度の指標、検査精度の比較)</p>

アクティブラーニング	Moodle を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
評価方法	<p>〈隆朋也 担当分〉 筆記試験 100%</p> <p>〈石井敏弘 担当分〉 原則は筆記試験 100% (ただし授業における状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)</p>
課題に対するフィードバック	口頭や配布資料、Moodle への提示などによって行う。
指定図書	<p>〈隆朋也 担当分〉 高木広文著 「ナースのための統計学 第2版」医学書院</p> <p>〈石井敏弘 担当分〉 Raymonds S. Greenberg 編著、熊倉伸宏／高柳満喜子 監訳 『医学がわかる疫学』 新興医学出版社</p>
事前・事後学修	<p>〈両教員に共通〉 学修では単に計算方法を暗記するだけではなく、考える過程や理論を修得することが重要です。前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて復習してください。</p> <p>〈石井敏弘 担当分〉 中学校卒業レベルの国語、数学に関わる標準的な学力を備えていることが受講の要件です。これについては事前学修（自己学習）してください。</p>
オフィスアワー	<p>〈隆朋也〉 看護学部所属。1605 研究室 〈石井敏弘〉 看護学部所属。1615 研究室</p> <p>時間については初回授業時に提示します。</p>

科目名	社会福祉原論
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学選択・作業選択 2 セメスター 言語必修 2 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	前半では、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえて解説していきます。また、社会福祉の理念と実際、歴史等を学びます。後半では、社会福祉の様々な領域の現状を、事例をまじえて学習していきます。
到達目標	1. 社会福祉の基礎概念を説明できる。 2. 社会福祉に関連するサービスの現状や課題を説明できる。 3. 医療と社会福祉の協働の在り方を説明できる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員＞ 佐々木正和</p> <p>第 1 回：社会福祉の基礎概念 現代社会における社会福祉とは</p> <p>第 2 回：社会福祉をとりまく状況 貧困問題等</p> <p>第 3 回 社会福祉の歴史と展開① 戦前の社会福祉の歴史</p> <p>第 4 回 社会福祉の歴史と展開② 戦後の社会福祉の歴史</p> <p>第 5 回 社会福祉の仕組みと経営 法律・サービスについて</p> <p>第 6 回 社会福祉の機関と施設 各福祉機関について</p> <p>第 7 回 社会福祉と援助と方法 ソーシャルワーク・グループワーク</p> <p>第 8 回 社会保障・公的扶助 社会保障とは</p> <p>第 9 回 子ども家庭福祉 子どもへの支援(事例紹介)</p> <p>第 10 回 高齢者福祉 高齢者への支援 (事例紹介)</p> <p>第 11 回 障がい者福祉 障がい者への支援 (事例紹介)</p> <p>第 12 回 地域福祉 地域連携・地域包括ケアシステム</p> <p>第 13 回 これからの社会福祉の課題 現在ある社会福祉の課題について</p> <p>第 14 回 社会福祉を支える人たち 様々な社会福祉職</p> <p>第 15 回 まとめ</p>

アクティブラーニング	単元ごとの振り返りのため、単元内容に関する問題をクイズ形式で出題する。その問題をグループごとに話し合い、解答を導きだしてもらう。
評価方法	授業への取組姿勢 20%、レポート 30%、定期試験（又はレポート） 50%
課題に対するフィードバック	ムードルによるリアクションペーパーの提出。リアクションペーパーの質問や疑問等に関しては講義の中でフィードバックしていく。
指定図書	山縣文治・岡田忠克『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房
事前・事後学修	事前に配布する資料を予習、復習しておく
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。

科目名	解剖学
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 Semester
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学では入門解剖学として、下記の内容について要点を講義する。さらに、浜松医科大学での解剖実習見学を通して、人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成について述べるができる。 2. 心臓血管系の構造と機能について述べるができる。 3. 内臓系の基本的な構造と機能について述べるができる。 4. 運動器系の構造上の特徴を述べるができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>顧 寿智</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、総論（人体の構成、細胞、組織）</p> <p>第 2 回：心臓血管系（血液、心臓の構造、）</p> <p>第 3 回：心臓血管系（心臓の血管、刺激伝道系、血管の構造）</p> <p>第 4 回：心臓血管系（循環路、リンパ系）</p> <p>第 5 回：呼吸器系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺）</p> <p>第 6 回：消化器系（消化管の管壁、腹膜、口腔、咽頭）</p> <p>第 7 回：消化器系（食道、胃、小腸、大腸）</p> <p>第 8 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）</p> <p>第 9 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）</p> <p>第 10 回：まとめ、中間テスト、実習見学の準備</p> <p>第 11 回：浜松医科大学での解剖学実習見学</p> <p>第 12 回：実習見学まとめ</p> <p>第 13 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）</p> <p>第 14 回：運動器系（骨と骨格筋の構造、主な骨と骨格筋の名称、位置、作用）</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>参考図書 『ネッター 解剖学アトラス』相磯貞和訳、南江堂 『日本人体解剖学』金子丑之助著、南山堂</p>

アクティブラーニング	Moodle の活用、タブレットアプリの活用、模型の活用、グループ学習など
評価方法	期末試験（70%）、レポート（10点）、小（中間）テスト10%、授業態度（10%）を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。（1コマ当たり約40分以上）
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（juchi-k@seirei.ac.jp）か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。

アクティブラーニング	Moodle の活用、タブレットアプリ (Visible Body など) の活用、模型の活用、グループ学習など
評価方法	期末試験 (70%)、レポート (10点)、小 (中間) テスト 10%、授業態度 (10%) を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』野村巖編、医学書院 『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	神経解剖学
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2単位（30時間） 理学必修・作業必修 2セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	神経解剖学は、解剖学に引き続いて、下記の内容について特に神経系を重点的に解説する。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そしてリハビリテーションに必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<p>9. 神経系の構成と主な機能を述べることができる。</p> <p>10. 感覚器系の構成と機能を述べることができる。</p> <p>11. 内分泌器系の構成と機能を述べることができる。</p>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞顧 寿智</p> <p>第1回：神経系の概観、神経組織</p> <p>第2回：髄膜と脳室系、神経系の発生</p> <p>第3回：脊髄、脳幹</p> <p>第4回：脳幹、小脳、</p> <p>第5回：大脳、伝導路</p> <p>第6回：解剖実験、</p> <p>第7回：脊髄神経</p> <p>第8回：脊髄神経</p> <p>第9回：まとめ、中間テスト</p> <p>第10回：中間テスト、脳神経</p> <p>第11回：脳神経、自律神経系</p> <p>第12回：感覚器系（皮膚、視覚、聴覚と平衡感覚）</p> <p>第13回：内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島）</p> <p>第14回：神経系・感覚器系、内分泌器系</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>参考図書 『ネッター 解剖学アトラス』相磯貞和訳、南江堂 『日本人体解剖学』金子丑之助著、南山堂</p>

アクティブラーニング	Moodle の活用、タブレットアプリ (Visible Body など) の活用、模型の活用、グループ学習など
評価方法	期末試験 (70%)、その他 (中間テスト10%、レポート10%、授業態度10%) を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	Moodle の活用、タブレットアプリ (Visible Body など) の活用、模型の活用、グループ学習など
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』野村巖編、医学書院 『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	人体機能学(動物性機能)
科目責任者	大林 雅春
単位数他	2単位(30時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 Semester
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「人体機能学」では、いわゆる「生理学」を学ぶ。すなわち生体の正常な機能を学習する学問である。「人体機能学Ⅰ」では、「生理学」のうち『動物性機能』を担当し、特に脳、神経・筋肉、感覚と刺激の受容、運動の調節に関する機能の基本的知識を習得する。疾病時における機能の変化について学ぶ土台を形成すると共に、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての基礎的な能力の育成を目指す。
到達目標	1. 脳の機能について説明できる。 2. 神経・筋の機能について説明できる。 3. 感覚の受容について説明できる。 4. 運動の調節について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第1回 オリエンテーション、生体の機能 (教科書第1章)</p> <p>第2回 神経系の基礎-1 (教科書第12章)</p> <p>第3回 神経系の基礎-2 (教科書第12章)</p> <p>第4回 自律神経系 (教科書第13章)</p> <p>第5回 自律神経系 (教科書第13章)</p> <p>第6回 脳-1 (教科書第14章)</p> <p>第7回 脳-2 (教科書第14章)</p> <p>第8回 脳-3 (教科書第14章)</p> <p>第9回 感覚-1 (総論) (教科書第15章)</p> <p>第10回 感覚-2 (各論) (教科書第15章)</p> <p>第11回 感覚-3 (各論) (教科書第15章)</p> <p>第12回 筋収縮 (教科書第11章)</p> <p>第13回 運動の調節-1 (教科書第8, 16章)</p> <p>第14回 運動の調節-2 (教科書第8, 16章)</p> <p>第15回 骨の生理学、まとめ (教科書第17章)</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>

アクティブラーニング	Moodleに掲載する資料は、必要に応じて各自印刷して予習・復習の参考にすること。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。 時にまとまった時間を準備し、授業の疑問点や Moodle 演習問題の質問等に個別に対応する。
指定図書	彼末一之 編「やさしい生理学」改訂第6版 南江堂
事前・事後学修	毎回の授業で講義・学習資料等を配布するので、各自復習しておく事が望ましい。さらに講義内容を把握しやすいようにビデオ学習も行うので、上映中は集中して理解に努めること。Moodleに掲載する資料は、必要に応じて各自印刷して予習・復習の参考にすること。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	人体機能学(植物性機能)
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1単位(30時間) 理学必修・作業必修・言語必修 2セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「人体機能学」では、いわゆる「生理学」を学ぶ。すなわち生体の正常な機能を学習する学問である。「人体機能学Ⅱ」では、「生理学」のうち『植物性機能』を担当し、特に血液 □体液、循環、呼吸、消化吸収、腎・泌尿器、代謝・体温調節、内分泌に関する機能の基本的知識を習得する。疾病時における機能の変化について学ぶ土台を形成すると共に、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての基礎的な能力の育成を目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液の組成、血液成分とその機能が説明できる。 2. 心臓を中心とする循環器系の概要および動脈系・静脈系の特徴、循環調節が説明できる。 3. 肺の構造と機能を理解し、肺容量分画、呼吸リズムの制御メカニズムを説明できる。 4. 消化器の構造と消化と吸収機能ならびに消化管の運動と調節を説明できる。 5. 腎臓において尿の形成がどのようにして行なわれ、排泄されるのかを説明できる。 6. エネルギー代謝ならびに体温調節の機序が説明できる。 7. 内分泌腺とホルモンの産生・作用機序を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第1回：血液と体液-1 (教科書第2章)</p> <p>第2回：血液と体液-2 (教科書第2章)</p> <p>第3回：循環-1 (教科書第3章)</p> <p>第4回：循環-2 (教科書第3章)</p> <p>第5回：呼吸-1 (教科書第4章)</p> <p>第6回：呼吸-2 (教科書第4章)</p> <p>第7回：消化と吸収-1 (教科書第5章)</p> <p>第8回：消化と吸収-2 (教科書第5章)</p> <p>第9回：代謝と体温 (教科書第7・8章)</p> <p>第10回：代謝と体温 (教科書第7・8章)</p> <p>第11回：尿の生成と排泄-1 (教科書第6章)</p> <p>第12回：尿の生成と排泄-2 (教科書第6章)</p> <p>第13回：内分泌-1 (教科書第9章)</p> <p>第14回：内分泌-2 (教科書第9章)</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>

アクティブラーニング	Moodleに掲載する資料は、必要に応じて各自印刷して予習・復習の参考にすること。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。 時にまとまった時間を準備し、授業の疑問点や Moodle 演習問題の質問等に個別に対応する。
指定図書	彼末一之 編「やさしい生理学」改訂第6版 南江堂
事前・事後学修	毎回の授業で講義・学習資料等を配布するので、各自復習しておく事が望ましい。さらに講義内容を把握しやすいようにビデオ学習も行うので、上映中は集中して理解に努めること。Moodleに掲載する資料は、必要に応じて各自印刷して予習・復習の参考にすること。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	運動学 I
科目責任者	根地嶋誠
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 2 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	運動学の基礎的知識を習得する。人体の運動器の構造と機能, さらに身体運動の機構について学び, 病変によるその障害を分析・治療するための基礎を身につけることを目的とする。授業は, 講義および演習形式により進める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動を理解する際に必要な力学について説明できる。 2. 運動を構成する要素について説明できる。 3. 筋の収縮様態について説明できる。 4. 代表的な筋の起始・停止および作用を記述提示できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回: コースオリエンテーション, 運動学総論 (根地嶋, 津森) 運動学の理解に必要な用語の理解</p> <p>第 2 回: 運動学の基本原理 (根地嶋) 運動学の学修する共通事項の理解</p> <p>第 3 回: 下肢の運動-下肢帯と股関節の運動 (根地嶋) 骨盤と股関節に関する構造と運動の理解</p> <p>第 4 回: 下肢の運動-膝関節の運動 (根地嶋) 膝関節の構造と運動の理解</p> <p>第 5 回: 下肢の運動-膝関節の運動 2 (根地嶋) 膝関節の構造と運動の理解</p> <p>第 6 回: 下肢の運動-足関節と足部の運動 (根地嶋) 足関節と足部の構造と運動の理解</p> <p>第 7 回: 体幹の運動-頸・胸・腰椎の運動 (根地嶋) 脊柱と胸郭の構造と運動の理解</p> <p>第 8 回: 下肢体幹のまとめ (根地嶋) これまでの理解の確認</p> <p>第 9 回: 上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動 (根地嶋) 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解</p> <p>第 10 回: 上肢の運動-上肢帯と肩関節の運動 2 (根地嶋) 肩甲骨と肩関節の構造と運動の理解</p> <p>第 11 回: 運動器を構成する組織 (根地嶋) 骨, 関節, 靭帯, 腱, 筋などの構造と運動の理解</p> <p>第 12 回: 関節運動と筋, これまでのまとめ (根地嶋) 関節と筋に関する理解, 知識の確認</p> <p>第 13 回: 上肢の運動-肘関節と前腕の運動 (泉) 肘関節と前腕の構造と運動の理解</p> <p>第 14 回: 上肢の運動-手関節と手の運動 (泉) 手関節と手の構造と運動の理解</p> <p>第 15 回: まとめ (根地嶋, 津森) これまでのまとめ, 理解の確認</p>

アクティブラーニング	Moodle の活用（動画視聴, 学修ポイント）
評価方法	小テスト等を含む授業参加状況（20%）・期末試験（80%）
課題に対するフィードバック	小テストの解説, リアクションペーパーの回答
指定図書	中村隆一, 齊藤宏, 長崎浩: 基礎運動学 (医歯薬出版) 弓岡光徳ら (訳): エッセンシャル・キネシオロジー (南江堂) *以下, OT 学科のみ購入 中島雅美, 中島喜代彦 (編): PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版 (医歯薬出版) 中島雅美 (編): PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート 第2版 (医歯薬出版)
事前・事後学修	各回のテーマ (膝や足など) の解剖学, つまり骨や筋の構造について事前に 20 分程度学修しておくこと。Moodle の練習問題を 20 分程度行うこと。
オフィスアワー	科目責任者: 根地嶋誠 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室: 3505 時間帯: 授業の際に提示します

科目名	運動学Ⅱ
科目責任者	田中真希
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 3 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	運動学Ⅰで学んだ知識を基に、運動学の基礎的知識を習得する。ヒトの姿勢や歩行の定義と評価の基礎、姿勢の神経制御、運動の学習過程、さらに姿勢と運動の分析について学修する。授業は講義と演習形式により進める。
到達目標	1. 標準的なヒトの姿勢・歩行を運動学および運動力学的な視点で説明できる 2. 姿勢制御、運動学習の理論についてその概略を説明できる 3. 姿勢、動作の観察・分析の基本的な考え方と方法を説明できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 田中真希・津森伸一 運動学Ⅰの復習・運動学のための基礎物理学</p> <p>第 2 回：生体の構造と機能① 矢倉千昭 骨格筋の収縮</p> <p>第 3 回：生体の構造と機能② 矢倉千昭 反射運動</p> <p>第 4 回：生体の構造と機能③ 矢倉千昭 運動制御</p> <p>第 5 回：姿勢① 田中真希・津森伸一 姿勢の定義、姿勢に関する物理学（重心・重心線）</p> <p>第 6 回：姿勢② 田中真希 姿勢の安定要因、姿勢の分類</p> <p>第 7 回：姿勢③ 田中真希 姿勢制御機構、バランス評価</p> <p>第 8 回：姿勢④ 田中真希 姿勢観察、異常姿勢・姿勢分析の基礎</p> <p>第 9 回：歩行① 田中真希・津森伸一 歩行の定義、歩行に関する物理学（生体力学）</p> <p>第 10 回：歩行② 田中真希 歩行観察、歩行周期</p> <p>第 11 回：歩行③ 田中真希 運動学的分析、運動力学的分析</p> <p>第 12 回：歩行④ 田中真希 筋電図分析、生理学的分析</p> <p>第 13 回：歩行⑤ 田中真希 歩行観察、異常歩行・歩行分析の基礎</p> <p>第 14 回：運動学習① 矢倉千昭 学習と記憶、運動技能、学習の諸理論</p> <p>第 15 回：運動学習② 矢倉千昭 運動学習の諸理論、練習と訓練</p>

アクティブラーニング	Moodle を用いた動画および資料の提示, 小テストを実施する. 授業は反転授業やグループワークの形式を取り入れ, 事前学習で学んだことを授業内で PC を用いてプレゼンテーションまたはディスカッションをする.
評価方法	定期試験 60%, 小テスト 20%, グループワーク参加度 20% で評価する.
課題に対するフィードバック	各回の小テストを Moodle 上で行い, 解答後に正解・解説と採点結果をフィードバックする. また, 各回のリアクションペーパーは Moodle を用いて提出してもらうものとし, 質問や意見については個別に返信する.
指定図書	中村隆一他著, 「基礎運動学 第 6 版(補訂)」 医歯薬出版 望月久, 棚橋信雄 編著, 「PT・OT ゼロからの物理学」 羊土社 ※参考図書は授業内で紹介する
事前・事後学修	事前学修として, 動画および資料を閲覧し, 教科書の該当ページにも目を通し, キーワードをまとめておくこと. 事後学修として, 授業で学んだ内容の演習問題を解き, 理解度を確認し, 疑問点をまとめて復習しておくこと.
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3518 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.

科目名	運動学演習
科目責任者	根地嶋誠
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 3 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	この授業では、運動学講義で得た知識を実習形式さらに深めることを目的とする。また運動学実習では、解剖学、生理学および物理学の知識を運動学と関連付けていくことが重要である。筋の起始停止、筋の走行、関節の動きなどを実習形式から学習する。基本動作を運動学的な知見で理解する。授業は、講義および実技形式により進める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. それぞれの関節運動や筋の動きについて、自分の考えをまとめることができる。 2. 骨格筋の触診ができる。 3. 歩行や全身運動によって起こる呼吸循環の反応について自分の考えをまとめることができる。 4. 正常歩行や異常歩行の違いなどを自分の考えをまとめることができる。 5. 骨格や筋肉の名前など英語で伝えることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：オリエンテーション・触察 触診 視診 根地嶋</p> <p>第 2 回：上肢の骨格筋と運動-1：手関節と手の骨格筋と関節運動 根地嶋</p> <p>第 3 回：上肢の骨格筋と運動-2：肘関節と前腕の骨格筋と関節運動 根地嶋</p> <p>第 4 回：上肢の骨格筋と運動-3：肩複合体の骨格筋と関節運動 根地嶋</p> <p>第 5 回：上肢の骨格筋と運動-4：頸椎から肩複合体の骨格筋と関節運動 根地嶋</p> <p>第 6 回：下肢の骨格筋と運動-1：足関節と足の骨格筋と関節運動 田中</p> <p>第 7 回：下肢の骨格筋と運動-2：膝関節の骨格筋と関節運動 田中</p> <p>第 8 回：下肢の骨格筋と運動-3：股関節の骨格筋と関節運動 田中</p> <p>第 9 回：下肢の骨格筋と運動-4：下肢帯の骨格筋と関節運動 田中</p> <p>第 10 回：体幹の骨格筋と運動-1：頸・胸・腰椎の骨格筋と関節運動 根地嶋</p> <p>第 11 回：体幹の骨格筋と運動-2：呼吸と胸郭運動 根地嶋</p> <p>第 12 回：基本動作：歩行 田中</p> <p>第 13 回：基本動作：寝返り、起き上がり 矢倉</p> <p>第 14 回：基本動作：立ち上がり、移乗動作 矢倉</p> <p>第 15 回：まとめ 根地嶋</p>

アクティブラーニング	グループ学修
評価方法	レポート (50%)・履修状況 (50%)
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	青木隆明 (監)「運動療法のための機能解剖学的触診技術」上肢(メジカルビュー社) 青木隆明 (監)「運動療法のための機能解剖学的触診技術」下肢・体幹(メジカルビュー社)
事前・事後学修	各回のテーマについて、解剖学、生理学および運動学の復習を、これまでの資料および教科書にて 20 分程度行うこと。授業で取り組んだ演習のまとめを 20 分程度行うこと。
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠 (リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します

科目名	人間発達学	
科目責任者	伊藤 信寿	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学・作業必修 2 セメスター	
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	人間発達学では、リハビリテーションの臨床実践に向けて、保健医療福祉の専門職者に求められる人の心身機能や身体構造、活動に関する人間発達の基本的な知識・理論を体系的に学習する。	
到達目標	(1) 発達とは、発達要因（遺伝と環境）、発達の基本原則、臨界期、発達段階（ライフステージ）について説明できる (2) 発達段階（ライフステージ）における発達特徴と課題を説明できる (3) ピアジェ理論に基づく認知の発達過程を説明できる (4) 情緒・社会性の発達と発達問題について説明できる (5) 運動発達の過程とその原理（神経成熟理論）を説明できる	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	第 1 回：総論	伊藤信寿
	第 2 回：脳・神経系の発達	伊藤信寿
	第 3 回：身体の運動機能と構造の発達と障害	伊藤信寿
	第 4 回：身体の運動機能と構造の発達と障害	伊藤信寿
	第 5 回：胎児期・新生児期の発達	伊藤信寿
	第 6 回：乳児期の発達	伊藤信寿
	第 7 回：幼児前期・後期の発達	伊藤信寿
	第 8 回：学童期の発達	伊藤信寿
	第 9 回：青年期の発達	伊藤信寿
	第 10 回：成人期の発達	伊藤信寿
	第 11 回：老年期の発達	吉本好延
	第 12 回：知覚・認知機能の発達	伊藤信寿
	第 13 回：情緒・社会性の発達と障害	伊藤信寿
	第 14 回：言語機能の発達と障害	木原ひとみ
	第 15 回：まとめ	伊藤信寿

アクティブラーニング	Think-Pair-Share やグループワークを行っていく
評価方法	定期試験（80%），小テスト（20%）
課題に対するフィードバック	小テスト，リアクションペーパーの質問や回答に対して解説する
指定図書	リハビリテーションのための人間発達学（第2版） 大城昌平（編著） メデカイルプレス
事前・事後学修	事前学修：各授業回に該当するテキストの章を読む 事後学修：授業の配布資料とテキストを復習する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	病理学概論 I
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 2 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	病理学とは、基礎医学と臨床医学にまたがる学問で、病気の仕組み（原因、成り立ち、経過、転帰）を学習する。医療に携わる者にとって基本かつ必須の学問である。病理学は実際の医療の現場では、病理診断・解剖という形で病気の診断・治療・予防に貢献している。この講義では、病理学総論（病因論、細胞の傷害と修復、代謝障害、先天異常・老化、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍等）の知識を習得する。
到達目標	1. 各種疾患の病因と病態に関する基礎的知識を理解し説明できる。 2. 病気のメカニズムを組織・細胞の形態学的な変化として理解し説明できる。 3. 人体に備わる病態からの修復機構とともに生体防御機構について理解し説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第 1 回：ガイダンス、細胞傷害と細胞増殖 テキスト第 1 章、第 2 章、第 25 章 第 2 回：組織・細胞の修復と再生、テキスト第 3 章 第 3 回：代謝異常、テキスト 第 10 章 第 4 回：遺伝と先天異常、老化 テキスト第 8 章、第 11 章 第 5 回：循環障害 テキスト第 4 章 第 6 回：免疫、炎症・感染症 テキスト第 7 章、第 5 章、第 6 章 第 7 回：免疫、炎症・感染症 テキスト第 7 章、第 5 章、第 6 章 第 8 回：腫瘍、まとめ、テキスト第 9 章</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>
アクティブラーニング	Moodle に掲載する資料は、必要に応じて各自印刷して予習・復習の参考にすること。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。時にまとまった時間を準備し、授業の疑問点や Moodle 演習問題の質問等に個別に対応する。
指定図書	笹野公伸 編「シンプル病理学」改訂第 7 版 南江堂
事前・事後学修	毎回の授業で講義・学習資料等を配布するので、各自復習しておく事が望ましい。さらに講義内容を把握しやすいようにビデオ学習も行うので、上映中は集中して理解に努めること。Moodle に掲載する資料は、必要に応じて各自印刷して予習・復習の参考にすること。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	病理学概論Ⅱ
科目責任者	大林 雅春
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修 2セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	病理学概論Ⅰ「病理学総論」で学んだ基本的な病変が、臓器別(循環器、呼吸器、消化器、内分泌系、泌尿器系、造血器、生殖器、皮膚、感覚器、脳・神経系、運動器)にどのように発現するのかについて、各臓器の組織や細胞の形態学的変化の観点から学んでいく。主に炎症性・腫瘍性病変にスポットを当てて学習する。
到達目標	1. 各種臓器の循環障害を理解し説明できる。 2. 各種臓器の代謝異常を理解し説明できる。 3. 各種臓器の炎症性疾患を理解し説明できる。 4. 各種臓器の腫瘍性疾患を理解し説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大林 雅春</p> <p>第1回：呼吸器、口腔・唾液腺、消化器、テキスト第13章、第14章、第15章 第2回：内分泌系、泌尿器系、テキスト第16章、第18章 第3回：造血系、生殖器、テキスト第17章、第19章 第4回：皮膚、感覚器 テキスト第22章、第20章 第5回：循環器 テキストs第12章 第6回：脳・神経系 テキスト第24章 第7回：運動器 テキスト第21章 第8回：まとめ</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>
アクティブラーニング	Moodleに掲載する資料は、必要に応じて各自印刷して予習・復習の参考にすること。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。 時にまとまった時間を準備し、授業の疑問点や Moodle 演習問題の質問等に個別に対応する。
指定図書	笹野公伸 編「シンプル病理学」改訂第7版 南江堂
事前・事後学修	毎回の授業で講義・学習資料等を配布するので、各自復習しておく事が望ましい。さらに講義内容を把握しやすいようにビデオ学習も行うので、上映中は集中して理解に努めること。Moodleに掲載する資料は、必要に応じて各自印刷して予習・復習の参考にすること。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	臨床心理学
科目責任者	福永 博文
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修・作業必修 3 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1. 精神的健康を回復、維持して生きる力を身につけるための知識や技術を学修する。 2. 障害のある人の心理や支援に関する心理臨床的治療の知識や技術について学修する。
到達目標	1. 生きる力が伸びる性格形成、適応機制、不適応、査定、児童虐待、DV などを理解する。 2. 生きる力の回復、維持のための行動療法、認知行動療法、応用行動分析学などを理解する。
授業計画	<p>< 授業内容・テーマ等 > < 担当教員名 > 福永 博文</p> <p>第 1 回： 生きる力と臨床心理学 — 臨床心理学の目的と方法—</p> <p>第 2 回： 生きる力が伸びる性格形成 — 性格の意味と理論、性格形成—</p> <p>第 3 回： 生きるための欲求と適応 — 欲求の意味・発達、欲求不満、適応(防衛)機制—(事例検討)</p> <p>第 4 回： 生きるための不適応の改善 — 不適応の意味と原因・改善—</p> <p>第 5 回： 心理臨床的アセスメント① — 観察、面接など信頼関係を築く理論と実践—(ロールプレイ)</p> <p>第 6 回： 心理臨床的アセスメント② — 心理検査の種別と実施方法—</p> <p>第 7 回： 生きる力を支える心理臨床的治療① — 基本的視点—</p> <p>第 8 回： 生きる力を支える心理臨床的治療② — 障害のある子どもを持つ家族の心理的变化と支援—(事例検討)</p> <p>第 9 回： 発達障害のある人の心理の理解と支援 — 障害のある人の心理変化とその家族への支援—(事例検討)</p> <p>第 10 回： 社会的不適応状態にある人への心理臨床的治療、カウンセリング① — 行動療法、認知行動療法 (理論と実践例) —(事例検討)</p> <p>第 11 回： 社会的不適応状態にある人への心理臨床的治療、カウンセリング② — 応用行動分析学の理論と実践 (理論と実践例) —(ロールプレイ)</p> <p>第 12 回： 患者の心理臨床 — ライフステージに沿った入院患者の心理とカウンセリング—</p> <p>第 13 回： 児童虐待と心理臨床① — 親は、なぜ我が子を虐待するか、家族構造と病理—(事例検討)</p> <p>第 14 回： 児童虐待と心理臨床② — 子どもに与える心理的影響、子どもと家族への支援—(事例検討)</p> <p>第 15 回： DV と心理臨床 — 加害者の性格、背景、タイプ、被害者の心理、支援方法—(事例検討)</p>

アクティブラーニング	身体的・心理的問題により、適応上の困難をきたしているクライアントの理解と支援のために必要な知識と技術は、ロールプレイングや具体的な事例の検討により臨床場面で活かせる確かな実践力を身につける。
評価方法	定期試験 60%、中間試験 40%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示、中間テストの解答例の提示と授業における解説
指定図書	『生きる力を育てる臨床心理学』小林 芳郎編著 保育出版社
事前・事後学修	教科書と事前に配布した補足資料を 25 分程度読んで、理解を深めておく。同時に 15 分程度の復讐をする。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	臨床医学・医療学概論																		
科目責任者	伊藤信寿																		
単位数他	1単位 (15時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 Semester																		
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	普通科高校を卒業し、初めて医療に関する専門教育を受けることになる新入学 1 年生に、医療全般についての概要を学んでほしい。最新の知識や高度な技術を習得するだけでは良い医療者にはなれない。病人の気持ちを理解できる医療者になれるよう倫理的問題等についても広く学習する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与えられたテーマについて参考文献などを通じて調査する。 2. 取得した知識を 2-3 分の与えられた時間にまとめあげる。 3. 医療について概論的な知識を 他人に分かり易く説明できるようにする。 4. 医療従事者としての心構えに関する自分の考えを述べられるようにする。 																		
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</td> <td style="text-align: center;">＜担当教員名＞</td> </tr> <tr> <td>第 1 回：この講義で何を学ぶか</td> <td style="text-align: right;">伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：医学とは、医学史</td> <td style="text-align: right;">荻野和功</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：病気の原因</td> <td style="text-align: right;">荻野和功</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：病気の診断</td> <td style="text-align: right;">荻野和功</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：医学の体系</td> <td style="text-align: right;">大城昌平</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：病気の治療とリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：病気の予防</td> <td style="text-align: right;">建木 健</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：医療システム</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：この講義で何を学ぶか	伊藤信寿	第 2 回：医学とは、医学史	荻野和功	第 3 回：病気の原因	荻野和功	第 4 回：病気の診断	荻野和功	第 5 回：医学の体系	大城昌平	第 6 回：病気の治療とリハビリテーション	矢倉千昭	第 7 回：病気の予防	建木 健	第 8 回：医療システム	柴本 勇
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：この講義で何を学ぶか	伊藤信寿																		
第 2 回：医学とは、医学史	荻野和功																		
第 3 回：病気の原因	荻野和功																		
第 4 回：病気の診断	荻野和功																		
第 5 回：医学の体系	大城昌平																		
第 6 回：病気の治療とリハビリテーション	矢倉千昭																		
第 7 回：病気の予防	建木 健																		
第 8 回：医療システム	柴本 勇																		
アクティブラーニング	配布資料や授業ノート、課題を見直していただき、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。																		
評価方法	筆記試験 50%，課題提出物 50%（復習課題 30%，リアクションペーパー20%）																		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。																		
指定図書	『医学概論』日野原重明、医学書院																		
事前・事後学修	事前学修：シラバスで次回の授業内容を確認し、教科書を読んでおくこと。 事後学修：復習用の課題を行うこと。																		
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。																		

科目名	内科系医療学
科目責任者	有菌信一
単位数他	2単位（30時間） 理学必修・作業必修・言語必修 3セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	主な内科系疾患に関する代表的な病態と診断方法や基準・治療方法について基本となる知識を身につける。具体的には呼吸器系疾患、膠原病と類縁疾患、内分泌代謝疾患、循環器疾患、消化管疾患、肝臓、胆道、膵臓の基礎と臨床、感染症などを学習する。
到達目標	リハビリテーションを行っている患者さんで問題になる頻度の高い各疾患の病態や診断方法、治療について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p><横村担当分></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.呼吸器感染症（上気道炎・気管および気管支炎・肺炎・胸膜炎・膿胸、抗酸菌感染症） 2.気管支喘息とCOPD, 間質性肺炎、肺癌 <p><田港担当分></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.代表的な代謝疾患（特に糖尿病）について 2.内分泌代謝系の基礎、代表的な内分泌疾患（特に甲状腺疾患）について <p><志智担当分></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.感染症学と臨床（感染症成立の病態生理について、日常診療で遭遇しやすい代表的な感染症や病原菌について） 病院内職員の知っておくべき感染制御について（病院で働く職員として知っておくべき院内感染とその対処） 2.膠原病や関節リウマチとその類縁疾患、自己免疫系疾患成立の病態生理、膠原病や関節リウマチなど免疫疾患の各論 関節リウマチ患者へのケア <p><岡担当分></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.循環器系の解剖、生理、循環器疾患の症状と検査 2.血圧の異常、心不全の病態、虚血性心疾患（狭心症・急性心筋梗塞） <p><北川担当分></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.消化管疾患の症候とその病態生理、消化管疾患の検査法 2.口腔・食道・胃の疾患、小腸、大腸の疾患 <p><松島担当分></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.腎臓の構造と働き、腎疾患の症候や検査・診断・治療の進め方、頻度が高い腎疾患、慢性腎臓病（CKD）の概念 2.腎機能障害（急性腎不全、慢性腎不全）、血液浄化療法（血液透析、腹膜透析）、長期透析の合併症 <p><長澤担当分></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.肝臓疾患の総論、肝臓疾患の各論、胆膵疾患の総論 2.胆膵疾患の各論

アクティブラーニング	事前学修を促し、重要な部分は授業中で学生に質問しながら行う。
評価方法	定期試験 100%の結果で評価を行う。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』医学書院
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業回に該当するテキストの章を読んで、授業に参加してください。 ・講義内容、配布資料、テキストなどを参考とし、事後学修してください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	整形外科系医療学																										
科目責任者	長野 純二																										
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修・作業必修 3セメスター																										
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																										
科目概要	理学療法と作業療法の主な対象となる四肢や脊柱など運動器の構造・機能解剖について学ぶ。理学療法では、高齢者のロコモティブシンドローム、運動器不安定症について学ぶ。作業療法では、手の機能解剖について詳しく学ぶ。																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 四肢と脊柱の骨・関節、筋・腱、神経・血管などの解剖名を完全に覚える。 2. 各関節の運動名とその正常可動域、各運動に関与する筋・それを支配する神経名を完全に覚える。 3. 運動器の診察の仕方、所見の表現・記載法を学ぶ。 4. 運動器の機能を障害する疾患、外傷について理解する。 <p>各疾患・外傷に対する保存療法と手術法の術前・術後療法及び障害予防について詳しく学ぶことで運動器リハビリテーションは医療・介護を通して生涯にわたり必要であることを学ぶ。</p>																										
授業計画	<p>複数の教官が、それぞれの専門領域を担当する。したがって、総論と各論が並列で授業されることがある。内容はかなり専門的になる。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: center;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 整形外科基礎科学、整形外科診断総論、骨折等の病態など</td> <td style="text-align: right;">井上善也</td> </tr> <tr> <td>第2・3回 脊柱脊髄：脊椎損傷、頸椎症、OPLL、椎間板ヘルニア、 脊柱管狭窄症</td> <td style="text-align: right;">佐々木寛二</td> </tr> <tr> <td>第4回 肩関節の疾患と外傷：肩関節周囲炎、腱板断裂</td> <td style="text-align: right;">桐村憲吾</td> </tr> <tr> <td>第5・6回 肘・手関節の疾患と外傷：骨折、腱断裂、末梢神経損傷、 手根管症候群</td> <td style="text-align: right;">大井宏之</td> </tr> <tr> <td>第7回 手の疾患と外傷：手の外科、CRPS</td> <td style="text-align: right;">大井宏之</td> </tr> <tr> <td>第8回 骨盤・股関節の疾患と外傷：変形性股関節症、頸部骨折、骨頭壊死</td> <td style="text-align: right;">小林良充</td> </tr> <tr> <td>第9回 膝・足関節の疾患と外傷：変形性膝関節症、外反母趾、 離断性骨軟骨炎</td> <td style="text-align: right;">小林良充</td> </tr> <tr> <td>第10回 骨関節感染症、リウマチ</td> <td style="text-align: right;">長野純二</td> </tr> <tr> <td>第11回 四肢の循環障害、阻血壊死性疾患、代謝性疾患、など</td> <td style="text-align: right;">佐々木寛二</td> </tr> <tr> <td>第12回 小児：先天性、側弯症、ペルテス病</td> <td style="text-align: right;">高橋勇二</td> </tr> <tr> <td>第13・14回 高齢期：ロコモティブシンドローム等、骨粗鬆症</td> <td style="text-align: right;">井上善也</td> </tr> <tr> <td>第15回 スポーツ外傷：ACL 先天性、半月板損傷、捻挫、オスグッドなど</td> <td style="text-align: right;">小林良充</td> </tr> </tbody> </table> <p>※授業は、上記の順序で進んでいくとは、限らない。</p>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回 整形外科基礎科学、整形外科診断総論、骨折等の病態など	井上善也	第2・3回 脊柱脊髄：脊椎損傷、頸椎症、OPLL、椎間板ヘルニア、 脊柱管狭窄症	佐々木寛二	第4回 肩関節の疾患と外傷：肩関節周囲炎、腱板断裂	桐村憲吾	第5・6回 肘・手関節の疾患と外傷：骨折、腱断裂、末梢神経損傷、 手根管症候群	大井宏之	第7回 手の疾患と外傷：手の外科、CRPS	大井宏之	第8回 骨盤・股関節の疾患と外傷：変形性股関節症、頸部骨折、骨頭壊死	小林良充	第9回 膝・足関節の疾患と外傷：変形性膝関節症、外反母趾、 離断性骨軟骨炎	小林良充	第10回 骨関節感染症、リウマチ	長野純二	第11回 四肢の循環障害、阻血壊死性疾患、代謝性疾患、など	佐々木寛二	第12回 小児：先天性、側弯症、ペルテス病	高橋勇二	第13・14回 高齢期：ロコモティブシンドローム等、骨粗鬆症	井上善也	第15回 スポーツ外傷：ACL 先天性、半月板損傷、捻挫、オスグッドなど	小林良充
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																										
第1回 整形外科基礎科学、整形外科診断総論、骨折等の病態など	井上善也																										
第2・3回 脊柱脊髄：脊椎損傷、頸椎症、OPLL、椎間板ヘルニア、 脊柱管狭窄症	佐々木寛二																										
第4回 肩関節の疾患と外傷：肩関節周囲炎、腱板断裂	桐村憲吾																										
第5・6回 肘・手関節の疾患と外傷：骨折、腱断裂、末梢神経損傷、 手根管症候群	大井宏之																										
第7回 手の疾患と外傷：手の外科、CRPS	大井宏之																										
第8回 骨盤・股関節の疾患と外傷：変形性股関節症、頸部骨折、骨頭壊死	小林良充																										
第9回 膝・足関節の疾患と外傷：変形性膝関節症、外反母趾、 離断性骨軟骨炎	小林良充																										
第10回 骨関節感染症、リウマチ	長野純二																										
第11回 四肢の循環障害、阻血壊死性疾患、代謝性疾患、など	佐々木寛二																										
第12回 小児：先天性、側弯症、ペルテス病	高橋勇二																										
第13・14回 高齢期：ロコモティブシンドローム等、骨粗鬆症	井上善也																										
第15回 スポーツ外傷：ACL 先天性、半月板損傷、捻挫、オスグッドなど	小林良充																										

アクティブラーニング	グループ学習を予定している。
評価方法	定期試験 50%、授業態度 30%、レポート 20%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答を提示予定
指定図書	『標準整形外科学』医学書院
事前・事後学修	必ず予習を行う。授業の後は今後の仕事に役立てるために知識の整理をする。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	神経内科系医療学																																
科目責任者	大橋寿彦																																
単位数他	2単位数 (30時間) 理学必修・作業必修 3セメスター																																
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	リハビリテーションの実践に必要な身体障害に関する基本的な医学的理解を深めるために、身体障害の原因となる神経系の疾患について病態生理、診断や治療の知識を身に付ける。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる 2. 神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する 3. 神経系の疾患の診断検査技術について理解する 4. 疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる 																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></td> <td style="text-align: right;"><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>1. ガイダンス, 頭痛</td> <td style="text-align: right;">大橋</td> </tr> <tr> <td>2. めまい</td> <td style="text-align: right;">佐藤</td> </tr> <tr> <td>3. しびれ</td> <td style="text-align: right;">内山</td> </tr> <tr> <td>4. 中枢神経径の解剖・機能</td> <td style="text-align: right;">大橋</td> </tr> <tr> <td>5. 脳血管障害</td> <td style="text-align: right;">大橋</td> </tr> <tr> <td>6. 運動神経疾患</td> <td style="text-align: right;">大橋</td> </tr> <tr> <td>7. パーキンソン症候群</td> <td style="text-align: right;">内山</td> </tr> <tr> <td>8. 脊髄小脳変性症、自律神経障害</td> <td style="text-align: right;">内山</td> </tr> <tr> <td>9. 認知症</td> <td style="text-align: right;">大橋</td> </tr> <tr> <td>10. 感染症</td> <td style="text-align: right;">内山</td> </tr> <tr> <td>11. 脱髄疾患</td> <td style="text-align: right;">佐藤</td> </tr> <tr> <td>12. 電気生理</td> <td style="text-align: right;">大橋</td> </tr> <tr> <td>13. 末梢神経障害</td> <td style="text-align: right;">佐藤</td> </tr> <tr> <td>14. 筋疾患</td> <td style="text-align: right;">内山</td> </tr> <tr> <td>15. 画像</td> <td style="text-align: right;">佐藤</td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	1. ガイダンス, 頭痛	大橋	2. めまい	佐藤	3. しびれ	内山	4. 中枢神経径の解剖・機能	大橋	5. 脳血管障害	大橋	6. 運動神経疾患	大橋	7. パーキンソン症候群	内山	8. 脊髄小脳変性症、自律神経障害	内山	9. 認知症	大橋	10. 感染症	内山	11. 脱髄疾患	佐藤	12. 電気生理	大橋	13. 末梢神経障害	佐藤	14. 筋疾患	内山	15. 画像	佐藤
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
1. ガイダンス, 頭痛	大橋																																
2. めまい	佐藤																																
3. しびれ	内山																																
4. 中枢神経径の解剖・機能	大橋																																
5. 脳血管障害	大橋																																
6. 運動神経疾患	大橋																																
7. パーキンソン症候群	内山																																
8. 脊髄小脳変性症、自律神経障害	内山																																
9. 認知症	大橋																																
10. 感染症	内山																																
11. 脱髄疾患	佐藤																																
12. 電気生理	大橋																																
13. 末梢神経障害	佐藤																																
14. 筋疾患	内山																																
15. 画像	佐藤																																
アクティブラーニング	なし																																
評価方法	定期試験 100%																																
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。																																
指定図書	なし																																
事前・事後学修	学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと																																
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます																																

科目名	精神医学系医療学 I
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 4 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	精神機能障害の基礎的な知識を学び、リハビリテーションとの関係について理解を深める。特にリハビリテーション場面において遭遇する可能性の高い精神疾患のメカニズムや治療方法に重点を置く。
到達目標	1. 精神機能障害とリハビリテーションとの関係について説明できる 2. 代表的な精神疾患の特性と治療について説明できる 3. 精神障害に対するリハビリテーションの目的と役割について説明できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、リハビリテーションと精神医学 新宮尚人</p> <p>第 2 回：導入・精神医学とは 山岡功一</p> <p>第 3 回：統合失調症 藤田さより</p> <p>第 4 回：摂食障害、思春期の精神障害など ゲストスピーカー 飯田妙子</p> <p>第 5 回：老年精神医学 三浦一也</p> <p>第 6 回：精神障害の治療 I ・薬物療法などの身体的治療 三浦一也</p> <p>第 7 回：精神障害の治療 II ・精神療法とリハビリテーション 三浦一也</p> <p>第 8 回：グループワーク、発表、授業のまとめ 新宮尚人</p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性はある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるためにグループ学修や問題基盤型学習 (Problem Based Learning : PBL)を行います。
評価方法	筆記試験 70%、レポート 30%
課題に対するフィードバック	希望者には、筆記試験の終了後に個別解説とレポートのフィードバックを行います。改めて時間調整をします。
指定図書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』医学書院
事前・事後学修	事前・事後学習は 40 分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所に通しておいて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	小児科系医療学 I																		
科目責任者	木部哲也																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 3 セメスター																		
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。小児の特徴である、発育・発達の概念、予防医学やいわゆる common disease について学ぶ。																		
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 よくある小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回 小児科総論</td> <td style="text-align: right;">木部</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 小児の成長と発達</td> <td style="text-align: right;">木部</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 小児神経疾患①「脳性麻痺, てんかんなど」</td> <td style="text-align: right;">木部</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 小児神経疾患②「神経筋疾患」</td> <td style="text-align: right;">木部</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 思春期医学</td> <td style="text-align: right;">木部</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 重症心身障害児医療について</td> <td style="text-align: right;">木部</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 新生児・未熟児医療</td> <td style="text-align: right;">白井</td> </tr> <tr> <td>第 8 回 先天異常と遺伝病</td> <td style="text-align: right;">松下</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回 小児科総論	木部	第 2 回 小児の成長と発達	木部	第 3 回 小児神経疾患①「脳性麻痺, てんかんなど」	木部	第 4 回 小児神経疾患②「神経筋疾患」	木部	第 5 回 思春期医学	木部	第 6 回 重症心身障害児医療について	木部	第 7 回 新生児・未熟児医療	白井	第 8 回 先天異常と遺伝病	松下
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回 小児科総論	木部																		
第 2 回 小児の成長と発達	木部																		
第 3 回 小児神経疾患①「脳性麻痺, てんかんなど」	木部																		
第 4 回 小児神経疾患②「神経筋疾患」	木部																		
第 5 回 思春期医学	木部																		
第 6 回 重症心身障害児医療について	木部																		
第 7 回 新生児・未熟児医療	白井																		
第 8 回 先天異常と遺伝病	松下																		
アクティブラーニング	なし																		
評価方法	定期試験 80%、授業態度 20%																		
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。																		
指定図書	プリント配布、標準理学療法学・作業療法学「小児科学」第 4 版																		
事前・事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常々意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。																		
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。																		

科目名	小児科系医療学Ⅱ																		
科目責任者	木部哲也																		
単位数他	1単位（15時間）理学必修・作業必修 3セメスター																		
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	リハビリテーションの実践において必要な小児医療の知識を身につける。小児の特徴である、発育・発達の概念、予防医学やいわゆる common disease について学ぶ。																		
到達目標	小児の成長・発達の正常像と異常について概略を説明できる。 よくある小児疾患について概略を説明できる。 予防医学や保健活動について概略を説明できる。																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 小児期の感染症と予防接種</td> <td>木部</td> </tr> <tr> <td>第2回 小児の後天性神経疾患</td> <td>木部</td> </tr> <tr> <td>第3回 発達障害について</td> <td>木部</td> </tr> <tr> <td>第4回 小児の呼吸器疾患</td> <td>木部</td> </tr> <tr> <td>第5回 小児の内分泌・代謝疾患</td> <td>木部</td> </tr> <tr> <td>第6回 小児の循環器疾患</td> <td>白井</td> </tr> <tr> <td>第7回 発達栄養学</td> <td>松下</td> </tr> <tr> <td>第8回 まとめ</td> <td>木部</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回 小児期の感染症と予防接種	木部	第2回 小児の後天性神経疾患	木部	第3回 発達障害について	木部	第4回 小児の呼吸器疾患	木部	第5回 小児の内分泌・代謝疾患	木部	第6回 小児の循環器疾患	白井	第7回 発達栄養学	松下	第8回 まとめ	木部
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
第1回 小児期の感染症と予防接種	木部																		
第2回 小児の後天性神経疾患	木部																		
第3回 発達障害について	木部																		
第4回 小児の呼吸器疾患	木部																		
第5回 小児の内分泌・代謝疾患	木部																		
第6回 小児の循環器疾患	白井																		
第7回 発達栄養学	松下																		
第8回 まとめ	木部																		
アクティブラーニング	なし																		
評価方法	定期試験 80%、授業態度 20%																		
課題に対するフィードバック	授業の中で質問に対し回答する。																		
指定図書	プリント配布、標準理学療法学・作業療法学「小児科学」第4版																		
事前・事後学修	テストのために勉強するのではなく、社会に出たときにどう役立てていくかを常々意識して勉強してください。より実践的な学習を心掛けてください。																		
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。																		

科目名	リハビリテーション概論
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	1 単位(15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	リハビリテーションには、社会構造の変化や価値観の変遷と共にその時代に応じた考え方がある。この科目では、リハビリテーションの理念と歴史、保健医療福祉の専門職者に求められる基本的な知識や考え方について学修する。特に自身の専門領域に留まらず、関係領域の専門性についても知ることで、自身の職種の特性と役割を深く理解する。
到達目標	1. リハビリテーションの理念と歴史について説明できる 2. リハビリテーション・モデルとその適用例について説明できる。 3. 自身の専門領域の核となる特性と役割を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション、リハビリテーションとは（理念と歴史） 新宮尚人</p> <p>第2回：リハビリテーションモデルと障害の理解 新宮尚人</p> <p>第3回：リハビリテーションとチーム医療（理学療法の役割と連携について） 矢倉千昭</p> <p>第4回：リハビリテーションとチーム医療（作業療法の役割と連携について） 伊藤信寿</p> <p>第5回：リハビリテーションとチーム医療（言語聴覚療法の役割と連携について） 柴本 勇</p> <p>第6回：リハビリテーションとチーム医療（看護師の役割と連携について） 豊島由樹子</p> <p>第7回：リハビリテーションとチーム医療（社会福祉士・介護福祉士の役割と連携について） 古川和稔</p> <p>第8回：グループワーク・授業のまとめ 新宮尚人</p>
アクティブラーニング	テーマの内容を深めるためにグループ学修を行います。
評価方法	筆記試験 60%、グループワーク発表 20%、レポート 20%
課題に対するフィードバック	希望者には、筆記試験の終了後に個別解説とレポートのフィードバックを行います。グループ発表に対してコメントをします。
指定図書	特に指定しない。講義時にプリントを配布する。
事前・事後学修	事前・事後学習は 40 分を目安としますが、事前学習では授業テーマの内容や各職種の概要について下調べをしておいてください。事後学習では、授業時間内で取り組んだ内容のポイントを確認し、今後の学修に活用することで定着をはかるように努力してください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	リハビリテーション医療・医学 I																		
科目責任者	片桐伯真																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修 3 セメスター																		
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	<p>医療・福祉現場でのリハビリテーションに対する Needs は、急性期・回復期・生活維持～社会復帰に至るあらゆるステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。</p> <p>臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書だけの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハビリテーション科専門医による講義・演習で構成されており、臨床場面で求められるポイントをわかりやすく習得できるよう構成した。</p> <p>一方的な受身の参加では知識の理解や定着が不十分となるため、参加される際には事前の予習と、講義参加場面でのアイデアを出す作業、さらには疑問点の解決などでも積極的な参加を求めたい。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。 2. リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。 3. 病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。 																		
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：リハビリテーション総論・概論</td> <td style="text-align: right;">藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：脳損傷のリハビリテーション：総論・リスク管理</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：脳損傷のリハビリテーション：急性期リハと廃用症候群</td> <td style="text-align: right;">西村立</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：脳損傷のリハビリテーション：回復期・生活維持期のリハ</td> <td style="text-align: right;">重松孝</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：脳損傷のリハビリテーション：高次脳機能障害・認知症のリハ</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：神経疾患のリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：嚥下・摂食障害のリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：地域リハの考え方と教育的・職業的リハ</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：リハビリテーション総論・概論	藤島一郎	第 2 回：脳損傷のリハビリテーション：総論・リスク管理	片桐伯真	第 3 回：脳損傷のリハビリテーション：急性期リハと廃用症候群	西村立	第 4 回：脳損傷のリハビリテーション：回復期・生活維持期のリハ	重松孝	第 5 回：脳損傷のリハビリテーション：高次脳機能障害・認知症のリハ	片桐伯真	第 6 回：神経疾患のリハビリテーション	高橋博達	第 7 回：嚥下・摂食障害のリハビリテーション	片桐伯真	第 8 回：地域リハの考え方と教育的・職業的リハ	片桐伯真
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：リハビリテーション総論・概論	藤島一郎																		
第 2 回：脳損傷のリハビリテーション：総論・リスク管理	片桐伯真																		
第 3 回：脳損傷のリハビリテーション：急性期リハと廃用症候群	西村立																		
第 4 回：脳損傷のリハビリテーション：回復期・生活維持期のリハ	重松孝																		
第 5 回：脳損傷のリハビリテーション：高次脳機能障害・認知症のリハ	片桐伯真																		
第 6 回：神経疾患のリハビリテーション	高橋博達																		
第 7 回：嚥下・摂食障害のリハビリテーション	片桐伯真																		
第 8 回：地域リハの考え方と教育的・職業的リハ	片桐伯真																		

アクティブラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
評価方法	基本的には定期試験 100% で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『現代リハビリテーション医学』改訂第2版、千野直一編、金原出版
事前・事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	リハビリテーション医療・医学Ⅱ																		
科目責任者	片桐伯真																		
単位数他	1単位（15時間） 理学必修・作業必修 3セメスター																		
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	<p>医療・福祉現場でのリハビリテーションに対する Needs は、急性期・回復期・生活維持～社会復帰に至るあらゆるステージにおいて高まる中、それらの中核を担う理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に対しても知識・技術面で高いレベルが求められるようになってきた。</p> <p>臨床現場での実践に際しては、対象疾患の病態・臨床像に対する理解を深めることが求められるが、教科書だけの学習だけでは、臨床に即した感覚を養うことが困難であろう。この科目は実際にリハビリテーション診療にあたり、医学的知識と臨床経験豊富な聖隷事業団に所属しているリハビリテーション科専門医による講義・演習で構成されており、臨床場面で求められるポイントをわかりやすく習得できるよう構成した。</p> <p>一方的な受身の参加では知識の理解や定着が不十分となるため、参加される際には事前の予習と、講義参加場面でのアイデアを出す作業、さらには疑問点の解決などでも積極的な参加を求めたい。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床場面で経験する疾患・病態についての理解を深める。 2. リハビリテーションの対象となる代表的な疾患についての診断・評価・治療法を理解する。 3. 病態・障害象に応じたリハビリテーションアプローチを理解する。 																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断など）</td> <td style="text-align: right;">町田清子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：脊髄損傷のリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">片山直紀</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：小児疾患のリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">高橋博達</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：がんのリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：リハビリテーションにおける運動学習</td> <td style="text-align: right;">藤島一郎</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：内部障害のリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">國枝顕二郎</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：まとめ</td> <td style="text-align: right;">片桐伯真</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション	藤島一郎	第 2 回：運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断など）	町田清子	第 3 回：脊髄損傷のリハビリテーション	片山直紀	第 4 回：小児疾患のリハビリテーション	高橋博達	第 5 回：がんのリハビリテーション	片桐伯真	第 6 回：リハビリテーションにおける運動学習	藤島一郎	第 7 回：内部障害のリハビリテーション	國枝顕二郎	第 8 回：まとめ	片桐伯真
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：関節リウマチと関連疾患のリハビリテーション	藤島一郎																		
第 2 回：運動器疾患のリハビリテーション（骨折・切断など）	町田清子																		
第 3 回：脊髄損傷のリハビリテーション	片山直紀																		
第 4 回：小児疾患のリハビリテーション	高橋博達																		
第 5 回：がんのリハビリテーション	片桐伯真																		
第 6 回：リハビリテーションにおける運動学習	藤島一郎																		
第 7 回：内部障害のリハビリテーション	國枝顕二郎																		
第 8 回：まとめ	片桐伯真																		

アクティブラーニング	配布資料や授業ノートを見直し、授業で出てきた key word で解らない点があれば調べてテストに臨んでください。定期試験のみならず将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。
評価方法	基本的には定期試験 100% で評価する予定である。 ただし、講義で小テストなどが行われる場合は、それらを総合的に適宜追点を考慮する。 逆に授業態度・参加姿勢が不良の場合は別にレポート提出や原点を考慮する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーなどの質問に関しては、重要な質問に対しては授業中に回答する。
指定図書	『現代リハビリテーション医学』改訂第2版、千野直一編、金原出版
事前・事後学修	余力があれば事前に教科書で講義に関連する単元の部分を読んでおいてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	保健医療福祉倫理学
科目責任者	田島明子
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 4 セメスター
科目の位置付	DP(1) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	近年医学の進歩に伴い、生命誕生や途絶に医学が介入しはじめたことにより、単に医学だけでは解決できない多くの問題が浮き彫りになっている。この講義では、そのような諸問題を解決するための学問としての生命倫理学（バイオエシックス）の基礎を学ぶとともに、実際の医療やリハビリテーションの現場で生じる倫理的な問題に焦点を当て、グループディスカッション形式での演習を多く取り入れていく。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における倫理問題に気づくようになる。 2. 倫理的推論を行い、分析できる手法を身につける。 3. 専門家としての倫理的資質を養い、態度を身につける。 4. 共感をもって患者の視点に気づき、そして理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 田島明子</p> <p>第1回：倫理とは何か 第2回、第3回：倫理的判断のよりどころー生命倫理学の重要概念 （インフォームド・コンセント、パターンリズム、自己決定重視と共同体主義、功利主義と義務論、秘密保持） 第4回：生命倫理の諸問題1（事例検討） 第5回：生命倫理の諸問題2（事例検討） 第6回：生命倫理の諸問題3（事例検討） 第7回：医療における倫理的ジレンマ1（事例検討） 第8回：医療における倫理的ジレンマ2(事例検討)</p> <p>※第4回から第8回は、グループディスカッションと発表を中心に行う予定です。 ※講義内容は、講義の進行等により、上記と異なる可能性もあります。</p>
アクティブラーニング	講義はグループディスカッションを中心に行う予定ですので、主体的・積極的にディスカッションに参加をし、考えの多様性や倫理的観点を学ぶようにしてください。
評価方法	グループディスカッション参加度 40% 筆記試験 60%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーにより、各回の授業への関心、学修習熟度、疑問点などを確認します。 必要に応じて、学修を進めるためのアドバイスをを行います。
指定図書	吉川ひろみ著『生命倫理ワークブック』（三輪書店）
事前・事後学修	指定図書は配付資料の次回講義に関連する箇所を事前に熟読すること、講義後は、講義内でテーマとなった生命・医療倫理の諸問題のディスカッション内容を振り返り、倫理的問題点の整理を行ってください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（akiko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。

科目名	リハビリテーション職種間連携の基礎		
科目責任者	木原 ひとみ		
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学必修・作業必修・言語必修 1 セメスター		
科目の位置付	DP (3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。		
科目概要	この科目では、これから皆さんが目指す職種について理解を深めるとともに、他職種を知り、その職種の役割を学びます。学科の枠を超えて小グループでディスカッションしながら、リハビリテーションに関わる専門職種間の連携の「意義・あり方」について考えていきます。		
到達目標	①リハビリテーションに関連する職種を挙げることができる。 ②関連職種の専門性と関連性について説明できる。 ③保健・医療・福祉における専門職と連携の必要性を説明できる。 ④グループディスカッションを通して自らの考えをまとめ、伝える事が出来る。		
授業計画	リハビリテーション専門職種間連携の基礎では、2つのテーマについて、グループで調べたりディスカッションをしたりしながら考えていきます。授業の最後には、発表会を行いグループで話し合った内容を共有し、さらに理解を深めます。 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%; vertical-align: top;"> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1・2回 オリエンテーション アサーションについて グループディスカッションを通して下記について理解する。 【テーマ1】自分の目指す専門職と、関連職種</p> <p>第3回 KJ法について</p> <p>第4回 KJ法を用いて、グループで下記について考える。 【テーマ2】各職種の専門性と関連性、職種間連携の必要性</p> <p>第5・6回 グループ発表【テーマ2】の準備</p> <p>第7・8回 グループ発表【テーマ2】</p> </td> <td style="width: 40%; vertical-align: top; text-align: right;"> <p><担当教員名></p> <p>木原 中島 木原、泉、坂本 宮前 木原、泉、坂本 木原、泉、坂本 宮前、矢倉、木原 柴本、泉、坂本</p> </td> </tr> </table>	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1・2回 オリエンテーション アサーションについて グループディスカッションを通して下記について理解する。 【テーマ1】自分の目指す専門職と、関連職種</p> <p>第3回 KJ法について</p> <p>第4回 KJ法を用いて、グループで下記について考える。 【テーマ2】各職種の専門性と関連性、職種間連携の必要性</p> <p>第5・6回 グループ発表【テーマ2】の準備</p> <p>第7・8回 グループ発表【テーマ2】</p>	<p><担当教員名></p> <p>木原 中島 木原、泉、坂本 宮前 木原、泉、坂本 木原、泉、坂本 宮前、矢倉、木原 柴本、泉、坂本</p>
<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1・2回 オリエンテーション アサーションについて グループディスカッションを通して下記について理解する。 【テーマ1】自分の目指す専門職と、関連職種</p> <p>第3回 KJ法について</p> <p>第4回 KJ法を用いて、グループで下記について考える。 【テーマ2】各職種の専門性と関連性、職種間連携の必要性</p> <p>第5・6回 グループ発表【テーマ2】の準備</p> <p>第7・8回 グループ発表【テーマ2】</p>	<p><担当教員名></p> <p>木原 中島 木原、泉、坂本 宮前 木原、泉、坂本 木原、泉、坂本 宮前、矢倉、木原 柴本、泉、坂本</p>		
アクティブラーニング	グループ発表に向けて、グループディスカッションを中心に行います。		
評価方法	グループディスカッションへの参加態度：25% レポート評価：50% 発表：25%		
課題に対するフィードバック	課題レポートの返却、プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。		
指定図書	理学：奈良勲(編)「理学療法概論 第5版」(医歯薬出版) 作業：長崎重信(監修)「作業療法学概論 改訂第2版(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)」(メジカルビュー社) 言語：藤田郁代・笹沼澄子編「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論」(医学書院) *指定図書は他学科の図書を購入する必要はありません。		
事前・事後学修	毎回の事前学修(40分)：他学科の学生に概要を説明できるよう、指定図書をしっかりと読むこと。毎回の事後学修(40分)：グループディスカッションを踏まえて、課題レポートに取り組むこと。		
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週木曜 11:30~13:30 各教員のオフィスアワーについては初回授業時に提示します。		

科目名	入門リハビリテーション英語 (PT)
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 2 セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて「英語力」が必須である。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・症例に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションに関する英語の語彙を 150 語以上 (発音も含めて) 覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. 簡単なリハビリテーションの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> Donald Patterson、渥美陽子</p> <p>第 1 回 医学英語の構造</p> <p>第 2 回 Higher Brain Dysfunction (高次脳機能障害)</p> <p>第 3 回 Parkinson's Disease (パーキンソン病)</p> <p>第 4 回 Osteoporosis (骨粗鬆症)</p> <p>第 5 回 Cerebral Apoplexy/ Stroke (脳卒中)</p> <p>第 6 回 Cardiovascular Disease (循環器疾患)</p> <p>第 7 回 Diabetes Mellitus (糖尿病)</p> <p>第 8 回 まとめ、中間テスト</p> <p>第 9 回 Respiratory Disease (呼吸器疾患)</p> <p>第 10 回 Chronic Rheumatoid Arthritis (慢性関節リウマチ)</p> <p>第 11 回 グループワーク① (リハビリに関連する疾患・障害について)</p> <p>第 12 回 グループワーク② (リハビリに関連する疾患・障害について)</p> <p>第 13 回 グループワーク③ (リハビリに関連する疾患・障害について)</p> <p>第 14 回 発表会</p> <p>第 15 回 まとめ</p>

アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
評価方法	小テスト 20%、課題 10%、中間試験 30%、期末試験 30%、グループ発表 10%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間/期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『The Art of Healing』南雲堂
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CDを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30分～1時間、事後学修 30分～1時間程度。
オフィスアワー	渥美陽子：火曜日 12:00-17:00、金曜日 12:00-14:00 Donald Patterson：火曜日 11:00-13:00、金曜日 12:00-14:00

科目名	国際コミュニケーション演習
科目責任者	坂本飛鳥
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4 セメスター
科目の位置付	DP(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につける。
科目概要	各国の言語や文化、医療、福祉について理解を深める。また、日本とは異なる文化を知ること、国際社会に興味を持つことを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界各国のいろいろな地域の言語、文化、医療、福祉について、情報収集の方法を身につける 2. 集めた情報から知識を統合し、言語、文化、医療、福祉の情勢について日本との相違を分析する 3. 分析した結果より、自分の意見を確立し、伝達する能力を身につける 4. 英語を使用して、自分の意見を相手に伝える方法を養う
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>坂本飛鳥 Richard MacLean</p> <p>第 1 回オリエンテーション& イントロダクション:世界の言語、文化、医療、福祉について (坂本)</p> <p>第 2 回言語、文化と健康問題について (坂本)</p> <p>第 3 回言語、文化と健康問題について演習 (MacLean)</p> <p>第 4 回アメリカ・カナダの文化と医療福祉について (坂本)</p> <p>第 5 回アメリカ・カナダの文化と医療福祉について演習 (MacLean)</p> <p>第 6 回ヨーロッパの文化と医療福祉について (坂本)</p> <p>第 7 回ヨーロッパの文化と医療福祉について演習 (MacLean)</p> <p>第 8 回東南アジアの文化と医療福祉について (坂本)</p> <p>第 9 回東南アジアの文化と医療福祉について演習 (MacLean)</p> <p>第 10 回中国の文化と医療福祉について (坂本)</p> <p>第 11 回中国の文化と医療福祉について演習 (MacLean)</p> <p>第 12 回アフリカの文化と医療福祉について (坂本)</p> <p>第 13 回アフリカの文化と医療福祉について演習 (MacLean)</p> <p>第 14 回日本在住の外国人/移民の健康問題について (坂本)</p> <p>第 15 回日本在住の外国人/移民の健康問題について演習 (MacLean)</p>

アクティブラーニング	グループ学修を通して、世界各国の文化、歴史、社会情勢、医療情勢、健康問題、リハビリテーション医療の現状について情報を収集し、eポートフォリオを作成していく。また、調べた情報から、問題点を導き、解決策について英語でプレゼンテーションやディスカッションを行う。PBLなどを利用して、問題点や課題に対しての解決策を立案し、実践していく。自らの意見を構築していく。
評価方法	プレゼンテーション:50% レポート:50% レポート (50%) ・テーマ: 課題については授業で実施した内容をもとに提示する プレゼンテーション (50%) ・計7回の演習の時間にプレゼンテーションを取り入れる ・ルーブリックを使用して、判定を行う 7回の平均点を最終評価とする
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションへのフィードバックは授業中、口頭で行う。 レポートへのフィードバックは個人にレポート返却時に書面で行う。
指定図書	指定図書なし eポートフォリオ
事前・事後学修	各回ごとに演習で取り入れるトピックを発表する。 事前学習では、そのトピックについて自分で情報を集め (eポートフォリオ作成)、自分の意見を構築する。 事後学修では、演習の時間に実施した内容を取り入れながら自分の意見を再構築する。 また、疑問に思った内容を再度調べ、eポートフォリオを作成する。
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3518 研究室 時間等: 月、木、金曜日 3限目、17時~18時 上記以外でもメール (asuka-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	国際リハビリテーション研修
科目責任者	MacLean, Richard (マックリーン・リチャード)
単位数他	1単位 (30時間) 理学選択・作業選択・言語選択 理学・作業 3～8セメスター、言語 3セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	<p>国際リハビリテーション研修は、異なる文化・地域を訪問し、リハビリテーション関連の医療機関および専門施設などを見学し、当該地域のリハビリテーション事情に関する知識を習得する。研修地で専門職を目差す学生と交流の機会を持ち、相互に経験を深め、日本とは異なる文化における生活の一部を経験し、異なる文化で通用する柔軟な倫理観を習得する。</p> <p>お互いの学生にとって可能性を拡大するために、学生主体の学修方法アクティブラーニングを取り入れた短期プログラムをデザインする。実践的な参加型学修方法を用い、学生が国際リハビリテーション研修で自ら積極的に学修していくことを促す。</p> <p>リハビリテーション医療の現場で実践的なサービスを提供するような経験ができる機会を与える。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の尊厳や幸福を尊重するためのリハビリテーション医療の重要性を理解する ・リハビリテーション医療を通して、人を支援する経験をする ・研修地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する ・研修地の学生と交流を図りコミュニケーションを行う。 ・異なる文化圏の生活を経験する。
授業計画	<p><担当教員名> 坂本飛鳥、木原ひとみ、鈴木達也、マックリーン・リチャード</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前研修 <ul style="list-style-type: none"> 研修先の国に関する、情勢、歴史、保健医療制度 リハビリテーションの情勢、語学研修を実施する 2. 研修書類の作成 <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介、学習目標を作成する 3. 海外研修 <ul style="list-style-type: none"> 研修先の施設見学、授業見学、交流を行う Active Learning Project & Presentation 4. 研修報告会 <ul style="list-style-type: none"> 研修後に報告会を行う。また報告書を提出する

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> - インタビュープロジェクトを実施し、研修中学生が主体となって学ぶプログラムを実施する。 - 参加型学修方法を用いて、学生が自ら質問したり、現地の学生とディスカッションを行う。 - プロジェクトについてプレゼンテーションを行い、学生間でディスカッションを通して自ら学んでいくことを促す。 - 各研修日ごとにディブリーフィングを行い、その日の内省を通して、次の日の研修を学生自ら改善していく。 - 学生同士間の学習支援を促し、研修時の計画などグループ学修を進める。
評価方法	事前研修 30%、研修時態度 40% 課題レポート 30%
課題に対するフィードバック	事前研修内の評価については、事前研修講義の時間内にフィードバックする。 課題レポートについては、課題レポート返却時に文面にてフィードバックを行う。 研修時の態度については、研修時に口頭でフィードバックする。
指定図書	なし
事前・事後学修	研修先の国の歴史・文化・生活・医療保険制度について調べる 滞在中・帰国後は学んだこと経験したこと生かし学習に活用する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：5706 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maclean@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	運動学演習	
科目責任者	中島ともみ	
単位数他	1 単位数 (30 時間数) 作業必修 3 セメスター	
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	作業の形態的、機能的側面の分析方法について学習する。作業分析・動作分析を行うため、運動学的基礎知識を整理する。	
到達目標	① 作業療法を実施するにあたり必要な解剖学的構造を、体表面から触知できる。 ② 触知した筋骨格の解剖学的・運動学的特徴について述べる事ができる。 ③ 基本動作（寝返り起き上がり）を分析し、記述できる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	第 1 回：関節運動とは	中島ともみ・泉 良太
	第 2 回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 3 回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 4 回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 5 回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 6 回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 7 回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 8 回：身体の表面解剖（上肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 9 回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 10 回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 11 回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 12 回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 13 回：身体の表面解剖（下肢の骨及び体幹）と運動学	中島ともみ・泉 良太
	第 14～15 回：動作分析 臥位 寝返り起き上がり	中島ともみ・泉 良太
	#触診・視診、記録が主となります。体表面が触知できる、運動が観察しやすい服装をして参加してください。	

アクティブラーニング	筋の起始停止とその機能を、人体骸骨模型を用いて3Dで理解し、人体の体表から触診と観察が可能となる知識を学習する。グループワークにて、筋の走行を確認し、機能の推論と確認を行う。
評価方法	レポート 50% 定期試験 50% ポートフォリオの評価の視点>要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど使い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。 レポート>臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	中村隆一 他 「基礎運動学」医歯薬出版 青木隆明監修「運動療法のための機能解剖学的触診技術」上肢(メジカルビュー社) 青木隆明監修「運動療法のための機能解剖学的触診技術」下肢・体幹(メジカルビュー社) 新・徒手筋力検査法 第8版 協同医書出版
事前・事後学修	40分：事前に人体骸骨模型を使い、テープを用いて、筋の起始停止を確認すること。 40分：事後に筋の機能と臨床への応用について、ポートフォリオを作成のこと。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール(tomomi-n@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	精神医学系医療学Ⅱ
科目責任者	藤田 さより
単位数他	1 単位 (15 時間) 作業必修 4 セメスター
科目の位置付	DP(2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	外因性精神障害、パーソナリティ障害、摂食障害、発達障害等の精神障害の概念と症状の特徴、経過、治療法を学び、またそれらの障害に対する地域生活支援（通院、訪問、デイケア、就労等）の基本的な考え方や最新の支援法について知識を深める。精神障害の地域生活支援に関連する法制度について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 各精神障害の概念、症状、経過およびその治療法についてのポイントを述べることができる。 ② 精神障害者に対する最新の地域生活支援についてその概要や支援のポイントについて述べるができる。 ③ 精神障害者の地域生活支援に関連する法制度について概要を述べるができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション、就労・地域支援など 藤田さより</p> <p>第2回：気分障害 藤田さより</p> <p>第3回：外因性精神障害（器質性、アルコール・薬物依存など） 新宮尚人</p> <p>第4回：パーソナリティ障害 新宮尚人</p> <p>第5回：大人の発達障害 伊藤信寿</p> <p>第6回：大人の発達障害 伊藤信寿</p> <p>第7回：精神科デイケアなど ゲストスピーカー 中澤明日香</p> <p>第8回：グループワーク、発表、授業のまとめ 藤田さより</p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>
アクティブラーニング	グループ学修
評価方法	レポート 30% 筆記試験 70%
課題に対するフィードバック	筆記試験の回答例の掲示，リアクションペーパーの内容の質問等については、次の講義時に返答、解説致します。
指定図書	上野武治編『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学第3版』医学書院
事前・事後学修	初回授業時に精神医学に関する過去問題集を配布します。毎回のテーマごとに事前事後に問題を解き、復習予習するようにしてください。またテーマ毎に該当する教科書の箇所を事前に読んでくるようにしてください。（毎回 事前事後 40分程度）
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	入門リハビリテーション英語 (OT)
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業必修 2 セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて「英語力」が必須である。本科目では、リハビリテーション分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・症例に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。臨床現場で想定される患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションに関する英語の語彙を 150 語以上 (発音も含めて) 覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. 簡単なリハビリテーションの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> Donald Patterson、渥美陽子</p> <p>第 1 回 医学英語の構造</p> <p>第 2 回 Higher Brain Dysfunction (高次脳機能障害)</p> <p>第 3 回 Parkinson's Disease (パーキンソン病)</p> <p>第 4 回 Osteoporosis (骨粗鬆症)</p> <p>第 5 回 Cerebral Apoplexy/ Stroke (脳卒中)</p> <p>第 6 回 Cardiovascular Disease (循環器疾患)</p> <p>第 7 回 Diabetes Mellitus (糖尿病)</p> <p>第 8 回 まとめ、中間テスト</p> <p>第 9 回 Respiratory Disease (呼吸器疾患)</p> <p>第 10 回 Chronic Rheumatoid Arthritis (慢性関節リウマチ)</p> <p>第 11 回 グループワーク① (リハビリに関連する疾患・障害について)</p> <p>第 12 回 グループワーク② (リハビリに関連する疾患・障害について)</p> <p>第 13 回 グループワーク③ (リハビリに関連する疾患・障害について)</p> <p>第 14 回 発表会</p> <p>第 15 回 まとめ</p>

アクティブラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は疾患・障害についてグループワークを中心に学修し、発表を行う。ピア評価、振り返りを行う。
評価方法	小テスト 20%、課題 10%、中間試験 30%、期末試験 30%、グループ発表 10%
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間/期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『The Art of Healing』南雲堂
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CDを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オフィスアワー	渥美陽子：火曜日 12:00-17:00、金曜日 12:00-14:00 Donald Patterson：火曜日 11:00-13:00、金曜日 12:00-14:00

科目名	言語聴覚解剖学
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 4セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	言語聴覚解剖学は、解剖学に引き続いて、下記の内容について特に神経系、嚥下発声、聴覚平衡感学などについて、標本、模型などの観察により、具体的に講義内容の理解を深めることを目的とする。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そしてリハビリテーションに必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<p>1 2. 神経系の構成と主な機能を述べることができる。</p> <p>1 3. 嚥下発声の構造と機能を述べることができる。</p> <p>1 4. 聴覚と平衡感覚器の構造と機能を述べることができる。</p>
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>顧 寿智</p> <p>第 1 回：神経系の概観、神経組織</p> <p>第 2 回：神経系の発生、脊髄</p> <p>第 3 回：脊髄神経、髄膜と脳室系</p> <p>第 4 回：脳幹</p> <p>第 5 回：間脳、小脳、大脳</p> <p>第 6 回：伝導路、脳神経</p> <p>第 7 回：解剖実験、</p> <p>第 8 回：自律神経系</p> <p>第 9 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第 10 回：咽頭、喉頭</p> <p>第 11 回：咽頭、喉頭</p> <p>第 12 回：聴覚と平衡感覚</p> <p>第 13 回：聴覚と平衡感覚</p> <p>第 14 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第 15 回：総まとめ</p> <p>参考図書</p> <p>『ネッター 解剖学アトラス』相磯貞和訳、南江堂</p> <p>『日本人体解剖学』金子丑之助著、南山堂</p>

アクティブラーニング	Moodle の活用、タブレットアプリ (Visible Body など) の活用、模型の活用、グループ学習など
評価方法	期末試験 (70%)、レポート (10点)、小 (中間) テスト 10%、授業態度 (10%) を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	耳鼻咽喉科学		
科目責任者	香取 幸夫		
単位数他	2単位 (30時間) 言語必修 3セメスター		
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。		
科目概要	近年の高齢化にともない、音声言語、聴覚、嚥下の機能に障害のある方々に対する治療の需要は増しており、言語聴覚士がその領域の専門の職種として治療に携わり社会貢献することが求められている。本授業の目的はこれらの障害に関係する耳鼻咽喉科疾患の病態と検査法を理解し、さらにこの領域のリハビリテーションの必要性和基礎知識を学ぶことにある。		
到達目標	1. 頭頸部領域の解剖と生理を理解する。 2. 難聴、嚥下障害ならびに音声障害の病態を理解する。 3. 耳鼻咽喉科領域の代表的な疾患について、その病態を理解する。		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：外耳と中耳の疾患、顔面神経麻痺</p> <p>第2回：平衡器（前庭と半規管）の構造と機能</p> <p>第3回：喉頭・気管の解剖と生理</p> <p>第4回：嚥下のしくみ</p> <p>第5回：嚥下障害の診断と治療</p> <p>第6回：頭頸部癌</p> <p>第7回：蝸牛の解剖と生理</p> <p>第8回：中耳と内耳の疾患</p> <p>第9回：唾液腺の解剖、生理と疾患</p> <p>第10回：喉頭疾患</p> <p>第11回：音声改善手術と周術期の治療</p> <p>第12回：鼻副鼻腔の解剖と生理</p> <p>第13回：鼻副鼻腔疾患と嗅覚障害</p> <p>第14回：耳鼻咽喉科と社会医療</p> <p>第15回：言語聴覚士と耳鼻咽喉科医師(ディスカッション)</p> </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p><担当教員名></p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> </td> </tr> </table>	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：外耳と中耳の疾患、顔面神経麻痺</p> <p>第2回：平衡器（前庭と半規管）の構造と機能</p> <p>第3回：喉頭・気管の解剖と生理</p> <p>第4回：嚥下のしくみ</p> <p>第5回：嚥下障害の診断と治療</p> <p>第6回：頭頸部癌</p> <p>第7回：蝸牛の解剖と生理</p> <p>第8回：中耳と内耳の疾患</p> <p>第9回：唾液腺の解剖、生理と疾患</p> <p>第10回：喉頭疾患</p> <p>第11回：音声改善手術と周術期の治療</p> <p>第12回：鼻副鼻腔の解剖と生理</p> <p>第13回：鼻副鼻腔疾患と嗅覚障害</p> <p>第14回：耳鼻咽喉科と社会医療</p> <p>第15回：言語聴覚士と耳鼻咽喉科医師(ディスカッション)</p>	<p><担当教員名></p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p>
<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：外耳と中耳の疾患、顔面神経麻痺</p> <p>第2回：平衡器（前庭と半規管）の構造と機能</p> <p>第3回：喉頭・気管の解剖と生理</p> <p>第4回：嚥下のしくみ</p> <p>第5回：嚥下障害の診断と治療</p> <p>第6回：頭頸部癌</p> <p>第7回：蝸牛の解剖と生理</p> <p>第8回：中耳と内耳の疾患</p> <p>第9回：唾液腺の解剖、生理と疾患</p> <p>第10回：喉頭疾患</p> <p>第11回：音声改善手術と周術期の治療</p> <p>第12回：鼻副鼻腔の解剖と生理</p> <p>第13回：鼻副鼻腔疾患と嗅覚障害</p> <p>第14回：耳鼻咽喉科と社会医療</p> <p>第15回：言語聴覚士と耳鼻咽喉科医師(ディスカッション)</p>	<p><担当教員名></p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p> <p>日高浩史</p> <p>日高浩史</p> <p>香取幸夫</p> <p>香取幸夫</p>		
アクティブラーニング	グループ学修を行います。		
評価方法	定期試験 100%		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを用いてフィードバックします。 必要に応じて講義の中で適宜フィードバックします。		
指定図書	「よくわかる病態生理 14 耳鼻咽喉疾患」 日本医事新報社		
事前・事後学修	事前学修：次回の講義内容のキーワードを学修してください。 事後学修：配布資料を再度見直して、重要事項をマイノートに記載してください。		
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。		

科目名	臨床神経学																		
科目責任者	大橋寿彦																		
単位数他	1単位数（15時間） 言語必修 3セメスター																		
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	リハビリテーションを实践するうえで、身体障害の原因となる神経系疾患について病態生理、診断や治療の知識を身につける。本講義では神経系の解剖、生理、機能については別講義に譲り主に疾患について学ぶ。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系の疾患およびそれによってもたらされる身体障害の特徴を説明できる 2. 神経系に特徴的な疾患の病態生理を理解する 3. 神経系の疾患の診断検査技術について理解する 4. 疾病によってもたらされた障害に対して、必要なリハビリを選択できる 																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 脳血管障害</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>2. 運動神経疾患</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>3. パーキンソン症候群</td> <td>内山</td> </tr> <tr> <td>4. 認知症</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>5. 脱髄疾患</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>6. 電気生理</td> <td>大橋</td> </tr> <tr> <td>7. 末梢神経障害</td> <td>佐藤</td> </tr> <tr> <td>8. 筋疾患</td> <td>内山</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	1. 脳血管障害	大橋	2. 運動神経疾患	大橋	3. パーキンソン症候群	内山	4. 認知症	大橋	5. 脱髄疾患	佐藤	6. 電気生理	大橋	7. 末梢神経障害	佐藤	8. 筋疾患	内山
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																		
1. 脳血管障害	大橋																		
2. 運動神経疾患	大橋																		
3. パーキンソン症候群	内山																		
4. 認知症	大橋																		
5. 脱髄疾患	佐藤																		
6. 電気生理	大橋																		
7. 末梢神経障害	佐藤																		
8. 筋疾患	内山																		
アクティブラーニング	なし																		
評価方法	定期試験 100%																		
課題に対するフィードバック																			
指定図書	なし																		
事前・事後学修	学習しても不明な点は積極的に質問し、わからないままにしないこと																		
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます																		

科目名	形成外科学
科目責任者	三浦 隆男
単位数他	1単位（15時間） 言語必修 3セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	形成外科とは「体表に近い部位の修復・再建を担当する外科」で、組織の欠損や変形などの「疾患」を対象とする【再建外科】と、疾患とまでは言えない変化ながら、ご本人が大変気にされているため、希望に沿って改善させる【美容外科】の2つの領域があります。いづれも、手術などによって、患者様の生活の質を上げたり、満足度を向上させることを目指しています。
到達目標	以下の項目等を学び、言語聴覚士の形成外科関連症例に対するかかわりについて理解する。 1. 皮膚の解剖と整理 2. 遊離植皮と皮弁の相違 3. 創傷治癒過程について 4. 口唇顎口蓋裂 5. 鼻咽腔閉鎖機能不全の診断と治療 6. 頭頸部癌摘出後の再建
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 三浦 隆男 第1回：形成外科学総論 第2回：皮膚の解剖と生理、創傷治癒 第3回：組織移植（1） 第4回：組織移植（2） 第5回：口唇裂・口蓋裂（1） 第6回：口唇裂・口蓋裂（2） 第7回：頭頸部癌摘出後の再建（1） 第8回：頭頸部癌摘出後の再建（2）
アクティブラーニング	毎回リアクションペーパーを用いて、講義の中での疑問や感想を学生自身が考えるようにしている。学生へ質問するなど、双方向の授業展開をしている。
評価方法	定期試験 100%
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーによる質問等には、口頭で回答している。
指定図書	『言語聴覚療法シリーズ 8 器質性構音障害』 齊藤裕恵編著、建帛社
事前・事後学修	復習プリントなどで、講義内容のポイントをまとめておくこと。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学	
科目責任者	鴨田勇司	
単位数他	1単位（30時間） 言語必修 4セメスター	
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	口から食べて健康を維持増進することが、この時代における人々の望みであり、かつ歯科医療の大きな役割である。皆さんは一般的な歯科医療に関わる訳ではない。しかし顎・顔面・口腔の構造、機能、疾病の治療の概要はもとより、摂食嚥下障害に関連した歯科学や口腔ケアに関する知識は将来必ず役に立つであろう。食生活は健康を支える大きな柱である。食物の入り口としての口腔の機能について理解することが大切である。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顎口腔領域の発生・構造・疾患について理解する。 2. 言語障害に関係ある歯科疾患について理解する。 3. 言語障害への歯科的対応について理解する。 4. 口腔ケアについて理解する。 5. 加齢による口腔機能の低下について理解する。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンスと口腔の基本構造</p> <p>第2回：口腔の発生と発育障害</p> <p>第3回：口腔の機能としての咀嚼、構音</p> <p>第4回：口腔の疾患と機能障害</p> <p>第5回：顎関節とその疾患 唾液腺とその疾患</p> <p>第6回：言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科的治療法</p> <p>第7回：口腔の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損</p> <p>第8回：歯科疾患について</p> <p>第9回：高齢者と歯科、口腔ケアについて</p> <p>第10回：リハビリテーションと歯科</p> <p>第11回：摂食嚥下障害と歯科</p> <p>第12回：中枢神経系による口腔機能障害</p> <p>第13回：実習</p> <p>第14回：実習</p> <p>第15回：実習</p>	<p><担当教員名></p> <p>片倉伸郎</p> <p>片倉伸郎</p> <p>片倉伸郎</p> <p>片倉伸郎</p> <p>片倉伸郎</p> <p>隅田由香</p> <p>隅田由香</p> <p>福永暁子</p> <p>福永暁子</p> <p>梅田慈子</p> <p>梅田慈子</p> <p>鴨田勇司</p> <p>鴨田勇司</p> <p>鴨田勇司</p>

アクティブラーニング	口蓋床を用いたパラトグラムの実習
評価方法	定期試験 100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『言語聴覚士に必要な歯科の知識』植松宏 監修、インテルナ出版
事前・事後学修	講義内容については各講師の初回授業時に紹介し、課題や事前学習についてはその都度提示する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	
科目責任者	中村 哲也	
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 2 セメスター	
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する	
科目概要	呼吸・発声・発語に関わる器官の解剖と生理を学習し、正常な発話メカニズムを理解する。呼吸は音声を発する原動力となり、喉頭は発声機能をつかさどり、その上部の声道(咽頭・口腔・鼻腔)の形態が言語音の共鳴の変化をもたらし、口唇・舌・下顎などの運動が様々な音の産生をもたらす。こうした正常な機能を理解することは、2 年次から学ぶ音声障害、構音障害、嚥下障害などの病態を把握し、適切な治療計画を考慮する基盤となる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系の解剖生理および病態について理解できる。 2. 喉頭の解剖生理および病態について理解できる。 3. 構音器官の解剖生理および病態について理解できる。 	
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回：呼吸器系の基本構造・呼吸運動</p> <p>第 2 回：呼吸機能検査・呼吸器系の病態</p> <p>第 3 回：喉頭の基本構造</p> <p>第 4 回：喉頭の病態、喉頭機能検査（内視鏡、ストロボスコーピーなど）</p> <p>第 5 回：喉頭の機能（発声時の喉頭調節）、音声機能の評価</p> <p>第 6 回：構音器官の基本構造</p> <p>第 7 回：構音器官の検査・病態</p> <p>第 8 回：構音障害の臨床、まとめ</p>	<p style="text-align: center;">＜担当教員名＞</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>金沢英哲</p> <p>金沢英哲</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p> <p>中村哲也</p>

アクティブラーニング	呼吸機能や音声機能、構音器官の評価については、演習を行いながら説明していきます。
評価方法	定期試験75% 小テスト15% レポート課題10% *達成度はルーブリックに基づいて確認する
課題に対するフィードバック	小テストについては、次の授業で返却して解説します。
指定図書	藤田郁代・熊倉勇美・今井智子 「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版」 医学書院 *2年次の小児構音障害学でも使用します
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖・生理は、専門科目の基礎になります。毎時限の知識を確実にしていくため、予習・復習を行いましょう。 ・小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とします。復習する習慣をつけましよう。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、時間については初回授業時に提示します

科目名	聴覚系の構造・機能・病態
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 2 セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる 専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	人間が音を聞く仕組みについて、聴器の構造と機能に基づいて理解し、そこに障害（難聴）が生じた場合、どのように聞こえに影響が及ぼされるのか学修する。
到達目標	1. 聴器の解剖学的構造と各器官の機能の理解に基づいて、以下の項目について説明できる。 ①人間が音を聞いて知覚するまでの経路と仕組み。 ②伝音性、内耳性、後迷路性の難聴の種類・特性と障害部位の関連。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋 第 1 回：シラバス説明・聴力と聞こえの仕組みの概要 第 2 回：聴覚検査 第 3 回：聴器の構造と機能：外耳、両耳聴と方向感 第 4 回：聴器の構造と機能：中耳～内耳① 第 5 回：聴器の構造と機能：中耳～内耳② 第 6 回：聴器の構造と機能：中耳～内耳③ 第 7 回：聴器の構造と機能：中枢聴覚路 第 8 回：聴器の病態：難聴の種類と障害部位
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等を視聴し、その内容についてグループで協議し、報告を行う。
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20%
課題に対するフィードバック	單元ごとに小テストを実施し、解説する。
指定図書	『耳鼻咽喉科学』鳥山実編、医学書院
事前・事後学修	シラバスに該当する教科書の内容を事前に学修し授業に臨むこと。 授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めるようにしてください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8 時 50 分～10 時 10 分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	神経系の構造・機能・病態
科目責任者	佐藤順子
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 2 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	言語聴覚機能に欠かせない認知や判断、それに伴う反応は脳を含めた神経系の機能と複雑なメカニズムによって行われる。本講義では言語聴覚療法を行うにあたり、その基礎となる神経系の構造と機能、ならびにその障害における病態について学ぶ。講義では、神経系の構造は模型や図を使って部位を確認する。機能や病態についてはグループワークで自ら調べて理解し、他者にも説明できるようにする。さらに、臨床現場で関わる疾患についてグループワークで神経とのメカニズムと病態を学修する。
到達目標	1. 脳・神経系の構造と機能が理解できるようになる。 2. 脳のある部位が損傷されることによって、どのような障害が現れるのか理解できる。 3. ある部位が損傷されることによって、画像ではどのように現れるのか理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐藤順子</p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：神経系の全体像と大脳の構造 (脳の模型を用いて部位を確認)</p> <p>第 3 回：大脳皮質の機能と病態① (グループに分かれて参考文献をみてまとめる)</p> <p>第 4 回：大脳皮質の機能と病態② (グループに分かれて参考文献をみてまとめる)</p> <p>第 5 回：大脳皮質の機能と病態 グループ発表</p> <p>第 6 回：疾患別病態① (グループに分かれて参考文献をみてまとめる)</p> <p>第 7 回：疾患別病態② (グループに分かれて参考文献をみてまとめる)</p> <p>第 8 回：疾患別病態 グループ発表</p>
アクティブラーニング	演習科目です。
評価方法	定期試験 (60%) 確認テスト (20%) 発表 (20%)
課題に対するフィードバック	確認テストについては、次の授業で返却して解説します。 演習の発表の後で補足説明をします。
指定図書	『病気がみえる VOL.7 脳・神経』医療情報科学研究所編集メディックメディア
事前・事後学修	<p>[事前学修] 事前に指定図書の該当箇所を読んでまとめておくこと。</p> <p>[事後学修] 授業の内容を復習しておくこと。</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3407 研究室</p> <p>時間等：毎週月曜日 IV限</p> <p>上記以外でもメール (junko-sa@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	高木 邦子
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 2セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	人が生まれてから死ぬまで発達し続ける存在である。こうした「生涯発達」の視点から、さまざまな発達理論を紹介し、各段階の特徴を理解することを目的とする。授業では「発達」という言葉がどのような現象に対して用いられるかを理解したうえで、代表的な発達理論を概観し、幼児期から老年期にかけての発達課題を踏まえつつ各段階の代表的なトピックを紹介する。
到達目標	1. 発達心理学における代表的な理論を理解する。 2. 各発達段階の特徴を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>高木邦子</p> <p>第1回：発達とは何か：発達の定義、「発達」が示す現象の特徴</p> <p>第2回：さまざまな発達観：発達観の変遷と「遺伝・環境」論争</p> <p>第3回：現代社会における発達：発達加速現象</p> <p>第4回：フロイトの発達理論・ハヴィガーストの発達理論</p> <p>第5回：エリクソンの発達理論(1) 各発達段階の特徴</p> <p>第6回：エリクソンの発達理論(2) アイデンティティ</p> <p>第7回：青年期以降のアイデンティティの確立と拡散</p> <p>第8回：レビンソンの発達段階・発達課題</p> <p>第9回：ピアジェの発達理論(1) シェマの同化と調節 感覚運動期</p> <p>第10回：ピアジェの発達理論(2) 前操作期～形式的操作期</p> <p>第11回：ピアジェの発達理論(3) 道徳性の発達</p> <p>第12回：ボウルビイの愛着理論(1) 愛着の機能</p> <p>第13回：ボウルビイの愛着理論(2) 愛着の形成要因</p> <p>第14回：ボウルビイの愛着理論(3) 愛着の発達段階</p> <p>第15回：各発達段階のキーワード 児童虐待・高齢者虐待・ストレス</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の資料は moodle で事前配布し予習を求める。 ・授業中には自身の経験や疑問を挙げ、授業で学んだ事柄を踏まえて文章化する体験や、グループメンバーに説明する体験を織り交ぜる。
評価方法	定期試験で 100% 評価する。
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例は moodle で提示する予定。 グループ学修の成果は個人名を伏せたうえで全体で共有し、補足説明する。(中途の課題は理解促進のためのものであり、成績評価には含まない)
指定図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：授業の資料を事前に moodle で配布するので、人名や用語については事前に調べてくることを求める。また、国家試験過去問を入手し、「生涯発達心理学」の問題を見ておくと良い(授業中に出てくるどの言葉が重要かわかりやすい) ・事後学修：知識を暗記するだけでなく、実際に自身の経験や周囲の人々などの理解に参照し、新たな視点からの他者理解のアプローチを身につけることを求める(理論に振り回されず、あくまでひとつの視点・説明法として知識を用いることが望ましい)
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	認知心理学
科目責任者	浅井 大輔
単位数他	1単位 (15時間) 言語必修 4セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「認知」とは、生体が対象を感覚器官により知覚し、それが何であるかを判断したり解釈したりする過程のことです。「認知心理学」では、感覚、知覚・認知、記憶、思考、言語等、人が日常生活で何気なく行っている (人の中で起きている) 心の活動に着目し、「生体の認知のしくみ」を学びます。そこで得られた知見を疾病や障害の理解や実際の臨床活動へ活かせるようになることを目的とします。
到達目標	1. 生体の「認知のしくみ」を学ぶ。 2. 人の認知過程や特徴について説明できる用語を習得する。 3. 「認知心理学」の視点を臨床場面へ活用する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>浅井 大輔</p> <p>第 1 回：認知心理学とは (オリエンテーション)</p> <p>第 2 回：認知のメカニズム 感覚</p> <p>第 3 回：認知のメカニズム 知覚</p> <p>第 4 回：認知のメカニズム 認知</p> <p>第 5 回：認知のメカニズム 記憶</p> <p>第 6 回：認知のメカニズム 思考</p> <p>第 7 回：認知のメカニズム 言語</p> <p>第 8 回：認知心理学のまとめ・復習</p>
アクティブラーニング	各回とも主にテキストや配布資料を用いながら講義形式で行いますが、「認知のしくみ」を実際に体験したり、体験をグループでシェアする時間を設けます。
評価方法	定期試験 80%、レポート (または小テスト) 20%
課題に対するフィードバック	小テストを実施した場合は解説を行います。レポート提出を課した場合はコメントした上で返却します。
指定図書	『言語聴覚士テキスト』 (医歯薬出版・廣瀬肇 監修/岩田誠・小川郁 ほか編)
事前・事後学修	授業内容について理解を深めるよう、授業の最後に小テストやレポート提出を課す場合もあります。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	学習心理学
科目責任者	石津希代子
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 4 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	私たちの日常行動は多くの学習によって支えられています。ここでいう学習とは、ヒトや動物が経験を通して、行動の方法や考え方、知識や技能を身につけていくことをいいます。学習心理学は、人間を理解する上で欠かせない基礎的な心理学になります。この科目ではヒトや動物が新しい行動を身に付けていくときに、どのようなことが起こっているのか行動のメカニズムについて紹介します。これら学習心理学で明らかにされてきた知見は、医療・教育・福祉など、多くの分野に応用されています。言語聴覚療法においても同様で、講義の後半では言語聴覚療法への応用について一緒に考えていきます。
到達目標	1. 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、行動随伴性について説明できる。 2. 日常的な行動（言語行動を含めて）について、学習心理学の基礎知識をもとに説明する。 3. 言語聴覚療法の臨床場面を取り上げ、学習心理学の観点から考察する。
授業計画	<p>< 授業内容・テーマ等 > < 担当教員名 > 石津希代子</p> <p>第 1 回： オリエンテーション、「学習」とは (授業概要と受講ルール、学習とは)</p> <p>第 2 回： 馴化と鋭敏化 (馴化の仕組み、鋭敏化)</p> <p>第 3 回： レスポンデント条件づけ (US・UR・中性刺激・CS・CR、対提示、強化、消去、般化)</p> <p>第 4 回： オペラント条件づけ (随伴性、強化、弱体化、消去、反応形成、強化スケジュール)</p> <p>第 5 回： 刺激性制御と言語条件づけ (刺激性制御、弁別、般化、分化、弁別学習、言語条件づけ、刺激等価性)</p> <p>第 6 回： 観察による学習、ルール支配行動、問題解決と運動技能の学習 (洞察、観察学習、模倣と代理強化、モデリング、ルール支配行動)</p> <p>第 7 回： 行動の心理学 基礎 (行動をやめる方法、行動を変える方法)</p> <p>第 8 回： 行動の心理学 応用 (言語聴覚療法への応用)</p>
アクティブラーニング	本科目は、反転授業形式で行います。授業内では各回のテーマにもとづき、ペアワーク、グループワークを通して自身の考えを提示したり、グループで意見をまとめたりします。授業内で討議した内容を、まとめ、発表し、思考の共有をはかります。
評価方法	提出物・小テスト 30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	提出物については、ルーブリックを用いて評価し、随時、フィードバックをします。毎回の小テストは Moodle 上で実施、フィードバックを行います。
指定図書	なし
事前・事後学修	<p>※当該科目の学習資料を整理するためのファイル (2 穴リングファイル) を用意して下さい。</p> <p>※毎回の講義終了時に次回の予習範囲を示します。同時に、事前・事後学修の資料を Moodle に呈示します。必ず事前学修をした上で受講して下さい。講義は、事前学修をもとに進めます。</p> <p>※事前・事後学修ではシラバスに示したキーワードを「説明できる」ように学習を進めて下さい。</p> <p>※授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodle の当該コースに随時示します。</p>
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3502 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	心理測定法
科目責任者	高橋 晃
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 4 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	<p>言語聴覚士国家資格試験に出題される「心理測定法」分野について講義・演習・実験などを通じて学習する。</p> <p>必要に応じて他の心理学分野の知識（感覚知覚心理・臨床心理・実験心理など）についても触れる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目に見えない「心」の測定の原理を理解できるようになる 2. さまざまな心理測定技法の特性を理解し、実践できるようになる 3. 言語聴覚士国家試験問題に適切に解答できるようになる
授業計画	<p>< 授業内容・テーマ等 > < 担当教員名 > 高橋 晃</p> <p>第 1 回：「心理測定法」分野の概要 / 感覚知覚概要 本分野の概要と国家試験の性質について概説する また感覚・知覚分野の必須用語を解説する</p> <p>第 2 回：精神物理学的測定法 (1) 精神物理学的測定法として「ミュラー・リヤー錯視」の簡易実験を行なう</p> <p>第 3 回：精神物理学的測定法 (2) 精神物理学的測定法として「マグニチュード推定法」の簡易実験を行なう</p> <p>第 4 回：知能・性格の測定 心理測定としての「知能検査」「性格検査」とその歴史・手法を学ぶ また態度測定の準備を行なう</p> <p>第 5 回：態度の測定 態度測定技法としての「リッカート法」「サーストン法」の説明と実践を行なう</p> <p>第 6 回：テスト法 各種のテスト法における信頼性と妥当性・各種の測定技法についての解説を行なう</p> <p>第 7 回：数値尺度と統計処理 数値尺度の理解とその前提となる統計処理技法について説明と実習を行なう</p> <p>第 8 回：実験計画法 心理学的実験計画法とその統計処理との関連について解説と実習を行なう</p> <p>なお、各テーマの終わりには対応する国家試験問題の抜粋を解く</p>

アクティブラーニング	グループ学修を取り入れて体験実習等を行なう
評価方法	定期試験 100%。
課題に対するフィードバック	定期試験の解答解説を行なう。
指定図書	なし
事前・事後学修	各回の最後に国家試験問題と同等の問題を出題するため、それに対する 40 分程度の予習・復習が必須である
オフィスアワー	質問等はメール(akirtaka@inf.shizuoka.ac.jp)での連絡とする

科目名	臨床心理学
科目責任者	高柳 弘行
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 5セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	典型的な各発達期における心理的問題を有した事例を通し、1) 当事者の思いの理解、治療への動機づけ、2) 行動記録や心理検査法の理解、3) 心理的問題への対処技法、などについて学んでいきたい。
到達目標	言語聴覚士としての実習を踏まえ、 1) こちら側の一方的な指導や指示ではなく、当事者の立場に立ち当事者の回復への動機づけを高める支援を身につける。 2) 行動記録や心理検査法についての理解を深める。 3) 治療的介入技法についての理解を深める。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 高柳 弘行</p> <p>第 1 回：臨床心理学の概要・パーソナリティ理論（類型論）</p> <p>第 2 回： パーソナリティ理論（特性論、力動論）</p> <p>第 3 回：乳幼児期①（心理的問題・行動観察・心理検査）</p> <p>第 4 回：乳幼児期②（介入）</p> <p>第 5 回：児童期①（心理的問題・行動観察・心理検査）</p> <p>第 6 回：児童期②（介入）</p> <p>第 7 回：思春期①（心理的問題・面接・心理検査）</p> <p>第 8 回：思春期②（介入）</p> <p>第 9 回：青年期①（心理的問題・面接・心理検査）</p> <p>第 10 回：青年期②（介入）</p> <p>第 11 回：中年期①（心理的問題・面接・心理検査）</p> <p>第 12 回：中年期②（介入）</p> <p>第 13 回：老年期①（心理的問題・面接・心理検査）</p> <p>第 14 回：老年期②（介入）</p> <p>第 15 回：まとめ（傾聴技法を再度復習）</p>

アクティブラーニング	ロールプレイによる面接技法、リラクゼーションなどの身体感覚技法、自己のモニタリングによる行動記録、などを実施する。
評価方法	筆記試験 50% リアクションペーパー50%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに対するコメント
指定図書	なし
事前・事後学修	ロールプレイでやった感想や意見、リラクゼーションの感想、自己モニタリング行動などの観察記録を 40 分を事前・事後に実施してもらおう。
オフィスアワー	時間については初回授業で提示します。

科目名	言語学
科目責任者	氏平 明
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 3セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ことばを言語学の領域で捉えて、小言語学 (形態論・統語論・意味論) からその体系と理論を概観する。日本語を日本語学の枠組みから、その文法に見られる法則や理論を学ぶ。
到達目標	1. 言語学の考え方と専門用語を理解する。 2. 日本語文法の分析方法を身に着ける。 3. 国試の問題に解答できる応用力を身に着ける
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 氏平 明</p> <p>第 1 回：ことばに対する言語学の考え方・ことばとは言語学とは</p> <p>第 2 回：ソシュールからブルームフィールド, チョムスキー, プリンス・スモレンスキーまで・言語学の研究その歴史</p> <p>第 3 回：形態音素交代、その種類、連濁の理論・音韻論と形態論の狭間</p> <p>第 4 回：形態素と語の成り立ちと結びつき (語と接辞) 語種・形態論</p> <p>第 5 回：有標と無標、右枝分かれと左枝分かれの構造, IC 分析・統語論 1</p> <p>第 6 回：IC 分析の限界, 生成文法 1, 標準理論、・統語論 2</p> <p>第 7 回：生成文法 2, Xバー理論から GB, ミニマリストへ・統語論 3</p> <p>第 8 回：語の意味と意味の種類, 成分分析とプロトタイプ・意味論 1</p> <p>第 9 回：意味の展開, 文の意味, 談話構造 (グライスの公理)・意味論 2</p> <p>第 10 回：日本語の品詞とその活用・日本語文法形態論 1</p> <p>第 11 回：日本語の格文法と項構造, 複合語の構造・日本語文法形態論 2</p> <p>第 12 回：文法のカテゴリー, 「は」と「が」の構造と意味・日本語文法統語論 1</p> <p>第 13 回：日本語文法のカテゴリー 2, ヴォイス・日本語文法統語論 2</p> <p>第 14 回:日本語文法のカテゴリー3, 動詞の種類その展開・日本語文法統語論 3</p> <p>第 15 回:日本語文法のカテゴリー4, (テンス, アスペクト, モダリティ) ・日本語文法統語論 4</p>

アクティブラーニング	言語学や日本語学では個人の言語能力以外に規範や基準は存在しないという立場なので、言語の各現象や各事柄について内省で確認し、その是非を一人一人が判断する。そのトレーニングを毎授業で学生を指名して行う。各学生が積極的に授業に参加する形式をとる。
評価方法	定期試験 100%で判断する。定期試験の本試験は国試に準じる形式と内容で構成する。すなわち本試験はすべて客観式の学んだことの応用問題で、正誤のいずれかを判断し、部分点はない。再試験は本試験とは別問題で、主観問題を加えて部分点が加点される形式をとる。課題は講義全範囲からの細かな指示で構成する。
課題に対するフィードバック	再試験受験者には、本試験の解説を配布する。課題作成者には再試験の解説を配布する。
指定図書	講義はすべて配布したハンドアウトを指標として進める。ハンドアウトには講義の項目とキーワードと概要が記されている。授業を学生が聞いて、そこに説明と要点を書きこんでいく。参考図書に書かれていることを修正する内容も多々ある。
事前・事後学修	事前学習は不要、習ったことの復習、要点3点、でその細分9事項を必ず毎回復習すること。時間は30分。定期試験前に学んだ言語学・日本語学と音声学の音韻論も含めて、全範囲をくまなく復習して試験に臨むこと。再試験は本試験の解説を理解して試験に臨むこと。
オフィスアワー	毎週1回の集中講義なので、講義時間の合間に教員に質問すること。

科目名	音声学・音韻論
科目責任者	中村哲也
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 2セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声生成のメカニズムを説明することができる。 2. 言語音の特徴や分類を理解し、自らの発声発語器官の運動を内省しながら産生できる。 3. 国際音声記号 (IPA) を用いて、聴取した音を表記できる。 4. 構音実行過程と頭の中の音声プランニングの過程を区別し、それらを連続的に構成するシステムと理論を理解できる。
科目概要	<p>音声学の知識は、構音障害の診断治療を行う際に必須である。母音や子音の特徴や分類を理解し、それぞれの音の聴覚的な印象と音声学的な表記方法を学ぶ。特に現代日本語音について、実際に聴取し国際音声記号で表記する演習を行う。</p> <p>音韻論は、音声プランニングを形成する過程を体系的理論的に理解する。具体的には分節素と音韻素性のシステム、音素の体系、プロソディ、すなわちモーラ、音節、フットで構成される諸単位からなる、リズム、アクセント、イントネーションの諸相とその理論</p>
授業計画	<p>[音声学] 担当者：中村哲也</p> <p>第 1 回：音声と音声学（音声学とは、音声器官の名称）</p> <p>第 2 回：音声生成のプロセス（呼吸、発声、共鳴、構音）</p> <p>第 3 回：国際音声記号 (IPA)</p> <p>第 4 回：子音の分類、子音の分類</p> <p>第 5 回：子音の産生と聴覚的印象：破裂音、鼻音</p> <p>第 6 回：子音の産生と聴覚的印象：ふるえ音とはじき音</p> <p>第 7 回：子音の産生と聴覚的印象：摩擦音と接近音</p> <p>第 8 回：基本母音と母音の様々な特徴、二重調音、二次的調音</p> <p>第 9 回：演習 音声記号の音読と表記</p> <p>[音韻論] 担当者：氏平明</p> <p>第 10 回：音声学と音韻論：発話産出過程概観</p> <p>第 11 回：音声単位と音韻単位：単音、分節素、音素と音素論</p> <p>第 12 回：音韻素性の体系：主要音類、方法、場所とそれらの階層</p> <p>第 13 回：音声のまとまり（プロソディ）の形態とその機能：音節、モーラ、フット</p> <p>第 14 回：リズム、アクセントとイントネーション、形態とその機能</p> <p>第 15 回：アクセントの規則、語句と複合語、アクセントと方言</p>

アクティブラーニング	<p>〔音声学〕 音声学では、実際に音声記号の音読や表記の演習を交えながら進める。</p> <p>〔音韻論〕 音韻論では個人の言語能力以外に規範や基準は存在しないという立場なので、音声の各現象や音韻論の事柄について内省で確認し、その是非を一人一人が判断する。そのトレーニングを毎授業で学生を指名して行う。すなわち各学生が積極的に授業に参加する形式をとる。</p>
評価方法	<p>定期試験 90%，小テスト 10%</p> <p>〔音声学〕 定期試験 40%，小テスト 10%</p> <p>〔音韻論〕 定期試験 50%（定期試験の本試験は国試に準じる形式と内容で構成する）</p>
課題に対するフィードバック	<p>〔音声学〕 小テストについては、次の授業で返却して解説する。</p> <p>〔音韻論〕 音韻論の再試験受験者には、本試験の解説を配布する。</p>
指定図書	<p>〔音声学〕 斎藤純男『日本語音声学入門』三省堂</p> <p>〔音韻論〕 窪菌晴夫『日本語の音声』岩波書店、窪菌晴夫・本間猛『音節とモーラ』研究社 氏平 明「言語聴覚士教育と臨床のための音声学Ⅱ」第6号, pp. 1-14, 2014 氏平 明「言語聴覚士教育と臨床のための音韻論Ⅰ」第8号, pp. 1-11, 2016</p> <p>福岡教育大学教育総合研究所附属特別支援教育研究紀要 購入義務は「なし」、これらの図書は言語学にも共通。</p>
事前・事後学修	<p>〔音声学〕 音声学では、自らの発声発語器官の運動を内省しながら、声を出して練習すること。IPAの音声は次のサイトで確認できる [http://www.coelang.tufs.ac.jp/ipa/index.htm]。また、小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とする。小テストの内容は事前に連絡するので、復習する習慣をつけること。</p> <p>〔音韻論〕 音韻論は事前学習は不要、習ったことの復習、要点3点、でその細分9事項を必ず毎回復習すること。時間は30分。定期試験前に学んだ全範囲をくまなく復習して試験に臨むこと。再試験は本試験の解説を理解して試験に臨むこと。</p>
オフィスアワー	<p>〔音声学〕 リハビリテーション学部、3512 研究室、時間については初回授業時に提示する</p> <p>〔音韻論〕 音韻論は集中講義なので、講義時間の合間に教員に質問すること。</p>

科目名	音声学・音響学演習
科目責任者	中村哲也
単位数他	1単位（30時間） 言語必修 4セメスター
科目の位置付	DP (5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる
科目概要	<p>音響学演習では、音声に関わる各種物理量（音の強さ、周波数等）と基礎となる属性（大きさ、高さ、音色）等について、実際にパーソナルコンピュータ上の音響分析ソフト等を用いて音響学的分析の演習を行う。</p> <p>音声学演習では、現代共通日本語の単音、および連続発話における特徴的な撥音・促音・長音の特徴や、同化・転換・調音結合などについて理解する。また、超分節的要素の種類や役割について学ぶ。さらに、様々なタイプの構音障害例の音声を聴取し、国際音声記号（IPA）を用いて表記する演習をおこなう。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音の物理的性質・音声の音響的特徴を理解できる。 2. 日本語音の特徴を理解し、正しく IPA 表記できる。 3. 異常な構音を聴取し IPA 表記できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>〔音響学演習〕 担当者：中井孝芳</p> <p>第1回 音の強さのレベル、音圧レベルと音の大きさのレベル(演習)</p> <p>第2回 周期と高調波、フーリエ変換（演習）</p> <p>第3回 音声生成の音響理論（演習）</p> <p>第4回 母音と子音の音響特徴、超分節的要素の音響特徴と知覚(演習)</p> <p>第5回 サウンドスペクトログラムを読む①</p> <p>第6回 サウンドスペクトログラムを読む②</p> <p>〔音声学演習〕 担当者：中村哲也</p> <p>第7回 日本語の単音とその特徴：母音と母音の無声化</p> <p>第8回 日本語の単音とその特徴：直音・拗音</p> <p>第9回 日本語の単音とその特徴：清音・濁音・半濁音</p> <p>第10回 日本語の単音とその特徴：撥音・促音・長音</p> <p>第11回 連続発話と音環境による影響：同化、転換、調音結合</p> <p>第12回 演習①：機能性構音障害の音声聴取および IPA 表記</p> <p>第13回 演習①：機能性構音障害の音声聴取および IPA 表記</p> <p>第14回 音声の超分節的要素</p> <p>第15回 演習②：超分節的要素の評価</p>

アクティブラーニング	演習科目です
評価方法	定期試験（80%）小テスト（20%）
課題に対するフィードバック	小テストについては、次の授業で返却して解説します。
指定図書	<p>〔音響学演習〕 小松崎篤・藤田郁代・岩田誠・広瀬肇 「言語聴覚士テキスト 第2版」 医歯薬出版</p> <p>〔音声学〕 斎藤純男 「日本語音声学入門」 三省堂</p>
事前・事後学修	<p>〔音響学演習〕 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習をすること。</p> <p>〔音声学演習〕 小テストの結果を累積し、期末試験と合わせて最終評価とします。小テストの内容は事前に連絡しますので、復習する習慣をつけましょう。</p>
オフィスアワー	<p>〔音響学演習〕 講義の前後の時間</p> <p>〔音声学演習〕 リハビリテーション学部、3512 研究室、時間については初回授業時に提示</p>

科目名	音響学
科目責任者	中井 孝芳
単位数他	2単位 (30 時間) 言語必修 4セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	音や音声の物理的な特性とその表現方法について理解し、聴覚や音声の学習に必要な知識を得る。数学と物理に関する基本的な学習から始め、音や音声の物理的特性を学ぶ。授業では、音声波形や音響分析に関わる視覚的資料を多用することで、分かりやすく解説する。
到達目標	1. 音の物理的性質を説明できる。 2. 音声の音響的特徴を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：音の基礎（波動と振動、純音、複合音、周波数） 中井孝芳</p> <p>第 2 回：音の物理的側面①（音圧・音の強さとデシベル） 中井孝芳</p> <p>第 3 回：音の物理的側面②（波形と周波数スペクトル） 中井孝芳</p> <p>第 4 回：音の特性（音の伝播、反射と干渉、共鳴） 中井孝芳</p> <p>第 5 回：音声生成の音響理論① 中井孝芳</p> <p>第 6 回：音声生成の音響理論② 中井孝芳</p> <p>第 7 回：音響分析の基礎 中井孝芳</p> <p>第 8 回：サウンドスペクトログラム① 中井孝芳</p> <p>第 9 回：サウンドスペクトログラム② 中井孝芳</p> <p>第 10 回：母音の音響特徴と知覚 中井孝芳</p> <p>第 11 回：連続音声中の母音の音響特性とその知覚 中井孝芳</p> <p>第 12 回：子音・半母音の音響特徴と知覚 中井孝芳</p> <p>第 13 回：サウンドスペクトログラム③ 中井孝芳</p> <p>第 14 回：サウンドスペクトログラム④ 中井孝芳</p> <p>第 15 回：調音結合、超分節の特徴、声の個体差、自然性 中井孝芳</p>
アクティブラーニング	小テストとその解説
評価方法	期末試験（100%）による。
課題に対するフィードバック	
指定図書	言語聴覚士テキスト第 2 版 医歯薬出版、 2011
事前・事後学修	事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。授業終了後は、配布資料を基に授業内容の復習をすること。
オフィスアワー	講義の前後の時間

科目名	聴覚心理学
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 4 セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる 専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	音の聞こえの心的な側面を学ぶ。すなわち、どのような物理的性質を持った音が、人間にどのように聞こえの感覚を生じさせるのか理解する。
到達目標	音や音声の知覚の特徴と、両耳聴効果について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋</p> <p>第 1 回：シラバス説明・音の情報の符号化</p> <p>第 2 回：可聴範囲</p> <p>第 3 回：ラウドネス</p> <p>第 4 回：ピッチ</p> <p>第 5 回：音色</p> <p>第 6 回：マスキング</p> <p>第 7 回：音の弁別・聴覚疲労・短音の知覚</p> <p>第 8 回：両耳聴と音源定位</p>
アクティブラーニング	授業進行に応じ、適時、ビデオ等を視聴し、その内容についてグループで協議し、報告を行う。
評価方法	定期試験 80%、平常点 20%
課題に対するフィードバック	単元ごとに小テストを実施し、解説する。
指定図書	言語聴覚士テキスト第 2 版 医歯薬出版、2011
事前・事後学修	シラバスの内容に該当する教科書ページを事前に学修し授業に臨むこと。授業で取り上げたテーマについて学ぶべきポイントを示しますので、事後学修で深めるようにしてください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8 時 50 分～10 時 10 分 上記以外でもメール (shigehiro-o@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	言語発達学
科目責任者	木原 ひとみ
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 1 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	言語獲得の発達、認知の発達、生理的な基盤、コミュニケーションの発達、構音の発達などについて講義を行う。
到達目標	1. 全般的な発達および、ことばの獲得順序・特徴を説明できる。 2. 言語発達の阻害要因、促進要因を理解できる。 3. 言語発達を支える諸領域について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>木原 ひとみ</p> <p>第 1 回：言語発達学への導入 ことばの役割と各理論について</p> <p>第 2 回：言語発達の基盤について</p> <p>第 3 回：言語獲得① 前言語期～語彙獲得期（音声言語、語彙能力の発達）</p> <p>第 4 回：言語獲得② 語彙獲得期～構文獲得期（語彙発達、文法の発達）</p> <p>第 5 回：言語獲得③ 会話能力の発達</p> <p>第 6 回：言語獲得④ 読み書きの発達</p> <p>第 7 回：言語発達の阻害要因、促進要因について</p> <p>第 8 回：言語発達を支える諸領域について</p>
アクティブラーニング	Moodle 上の課題を踏まえて、授業中はグループ学修を中心に行う。
評価方法	定期試験 70%、課題・レポート 30%
課題に対するフィードバック	授業（リフレクションペーパー含）、プレゼンテーションのフィードバック、課題の返却、定期試験の解答例の提示を行う。
指定図書	「よくわかる言語発達（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）」 ミネルヴァ書房
事前・事後学修	毎回の事前学習（40 分）：Moodle 上にアップされた課題を行う。 毎回の事後学修（40 分）：グループワークのまとめ、課題の発表の準備を行う。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週木曜 11：30～13：30 上記以外でも在室時随時対応します

アクティブラーニング	Small Group and Dual Group “Learning Event” preparation and follow up. Rotating Group Leader grading for group members. Group presentation feedback forums. Student comment and interview. Short-lecture prep and follow up. In-class faculty feedback on presentations and comment-group.
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）と小テスト（20%）、課題提出（20%）、中間30%、定期テスト 30%
課題に対するフィードバック	Weekly comment sheet feedback. Student group in-class comments. 小テスト
指定図書	なし
事前・事後学修	<ol style="list-style-type: none"> 1) Must review pre-presentation materials 2) Must complete pre-presentation comment and discussion points in small groups 3) Must participate in post-presentation comment groups and feedback 4) Must grade group participants in rotating leaders role
オフィスアワー	MacLean（火曜日 3, 4, 5, 時間目、木曜日 3, 4 時間目）

科目名	理学療法概論
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修 1 セメスター
科目の位置付	DP(2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に理解している。
科目概要	理学療法概論では、リハビリテーションにおける理学療法の役割、治療技術、疾病と対象の理解、理学療法のプロセス（検査・評価、治療）と臨床思考、理学療法士の使命と倫理、さらに理学療法士の養成教育と生涯学習について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人として、理学療法士としての使命感、倫理観を持ち、基本的な臨床態度を習得する。 2. リハビリテーションにおける理学療法に関する基本的な知識を身につけ、説明できる。 3. 理学療法士が活躍するフィールドを理解し、自身の将来像を描けるようになる。
授業計画	<p>※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 矢倉千昭</p> <p>第1回：コースオリエンテーション、学修の準備</p> <p>第2回：学修の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。 ・ポートフォリオ作成の準備を行う。2 穴リングファイルを持参すること。 ・次回の授業でのグループワークを計画する。 <p>第3回：グループワークの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でグループワークを練習する。 <p>第4回：理学療法の歴史と定義を理解する テキスト 第1章</p> <p>※第5回から授業前にグループワークで資料を作成し、教員に提出する。</p> <p>第5回：理学療法の対象と臨床プロセスを理解する。 テキスト 第1章、第2章、第3章</p> <p>第6回：理学療法と障害モデルを理解する。 テキスト 第1章</p> <p>第7回：理学療法士の使命と倫理を理解する。 テキスト 第4章</p> <p>第8回：理学療法士に求められる臨床思考を理解する。 テキスト 第5章</p> <p>第9回：理学療法士が活躍する現場を理解する。 テキスト 第6章</p> <p>第10回：私たちが学ぶ理学療法教育を理解する。 テキスト 第9章</p> <p>第11回：理学療法士の法律、職能を理解する。 テキスト 第7章、第8章</p> <p>第12回：理学療法における研究を理解する。 テキスト 第11章</p> <p>第13回：理学療法と報酬（保険制度）を理解する。 テキスト 第12章</p> <p>第14回：理学療法とリスク管理を理解する。 テキスト 第12章</p> <p>第15回：理学療法(士)の現状を知り、これからの理学療法を考える。</p> <p>これまでの授業のまとめを行う</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。 ・グループワークの資料は教員が学生に配信し、学生は PC で資料を見ながら授業に参加する。 ・ポートフォリオを作成し、定期的に学修を振り返りながら目標の到達度を確認する。
評価方法	定期試験 30%、小テスト 10%、ポートフォリオ 50%、授業態度 10%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	細田多穂（編）「理学療法概論テキスト 改訂第 2 版」（南江堂）
事前・事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い、授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ、ファイルに整理する。
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>時間：月曜日と金曜日の 3 時限目（11 時 55 分～13 時 15 分）</p> <p>場所：3504 研究室（矢倉研究室）</p> <p>上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

アクティブラーニング	授業はモデルケースを用いての演習やグループワークを予定しています
評価方法	レポート 25%, グループ発表参加度 25%, 定期試験 50%
課題に対するフィードバック	レポートの添削、演習での指導、等
指定図書	奈良勲監修,「標準理学療法学 病態運動学」 医学書院
事前・事後学修	事前学修では各回の授業テーマに関連する解剖・生理・運動学の基礎知識を整理してください。 事後学修では基礎知識を統合し、演習で行った内容を復習・練習してください。
オフィスアワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室： 時間帯：授業の際に提示します

科目名	理学療法研究の理論	
科目責任者	俵 祐一	
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修 6 セメスター	
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	臨床疑問や課題に対して、客観的な視点から探求することを目的に、理学療法に必要な理学療法研究に関する方法論を学習する。研究の方法論では、問題点の抽出から文献検索、仮説の立案、データ測定、結果の解釈、考察といった研究の流れに沿ってそれぞれに必要な知識の習得と理学療法に必要な倫理事項の確認を行い、リハビリテーション専門職を志す者としての冷静な態度、深い洞察力、高い倫理観を裏付ける広い教養を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における研究活動の意義を理解する 2. 研究疑問を具現化し、その解明の手順(研究計画書の作成)を理解する 3. 理学療法研究を実践するにあたっての倫理感を養う 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：コースオリエンテーション 研究法総論 (1)</p> <p>第2回：研究法総論 (2) 学習要領の確認</p> <p>第3回：研究を行うにあたっての心構えと哲学</p> <p>第4回：研究疑問の見つけ方 (1) 量的研究と研究デザイン</p> <p>第5回：研究疑問の見つけ方 (2) 質的研究と研究デザイン</p> <p>第6回：文献レビューの仕方 (1) 研究の概念枠組み</p> <p>第7回：文献レビューの仕方 (2) 研究の限界</p> <p>第8回：文献レビューに基づく仮説の設定 (1) 文献検索の方法とまとめ方</p> <p>第9回：文献レビューに基づく仮説の設定 (2) 文献の読み方</p> <p>第10回：理学療法研究に必要な統計学 (1) 代表値とバラツキ</p> <p>第11回：理学療法研究に必要な統計学 (2) データの読み方</p> <p>第12回：理学療法研究に必要な統計学 (3) 様々な統計学的手法</p> <p>第13回：理学療法研究に必要な倫理学 (1) 倫理哲学</p> <p>第14回：理学療法研究に必要な倫理学 (2) 倫理申請手順</p> <p>第15回：大学院教育への発展</p>	<p><担当教員名></p> <p>俵 祐一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>有菌信一</p> <p>俵 祐一</p>

アクティブラーニング	グループワーク等を予定しています
評価方法	学期末テスト(50%)、研究計画書の作成(50%)
課題に対するフィードバック	研究計画書の作成指導を通して進めていきます
指定図書	千住秀明著「はじめての研究法—コメディカルの研究法入門」(神稜文庫)
事前・事後学修	学修の成果はグループ指導教員との卒業研究テーマ、研究計画の作成に反映されます
オフィスアワー	科目責任者：俵祐一(リハビリテーション学部理学療法学科) 研究室： 時間帯：授業の際に提示します

科目名	理学療法研究の実践
科目責任者	有菌信一
単位数他	4単位（120時間） 理学必修 8セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	理学療法研究の意義と、科学的・論理的な研究方法を修得する。具体的には、各担当指導教員の指導のもと、研究テーマの設定、研究計画の立案、データ収集・解析、考察を行い、その研究結果を卒業研究発表会で口演し、卒業論文を完成させることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法研究の意義を理解する。 2. 一連の研究の流れ学び、各自の研究テーマに沿って研究を実施する。 3. 研究結果を考察し、口述発表する。 4. 卒業論文にまとめて報告する。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜担当教員＞</p> <p>有菌信一、矢倉千昭、金原一宏、俵祐一、根地嶋誠、吉本好延、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹（すべての内容を全員で担当する）</p> <p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>本科目は、担当指導教員によるゼミ形式で行うが、必要に応じて全体でも開講する。研究内容、および研究方法は、指導教員の指導を受けて決定すること。</p> <p>卒業研究の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法研究の意義と目的 ・ 研究疑問の発見 ・ 文献レビュー ・ 研究テーマの明確化 ・ 研究計画の作成（倫理的考察も含む） ・ 研究方法（対象者の設定、測定機器の使用、調査方法など） ・ データ収集 ・ データ解析と処理 ・ 考察 ・ 発表 ・ 論文執筆 <p>*卒業研究発表会を11月上旬頃に行う</p> <p>*卒業論文の提出は11月末頃とする</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 各セッションの課題をグループワークで解決・発表する 授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする 授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	履修状況：30% 論文内容：35% 口頭発表：35%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。
指定図書	千住秀明著「はじめての研究法—コメディカルの研究法入門」（神稜文庫）
事前・事後学修	文献検討を十分に行って、研究に臨んでください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。

科目名	理学療法診断学概論
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	2単位(30時間) 理学必修 2セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に理解している。
科目概要	理学療法において、理学療法診断(評価)は、対象者の障害像を整理し、問題点の把握、治療目標の設定、治療計画を立案するうえで最も重要な過程である。授業では、理学療法診断に必要な基本的な態度、知識、技能について教示する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士を目指す学生としての社会人基礎力、臨床態度、学修意欲を喚起する。 2. 理学療法診断(評価)の意義と目的、評価から治療計画の立案までの過程を説明できる。 3. 対象者とのコミュニケーション、医療面接、基本的な検査・測定が想起できる。
授業計画	<p>※能動的な学修としてアクティブラーニングによる授業を展開する <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：コースオリエンテーション、学修の準備</p> <p>第2回：学修の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。 ・ポートフォリオ作成の準備を行う。2穴リングファイルを持参すること。 ・次回の授業でのグループワークを計画する。 <p>第3回：理学療法評価とは</p> <p>第4回：検査・測定法の信頼性と妥当性</p> <p>第5回：情報収集・医療面接</p> <p>第6回：検査・測定法の名前、その目的・概要・意義①</p> <p>第7回：検査・測定法の名前、その目的・概要・意義②</p> <p>第8回：検査・測定法の名前、その目的・概要・意義③</p> <p>第9回：中枢神経系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える①</p> <p>第10回：中枢神経系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える②</p> <p>第11回：運動器系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える①</p> <p>第12回：運動器系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える②</p> <p>第13回：内部障害系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える①</p> <p>第14回：内部障害系疾患の病態・障害像から理学療法評価を考える②</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解し、各回テーマから重要なキーワードを抽出し、グループワークの課題を作成する。 ・グループワークの資料は教員が学生に配信し、学生は PC で資料を見ながら授業に参加する。 ・ポートフォリオを作成し、定期的に学修を振り返りながら目標の到達度を確認する。
評価方法	定期試験 30%，小テスト 10%，ポートフォリオ 50%，授業態度 10%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	細田多穂（監）「理学療法評価学テキスト」（南江堂）
事前・事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い、授業で発表・質疑応答、教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ、ファイルに整理する。
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日と金曜日の 3 時限目（11 時 55 分～13 時 15 分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	理学療法診断技術学																																	
科目責任者	俵 祐一																																	
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修 3 セメスター																																	
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																	
科目概要	理学療法において、理学療法診断(評価)は対象者の問題点の把握、治療目標の設定、治療計画を立案するうえで最も重要な過程である。本科目では、理学療法士として基本的な評価を実施できるようにするために、基本的な理学療法評価(筋力測定や高次機能検査など)の種類や原理、実施方法などについて、基礎知識・技術・態度を身につける。																																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な理学療法対象疾患に対する理学療法評価の項目を列挙できる 2. 基本的な理学療法評価の方法と原理を説明できる 3. 基本的な理学療法評価を適切な技術と態度で実施できる 																																	
授業計画	<p><担当教員> 俵 祐一、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：コースオリエンテーション，形態計測</td> <td>俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：関節可動域測定 1</td> <td>俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：関節可動域測定 2</td> <td>俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：関節可動域測定 3</td> <td>俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：徒手筋力検査 1</td> <td>俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：徒手筋力検査 2</td> <td>俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：徒手筋力検査 3</td> <td>俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：バイタルサイン、呼吸機能検査、運動負荷試験</td> <td>俵 祐一</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：理学療法診断技術学総合演習 1 (OSCE)</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：感覚検査、反射検査、疼痛検査</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：片麻痺機能検査、筋緊張、バランス検査</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：整形領域検査</td> <td>矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：実習報告会</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：理学療法診断技術学総合演習 2 (OSCE)</td> <td>全員</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ユニフォームで参加してください。ハンドアウトやプリントも配布予定ですが、各自講義ノートを用意しましょう。</p>		<授業内容・テーマ等>	<担当教員>	第 1 回：コースオリエンテーション，形態計測	俵 祐一	第 2 回：関節可動域測定 1	俵 祐一	第 3 回：関節可動域測定 2	俵 祐一	第 4 回：関節可動域測定 3	俵 祐一	第 5 回：徒手筋力検査 1	俵 祐一	第 6 回：徒手筋力検査 2	俵 祐一	第 7 回：徒手筋力検査 3	俵 祐一	第 8 回：バイタルサイン、呼吸機能検査、運動負荷試験	俵 祐一	第 9 回：理学療法診断技術学総合演習 1 (OSCE)	全員	第 10 回：画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識	矢部広樹	第 11 回：感覚検査、反射検査、疼痛検査	矢部広樹	第 12 回：片麻痺機能検査、筋緊張、バランス検査	矢部広樹	第 13 回：整形領域検査	矢部広樹	第 14 回：実習報告会	全員	第 15 回：理学療法診断技術学総合演習 2 (OSCE)	全員
<授業内容・テーマ等>	<担当教員>																																	
第 1 回：コースオリエンテーション，形態計測	俵 祐一																																	
第 2 回：関節可動域測定 1	俵 祐一																																	
第 3 回：関節可動域測定 2	俵 祐一																																	
第 4 回：関節可動域測定 3	俵 祐一																																	
第 5 回：徒手筋力検査 1	俵 祐一																																	
第 6 回：徒手筋力検査 2	俵 祐一																																	
第 7 回：徒手筋力検査 3	俵 祐一																																	
第 8 回：バイタルサイン、呼吸機能検査、運動負荷試験	俵 祐一																																	
第 9 回：理学療法診断技術学総合演習 1 (OSCE)	全員																																	
第 10 回：画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識	矢部広樹																																	
第 11 回：感覚検査、反射検査、疼痛検査	矢部広樹																																	
第 12 回：片麻痺機能検査、筋緊張、バランス検査	矢部広樹																																	
第 13 回：整形領域検査	矢部広樹																																	
第 14 回：実習報告会	全員																																	
第 15 回：理学療法診断技術学総合演習 2 (OSCE)	全員																																	

アクティブラーニング	モデルケースを想定しての実際の技術演習を積極的に行ないます
評価方法	定期試験 60% 実技遂行状況 40%
課題に対するフィードバック	授業の実技にて、評価手技習得の達成度をフィードバックします
指定図書	新・徒手筋力検査法：津山直一・他訳（協同医書出版） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂） 理学療法評価学テキスト：細田多穂著 南江堂
事前・事後学修	徒関節可動域測定，筋力検査，感覚検査，バランス検査，医学的検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習，事後学習を行ってください
オフィスアワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室： 時間帯：授業の際に提示します

科目名	神経系理学療法評価学	
科目責任者	吉本好延	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター	
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	<p>本科目では、中枢神経疾患に伴う身体・精神機能障害、能力障害の把握に必要な症状発現のメカニズムと評価法について学習する。具体的には、中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う運動障害、感覚障害などの機能障害、姿勢・動作分析のポイントを理解し、中枢神経疾患における基本的な評価方法を理解し、選択および実践できるように学習する。</p>	
到達目標	<p>1. 脳卒中患者の病態と障害を理解し、基本的な評価法を選定し、実践することができる。</p> <p>2. 神経疾患の病態と障害を理解し、基本的な評価法を選択し、実践することができる。</p>	
授業計画	<p>< 授業内容・テーマ等 ></p>	<p>< 担当教員名 ></p>
	第 1 回: オリエンテーション、シラバスの作成	吉本好延
	第 2 回: 脳卒中の理学療法評価 グループワーク	吉本好延
	課題 1 「運動麻痺はなぜ起こるのかを明らかにし、代表的な理学療法評価を説明する」	
	第 3 回: 脳卒中の理学療法評価 課題 1 の発表	吉本好延
	第 4 回: 脳卒中の理学療法評価 実技	吉本好延
	運動麻痺の理学療法評価: 模擬患者の作成	
	第 5 回: 脳卒中の理学療法評価 グループワーク	吉本好延
	課題 2 「筋緊張異常はなぜ起こるのかを明らかにし、代表的な理学療法評価を説明する」	
	第 6 回: 脳卒中の理学療法評価 課題 2 の発表	吉本好延
	第 7 回: 脳卒中の理学療法評価 実技	吉本好延
	筋緊張異常の理学療法評価: 模擬患者の作成	
	第 8 回: 脳卒中の理学療法評価 グループワーク	吉本好延
	課題 3 「脳卒中患者はなぜ異常な歩行になるのか、原因を明らかにする」	
	第 9 回: 脳卒中の理学療法評価 発表と講義	吉本好延
課題 3 の発表と歩行観察のポイントの講義		
第 10 回: 脳卒中の理学療法評価 実技	ゲストスピーカー・吉本好延	
姿勢・歩行観察の実際		
第 11 回: 脳卒中の理学療法評価	矢倉千昭	
— 高次脳機能障害の障害と検査法		
第 12 回: 脳卒中の理学療法評価	矢倉千昭	
— CT・MRI 画像の読み方		
第 13 回: パーキンソン病の評価	矢倉千昭	
— パーキンソン病の障害と評価法		
第 14 回: 多発性硬化症の評価・脊髄小脳変性症の評価	矢倉千昭	
— 多発性硬化症・脊髄小脳変性症の障害と評価法		
第 15 回: 筋萎縮性側索硬化症の評価	矢倉千昭	
— 筋萎縮性側索硬化症の障害と評価		

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・開講時に自分たちでシラバスを作成し、何を学びたいかを学生と教員が共同で決定する ・1セッション3コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す ・実技は ipad で撮影し、視覚的にフィードバックを行う
評価方法	定期試験：70% 課題提出物：20% 授業態度：10%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行う
指定図書	『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂）
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する
オフィスアワー	3509 教室，毎週水曜日 16 時～18 時

科目名	内部障害系理学療法評価学
科目責任者	有菌 信一
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価するために必要である基礎的な知識と技能を備え、客観的かつ科学的観点から物事を洞察できる能力を習得する事を目的に、内部障害疾患（特に呼吸・循環・代謝系疾患）の病態生理ならびに疾患に対する理学療法評価を整理する。
到達目標	1. 呼吸器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉える。 2. 循環器系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉える。 3. 代謝系疾患の病態から理学療法評価の意義を捉える。
授業計画	<p>担当教員：有菌信一・俵祐一・矢部広樹・向井庸</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回 コースオリエンテーション 内部障害系理学療法学総論 (1) (有菌・俵) －内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素</p> <p>第2回 循環器系理学療法評価学 (1) 狭心症, 急性心筋梗塞, 心不全 (有菌・俵)</p> <p>第3回 循環器系理学療法評価学 (2) (有菌・俵)</p> <p>第4回 循環器系理学療法評価学 (3) (有菌・俵)</p> <p>第5回 循環器系理学療法評価学 (4) (有菌・俵)</p> <p>第6回 代謝系理学療法評価学 (1) 糖尿病 (矢部・俵)</p> <p>第7回 代謝系理学療法評価学 (2) (矢部・俵)</p> <p>第8回 代謝系理学療法評価学 (3) (矢部・俵)</p> <p>第9回 腎臓における理学療法評価 (1) (矢部・俵)</p> <p>第10回 腎臓における理学療法評価 (2) (矢部・俵)</p> <p>第11回 呼吸器系理学療法評価学 (1) COPD, 間質性肺炎 (有菌・俵)</p> <p>第12回 呼吸器系理学療法評価学 (2) (有菌・俵)</p> <p>第13回 呼吸器系理学療法評価学 (3) (有菌・俵) －呼吸器疾患に対する理学療法評価の方法と実際</p> <p>第14回 呼吸器系理学療法評価学 (4) (有菌・俵)</p> <p>第15回 急性期理学療法評価 (有菌・向井)</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 各セッションの課題をグループワークで解決・発表する 授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする 授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	学期末テスト(60%), レポート(40%)にて評価する
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 発表会の途中で教員が随時補足していく 他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	内部障害理学療法学テキスト 細田多穂著 南江堂 千住秀明著「呼吸リハビリテーション入門」(神稜文庫)
事前・事後学修	循環器疾患, 代謝疾患, 呼吸器疾患などをキーワードに事前学習を行ってください 症例報告などを中心に評価の実際について, 事後学習してください
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3503 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (shinichi-a@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください.

科目名	運動器系理学療法評価学	
科目責任者	根地嶋誠	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター	
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	<p>代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し、それらに対する理学療法評価について学習する。特に整形外科的検査について、方法や原理、目的などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には、代表的な運動器疾患を概説できること、代表的な運動器疾患における評価方法の種類を挙げることができること、評価の方法を説明し実践できること、評価方法の原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な運動器疾患を概説できる 2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法評価の項目を列挙できる 3. 理学療法評価の方法と原理を説明できる 4. 理学療法評価を適切な技術と態度で実施できる 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション、運動器系理学療法学総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法評価)</p> <p>第 2 回：股関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性股関節症, THA の病態と理学療法評価)</p> <p>第 3 回：股関節の疾患と理学療法評価 2 (大腿骨頸部骨折の病態と理学療法評価)</p> <p>第 4 回：膝関節の疾患と理学療法評価 1 (変形性膝関節症, TKA の病態と理学療法評価)</p> <p>第 5 回：膝関節の疾患と理学療法評価 2 (靭帯損傷の病態と理学療法評価)</p> <p>第 6 回：足関節の疾患と理学療法評価 (靭帯・腱損傷の病態と理学療法評価)</p> <p>第 7 回：脊柱・骨盤の理学療法評価 (腰痛, 腰椎椎間板ヘルニアの病態と理学療法評価)</p> <p>第 8 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 1 (肩板断裂の病態と理学療法評価)</p> <p>第 9 回：肩関節・肩甲帯の疾患と理学療法評価 2 (肩関節周囲炎の病態と理学療法評価)</p> <p>第 10 回：肘関節・前腕および手関節・手指の疾患と理学療法評価 (腱鞘炎の病態と理学療法評価)</p> <p>第 11 回：関節リウマチの理学療法評価 (関節リウマチの病態と理学療法評価)</p> <p>第 12 回：関節リウマチの理学療法評価 2 (関節リウマチの病態と理学療法評価)</p> <p>第 13 回：運動器疾患に対する検査測定 of 解釈 (模擬症例による評価方法の実際)</p> <p>第 14, 15 回：実技総合演習 (理学療法評価の知識・技術の統合と実際)</p>	<p><担当教員名></p> <p>(根地嶋)</p> <p>(田中)</p> <p>(田中)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(根地嶋)</p> <p>(田中)</p> <p>(田中)</p> <p>(根地嶋, 田中)</p> <p>(根地嶋, 田中)</p>

アクティブラーニング	グループ学修
評価方法	小テスト 20%，総合演習の遂行状況 20%，筆記試験 60%
課題に対するフィードバック	小テストの解説，リアクションペーパーのコメント
指定図書	運動器疾患の理学療法（神陵文庫）
事前・事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について 40 分程度学んでおくこと。
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します

科目名	理学療法検査測定演習																																														
科目責任者	矢部 広樹																																														
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 3 セメスター																																														
科目の位置付	DP(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。																																														
科目概要	本科目は、理学療法診断技術学で学んだ知識と技術を整理、習得する。代表的な病態に対し、基本的な理学療法評価から必要なものを選択し、健常者を対象として基本的な検査測定を実施できることを目標とする。授業では、対象者への配慮と医療者としての接遇を身に付け、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査、バイタルサイン、精神機能検査、感覚・反射検査、疼痛評価等を実施する																																														
到達目標	1.健常者を対象に、基本的な理学療法評価を適切な技術と相手を尊重した態度で実施できる 2.報告会や実技演習で経験したことを報告できる																																														
授業計画	<p><担当教員> 俵 祐一、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>コースオリエンテーション・目標およびスケジュールの確認 形態計測、周径、四肢長、ランドマーク触診、視診、触診</td> <td><担当教員> 矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>関節可動域測定演習 1 上肢・肩甲骨</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>関節可動域測定演習 2 下肢</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>関節可動域測定演習 3 頸部・体幹</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>徒手筋力検査 1</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>徒手筋力検査 2</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>徒手筋力検査 3</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>バイタルサイン 呼吸機能検査 運動負荷試験</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>実技総合演習① (客観的臨床能力試験)</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>感覚検査、反射検査、疼痛検査</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>中枢神経系検査 片麻痺機能検査 筋緊張 バランス検査</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>整形領域検査</td> <td>矢部・俵</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>実技総合演習② (客観的臨床能力試験)</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>理学療法評価の統合 臨床実習報告会からの学び</td> <td>全員</td> </tr> </table> <p>受講者へのメッセージ：動きやすい服装 (T シャツやジャージ) で参加してください。</p>		第 1 回	コースオリエンテーション・目標およびスケジュールの確認 形態計測、周径、四肢長、ランドマーク触診、視診、触診	<担当教員> 矢部・俵	第 2 回	関節可動域測定演習 1 上肢・肩甲骨	矢部・俵	第 3 回	関節可動域測定演習 2 下肢	矢部・俵	第 4 回	関節可動域測定演習 3 頸部・体幹	矢部・俵	第 5 回	徒手筋力検査 1	矢部・俵	第 6 回	徒手筋力検査 2	矢部・俵	第 7 回	徒手筋力検査 3	矢部・俵	第 8 回	バイタルサイン 呼吸機能検査 運動負荷試験	矢部・俵	第 9 回	実技総合演習① (客観的臨床能力試験)	矢部・俵	第 10 回	画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識	矢部・俵	第 11 回	感覚検査、反射検査、疼痛検査	矢部・俵	第 12 回	中枢神経系検査 片麻痺機能検査 筋緊張 バランス検査	矢部・俵	第 13 回	整形領域検査	矢部・俵	第 14 回	実技総合演習② (客観的臨床能力試験)	全員	第 15 回	理学療法評価の統合 臨床実習報告会からの学び	全員
第 1 回	コースオリエンテーション・目標およびスケジュールの確認 形態計測、周径、四肢長、ランドマーク触診、視診、触診	<担当教員> 矢部・俵																																													
第 2 回	関節可動域測定演習 1 上肢・肩甲骨	矢部・俵																																													
第 3 回	関節可動域測定演習 2 下肢	矢部・俵																																													
第 4 回	関節可動域測定演習 3 頸部・体幹	矢部・俵																																													
第 5 回	徒手筋力検査 1	矢部・俵																																													
第 6 回	徒手筋力検査 2	矢部・俵																																													
第 7 回	徒手筋力検査 3	矢部・俵																																													
第 8 回	バイタルサイン 呼吸機能検査 運動負荷試験	矢部・俵																																													
第 9 回	実技総合演習① (客観的臨床能力試験)	矢部・俵																																													
第 10 回	画像診断、血液検査、医学的検査の基礎知識	矢部・俵																																													
第 11 回	感覚検査、反射検査、疼痛検査	矢部・俵																																													
第 12 回	中枢神経系検査 片麻痺機能検査 筋緊張 バランス検査	矢部・俵																																													
第 13 回	整形領域検査	矢部・俵																																													
第 14 回	実技総合演習② (客観的臨床能力試験)	全員																																													
第 15 回	理学療法評価の統合 臨床実習報告会からの学び	全員																																													

アクティブラーニング	授業は講義に加えて、実技を伴うグループワークを実施します。グループワークでは学生の主体性・能動性・創造性を要求する課題を設定します。
評価方法	試験 60% 総合演習の実技遂行状況 40% ルーブリックを用いて評価します
課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、授業内では口頭で、授業後は Moodle を用いて個別にフィードバックする。グループ発表と OSCE のフィードバックは、授業内に口頭で行う。
指定図書	新・徒手筋力検査法：津山直一・他訳（協同医書出版） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂） 理学療法評価学テキスト：細田多穂著 南江堂
事前・事後学習	上肢、下肢、頸部、体幹、それぞれの解剖学、運動学の知識が必要であるため、各回の前に確認しておくこと。関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、バランス検査、運動負荷試験、医学的検査などの授業計画に挙げられたキーワードを事前学習、事後学習を行ってください。事前学習に必要な資料は、Moodle で提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール（hiorki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	理学療法評価演習 I
科目責任者	坂本飛鳥
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	学内演習を通して、高度な知識と技術を習得するために、各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な知識 (ベーシックスキル)・技術 (動作分析) を学習する。また、実技総合演習により、理学療法現場に必要な臨床能力 (問題解決能力、態度・技能) の習得を目指し、知識総合演習により、理学療法現場に対応した知識・思考力 (問題解決能力) の確認を行う。
到達目標	リハビリテーションの対象を、これまで学習した基礎的な知識と専門的な知識を統合し、発展させて多角的に理解できる。具体的には、臨床理学療法実習Ⅲ・Ⅳに必要な以下の3つの領域を習得する。 1. 知識: 標準的な国家試験問題で6割程度解答できる 特に基礎編の知識を応用できる 2. 技術: 基本的な理学療法評価項目を挙げ、各種疾患や障害についての知識と結びつけることができる 3. 態度: 相手を尊重した言葉使いや行動をとることができる
授業計画	<担当教員> 坂本飛鳥、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地鳴誠、金原一宏、田中真希、矢部広樹、俵祐一 (すべての内容を全員で担当する) <授業内容・テーマ等> 第1回コースオリエンテーション・知識確認: 科目全体の流れを把握する。これまで学習した理学療法の基本的な知識を確認する (坂本) 第2回理学療法基礎演習 I (神経理学療法) 第3回理学療法基礎演習 II (神経理学療法) 第4回理学療法基礎演習 III (運動器理学療法) 第5回理学療法基礎演習 IV (運動器理学療法) 第6回理学療法基礎演習 V (内部障害理学療法) 第7回理学療法基礎演習 VI (内部障害理学療法) 第8回実技総合演習 I (OSCE) 第9回実技総合演習 II (OSCE) 第10回実技総合演習 III (OSCE) 第11回実技総合演習 IV (OSCE) 第12回実技総合演習 V (OSCE) 第13回実技総合演習 VI (OSCE) 第14回知識総合演習 I (Computer-Based-Testing : CBT) 第15回知識総合演習 II (CBT) 第2回~7回までに行ったグループ学習を第8回~13回の実技総合演習で整理し、各領域の理学療法現場に対応した知識・思考力 (問題解決能力) を確認する

アクティブラーニング	<p>施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。グループ内で患者役、医療従事者役を設定し、口頭で説明をする・評価をする（実技）など臨床現場を想定してグループ学修を進める。</p> <p>iPad を活用し、実際に実技の練習などをビデオに撮影し、その動画を確認しながら学生同士がお互いにフィードバックを行うことで、知識や実技向上に努め、学生自身の問題解決能力を養う。</p>																														
評価方法	<p>口頭試問（4月～6月中に実施予定：全3回）40% ・知識確認試験（7月中旬実施予定）30% ・OSCE（客観的臨床能力試験）（7月中旬実施予定）30%</p> <p>* 3回の口頭試問にそれぞれ合格しないと OSCE の受験資格はありません。</p> <p>* 口頭試問・OSCE はルーブリックを使用して到達度を判定します。</p>																														
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭試問：1回目：運動器理学療法・2回目：神経理学療法・3回目：内部障害理学療法について試験管であるそれぞれの教員の質問に口頭で説明していただきます。質問内容は、事前に配布した口頭試問用キーワードリストに沿って出題します。そのキーワードの意味だけでなく、臨床の上で患者さんや他のスタッフに説明するイメージで他のキーワードとのつながりや、詳細など説明してください。質問内容は臨床の場面を想定して、教員が、口頭試問キーワードリストから応用的に問題を出題します。 * 回答時間は一人 15 分程度です。服装はケーシー、身だしなみは実習時と同様をお願いします。 * 合格するまで再試験は繰り返されます。再試験の日時は担当教員の指示に従ってください。 ・OSCE：3回の口頭試問に全て合格すると受験資格がもらえます。OSCE 実施日までに口頭試問に合格しなければ、受験資格はありません。 試験内容は、神経系疾患、運動器系疾患を想定した模擬患者に理学療法評価を実施します。 * 模擬患者の情報については試験実施 1 週間前に掲示します。 * OSCE は臨床理学療法実習Ⅳの前の実技、知識確認試験です。実習のための知識や技術を習得することを目的としています。 ・CBT：PT 治療前問題（評価実習用）の知識確認試験です。問題は全部で 100 問（試験時間は 90 分）、選択式問題です。パソコンで実施します。以下問題の割合です。 <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">運動系 PT</td> <td style="padding-right: 20px;">基礎（骨、関節、筋、運動学）</td> <td style="text-align: right;">12 問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>臨床（整形外科、外科）</td> <td style="text-align: right;">10 問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>PT（筋骨格系 PT）</td> <td style="text-align: right;">10 問</td> </tr> <tr> <td>神経系 PT</td> <td>基礎（神経、感覚）</td> <td style="text-align: right;">12 問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>臨床（神経内科、精神）</td> <td style="text-align: right;">10 問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>PT（神経、筋障害 PT）</td> <td style="text-align: right;">10 問</td> </tr> <tr> <td>内部疾患 PT</td> <td>基礎（呼吸循環代謝消化排泄等）</td> <td style="text-align: right;">12 問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>臨床（内科）</td> <td style="text-align: right;">10 問</td> </tr> <tr> <td></td> <td>PT（呼吸、心臓、代謝等の PT）</td> <td style="text-align: right;">10 問</td> </tr> <tr> <td>その他 応用</td> <td colspan="2">（リハ概論・医学、法律、公衆衛生等）4 問</td> </tr> </table>	運動系 PT	基礎（骨、関節、筋、運動学）	12 問		臨床（整形外科、外科）	10 問		PT（筋骨格系 PT）	10 問	神経系 PT	基礎（神経、感覚）	12 問		臨床（神経内科、精神）	10 問		PT（神経、筋障害 PT）	10 問	内部疾患 PT	基礎（呼吸循環代謝消化排泄等）	12 問		臨床（内科）	10 問		PT（呼吸、心臓、代謝等の PT）	10 問	その他 応用	（リハ概論・医学、法律、公衆衛生等）4 問	
運動系 PT	基礎（骨、関節、筋、運動学）	12 問																													
	臨床（整形外科、外科）	10 問																													
	PT（筋骨格系 PT）	10 問																													
神経系 PT	基礎（神経、感覚）	12 問																													
	臨床（神経内科、精神）	10 問																													
	PT（神経、筋障害 PT）	10 問																													
内部疾患 PT	基礎（呼吸循環代謝消化排泄等）	12 問																													
	臨床（内科）	10 問																													
	PT（呼吸、心臓、代謝等の PT）	10 問																													
その他 応用	（リハ概論・医学、法律、公衆衛生等）4 問																														
指定図書	<p>理学療法評価学テキスト 細田多穂監修 南江堂、口頭試問キーワードリスト・国家試験過去問題配布、これまでに履修した科目の指定図書など</p>																														
事前・事後学修	<p>計画的に自主的な学習を進めてください。計画的、且つ継続的な実技を含む学修を推奨します（原則 1 コマ 40 分）。これまで学んだ内容の復習とともに、自分で考え、問題を解決していく力の基礎的知識を、確認しながら深めていきます。この科目は、<u>臨床理学療法評価実習Ⅰ</u>と並行して学修する科目となります。また、<u>臨床理学療法評価実習Ⅱ</u>に出るための知識、技術を習得する前提科目となります。</p>																														
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3518 研究室</p> <p>時間等：月、木、金曜日 3 限目、17 時～18 時</p> <p>上記以外でもメール（asuka@sseirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>																														

科目名	理学療法評価演習Ⅱ
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1単位(30時間) 必修 6セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	対象者の状態をリハビリテーションの評価により理解し、根拠に基づく基本的なリハビリテーション技術を選択ができるようになるため、小グループによるアクティブ・ラーニングを実践する。理学療法の主対象となる中枢神経疾患、運動器系疾患、内部障害系疾患の臨床事例をベースとしたシナリオに基づき、理学療法における臨床推論を実践的に学習し、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士を志す学生としてのモラルと責任感、コミュニケーション能力、および自ら考える力を身につける 2. 対象疾患や病態、理学療法評価を実施するうえで必要な知識を収集し、情報収集、検査測定を計画、そこで得た情報を統合して問題点抽出および目標設定する 3. 対象者の疾患や病態、理学療法治療を実施するうえで必要な知識を収集し、理学療法評価をもとに理学療法プログラムを立案する
授業計画	<p><担当教員>吉本好延、矢倉千昭、有菌信一、根地嶋誠、金原一宏、坂本飛鳥、田中真希、矢部広樹、俵 祐一</p> <p>※全て2時限連続の講義とする。</p> <p>※アクティブ ラーニング(学生の能動的学習形態)にて講義を展開する。</p> <p>第1～7回：実習前（臨床理学療法実習Ⅳ）学修，第8～15回：実習後学修</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：コースオリエンテーション 臨床推論の概要と実際 吉本好延</p> <p>第2回：実習時の接遇について 矢倉千昭・金原一宏</p> <p>第3回：クリニカルクラークシップと2:1モデル 吉本好延</p> <p>第4回：実技練習1：ROM-T演習 根地嶋誠・坂本飛鳥</p> <p>第5回：空間関連図の書き方・カルテの読み方 根地嶋誠・田中真希</p> <p>第6回：実技練習2：MMT演習 有菌信一・俵 祐一</p> <p>第7回：実習資料集の作り方（ポートフォリオ） 矢部広樹</p> <p>第8回：実習後</p> <p>第9回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法（1）吉本好延：発表・GW</p> <p>第10回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法（2）吉本好延：発表・GW</p> <p>第11回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法（3）吉本好延：発表・GW</p> <p>第12回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法（4）吉本好延：発表・GW</p> <p>第13回：中枢神経系・運動器・内部系疾患に対する理学療法（5）吉本好延：発表・GW</p> <p>第14回：各ゼミ発表：全教員⇒フィードバック後，最終レポート提出</p> <p>第15回：外部OSCE 全員</p> <p>第9回から第14回では、運動器系・中枢神経系・内部障害系疾患に対して模擬患者（ペーパーペーシェント：臨床理学療法実習Ⅳの担当患者をペア学生と1例）を設定し、理学療法における臨床推論を実施する。いつ指名されても発表できるよう毎回の授業前に確認しておく。発表Gと聴講Gは教員が任意に設定する（指名以外のGはGW⇒音量↓，自由に聴講しても良い）</p> <p>(1) 模擬患者（ペーパーペーシェント）の選定⇒実習時も意識してください</p>

	<p>(2) サクセス・ストーリーの決定</p> <p>(3) 効果判定</p> <p>(4) 臨床推論の統合</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・開講時に自分たちでシラバスを作成し、何を学びたいかを学生と教員が共同で決定する ・1セッション2-3コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す ・OSCE は実技動画を ipad で撮影し、視覚的にフィードバックを行う ・OSCE の判定は客観的な手順で行われていることが理解できるよう、試験前に学生に判定項目を開示し、判定項目が達成できるよう OSCE 前の事前学習を行うよう促す
評価方法	<p>課題提出物：30% 実技試験：30% 報告会：30% 授業態度：10%</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行う
指定図書	<p>『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを実践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので、課題をさらに調べることで事後学修する
オフィスアワー	<p>3509 教室，毎週水曜日 16 時～18 時</p>

科目名	基礎理学療法治療学
科目責任者	俵 祐一
単位数他	2単位(30時間) 理学必修 4セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	人の健康状態の改善のために、的確な行動ができる必要な専門知識を習得するために、本科目では、理学療法における運動療法の基礎となる関節可動域運動、筋力・筋持久力増強運動、バランス改善運動、協調性運動ならびに運動学習理論の基礎・技術を習得する。
到達目標	各種疾患・障害に共通して実施される基礎的な理学療法を実践するために、必要な基礎的な知識・技術を修得する。具体的には、以下の2つを習得する。 1. 運動療法の基本的概念を理解する。 2. 運動療法の基本的技術を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>俵 祐一</p> <p>第1回：コースオリエンテーション、科目全体の流れを把握する。</p> <p>第2回：運動療法の基礎－関節可動域運動の実践-上肢編 実施方法、ならびに適応と禁忌、効果</p> <p>第3回：運動療法の基礎－関節可動域運動の実践-下肢編 実施方法、ならびに適応と禁忌、効果</p> <p>第4回：運動療法の基礎 - ストレッチの理論と実践 - その1 実施方法、ならびに適応と禁忌、効果</p> <p>第5回：運動療法の基礎－ストレッチの理論と実践 - その2 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第6回：運動療法の基礎-筋力強化運動の実践1 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第7回：運動療法の基礎－筋力強化運動の実践2 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第8回：運動療法の基礎－体力強化の理論と実践 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第9回：運動療法の基礎－協調性運動・バランス運動・運動学習の理論 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第10回：運動療法の基礎－協調性運動・バランス運動の実践-その1 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第11回：運動療法の基礎－協調性運動・バランス運動の実践-その2 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第12回：運動療法の基礎－筋持久力強化運動の実践 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第13回：運動療法の基礎－全身持久力強化の実践 実施方法、適応と禁忌、効果</p> <p>第14回：運動療法を実施するにあたって必要な運動心理学 行動分析的アプローチの基本</p> <p>第15回：理学療法を実施するにあたって必要な運動心理学 行動分析的アプローチの実際</p>

アクティブラーニング	グループワークを予定しています
評価方法	定期試験(60%)、レポート(40%)にて評価する。
課題に対するフィードバック	レポート添削ならびに試験の評定内容の公表
指定図書	細田多穂監修「運動療法学テキスト」(南江堂)
事前・事後学習	関節可動域運動、筋力増強運動、バランス運動などをキーワードに事前学習を行ってください。 運動療法による治療の実際について、症例報告などを中心に事後学習してください。
オフィスアワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室： 時間帯：授業の際に提示します

科目名	小児理学療法学	
科目責任者	矢倉千昭	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター	
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に理解している。	
科目概要	子どもの正常発達とその原理、および小児疾患（脳性麻痺、重症心身障害児、筋ジストロフィー症、二分脊椎）の基礎（病態や障害像）を整理して、理学療法の評価と治療についての基礎理論と技術を教授し、小児理学療法分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理学療法に対する関心を高める（情意） 2. 子どもの正常発達過程とその原理、正常発達と異常発達の相違を論述することができる（認知） 3. 脳性麻痺、重症心身障害児、筋ジストロフィー症の病態と障害像を理解し、基本的な理学療法評価と治療技術が実施できる（技術） 4. 子どもと接し、コミュニケーションを図り、遊びを促すことができる 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、その発達理論（反射性階層理論）を理解する① 1-3 章</p> <p>第 2 回：正常運動発達：出生から乳児期までの運動発達と、その発達理論（反射性階層理論）を理解する② 4-6 章</p> <p>第 3 回：脳性麻痺を持つ子どもの理学療法 脳性麻痺のタイプ特徴、評価と発達指導を理解する① 7-11 章</p> <p>第 4 回：脳性麻痺を持つ子どもの理学療法 脳性麻痺のタイプ特徴、評価と発達指導を理解する② 7-11 章</p> <p>第 5 回：筋ジストロフィー症を持つ子どもの理学療法評価と発達指導を理解する 13-14 章</p> <p>第 6 回：重症心身障害を有する子どもの理学療法評価と発達指導を理解する 15-16 章</p> <p>第 7 回：子どもとの接し方、遊びや関わり方を学ぶ</p> <p>第 8-9 回：施設見学 こども園の子どもの遊びや保育などの様子を観察し、発達の様子をレポートにまとめる</p> <p>第 10-11 回：施設見学 脳性麻痺などの障害をする子どものリハビリテーションや保育などの様子を観察し、発達の様子をレポートにまとめる</p> <p>第 12-13 回：施設見学 発達障害を有する子どもの遊びや保育などの様子を観察し、発達の様子をレポートにまとめる</p> <p>第 14-15 回：施設見学 重症心身障害を有する方の生活や介護の様子を観察し、障害特徴やケアについてレポートにまとめる</p>	<p><担当教員名></p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>坂本飛鳥</p> <p>坂本飛鳥</p> <p>坂本飛鳥</p> <p>坂本・矢倉</p> <p>坂本・矢倉</p> <p>坂本・矢倉</p> <p>坂本・矢倉</p>

アクティブラーニング	前半は、グループワークと発表、質疑応答をしながら授業を展開する。後半は、施設見学によって子どもの発達や障害の理解、生活介護について学修する。
評価方法	小テスト（講義授業の次回の講義で行う）：20% レポート提出と内容：20% 筆記試験：60%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の途中で補足し、終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し、メールまたは次の授業で回答する。
指定図書	小児理学療法学テキスト（南江堂）
事前・事後学修	事前学修としてグループワークによる発表準備を行い、事後学修として小テスト、見学したあとにレポートを作成、提出します。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	神経系理学療法治療学
科目責任者	吉本好延
単位数他	2単位 (60時間) 必修 5セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害に対する基本的な理学療法の理論と技術について学習する。中枢神経疾患の病態と障害、中枢神経疾患に伴う機能障害、能力障害を理解し、これらに対する理学療法の理論と技術を学ぶ。評価結果から統合と解釈、問題点の抽出、目標の設定、治療プログラムの立案までの思考プロセスの基礎を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳卒中の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を実践することができる。 2. 理学療法評価から空間概念図を用いて問題点を整理することができる。 3. 神経疾患、脊髄損傷の病態と障害を理解し、基本的な理学療法を実践することができる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当教員名＞</p> <p>第1回：脳卒中理学療法のオリエンテーション：グループワーク：吉本好延 学生・教員間でシラバスおよび授業計画を再検討</p> <p>第2回：脳卒中の急性期理学療法 1)：グループワーク：吉本好延 課題「脳卒中患者の離床はいつから行うのか？」 キーワード：脳卒中・急性期・早期理学療法・介入時期・介入内容・介入頻度・リスク管理・神経可塑性・ストロークケアユニット・合併症・予後・ベッドサイド</p> <p>第3回：脳卒中の急性期理学療法 2)：発表・実技（ベッドサイドポジショニング・体位変換など）：吉本好延 発表形式：小グループで報告・質疑，グループ内での教えあい，発表内での教員フィードバック</p> <p>第4回：脳卒中の回復期理学療法 1)：グループワーク：吉本好延 課題「神経可塑性を促すためには，どんな理学療法を行うのか？」 キーワード：脳卒中・回復期，神経可塑性・廃用症候群・予後予測・課題指向型アプローチ・神経生理学的アプローチ・身体活動・回復期リハビリテーション病棟・病棟リハ・臨床推論</p> <p>第5回：脳卒中の回復期理学療法 2)：発表：吉本好延 発表形式：小グループで報告・質疑，グループ内での教えあい，発表内での教員フィードバック</p> <p>第6回：脳卒中の回復期理学療法の実践 3)：実技：ゲストスピーカー 脳卒中回復性期の理学療法介入目標と内容，頻度，在宅復帰・社会復帰につなげる理学療法士の関わりなど</p> <p>第7回：脳卒中の慢性期理学療法：1)：グループワーク：吉本好延 課題「慢性期の理学療法によって変化するものは何か？」 キーワード：脳卒中・慢性期・地域包括ケアシステム・リスク管理・再発予防・転倒・嚥下障害・高次脳機能障害・介護負担・身体活動・身体機能および能力，介護保険，生活の質</p> <p>第8回：脳卒中の慢性期理学療法 2)：発表：吉本好延 発表形式：小グループで報告・質疑，グループ内での教えあい，発表内での教員フィードバック</p>

	<p>第9回：脳卒中の最新理学療法の実際：ゲストスピーカー 部分免荷トレッドミル歩行，ボツリヌス治療，反復経頭蓋磁気刺激法，FES（体験）など</p> <p>第10回：脳卒中の理学療法の総合演習：吉本好延 各グループ1症例（臨床理学療法実習Ⅲ）を提示して，空間関連図を用いた臨床推論の学修，評価方法の確認，論文や資料を引用して根拠を持つ⇒提出</p> <p>第11回：パーキンソン病の理学療法治療：矢倉千昭</p> <p>第12回：脊髄小脳変性症の理学療法治療：矢倉千昭</p> <p>第13回：多発性硬化症の理学療法治療：矢倉千昭</p> <p>第14回：筋萎縮性側索硬化症の理学療法治療：矢倉千昭</p> <p>第15回：脊髄損傷の理学療法治療：矢倉千昭</p> <p>*1回を2コマとする</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・開講時に自分たちでシラバスを作成し、何を学びたいかを学生と教員が共同で決定する ・1セッション2-3コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す ・実技はipadで撮影し、視覚的にフィードバックを行う
評価方法	定期試験：70% 課題提出物：20% 授業態度：10%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、授業後に提出し、教員はさらに確認・フィードバックを行う
指定図書	<p>『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを实践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他</p> <p>『中枢神経障害理学療法学テキスト』南江堂</p> <p>『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア</p> <p>ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭・他著（南山堂）</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各セッションの課題について事前学習を行う。 ・授業では課題のフィードバックを行いますので，課題をさらに調べることで事後学修する
オフィスアワー	3509 教室，毎週水曜日 16 時～18 時

科目名	内部障害系理学療法治療学
科目責任者	有菌 信一
単位数他	2 単位 (60 時間) 理学必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ヒトの健康状態を評価し、情報の統合と的確な判断を行なうために必要な専門知識を習得する。本科目では、内部障害系疾患(特に呼吸・循環器系・代謝系疾患、がん)の病態構造を把握しながら、理学療法プログラムの立案・効果の検証までを解説する。
到達目標	1. 呼吸器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 2. 循環器系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 3. 代謝系疾患患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。 4. がん患者に対する理学療法プログラムの立案とその効果を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>有菌信一・俵祐一・矢部広樹・大曲正樹</p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション 内部障害系理学療法治療学総論 (有菌・俵) －内部障害の概念、定義、種類、理学療法の基本要素</p> <p>第 2 回：呼吸器系理学療法治療学 (1) (有菌・俵) －病態ならびに障害像の把握：理学療法評価の実践</p> <p>第 3 回：呼吸器系理学療法治療学 (2) (有菌・俵) －呼吸器疾患に対する理学療法の実践：</p> <p>第 4 回：呼吸器系理学療法治療学 (3) (有菌・俵) －呼吸器疾患に対する理学療法の実践：</p> <p>第 5 回：呼吸器系理学療法治療学 (4) (有菌・俵) －症例検討と効果判定</p> <p>第 6 回：がん患者の理学療法治療学 (1) (有菌・俵) －周術期における理学療法の評価と実践</p> <p>第 7 回：がん患者の理学療法治療学 (2) (有菌・俵) －化学療法、緩和ケアにおける理学療法の評価と実践</p> <p>第 8 回：循環器系理学療法治療学 (1) (有菌・俵) －病態ならびに障害像の把握：理学療法評価の実践</p> <p>第 9 回：循環器系理学療法治療学 (2) (有菌・俵) －循環器疾患に対する理学療法の実践：</p> <p>第 10 回：循環器系理学療法治療学 (3) (有菌・俵) －循環器疾患に対する理学療法の実践：</p> <p>第 11 回：循環器系理学療法治療学 (4) (有菌・俵) －症例検討と効果判定</p> <p>第 12 回：代謝系理学療法治療学 (1) (矢部) －病態ならびに障害像の把握：理学療法評価の実践</p> <p>第 13 回：代謝系理学療法治療学 (2) －代謝疾患に対する理学療法の実践：運動処方理論と実際 (矢部)</p> <p>第 14 回：代謝系理学療法治療学 (3) －代謝疾患に対する理学療法の実践：患者教育と行動変容 (矢部)</p> <p>第 15 回：嚥性肺炎に対する理学療法治療学 (有菌・大曲) －症例検討と効果判定</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・1セッション2コマとして、各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	学期末テスト(60%)，レポート(40%)にて評価する
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の途中で教員が随時補足していく ・他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	<p>内部障害理学療法学テキスト 細田多穂著 南江堂 呼吸・心臓リハビリテーション 居村茂幸監 羊土社</p>
事前・事後学修	<p>循環器疾患，代謝疾患，呼吸器疾患，がんなどをキーワードに事前学習を行ってください 症例報告などを中心に運動療法の実際について，事後学習してください</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3513 研究室 時間については，初回授業時に提示します．上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください．講義と実習を組み合わせながら進めていきます。ユニフォームを着用して下さい。1回は2コマです。</p>

科目名	運動器系理学療法治療学	
科目責任者	根地嶋 誠	
単位数他	2 単位 (60 時間) 理学必修 5 セメスター	
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	<p>代表的な運動器疾患の発生機序や病態などを理解し、それらに対する理学療法プログラムを学習する。理学療法プログラムの種類や方法、原理などを理解し説明できること、そして実際にできることを目標とする。具体的には、代表的な運動器疾患を説明できること、代表的な運動器疾患に対するプログラムの種類を挙げることができること、具体的な方法を説明し実践できること、プログラムの原理を説明できること、医療従事者としての振る舞いができることを目指す。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な運動器疾患を概説できる 2. 代表的な運動器疾患に対する理学療法プログラムの項目を列挙できる 3. 理学療法プログラムの方法と原理を説明できる 4. 理学療法プログラムを適切な技術と態度で実施できる 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1・2 回：コースオリエンテーション， 運動器系理学療法総論 (運動器疾患における病態把握と理学療法アプローチ)</p> <p>第 3・4 回：下肢疾患に対する理学療法 1 (大腿骨頸部骨折・術後の理学療法アプローチ)</p> <p>第 5・6 回：下肢疾患に対する理学療法 2 (変形性股関節症・術後の理学療法アプローチ)</p> <p>第 7・8 回：下肢疾患に対する理学療法 3 (変形性膝関節症および術後の理学療法アプローチ)</p> <p>第 9・10 回：下肢疾患に対する理学療法 4 (膝関節の靭帯損傷・術後の理学療法アプローチ)</p> <p>第 11・12 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 1 (腰痛の理学療法アプローチ)</p> <p>第 13・14 回：頸部体幹疾患に対する理学療法 2 (腰椎椎間板ヘルニアの理学療法アプローチ)</p> <p>第 15・16 回：総合演習 1 (症例検討：評価)</p> <p>第 17・18 回：総合演習 2 (症例検討：介入)</p> <p>第 19・20 回：中間まとめ</p> <p>第 21・22 回：上肢疾患に対する理学療法 1 (腱損傷，肩関節周囲炎の理学療法アプローチ)</p> <p>第 23・24 回：上肢疾患に対する理学療法 2 (腱鞘炎，末梢神経損傷の理学療法アプローチ)</p> <p>第 25・26 回：関節リウマチに対する理学療法 (関節リウマチの理学療法アプローチ)</p> <p>第 27・28 回：ロコモティブシンドロームの理解と予防 (高齢者に多い整形外科疾患への予防的理学療法)</p> <p>第 29・30 回：スポーツ外傷に対する理学療法 (スポーツ外傷総論)</p>	<p><担当教員名></p> <p>根地嶋</p> <p>田中</p> <p>田中</p> <p>根地嶋</p> <p>田中</p> <p>田中</p> <p>根地嶋</p>

アクティブラーニング	グループ学修
評価方法	レポート 15%，小テスト 15%，総合演習の遂行状況 20%，定期試験 50%
課題に対するフィードバック	小テストの解説，リアクションペーパーのコメント
指定図書	整形外科リハビリテーション、羊土社
事前・事後学修	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について学んでおくこと。
オフィスアワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します

科目名	物理療法学の理論
科目責任者	金原一宏
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 3セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	物理療法の定義、原理、種類、歴史、実施方法について調べ、収集する。
到達目標	各種の物理的刺激が生体に及ぼす影響を、科学的根拠に基づいた説明ができるようになる。さらに、炎症や痛み等に対する物理療法が、治療技術として対象者に適応される際の目的、効果、副作用、禁忌、注意事項等を把握し、適切に物理療法手技の選択を行えることを目標とする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>金原一宏</p> <p>第1回：コースオリエンテーション 物理療法学総論</p> <p>第2回：温熱物理刺激（伝導熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する</p> <p>第3回：ホットパックとパラフィンの実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第4回：炎症・痛みに対する物理療法における生体反応について調べ、知識を収集する</p> <p>第5回：拘縮・痙性に対する物理療法における生体反応について調べ、知識を収集する</p> <p>第6回：温熱物理刺激（エネルギー変換熱）の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する</p> <p>第7回：極超短波と超音波の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第8回：寒冷物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する</p> <p>第9回：寒冷療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第10回：電気物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する</p> <p>第11回：経皮的電気刺激療法、神経筋電気刺激療法、クロナキシーの実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第12回：電磁波と光線物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する</p> <p>第13回：赤外線、紫外線、レーザー療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第14回：水治の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する</p> <p>第15回：牽引療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。</p>

アクティブラーニング	各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。
評価方法	定期試験 60%、レポート 30%、課題提出物 10%により総合的に評価する
課題に対するフィードバック	講義内に発表の解説および補足をする。
指定図書	物理療法学・実習 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 責任編集：日高正巳（兵庫医療大学）／玉木 彰（兵庫医療大学）総編集：石川 朗（神戸大学） 中山書店
事前・事後学修	炎症・痛み・拘縮・痙性について、知識が必要であるため確認しておくこと。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	物理療法学の実践
科目責任者	金原一宏
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 4 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	物理療法学の理論で学んだ講義内容を学内実習にて体験する。また、各種物理的刺激が生体へ及ぼす影響について実際のデータを収集し、それぞれの科学的根拠について考察し発表する。
到達目標	上記の作業を通して、障害像にあった物理療法を選択し、さらに実践できるよう技術習得することを目的とする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：金原 コースオリエンテーション 実習前オリエンテーション 間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の物理刺激の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する。さらに間欠的空気圧迫法・持続的他動運動の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第 2 回：金原、根地嶋 マッサージ療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する マッサージ療法の特性と生体へ及ぼす影響についての知識を収集する バイオフィードバック療法の実施方法、適応、禁忌についての知識を収集する</p> <p>第 3 回：金原、根地嶋 実習 1：温熱・寒冷療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習 2：電気療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする</p> <p>第 4 回：金原 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習 1・2）</p> <p>第 5 回：金原、田中 実習 3：牽引療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習 4：マッサージを施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする</p> <p>第 6 回：金原 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習 3・4）</p> <p>第 7 回：金原、根地嶋 実習 5：電磁波・光線療法を施行し、生体への影響を確認すると共に実施方法の習得をする 実習 6：水治療法（全身浴・部分浴）を施行し、生体への影響を確認する共に実施方法の習得をする</p> <p>第 8 回：金原、根地嶋 実習報告発表会・物理療法実技撮影（実習 5・6）</p> <p>第 9、10 回：安孫子、金原 世界の物理療法機器の最前線について（特別講義）</p>

	<p>第 11、12 回：金原、根地嶋、田中、矢部 実技総合演習</p> <p>第 13、14、15 回：金原、根地嶋、田中、矢部 知識総合演習</p> <p>受講者へのメッセージ：物理療法学は、実際の患者さんに適応する治療技術の講義演習であるので、欠席の無いように注意すること。</p>
アクティブラーニング	<p>各講義にてテーマを伝え、グループワークの課題を作成する。 実技総合演習では、ループリックを活用し、実技ビデオをグループで作成する。 学生同士で実技ビデオを参考に自身の実技をパソコンで分析し、実技スキル向上を図る。</p>
評価方法	<p>実技試験・口頭試問（50%）、小テスト（30%）、課題提出：レポート・（20%）により総合的に評価する。 実技試験は、ループリックを活用し実施する。</p>
課題に対するフィードバック	<p>講義内に発表の解説および補足をする。</p>
指定図書	<p>物理療法学・実習 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 責任編集：日高正巳（兵庫医療大学）／玉木 彰（兵庫医療大学）総編集：石川 朗（神戸大学） 中山書店</p>
事前・事後学修	<p>実習前に、各治療法を復習しておくこと。 撮影した実技ビデオを確認して実技総合演習に臨むこと。</p>
オフィスアワー	<p>リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。</p>

科目名	日常生活活動学の理論																																
科目責任者	矢部 広樹																																
単位数他	2単位 (30時間) 理学必修 4セメスター																																
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	日常生活活動(ADL)の概念を国際生活機能分類(ICF)や生活の質(QOL)との関連、評価方法、支援機器など総合的に学ぶ。また、寝返りや起き上がりなどの基本動作、移乗・移動動作、更衣・排泄などの身の回りの動作について分析し、指導および介助方法の基礎を学び、具体的な症例で目標となる日常生活活動とその援助方法の知識と技術を習得する。																																
到達目標	1.日常生活活動の概念、評価方法、支援機器を説明できる 2.日常生活活動の各動作を理解し、説明できる 3.症例に応じた日常生活活動を分析し、指導および介助方法を説明できる																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：コースオリエンテーション 日常生活活動総論 日常生活活動の概念、理学療法における日常生活活動の評価介入の意義を学習する</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第2回：日常生活活動総論2 国際生活機能分類(ICF)や生活の質(QOL)との関連を学習する</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第3回：日常生活活動評価の方法 Barthel Index, FIM などの評価尺度と判定基準について学習する</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第4回：日常生活活動評価の方法2 老健式活動能力指標、手段的日常生活活動の評価尺度と判定基準について学習する</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第5回：起居移動動作（臥位～座位） 寝返り動作、起き上がり動作について理解し、説明することができる</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第6回：起居移動動作（座位～立位、移乗動作） 立ち上がり動作、車椅子への移乗動作を理解し、説明することができる</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第7回：日常生活活動の介助法Ⅱ 軽介助から全介助の患者に対する寝返り・起き上がりの介助方法</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第8回：日常生活活動の介助法Ⅲ 軽介助から全介助の患者に対する立ち上がりの介助方法</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第9回：日常生活活動の介助法Ⅳ 軽介助から全介助の患者に対する移乗動作の介助方法</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第10回：神経系疾患の日常生活活動 神経系疾患の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第11回：運動器系疾患の日常生活活動 運動器系疾患の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第12回：脊髄損傷の日常生活活動 脊髄損傷の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる</td> <td style="text-align: right;">吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第13回：車椅子、移動補助具 車椅子・杖・歩行器について説明することができる</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹</td> </tr> <tr> <td>第14回：客観的能力開発演習(OSCE)</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹・吉本好延</td> </tr> <tr> <td>第15回：客観的能力開発演習(OSCE)</td> <td style="text-align: right;">矢部広樹・吉本好延</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業は講義と演習形式のため、動きやすい服装で出席してください。</p>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：コースオリエンテーション 日常生活活動総論 日常生活活動の概念、理学療法における日常生活活動の評価介入の意義を学習する	矢部広樹	第2回：日常生活活動総論2 国際生活機能分類(ICF)や生活の質(QOL)との関連を学習する	矢部広樹	第3回：日常生活活動評価の方法 Barthel Index, FIM などの評価尺度と判定基準について学習する	矢部広樹	第4回：日常生活活動評価の方法2 老健式活動能力指標、手段的日常生活活動の評価尺度と判定基準について学習する	矢部広樹	第5回：起居移動動作（臥位～座位） 寝返り動作、起き上がり動作について理解し、説明することができる	矢部広樹	第6回：起居移動動作（座位～立位、移乗動作） 立ち上がり動作、車椅子への移乗動作を理解し、説明することができる	矢部広樹	第7回：日常生活活動の介助法Ⅱ 軽介助から全介助の患者に対する寝返り・起き上がりの介助方法	矢部広樹	第8回：日常生活活動の介助法Ⅲ 軽介助から全介助の患者に対する立ち上がりの介助方法	矢部広樹	第9回：日常生活活動の介助法Ⅳ 軽介助から全介助の患者に対する移乗動作の介助方法	矢部広樹	第10回：神経系疾患の日常生活活動 神経系疾患の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる	吉本好延	第11回：運動器系疾患の日常生活活動 運動器系疾患の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる	吉本好延	第12回：脊髄損傷の日常生活活動 脊髄損傷の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる	吉本好延	第13回：車椅子、移動補助具 車椅子・杖・歩行器について説明することができる	矢部広樹	第14回：客観的能力開発演習(OSCE)	矢部広樹・吉本好延	第15回：客観的能力開発演習(OSCE)	矢部広樹・吉本好延
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第1回：コースオリエンテーション 日常生活活動総論 日常生活活動の概念、理学療法における日常生活活動の評価介入の意義を学習する	矢部広樹																																
第2回：日常生活活動総論2 国際生活機能分類(ICF)や生活の質(QOL)との関連を学習する	矢部広樹																																
第3回：日常生活活動評価の方法 Barthel Index, FIM などの評価尺度と判定基準について学習する	矢部広樹																																
第4回：日常生活活動評価の方法2 老健式活動能力指標、手段的日常生活活動の評価尺度と判定基準について学習する	矢部広樹																																
第5回：起居移動動作（臥位～座位） 寝返り動作、起き上がり動作について理解し、説明することができる	矢部広樹																																
第6回：起居移動動作（座位～立位、移乗動作） 立ち上がり動作、車椅子への移乗動作を理解し、説明することができる	矢部広樹																																
第7回：日常生活活動の介助法Ⅱ 軽介助から全介助の患者に対する寝返り・起き上がりの介助方法	矢部広樹																																
第8回：日常生活活動の介助法Ⅲ 軽介助から全介助の患者に対する立ち上がりの介助方法	矢部広樹																																
第9回：日常生活活動の介助法Ⅳ 軽介助から全介助の患者に対する移乗動作の介助方法	矢部広樹																																
第10回：神経系疾患の日常生活活動 神経系疾患の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる	吉本好延																																
第11回：運動器系疾患の日常生活活動 運動器系疾患の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる	吉本好延																																
第12回：脊髄損傷の日常生活活動 脊髄損傷の日常生活活動の特徴を理解し、説明することができる	吉本好延																																
第13回：車椅子、移動補助具 車椅子・杖・歩行器について説明することができる	矢部広樹																																
第14回：客観的能力開発演習(OSCE)	矢部広樹・吉本好延																																
第15回：客観的能力開発演習(OSCE)	矢部広樹・吉本好延																																

アクティブラーニング	授業は講義に加えて、実技を伴うグループワークを実施します。グループワークでは学生の主体性・能動性・創造性を要求する課題を設定します。グループワークは、PC・Moodle を用いて検討・発表します。
評価方法	定期試験 40%、OSCE40%、授業への取り組み 20%
課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、Moodle を用いて個別にフィードバックするグループ発表と OSCE のフィードバックは、授業内に口頭で行う。
指定図書	日常生活活動学テキスト（南江堂）
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業と関連する運動学・解剖学・生理学の知識を事前学習してください。事前学習に必要な資料は、Moodle で提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。 ・各回の授業では、事後学習課題を設けます
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（hiroki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	日常生活活動学の実践	
科目責任者	矢部 広樹	
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 5 セメスター	
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。	
科目概要	寝返り動作、起き上がり動作などの基本動作の介助法、動作獲得のための練習方法、疾患および障害に対する日常生活活動の分析、指導および介助法について実習する。さらに、疾患ごとの機能障害、活動制限の特徴を理解し、具体的な日常生活活動の指導法を学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本動作の動作獲得の指導、日常生活動作の練習、指導法を習得する。 2. 疾患および障害に対する日常生活活動の観察と動作分析に基づいた介助、指導法を習得する。 3. 日常生活活動に関する介助、指導を、適切な接遇の元で実施できる。 	
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション -本科目の全体の流れと、本科目で扱うアクティブ・ラーニングについて理解する</p> <p>第 2 回：動作介助・指導のスキルアップ -寝返り、起き上がり動作の介助法と動作獲得の指導を修得する</p> <p>第 3 回：動作介助・指導のスキルアップ -立ち上がり動作、移乗動作の介助法と動作獲得の指導を修得する</p> <p>第 4 回：動作介助・指導のスキルアップ -身の回り動作における指導の考え方を理解する</p> <p>第 5 回：動作介助・指導のスキルアップ -車椅子の介助法と車椅子操作の指導を修得する</p> <p>第 6 回：シーティング -車椅子の採型、症例に合わせたシーティングを理解する</p> <p>第 7 回：車椅子のメンテナンス -施設利用者の車椅子を調整する（学外実習）</p> <p>第 8 回：運動器障害に対する ADL 指導 -関節リウマチに対する ADL 指導を学ぶ</p> <p>第 9 回：運動器障害に対する ADL 指導 -大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、切断に対する ADL 指導を修得する</p> <p>第 10 回：中枢神経障害に対する ADL 指導 -脊髄損傷に対する ADL 指導を修得する</p> <p>第 11 回：中枢神経障害に対する ADL 指導 -脳卒中片麻痺やパーキンソン病に対する ADL 指導を修得する</p> <p>第 12 回：動作介助・指導のスキルアップ -杖歩行の介助法と動作獲得の指導を修得する</p> <p>第 13 回：グループ検討 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</p> <p>第 14 回：グループ検討 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</p> <p>第 15 回：グループ発表 -模擬症例に対する日常生活活動の練習、指導法、介助法について検討する</p>	<p style="text-align: center;">＜担当教員名＞</p> <p>矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p> <p>俵祐一</p> <p>矢部・俵</p> <p>俵祐一</p> <p>俵祐一</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>吉本好延</p> <p>矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p> <p>矢部広樹</p>

アクティブラーニング	授業は講義に加えて、実技を伴うグループワークを実施します。グループワークでは学生の主体性・能動性・創造性を要求する課題を設定します。グループワークは、PC・Moodle を用いて検討・発表します。
評価方法	グループ発表 50%、レポート 50% ルーブリックを用いて評価します
課題に対するフィードバック	各回の授業、および事前事後学習は、Moodle を用いて個別にフィードバックします。グループ発表と OSCE のフィードバックは、授業内に口頭で行います。
指定図書	『日常生活活動学テキスト』南江堂
事前・事後学習	各回の授業と関連する運動学・解剖学・生理学の知識を事前学習してください。事前学習に必要な資料は、Moodle で提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。各回の授業では、事後学習課題を設けます
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (hiroki-y@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	機能代償機器学の理論
科目責任者	坂本飛鳥
単位数他	2単位(30時間) 理学必修 5セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	義肢装具を含めた環境や機器などの代償手段により、障害前とは違った新たな代償機能を創造していく学問である。障害を受けた多様な身体機能について、機能代償機器(義肢・装具)によりどのように代償していくのかを、その構造・製作過程・使用方法を学びつつ、理学療法士の役割として求められる適合判定を中心に講義を展開していく。
到達目標	1. 主に身体障害の機能代償として使用する機能代償機器の種類、構造をバイオメカニズムの視点から理解し、説明できる。 2. 義肢や装具をはじめとする機能代償機器の適合判定(チェックアウト)について理解・説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>坂本 根地嶋 金原 片桐</p> <p>第1回：コースオリエンテーション，機能代償機器学総論 (坂本)</p> <p>第2回：装具総論：装具の種類と名称、目的 (坂本)</p> <p>第3回：下肢装具1(長下肢装具)：構造と機能 (根地嶋)</p> <p>第4回：下肢装具2(短下肢装具，膝装具，免荷装具，靴型)：構造と機能 (根地嶋)</p> <p>第5回：体幹装具：構造と機能 (金原)</p> <p>第6回：上肢装具：構造と機能 (金原)</p> <p>第7回：装具の製作過程 (坂本)</p> <p>第8回：装具の装着体験 (坂本)</p> <p>第9回：中間まとめ (坂本)</p> <p>第10回：切断と義肢総論：切断と離断，原因，手術断端の管理 (坂本)</p> <p>第11回：断端の管理：包帯，合併症予防 (坂本)</p> <p>第12回：術後の理学療法：評価，装着前訓練，装着訓練 (坂本)</p> <p>第13回：義肢の製作過程 (片桐)</p> <p>第14回：義肢の模擬体験：義手，義足 (片桐)</p> <p>第15回：まとめ (坂本)</p>

アクティブラーニング	Moodle に参考となる動画や資料をアップし、学生が事前・事後学修でいつでも使用できるようにする。グループ学修を実施し、それぞれの課題に主体的に取り組み、能動的な問題解決能力を養う。
評価方法	定期試験（60％）およびレポート（40％） 定期試験：授業で学んだことの中から出題する。形式は、記述式問題、選択問題。 レポート：内容は授業の中で学んだことを基本とし、1200 字程度のレポートを作成する。レポートの内容については、第 8 回の講義の中で発表する。
課題に対するフィードバック	定期試験の解答については Moodle で報告する。 レポートのフィードバックは個別に Moodle で行う。
指定図書	日本リハ医学会・日本整形外科学会監修：「義肢装具のチェックポイント」（医学書院） 参考図書：川村次郎 編集：「義肢装具学」（医学書院）
事前・事後学修	義肢・装具教材を貸し出しますので、義肢・装具の種類と構造をつねにチェックして理解してください。義肢・装具教材を貸し出しますので、義肢・装具の種類と構造をつねにチェックして理解してください。Moodle でリーディングリスト、参考資料を提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。事後学修として、Moodle に小テストを提示しますので、どの程度理解できたか確認してください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：月、木、金曜日 3 限目、17 時~18 時 上記以外でもメール（asuka-s@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	機能代償機器学の実践
科目責任者	坂本飛鳥
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 6 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	機能代償機器の使用目的や種類をふまえ、適応となる疾患の障害構造を的確に把握し、チェックアウト・アライメントチェック、作用メカニズムなどを学ぶ。演習や実習を通して考察し、実践につながるような講義をすすめる。
到達目標	1. 義肢や装具の適応となる主要な疾患ごとに、機能代償機器の使用法を理解し、実際に扱える。 2. 義肢や装具の適応となる主要な疾患ごとに、適合判定（チェックアウト）を行うことができるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> (担当教員：坂本、根地嶋、金原、豊田、伊相)</p> <p>第 1 回：コースオリエンテーション (坂本)</p> <p>第 2 回：義肢装具作成所見学実習 1 (伊相)</p> <p>第 3 回：義肢装具作成所見学実習 2 (伊相)</p> <p>第 4 回：各種疾患と装具：グループ演習 (坂本)</p> <p>第 5 回：各種疾患と装具：グループ発表 1 (坂本)</p> <p>第 6 回：関節リウマチと装具：グループ演習 (金原)</p> <p>第 7 回：関節リウマチ：グループ演習・発表 2 (金原)</p> <p>第 8 回：自助具作成実習 1 (金原)</p> <p>第 9 回：自助具作成実習 2 (金原)</p> <p>第 10 回：大腿義足のチェックアウトの要点 (各アライメントの調整、異常歩行) (根地嶋)</p> <p>第 11 回：大腿義足チェックアウト：グループ演習と発表 3 (根地嶋)</p> <p>第 12 回：下腿義足のチェックアウトの要点 (各アライメントの調整、異常歩行) (坂本)</p> <p>第 13 回：下腿義足チェックアウト：グループ演習と発表 4 (坂本)</p> <p>第 14 回：下肢装具装着体験実習 (豊田)</p> <p>第 15 回：模擬義足装着体験実習 (豊田)</p>

アクティブラーニング	Moodle に参考となる動画や資料をアップし、学生が事前・事後学修でいつでも使用できるようにする。グループ学修を実施し、それぞれの課題に主体的に取り組み、能動的な問題解決能力を養う。
評価方法	レポート (40%)・グループ発表 (30%)・定期試験 (30%) レポート：内容は授業の中で学んだことを基本とし、1200 字程度のレポートを作成する。レポートの内容については、第 16 回の講義の中で発表する。 グループ発表：全 4 回グループプレゼンテーションを実施する。ルーブリックを用いた評価基準をもとに、各回ごとに評価し、7 回の平均点を判結果とする。 定期試験：授業で学んだことの中から出題する。形式は、記述式、選択問題。
課題に対するフィードバック	レポートのフィードバックは個別に Moodle で行う。 グループ発表のフィードバックは授業内に口頭で行う。 定期試験の解答については Moodle で報告する。
指定図書	細田多穂監修；「義肢装具学テキスト改訂第 2 版」(南江堂) 高田治実監修；「義肢装具学」(羊土社)
事前・事後学修	義肢・装具教材を貸し出しますので、義肢・装具の種類と構造をつねにチェックして理解してください。Moodle でリーディングリスト、参考資料を提示しますので、各回の事前学習に取り入れてください。事後学修として、Moodle に小テストを提示しますので、どの程度理解できたか確認してください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：月、木、金曜日 3 限目、17 時~18 時 上記以外でもメール (asuka-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	理学療法治療演習
科目責任者	田中真希
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 7 セメスター
科目の位置付	DP(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	<p>臨床理学療法総合実習 I・II の実習で担当した症例に関する知識の確認、および各種疾患や障害に対する理学療法の基本的な評価・治療技術の確認を行い、それらを応用できるようにする。</p> <p>統合と解釈の演習では、症例の理解を通じて、理学療法士として基本的な評価・治療に関する総合的な能力を養い、理解していることを他者に的確に伝える技術を身につける。また、実技総合演習では、臨床現場で必要な能力(論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション力)を高め、実践可能なレベルを目指す。</p>
到達目標	<p>臨床理学療法総合実習 I・II において学修した専門的な知識・技術・態度を統合し、表現する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識：標準的な理学療法対象症例の病態・障害像を統合・解釈し、説明できる 2. 技術：基本的な理学療法評価・治療項目を挙げ、実施できる 3. 態度：相手を尊重した言動・配慮ができる
授業計画	<p><担当教員> 田中真希, 矢倉千昭, 有菌信一, 吉本好延, 根地嶋誠, 金原一宏, 俵祐一, 坂本飛鳥, 矢部広樹 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 オリエンテーション・知識確認：科目全体の流れを把握する</p> <p>第 2 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習 I 終了後-1</p> <p>第 3 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習 I 終了後-2</p> <p>第 4 回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法総合実習 I 終了後-3 臨床理学療法総合実習 I で学んだことを適切に表現することができる</p> <p>第 5 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習 II 終了後-1</p> <p>第 6 回 知識確認・担当症例の統合と解釈のまとめ：臨床理学療法総合実習 II 終了後-2</p> <p>第 7 回 知識確認・担当症例の統合と解釈演習：臨床理学療法総合実習 II 終了後-3 臨床理学療法総合実習 II で学んだことを適切に表現することができる</p> <p>第 8 回 実技総合演習(中枢神経系)-1</p> <p>第 9 回 実技総合演習(中枢神経系)-2</p> <p>第 10 回 実技総合演習(中枢神経系)-3</p> <p>第 11 回 実技総合演習(内部障害系)-1</p> <p>第 12 回 実技総合演習(内部障害系)-2</p> <p>第 13 回 実技総合演習(運動器系)-1</p> <p>第 14 回 実技総合演習(運動器系)-2</p> <p>第 15 回 実技総合演習(運動器系)-3 中枢神経系・内部障害系・運動器系の理学療法に必要な臨床能力を習得する</p> <p>実技総合演習時は実習着で出席してください</p>

アクティブラーニング	演習科目
評価方法	実習後の知識確認のため症例についての報告会、口頭試問、OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) にて 6 割以上の成績であることが合格条件 ルーブリックを活用する 知識確認のための症例報告 25%、口頭試問 25%、OSCE50%
課題に対するフィードバック	症例報告会では、学生同士で質疑応答を行い、終了後に担当教員がフィードバックする。 口頭試問では、担当教員が実施後にフィードバックする。 OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) では、終了後に評価教員からのフィードバックの他に、試験課題の実施状況を動画撮影し、全体終了後にフィードバックする。
指定図書	なし
事前・事後学修	事前学修として、実習中から担当症例の統合と解釈について考察をまとめておく。 事後学修として、フィードバックを受けた内容についてまとめて復習しておく。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	理学療法学総合演習
科目責任者	吉本 好延
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学必修 8 セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	理学療法士国家試験レベルの演習を通して、理学療法士に必要な知識を統合するとともに、臨床的な視点による問題解決能力を身につけることで、これまで学習してきた理学療法学を包括的にまとめる。
到達目標	1. 理学療法士国家試験レベルの理学療法学の知識を修得することができる。 2. 理学療法士に必要な知識を統合することができる。 3. 臨床的な視点によって問題解決することができる。
授業計画	<p><担当教員名> (すべての内容を全員で担当する)</p> <p>吉本好延、矢倉千昭、有菌信一、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹、俵 祐一</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション - シラバス確認・スケジュールの説明 吉本</p> <p>第2回 1. 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 根地嶋</p> <p>第3回 1. 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 田中</p> <p>第4回 1. 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問) 吉本</p> <p>第5回 オリエンテーション - 学習方針の再検討 (ゼミ・個別) 吉本</p> <p>第6回 2. 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 有菌</p> <p>第7回 2. 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 田中</p> <p>第8回 2. 知識到達度確認試験 (専門基礎 50 問・専門 50 問) 坂本</p> <p>第9回 オリエンテーション - 学習方針の再検討 (ゼミ・個別) 吉本</p> <p>第10回 3. 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 矢部</p> <p>第11回 3. 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 矢倉</p> <p>第12回 3. 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 坂本</p> <p>第13回 3. 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 根地嶋</p> <p>第14回 3. 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 金原</p> <p>第15回 3. 知識到達度確認試験 (専門基礎 100 問・専門 100 問) 金原</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 知識到達度確認試験は最終的な目標点数が示されており、目標点数を到達できるように学生は自身の学修プランを教員と共同で計画する
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度：10% 知識到達度確認試験：90%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 各時期の獲得点数から現在の学修状況と今後の学修プランを確認し、プランの妥当性やプランの実行可能性についてフィードバックを行う。
指定図書	『国試の達人 運動解剖生理学編』 IPEC、 『国試の達人 臨床医学編』 IPEC 『国試の達人 理学療法編』 IPEC
事前・事後学修	計画的にグループ学習を進めてください。これまで学んだ内容の復習とともに、自分で考え、問題を解決していく力の知識を、確認しながら深めていきます。
オフィスアワー	3509 教室， 毎週水曜日 16 時～18 時

科目名	臨床理学療法見学実習
科目責任者	金原一宏
単位数他	1 単位 (45 時間) 理学必修 1 セメスター
科目の位置付	DP(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本科目では、臨床現場の見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割について学ぶ。また、見学から社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病や対象の症状を理解し、多職種との連携を体験する。
到達目標	見学を通して、病院、施設における理学療法士の役割を理解する。また、社会人、医療従事者としての態度、マナーを学び、疾病を罹患する対象の症状を理解して、今後の講義へ意欲を高める。
授業計画	<p><担当教員名> 金原一宏、俵祐一、田中真希、坂本飛鳥（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習は見学を重視し、複数の学生に対してスーパーバイザーから説明を受ける ・見学実習期間は1週間で、春セメ8月下旬に実施する ・各施設と治療現場を見学し、説明を受ける ・この実習では、1週間に2施設を見学する <p>実習配置については、後日、連絡をする</p> <p>実習スケジュール（予定：各実習施設担当者との調整により決定する）</p> <p>実習前オリエンテーション（定期試験終了後）</p> <p>実習1日目午後：病院施設を見学、2日目午後：治療の見学をする</p> <p>3日目午後：福祉施設を見学、4日目午後：治療の見学をする</p> <p>5日目午前：本実習のまとめ、5日目午後：報告会</p>
アクティブラーニング	実習前オリエンテーションの中で、課題を伝え、学生間で課題解決を図る
評価方法	実習状況 50%、レポートの作成・提出 30%、 報告会 20%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
事前・事後学修	実習前オリエンテーションの中で、課題を伝えます。課題について、グループで話し合ってください。欠席することの無いように体調管理をしてください。また、臨床の現場では、迅速に行動し、時間厳守を徹底してください。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	地域理学療法学の理論	
科目責任者	矢倉千昭	
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学必修 5 セメスター	
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に理解している。	
科目概要	地域で生活する対象者(障害者・高齢者)に対する理学療法に関わる項目(関連制度・法規, 対象疾患, 生活環境, 予防, 地域包括ケア)について学修する. 地域リハビリテーション・地域理学療法の概念, 歴史, 現状, 課題を理解するとともに, 理学療法士の役割や関連職種との連携・協働について学び, 地域社会に求められる理学療法について考える.	
到達目標	1. 地域リハビリテーション・地域理学療法に関連する項目について理解し, 説明できる 2. 地域理学療法の実践現場や対象者の特徴を理解し, 現状や課題について説明できる 3. 地域社会に求められる理学療法・理学療法士を自身の将来像と重ね合わせて説明できる	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回: コースオリエンテーション, 学修の準備</p> <p>第 2 回: 学修の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解する。 ・シラバスの各回テーマから重要なキーワードを抽出し, グループワークの課題を作成する。 ・ポートフォリオ作成の準備を行う。2 穴リングファイルを持参すること。 ・次回の授業でのグループワークを計画する。 <p>第 3 回: 地域リハビリテーションの考え方, 制度, 関連職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>第 4 回: 地域リハビリテーションの考え方, 制度, 関連職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表, ディスカッション <p>第 5 回: 各サービスにおける理学療法 介護老人保健施設, 特別養護老人ホーム, 訪問リハビリテーション, 通所リハビリテーション, デイサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>第 6 回: 各サービスにおける理学療法 介護老人保健施設, 特別養護老人ホーム, 訪問リハビリテーション, 通所リハビリテーション, デイサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表, ディスカッション <p>第 7 回: 地域リハビリテーションの実際 聖隷デイサービスセンターの活動から学ぶ</p> <p>第 8 回: 地域包括ケア, 介護予防事業と予防給付, 介護給付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>第 9 回: 地域包括ケア, 介護予防事業と予防給付, 介護給付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表, ディスカッション <p>第 10 回: 予防理学療法の概念</p> <p>第 11 回: 予防理学療法の実際</p> <p>第 12 回: 生活環境概論 (生活環境改善の手法, 福祉用具)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>第 13 回: 生活環境概論 (生活環境改善の手法, 福祉用具)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表, ディスカッション 	<p><担当教員名></p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>柴本千晶</p> <p>田中真希</p> <p>田中真希</p> <p>矢倉千昭</p> <p>矢倉千昭</p> <p>田中真希</p> <p>田中真希</p>

	第 14 回：地域リハビリテーションの実際（障害別，障害者スポーツ） ・グループワーク	田中真希
	第 15 回：地域リハビリテーションの実際（障害別，障害者スポーツ） ・グループ発表，ディスカッション，まとめ	田中真希
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスから学修内容を理解し，各回テーマから重要なキーワードを抽出し，グループワークの課題を作成する。 ・グループワークの資料は教員が学生に配信し，学生は PC で資料を見ながら授業に参加する。 ・ポートフォリオを作成し，定期的に学修を振り返りながら目標の到達度を確認する。 	
評価方法	定期試験 30%，小テスト 10%，ポートフォリオ 50%，授業態度 10%	
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の途中で補足し，終了後に総括を行う。 ・リアクションペーパーの質問を確認し，メールまたは次の授業で回答する。 	
指定図書	細田多穂（監）「地域リハビリテーション学テキスト」（南江堂）	
事前・事後学修	事前学修としてグループワーク準備を行い，授業で発表・質疑応答，教員が総括した内容を事後学修として授業の内容をまとめ，ファイルに整理する。	
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日と金曜日の 3 時限目（11 時 55 分～13 時 15 分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。	

科目名	地域理学療法学の実践	
科目責任者	田中真希	
単位数他	2単位(30時間) 理学必修 6セメスター	
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	地域で生活する理学療法の対象者(障害者・高齢者)の自立支援のための生活環境整備や社会参加、介護予防について、障害者総合支援法や介護保険制度など多角的な視点から学修する。症例検討や事例検討を行いながら、人的・物的環境整備や医療・介護の連携(地域連携・地域包括ケアシステム)についての理解を深める。また、超高齢化社会の課題である地域の介護予防事業についても、施設の課題解決に主体的に関与し、実践的な内容を実施または提案することを目的とした授業である。	
到達目標	1. 生活環境整備の意義と実践する上で必要な知識・理論を理解し、対象者における住環境整備の具体的な方法を理解する 2. 症例検討や事例検討を行いながら、人的・物的環境整備や医療・介護の連携についての実践例から具体的な方法を理解する 2. 地域の施設の課題に対し、主体的に行動し、実践的な調査から解決策を立案・実施または提案できる	
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション グループワークの実施方法の説明と住環境整備の実践課題設定 第2回：高齢者に発生しやすい疾患と老年症候群 グループワーク：①転倒・骨折，②認知症，③生活習慣病 症例(事例)検討 第3回：高齢者に発生しやすい疾患と老年症候群 プレゼンテーション・プラン提案・意見交換 第4回：更衣・整容動作が困難な対象者の住環境整備-1 グループワーク・症例(事例)検討 第5回：更衣・整容動作が困難な対象者の住環境整備-2 プレゼンテーション・プラン提案・意見交換 第6回：入浴・排泄動作が困難な対象者の住環境整備-1 グループワーク・症例(事例)検討 第7回：入浴・排泄動作が困難な対象者の住環境整備-2 プレゼンテーション・プラン提案・意見交換 第8回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際-1 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の状況把握(学外) 第9回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際-2 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の状況把握(学外) 第10回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際-3 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の課題抽出・データ分析(学内) 第11回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際-4 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の課題解決策の立案(学内)	<担当教員> 田中真希 矢倉千昭 矢倉千昭 田中真希・矢部広樹 田中真希・矢部広樹 吉本好延・矢部広樹 吉本好延・矢部広樹 田中・矢倉・吉本・矢部 田中・矢倉・吉本・矢部 田中・矢倉・吉本・矢部 田中・矢倉・吉本・矢部

	<p>第 12 回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際－5 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の課題解決策の立案(学内)</p> <p>第 13 回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際－6 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の課題解決策の提案(学外)</p> <p>第 14 回：介護予防事業における理学療法士の役割と実際－7 田中・矢倉・吉本・矢部 萩原荘(老人福祉センター)の介護予防事業利用者の課題解決策の実践(学外)</p> <p>第 15 回：まとめ 田中真希 報告書の書き方・作成・発表</p> <p>各回で担当グループを決め、学内と学外：萩原荘(浜松市の老人福祉センター)にて授業を行う。 フィールドワークを実施するため、動きやすい服装(ポロシャツなど)で出席してください。</p>
アクティブラーニング	<p>地域理学療法学の理論で学んだことを活かし、主体的に学ぶ。 住環境整備：グループワークで検討する症例(事例)を検索・収集する 介護予防事業：授業内で立案・検討した内容(インタビュー・体力測定・運動プログラムなど)を対象者(施設利用者)や施設職員に提案(できれば実施)する、実践形態とする。 具体的には、PC を用いて検索・資料作成、プレゼンテーション、動画プログラムの作成、などを実践する。</p>
評価方法	グループワーク参加度 25%, フィールドワーク参加度 25%, 活動報告書(レポート)50%
課題に対するフィードバック	立案した内容を学生および担当教員間で検討し、フィードバックし合う。 対象者(施設利用者)や施設職員に実施または提案する際に、教員が監督者として立会い、終了後にフィードバックする。
指定図書	野村歡・橋本美芽著、「OT・PTのための住環境整備論 第2版」 三輪書店 重森健太編集、「PT・OT ビジュアルテキスト地域理学療法学 第1版」 羊土社 ※参考図書や文献は授業内で紹介する
事前・事後学修	事前学修として、各自で文献検索を行い、症例検討や事例検討を行いながらインタビュー・体力測定・運動プログラムなどの内容を立案し、説明できるように PC を用いてプレゼンテーションの資料作成や練習をしておく。 事後学修として、各自の活動内容は PC を用いて報告書(レポート)にまとめて提出する。 また、フィードバックを受けた内容についてもまとめて復習しておく。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (maki-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	臨床理学療法検査測定実習
科目責任者	矢部 広樹
単位数他	1単位（45時間） 理学必修 3セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	本科目では、理学療法診断技術学、理学療法演習Ⅰにて学んだ理学療法評価の基本技術を、実際に病院施設において、実際の対象者に対し実践する。つまり、臨床現場において検査測定を体験することで、学内授業との統合を図り、臨床能力を向上させる。
到達目標	理学療法の対象に、基本的な検査測定（ROMT、MMT、感覚検査、深部腱反射検査、病的反射など）を、指導監視のもと実施できる。
授業計画	<p><担当教員名>（すべての内容を全員で担当する） 矢部広樹、矢倉千昭、有蘭信一、吉本好延、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、坂本飛鳥、俵祐一</p> <p><授業内容・テーマ等> 以下の内容をふまえ実習を実施する。</p> <p>情意（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 礼儀正しい挨拶をする 2) 丁寧な言葉遣い、適切な敬語を使う 3) 対象者に合わせた目線、姿勢をとる 4) 対象者へ自ら話しかけ会話をする <p>認知（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施内容の説明と同意の方法を理解する 2) 検査測定のアオリエンテーションを理解する 3) 検査測定の方法を理解する <p>運動技能（技術）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施内容を説明し同意を得る 2) 検査測定のアオリエンテーションを行う 3) 検査測定を正確に実施し、信頼性の向上につとめる
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・2:1実習による学生間で課題解決を図る
評価方法	課題提出物（デイリーノート、実施記録、レポート）50%、口頭試問 50%
課題に対するフィードバック	課題提出物と、口頭試問のフィードバックは、全て口頭試問後に個別に実施します。
指定図書	臨床実習の手引き
事前・事後学修	代表的な疾患および実習施設にて担当する可能性がある疾患の理学療法評価を整理しておくこと。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3512 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（hiroki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	臨床理学療法生活支援実習
科目責任者	田中真希
単位数他	1 単位 (45 時間) 理学必修 4 セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床場面において理学療法の対象者に行う起居移乗動作(寝返り、起き上がり、立ち座りおよび移乗動作)の介助技術を実習指導者の指導監視のもと、模倣することである。 動作分析学, 日常生活活動学, 基礎理学療法学, 神経系理学療法学, 運動器系理学療法学, 内部障害系理学療法学などで学修した内容と臨床現場で学んだ内容との統合を図る。
到達目標	理学療法の対象者に対して, 起居移乗動作(寝返り, 起き上がり, 立ち座りおよび移乗動作)の介助を, 実習指導者の指導監視のもと模倣できる。
授業計画	<p><担当教員> 田中真希, 矢倉千昭, 有菌信一, 吉本好延, 根地嶋誠, 金原一宏, 俵祐一, 坂本飛鳥, 矢部広樹 (すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等> ①情報収集および起居移乗動作の介助技術の習得 必要となる情報収集と適切な起居移乗動作を選択できる。 また, 起居移乗動作の介助を実施するにあたって, その方法の利点や欠点を理解し, 介助技術の向上に努める。 ②リスク管理 起居移乗動作の介助を実施するにあたって, 対象者のリスクを把握し, 適切なリスク管理を行うことができる。 また, 動作を観察・分析し, 介助が必要となる要因を挙げられる。 ③対象者への説明 実施する起居移乗動作に関して, 対象者へ適切に説明できる。</p>
アクティブラーニング	実習科目
評価方法	課題提出物(デイリーノート, 実施記録, 実習報告書)50%, 口頭試問 50%
課題に対するフィードバック	実習は診療参加型実習(クリニカルクラークシップ)および2:1の形態を基本とし, 実習指導者からその場でフィードバックを受ける。また, 学生同士で指導を受けたことをお互いにフィードバックし合うことで, 理解を深める。 口頭試問では, 担当教員が実施後にフィードバックする。
指定図書	臨床理学療法実習ガイドブック
事前・事後学修	事前学修として, 臨床理学療法実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。 事後学修として, 実習指導者や担当教員から指導を受けたことをまとめ, 次の実習までに復習しておいてください。
オフィスアワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3518 研究室 時間については, 事前説明時に提示します。 上記以外にもメール(maki-t@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	臨床理学療法評価実習 I
科目責任者	吉本 好延
単位数他	3 単位 (135 時間) 理学必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	本科目では、学外実習において、対象患者に理学療法に必要な情報収集、検査・測定を計画し、学外実習で得た情報を統合して問題点の抽出を行うことで、患者の障害の状態を的確に把握する。
到達目標	理学療法の対象に対する理学療法評価において、一部の検査測定および臨床推論を指導者監視の下、見学・模倣できる。
授業計画	<p><担当教員名> 吉本好延、矢倉千昭、有菌信一、根地嶋誠、金原一宏、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹、俵 祐一（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①情報収集および検査・測定技術の習得 必要となる情報収集と適切な検査・測定項目を選択できる。また検査・測定の実施にあたってその意義と方法を理解し、客観的で信頼性のある検査・測定技術の向上に努める。</p> <p>②リスク管理 実習の遂行にあたって、患者（施設利用者）のリスクを把握し、適切なリスク管理を行うことができる。また、二次性障害（廃用症候群）の可能性と要因を挙げられる。</p> <p>③患者（施設利用者）への説明 実施する検査・測定に関して、患者（施設利用者）に対して適切に説明できる。</p> <p>④問題点の抽出 2001 年に WHO により提唱された国際生活機能分類（ICF；心身機能・身体構造、活動、参加）に基づき、問題点の抽出を行う。さらに、問題点相互の関連性を説明できる。</p> <p>⑤担当症例の空間概念図の作成 空間概念図を作成し、その発表ができる。</p> <p>毎週水曜日(毎週 1 日×15 回) 15 週間に渡って実習を行う。</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・2:1 実習による学生間で課題解決を図る
評価方法	<p>臨床実習遂行状況 (20%) 各種提出物 (空間関連図など) (30%) 報告会 (30%) 教員面談による口頭試問 (20%) により、合格基準を満たすことで単位を認める。</p>
課題に対するフィードバック	<p>各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習の進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う。</p>

指定図書	『地域包括ケア時代の脳卒中慢性期の地域リハビリテーション—エビデンスを实践につなげる』メジカルビュー社 監修 藤島一郎、他
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学習する ・体験患者の情報をもとに、根拠に基づいた統合と解釈ができるよう事後学習する
オフィス アワー	3509 教室，毎週水曜日 16 時～18 時

科目名	臨床理学療法評価実習Ⅱ
科目責任者	俵 祐一
単位数他	4 単位 (180 時間) 理学必修 6 セメスター
科目の位置付	DP(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨床理学療法評価実習Ⅰで学んだ理学療法の治療（基礎理論と治療技術）を踏まえ、臨床推論に基づく臨床実践を実施する。理学療法の対象に、理学療法評価（検査測定結果から統合と解釈を行い、適切な問題点の抽出およびゴール設定）を実習指導者のもと模倣・実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情意：医療人としての態度を学ぶ 2. 認知：検査測定結果などの情報を分析し、ICF に基づき問題点を抽出する 患者の背景や取り巻く環境、評価結果などを考慮し、目標を設定する 3. 運動技能：検査測定のオリエンテーションを行う 検査測定を正確に実施し、信頼性の向上につとめる 担当症例の空間概念図をもとに、実習指導者とディスカッションする
授業計画	<p><担当教員名> 俵 祐一, 矢倉千昭, 有菌信一, 吉本好延, 根地嶋誠, 金原一宏, 田中真希, 坂本飛鳥, 矢部広樹（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等> 評価実習（理学療法評価の技術と臨床推論を学ぶ）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 指導者とともに診療に参加（同行）するクリニカルクラークシップを基本とする ② 2人の学生に対し、1人の指導者が指導する、2:1モデルの形態とする ③ 診療の一部として指導監視のもと、理学療法評価を行い、統合と解釈により適切な問題点の抽出およびゴール設定を行う ④ 実施する内容は、理学療法（評価）を実施している場面を見学させる、一部の検査測定を模倣・実施させる、一部の臨床推論を説明する ⑤ 技術習得過程は、説明および実際の方法を見学・指導され理学療法評価の一部を実施する ⑥ 学生同士で練習をする ⑦ オリエンテーションは、主に実習指導者が行い、学生が一部を模倣する ⑧ 実習でのリスク管理は実習指導者が行い、学生は見学の中でリスク管理を学ぶ ⑨ 実習日誌に体験したこと、技術的な覚え書きなどを記録する ⑩ チェックリストに何をどれだけおこなったかを記録する ⑪
アクティブラーニング	臨床現場でのクリニカルクラークシップを実施する
評価方法	臨床実習遂行状況（20%） 各種提出物（空間関連図など）（30%） 実習後報告会および口頭試問（50%） により、合格基準を満たすことで単位を認める。※臨床理学療法実習ガイドブックを参照
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して指導者からの直接的指導を受ける ・実習後報告会にて教員より適宜指導を受ける

指定図書	臨床理学療法実習ガイドブック
事前・ 事後学修	代表的な疾患および実習施設にて、担当する可能性がある疾患の理学療法評価や適切な問題点の抽出及びゴール設定について整理しておくこと。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オフィス アワー	科目責任者：俵祐一（リハビリテーション学部理学療法学科） 研究室： 時間帯：授業の際に提示します

科目名	臨床理学療法総合実習 I
科目責任者	金原一宏
単位数他	6 単位 (270 時間) 理学必修 7 セメスター
科目の位置付	DP(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者（利用者）を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラムを立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 金原一宏、矢倉千昭、有菌信一、吉本好延、根地嶋誠、俵祐一、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。</p> <p>②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。（解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する）</p> <p>③デイリーノート（体験したこと、技術的な覚え書きなど）を作成する。</p> <p>④チェックリスト（何をどれだけおこなったか）を作成する。</p> <p>⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。</p>
アクティブラーニング	学生間で課題解決を図る
評価方法	1) 実習状況 50% 2) 実習後プレゼンテーション（臨床理学療法実習 V 報告書（空間概念図）） 30% 3) 口頭試問 20%
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3506 研究室です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	臨床理学療法総合実習Ⅱ
科目責任者	有菌信一
単位数他	6単位(270時間) 理学必修 7セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外実習の理学療法実践を通して、リハビリテーション専門職を志す者としての高度な知識と技術を習得するために、理学療法全般にわたる一連の過程について、学内で履修した内容とこれまでの臨床理学療法実習の知識・経験を踏まえ、担当患者(利用者)を通して経験し、学修する。
到達目標	理学療法の対象に、理学療法評価を行い、治療プログラム立案し、実践的な治療技能を実施できる。症例の初期評価から最終評価の結果に応じて、ゴール設定と治療プログラムの修正を指導者監視のもと模倣・実施できる。
授業計画	<p><担当教員名> 有菌信一、矢倉千昭、金原一宏、俵祐一、根地嶋誠、吉本好延、田中真希、坂本飛鳥、矢部広樹(すべての内容を全員で担当する)</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>①理学療法士の診療の一部を、指導監視のもと、検査・測定・治療を実施する。</p> <p>②技術習得過程では、見学～実施レベルとする。(解説を受け、実際の方法を指導され、理学療法評価・治療・効果判定を実施する)</p> <p>③デイリーノート(体験したこと、技術的な覚え書きなど)を作成する。</p> <p>④チェックリスト(何をどれだけおこなったか)を作成する。</p> <p>⑤理学療法施行内容は、統合と解釈に必要な理学療法評価、問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案、効果判定を行う。</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルクラークシップによる診療参加型の実習形態 ・1:1実習による学生間で課題解決を図る
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1)実習状況 2)実習後プレゼンテーション(臨床理学療法総合実習Ⅱ報告書(空間概念図)) 3)口頭試問
課題に対するフィードバック	各ゼミ単位で定期的に教員面談を実施する。 各担当教員より実習に進行や学修方法、目標設定に関する確認とフィードバックを行う
指定図書	なし
事前・事後学修	これまでの臨床実習内容を振り返り、学修を進め、準備してください。実習ガイドブックを熟読して実習に臨んでください。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3503研究室です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	作業療法概論
科目責任者	新宮 尚人
単位数他	2 単位(30 時間) 作業必修 1 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	作業療法を学ぶにあたって前提となる基本的事項(作業療法の理論背景の概要、作業療法の対象と実践背景の概要など)を学習する。小グループによるPBLチュートリアル、講義、演習を通じ、主体的に学習する習慣と方法を身につける。
到達目標	1. 作業療法の歴史、作業活動と健康、作業療法の対象など、作業療法の概要について説明できる。 2. 問題基盤型学習(Problem Based Learning : PBL)について説明できる。 3. 作業療法の背景と内容の概要について説明できる。
授業計画	<p><担当教員名>新宮尚人、伊藤信寿、泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</p> <p>第1回:オリエンテーション、PBL①作業療法とは 全員</p> <p>第2回:PBL①作業療法とは 全員</p> <p>第3回:PBL①作業療法とは ミニ講義 鈴木達也、全員</p> <p>第4回:PBL①作業療法とは 全員</p> <p>第5回:PBL①作業療法とは ミニ講義 鈴木達也、全員</p> <p>第6回:PBL①作業療法とは 全員</p> <p>第7回:PBL①作業療法とは 全員</p> <p>第8回:PBL①作業療法とは 全員</p> <p>第9回:PBL①発表 全員</p> <p>第10回:PBL①発表講義(保健制度の解説等) 泉 良太、全員</p> <p>第11回:技術講習(車いすの操作) 中島ともみ、鈴木達也 全員</p> <p>第12回:技術講習(車いすの操作) 中島ともみ、鈴木達也、全員</p> <p>第13回:技術講習(移動の介助、杖歩行など) 中島ともみ、鈴木達也、全員</p> <p>第14回:講義 全員</p> <p>第15回:授業のまとめ 新宮 尚人</p> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>
アクティブラーニング	前半は問題基盤型学習(Problem Based Learning : PBL)を中心に進めます。後半では、技術講習を主体とした演習を行います。
評価方法	定期試験(60%)、レポート(20%)、ポートフォリオ内容(20%)
課題に対するフィードバック	筆記試験の終了後には個別に解説を行います。授業最終日に、個別でポートフォリオ面接を実施し学修内容の確認とレポート返却をします。
指定図書	1. 二木 淑子/能登 真一編:作業療法概論 第3版, 医学書院, 東京, 2016. 2. 石川斉, 古川宏編:図解作業療法技術ガイドー根拠と臨床経験にもとづいた効果的な実践のすべて. 第2版, 文光堂, 東京, 2003.
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所目を通して下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オフィスアワー	所属学部:リハビリテーション学部 研究室:3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール(naohito-s@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	作業科学と作業療法	
科目責任者	泉 良太	
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業必修 2 セメスター	
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	作業療法は作業を通して人々の健康を促進します。本科目では、その作業療法の基礎学問である作業科学を理解し、作業療法士としてどのように人々の健康を促進するかを学びます。さらに、作業療法場面の治療、援助の指針になる作業療法の理論を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業的存在としての人間の理解を深める 2. 作業の視点を通して人々の生活を理解する 3. 将来の専門職としての知識・理論を理解する 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : 健康と作業 (WHO、WFOT)</p> <p>第2回 : 健康と作業 個人演習</p> <p>第3回 : 健康と作業 グループ演習</p> <p>第4回 : 作業の主観的意味</p> <p>第5回 : 作業の主観的意味 個人演習</p> <p>第6回 : 作業の主観的意味 グループ演習</p> <p>第7回 : 作業と遂行文脈</p> <p>第8回 : 作業と遂行文脈 個人演習</p> <p>第9回 : 作業と遂行文脈 グループ演習</p> <p>第10回 : 実践報告 (精神科領域、就労支援領域)</p> <p>第11回 : カナダ作業遂行モデル (CMOP)</p> <p>第12回 : 作業療法介入プロセスモデル (OTIPM)</p> <p>第13回 : 作業で語る事例報告 (身障領域)</p> <p>第14回 : 理論実践演習</p> <p>第15回 : まとめ①</p>	<p><担当教員名></p> <p>泉 良太</p> <p>泉 良太</p> <p>泉 良太</p> <p>泉 良太</p> <p>泉 良太</p> <p>泉 良太</p> <p>鈴木達也</p> <p>鈴木達也</p> <p>鈴木達也</p> <p>藤田さより、建木 健</p> <p>鈴木達也</p> <p>鈴木達也</p> <p>特別講師</p> <p>泉 良太、鈴木達也</p> <p>泉 良太、鈴木達也</p>
アクティブラーニング	グループ学修、PBL	
評価方法	筆記試験 40%、レポート 40%、ポートフォリオ 20%、計 100%	

課題に対するフィードバック	レポート・ポートフォリオ・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	吉川ひろみ：「作業」って何だろう、医歯薬出版、2008
事前・事後学修	事前学修時間 20 分、事後学修時間 20 分 講義中に事前課題および事後課題について提示する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。

科目名	研究法入門																														
科目責任者	田島明子																														
単位数他	1単位(30時間) 作業必修 5セメスター																														
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																														
科目概要	作業療法が医療専門職として存在し続けるには、他の療法との違いがどこにあり、社会の中でどのように機能し、どのような効果があるのかを明確に示さなければならない。その手段の1つが研究である。この科目では、早期に研究の基礎となる枠組みに触れ、研究の意義と面白さを実感し、4年間の学びの中に研究的視点を包含できることを目指す。																														
到達目標	1. 研究の定義と研究の意義について説明できる 2. 研究の分類（量的・質的など）と具体的進め方について説明できる 3. 研究に伴う倫理的配慮とデータの管理の重要性について説明できる 4. 自分の興味に基づくテーマを研究疑問の形で表現できる																														
授業計画	<p><担当教員名>田島明子、泉良太、伊藤信寿、藤田さより、中島ともみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、研究とは、作業療法研究の位置付け等</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第2回：研究疑問と研究の様式（量的・質的）、研究の流れなど</td> <td>泉良太</td> </tr> <tr> <td>第3回：文献検索の仕方、図書館の利用：図書館司書による説明</td> <td>泉良太</td> </tr> <tr> <td>第4回：研究計画書の作成と実施</td> <td>泉良太</td> </tr> <tr> <td>第5回：質的研究と分類</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第6回：質的研究、混合研究法の計画書作成と実施</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第7回：研究の倫理と管理</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第8回：研究の倫理と管理</td> <td>田島明子</td> </tr> <tr> <td>第9回：研究テーマの検討（PBL）</td> <td>田島明子、泉良太</td> </tr> <tr> <td>第10回：研究テーマの検討（PBL）</td> <td>田島明子、泉良太</td> </tr> <tr> <td>第11回：興味あるテーマ発表(1名ずつ)</td> <td>田島明子、泉良太</td> </tr> <tr> <td>第12回：興味あるテーマ発表(1名ずつ)</td> <td>田島明子、泉良太</td> </tr> <tr> <td>第13回：興味あるテーマ発表(1名ずつ)</td> <td>田島明子、泉良太</td> </tr> <tr> <td>第14回：研究の実際①、研究の実際②</td> <td>中島ともみ、藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第15回：研究の実際③、授業のまとめ</td> <td>伊藤信寿、泉良太、田島明子</td> </tr> </table> <p>※テーマや内容は進度により変更の可能性がある。詳細はオリエンテーションで説明する。</p>	第1回：オリエンテーション、研究とは、作業療法研究の位置付け等	田島明子	第2回：研究疑問と研究の様式（量的・質的）、研究の流れなど	泉良太	第3回：文献検索の仕方、図書館の利用：図書館司書による説明	泉良太	第4回：研究計画書の作成と実施	泉良太	第5回：質的研究と分類	田島明子	第6回：質的研究、混合研究法の計画書作成と実施	田島明子	第7回：研究の倫理と管理	田島明子	第8回：研究の倫理と管理	田島明子	第9回：研究テーマの検討（PBL）	田島明子、泉良太	第10回：研究テーマの検討（PBL）	田島明子、泉良太	第11回：興味あるテーマ発表(1名ずつ)	田島明子、泉良太	第12回：興味あるテーマ発表(1名ずつ)	田島明子、泉良太	第13回：興味あるテーマ発表(1名ずつ)	田島明子、泉良太	第14回：研究の実際①、研究の実際②	中島ともみ、藤田さより	第15回：研究の実際③、授業のまとめ	伊藤信寿、泉良太、田島明子
第1回：オリエンテーション、研究とは、作業療法研究の位置付け等	田島明子																														
第2回：研究疑問と研究の様式（量的・質的）、研究の流れなど	泉良太																														
第3回：文献検索の仕方、図書館の利用：図書館司書による説明	泉良太																														
第4回：研究計画書の作成と実施	泉良太																														
第5回：質的研究と分類	田島明子																														
第6回：質的研究、混合研究法の計画書作成と実施	田島明子																														
第7回：研究の倫理と管理	田島明子																														
第8回：研究の倫理と管理	田島明子																														
第9回：研究テーマの検討（PBL）	田島明子、泉良太																														
第10回：研究テーマの検討（PBL）	田島明子、泉良太																														
第11回：興味あるテーマ発表(1名ずつ)	田島明子、泉良太																														
第12回：興味あるテーマ発表(1名ずつ)	田島明子、泉良太																														
第13回：興味あるテーマ発表(1名ずつ)	田島明子、泉良太																														
第14回：研究の実際①、研究の実際②	中島ともみ、藤田さより																														
第15回：研究の実際③、授業のまとめ	伊藤信寿、泉良太、田島明子																														
アクティブラーニング	研究テーマをPBLで検討していきます。研究テーマを考えることは研究の面白さ、難しさを知る機会になると思います。主体的・積極的に参加をし、研究視点を持つことの基礎を習得してください。																														
評価方法	定期試験（40%）、テーマ発表（40%）、ポートフォリオ内容（20%）																														
課題に対するフィードバック	小テストにおいて、学修の理解度を確認していきます。小テストは全問正解に至るよう再提出を求めます。その過程のなかで自己学習を進めてください。																														

指定図書	鎌倉矩子・宮前珠子・清水 一：作業療法士のための研究法入門. 三輪書店, 東京, 1997
事前・ 事後学修	事前学習：授業は学びのきっかけであることを意識しその準備をすることと捉える。具体的には指定図書の該当する章に予め目を通しポイントを把握しておく。 事後学習：テキストや配布資料のポイントの再確認をし、いつでもその情報に辿り着ける工夫をする。具体的にはキーワードへのアンダーラインやマーキング、付箋の添付などをお勧めする。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（akiko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。

科目名	作業療法評価学総論
科目責任者	田島明子
単位数他	1 単位 (15 時間) 作業必修 2 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	まず、評価の理念について学習する。これは、以後の学習を進める上での基礎になる部分である。そして、医療・保健・福祉分野における包括的評価である ICF () について、障害の捉え方、使用法、適用について学ぶ。
到達目標	「作業療法における評価の基礎を学ぶ」ことをテーマに 1. 作業療法評価の基本概念について理解を深めること 2. 包括的評価である ICF について、障害の捉え方、使用法、適用について知識を得ることを目標とする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>田島明子 第 1 回：評価とは何か 第 2 回： 作業療法プロセスにおける評価の位置づけ 第 3 回： ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF における障害の捉え方) 第 4 回： ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF における障害の捉え方) 第 5 回： ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の使用法) 第 6 回： ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の使用法) 第 7 回： ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の適用) 第 8 回： ICF 概念に基づいた包括的評価 (ICF の適用)
アクティブラーニング	各回の終わりに講義した内容について小テストを行います。小テストは間違えた箇所をしっかりと復習し、正しい回答が書かれたものの再提出を求めます。
評価方法	定期試験 60%、レポート 10%、小テスト 25%、講義に臨む態度 5%
課題に対するフィードバック	小テスト、ポートフォリオ提出によって、一人ひとりの学習状況を確認し、必要な学修について、適宜、アドバイスを行っていきます。
指定図書	岩崎テル子ら編『標準作業療法学 専門分野「作業療法評価学」』医学書院 上田敏著 2005『ICF の理解と活用』萌文社
事前・事後学修	各回の講義の該当部分の教科書、参考書を事前に読んでおくこと。各回の終わりに講義した内容について小テストを行います。小テストは間違えた箇所をしっかりと復習し、正しい回答が書かれたものの再提出を求めます。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (akiko-t@seirei.ac.jp) でアポイントを取ってください。

科目名	作業療法評価学演習		
科目責任者	藤田 さより		
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 3セメスター		
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。		
科目概要	作業療法の基礎となる、「対象者との良好なコミュニケーション」、「観察評価」、「記録」について施設実習を通じて学び、それらの基礎力を身につける。また作業療法で用いる主要な評価法について理解し、実践する。さらに作業療法の評価から実施までの流れを理解する。		
到達目標	①対象者の行動や表情、動きなどの「観察のポイント」を述べることができる。 ②対象者の行動や表情、動きなどを観察し、レポートに書くことができる。 ③情報収集・観察から得た情報から、考察を行い、レポートにまとめることができる。 ④作業療法にて用いる主要な評価の概要や流れを理解し、述べられる。 ⑤作業療法の対象領域について理解し、評価から作業療法実施までの流れを考え、述べられる。		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 評価の基礎(観察、記録、考察)・評価をするうえで重要な視点</p> <p>第3回 COPMについて</p> <p>第4回 AMPSについて</p> <p>第5回 デイリーノートの書き方/実習オリエンテーション</p> <p>第6回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第7回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第8回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第9回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第10回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第11回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第12回 PBL(COPMを実践してみよう!!)</p> <p>第13回 PBL(COPMを実践してみよう!!)</p> <p>第14回 PBL(観察を実践してみよう!!)</p> <p>第15回 PBL(観察を実践してみよう!!)</p> <p>第16回 PBL(作業療法の対象領域について考える)</p> <p>第17回 PBL</p> <p>第18回 PBL(作業療法の評価～介入までを理解する)</p> <p>第19回 PBL</p> <p>第20回 PBL</p> <p>第21回 PBL</p> <p>第22回 PBL</p> <p>第23回 PBL</p> <p>第24回 PBL</p> <p>第25回 実習・課題のまとめ・発表準備のまとめ</p> <p>第26回 実習・課題のまとめ・発表準備のまとめ</p> <p>第27回 PBL発表</p> <p>第28回 PBL発表</p> <p>第29回 まとめ・小テスト</p> <p>第30回 まとめ</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p> </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>鈴木達也</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>鈴木達也</p> <p>鈴木達也</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> </td> </tr> </table>	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 評価の基礎(観察、記録、考察)・評価をするうえで重要な視点</p> <p>第3回 COPMについて</p> <p>第4回 AMPSについて</p> <p>第5回 デイリーノートの書き方/実習オリエンテーション</p> <p>第6回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第7回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第8回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第9回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第10回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第11回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第12回 PBL(COPMを実践してみよう!!)</p> <p>第13回 PBL(COPMを実践してみよう!!)</p> <p>第14回 PBL(観察を実践してみよう!!)</p> <p>第15回 PBL(観察を実践してみよう!!)</p> <p>第16回 PBL(作業療法の対象領域について考える)</p> <p>第17回 PBL</p> <p>第18回 PBL(作業療法の評価～介入までを理解する)</p> <p>第19回 PBL</p> <p>第20回 PBL</p> <p>第21回 PBL</p> <p>第22回 PBL</p> <p>第23回 PBL</p> <p>第24回 PBL</p> <p>第25回 実習・課題のまとめ・発表準備のまとめ</p> <p>第26回 実習・課題のまとめ・発表準備のまとめ</p> <p>第27回 PBL発表</p> <p>第28回 PBL発表</p> <p>第29回 まとめ・小テスト</p> <p>第30回 まとめ</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>	<p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>鈴木達也</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>鈴木達也</p> <p>鈴木達也</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p>
<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 評価の基礎(観察、記録、考察)・評価をするうえで重要な視点</p> <p>第3回 COPMについて</p> <p>第4回 AMPSについて</p> <p>第5回 デイリーノートの書き方/実習オリエンテーション</p> <p>第6回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第7回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第8回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第9回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第10回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第11回 施設実習[観察・記録を学ぶ]</p> <p>第12回 PBL(COPMを実践してみよう!!)</p> <p>第13回 PBL(COPMを実践してみよう!!)</p> <p>第14回 PBL(観察を実践してみよう!!)</p> <p>第15回 PBL(観察を実践してみよう!!)</p> <p>第16回 PBL(作業療法の対象領域について考える)</p> <p>第17回 PBL</p> <p>第18回 PBL(作業療法の評価～介入までを理解する)</p> <p>第19回 PBL</p> <p>第20回 PBL</p> <p>第21回 PBL</p> <p>第22回 PBL</p> <p>第23回 PBL</p> <p>第24回 PBL</p> <p>第25回 実習・課題のまとめ・発表準備のまとめ</p> <p>第26回 実習・課題のまとめ・発表準備のまとめ</p> <p>第27回 PBL発表</p> <p>第28回 PBL発表</p> <p>第29回 まとめ・小テスト</p> <p>第30回 まとめ</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>	<p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>鈴木達也</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>鈴木達也</p> <p>鈴木達也</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより・泉良太</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p>		

アクティブラーニング	演習・実習科目です。PBLを行います。
評価方法	小テスト 20% レポート 80%
課題に対するフィードバック	小テストは返却致します。レポートに関してはコメントを記入し返却致します。フィードバックペーパーの内容に基づき次回授業時にコメントおよび講義等行います。
指定図書	吉川ひろみ 『作業療法がわかる COPM・AMPS スターティングガイド』, 医学書院 齊藤佑樹編 『作業で語る事例報告』 医学書院
事前・事後学修	「観察力」には、解剖・運動学の知識が必要不可欠です。その為に前半（1～15回）運動学・解剖学の復習を行ってください。初回に事前学修のためのテキストをお渡しします（毎回 40 分）。 後半は（16～30 回）は、COPM、AMPS の評価方法・評価項目について教科書を熟読し、演習に備えてください。また作業療法の各種理論についても資料を熟読してください（毎回 40 分）
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	身体領域作業療法評価学																																																																																										
科目責任者	泉 良太																																																																																										
単位数他	2単位（60時間） 作業必修 4セメスター																																																																																										
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																																																																										
科目概要	講義、演習を通じて身体機能の評価方法を知り、身体機能の検査測定技術（関節可動域、筋力、筋緊張、感覚、脳神経、反射、姿勢反射、協調性、随意性、上肢機能検査等）および面接・観察技術を修得する。演習では実際の対象者に対して評価を行い、協力者からの指導を得る。演習後には評価結果から統合と解釈を実施し、対象者の生活との関連について理解する。																																																																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害領域における作業療法評価の目的、適応、禁忌事項について説明できる。 2. 作業療法の評価計画を立案することができる。 3. 学んだ評価を正しく実施できる。 4. 評価結果を統合解釈し、病態を的確に分析することができる。 5. 評価結果から生活にどのような影響を及ぼすのかを説明する事ができる。 																																																																																										
授業計画	<p><科目担当教員> 泉良太、鈴木達也、中島ともみ、田島明子、伊藤信寿、建木健、藤田さより</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>：オリエンテーション、意識の評価</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>：バイタルサインの測定、形態計測</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>：バイタルサインの測定、形態計測</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>：関節可動域測定</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>：関節可動域測定</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>：関節可動域測定</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>：筋力検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>：筋力検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>：筋力検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>：筋力検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也、中島ともみ</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>：筋緊張検査、随意性検査（BRS）</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>：感覚知覚検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>：感覚知覚検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>：脳神経検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>：脳神経検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>：反射検査、姿勢反射検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>：反射検査、姿勢反射検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>：演習 1</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>：演習 1</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>：演習 1</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>：協調性検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>：協調性検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>：上肢機能検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>：上肢機能検査</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第25回</td> <td>：事例検討（演習 1 について）</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第26回</td> <td>：演習 2</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>：演習 2</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td>：演習 2</td> <td>科目担当教員全員</td> </tr> <tr> <td>第29回</td> <td>：評価のまとめ</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> <tr> <td>第30回</td> <td>：評価のまとめ</td> <td>泉 良太、鈴木達也</td> </tr> </table> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>	第1回	：オリエンテーション、意識の評価	泉 良太、鈴木達也	第2回	：バイタルサインの測定、形態計測	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第3回	：バイタルサインの測定、形態計測	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第4回	：関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第5回	：関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第6回	：関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第7回	：筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第8回	：筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第9回	：筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第10回	：筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ	第11回	：筋緊張検査、随意性検査（BRS）	泉 良太、鈴木達也	第12回	：感覚知覚検査	泉 良太、鈴木達也	第13回	：感覚知覚検査	泉 良太、鈴木達也	第14回	：脳神経検査	泉 良太、鈴木達也	第15回	：脳神経検査	泉 良太、鈴木達也	第16回	：反射検査、姿勢反射検査	泉 良太、鈴木達也	第17回	：反射検査、姿勢反射検査	泉 良太、鈴木達也	第18回	：演習 1	科目担当教員全員	第19回	：演習 1	科目担当教員全員	第20回	：演習 1	科目担当教員全員	第21回	：協調性検査	泉 良太、鈴木達也	第22回	：協調性検査	泉 良太、鈴木達也	第23回	：上肢機能検査	泉 良太、鈴木達也	第24回	：上肢機能検査	泉 良太、鈴木達也	第25回	：事例検討（演習 1 について）	泉 良太、鈴木達也	第26回	：演習 2	科目担当教員全員	第27回	：演習 2	科目担当教員全員	第28回	：演習 2	科目担当教員全員	第29回	：評価のまとめ	泉 良太、鈴木達也	第30回	：評価のまとめ	泉 良太、鈴木達也
第1回	：オリエンテーション、意識の評価	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第2回	：バイタルサインの測定、形態計測	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第3回	：バイタルサインの測定、形態計測	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第4回	：関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第5回	：関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第6回	：関節可動域測定	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第7回	：筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第8回	：筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第9回	：筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第10回	：筋力検査	泉 良太、鈴木達也、中島ともみ																																																																																									
第11回	：筋緊張検査、随意性検査（BRS）	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第12回	：感覚知覚検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第13回	：感覚知覚検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第14回	：脳神経検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第15回	：脳神経検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第16回	：反射検査、姿勢反射検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第17回	：反射検査、姿勢反射検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第18回	：演習 1	科目担当教員全員																																																																																									
第19回	：演習 1	科目担当教員全員																																																																																									
第20回	：演習 1	科目担当教員全員																																																																																									
第21回	：協調性検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第22回	：協調性検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第23回	：上肢機能検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第24回	：上肢機能検査	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第25回	：事例検討（演習 1 について）	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第26回	：演習 2	科目担当教員全員																																																																																									
第27回	：演習 2	科目担当教員全員																																																																																									
第28回	：演習 2	科目担当教員全員																																																																																									
第29回	：評価のまとめ	泉 良太、鈴木達也																																																																																									
第30回	：評価のまとめ	泉 良太、鈴木達也																																																																																									

アクティブラーニング	グループ学修、体験学習
評価方法	筆記試験 40%、実技試験 40%、ポートフォリオ 20%、計 100%
課題に対するフィードバック	演習レポート・ポートフォリオ・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	岩崎テル子：作業療法評価学 第 2 版、医学書院、2011 津山直一、中村耕三：新・徒手筋力検査法 原著第 9 版、協同医書出版社、2014 田崎義明、斎藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた 第 18 版、南山堂、2016
事前・事後学修	事前学修時間 20 分、事後学修時間 20 分 ・運動学、解剖学の復習をして参加しましょう。 ・実技練習は学生で互いに練習を重ねましょう。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。

科目名	老年期作業療法評価学
科目責任者	鈴木達也
単位数他	1 単位（30 時間） 作業必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	老年期に特徴的な身体、精神、認知面に関する生理的変化や環境面の評価法について学ぶ。作業療法の分野をはじめ標準化された評価法だけでなく、観察や面接から得られる情報を基に対象者が生きてきた人生を知り、作業療法プログラムを展開できることを学ぶ。施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	1. 高齢者の心身機能について特徴を把握する事が出来る 2. 評価法の名前とその目的を理解し使用できる 3. 評価法の種類（主観的、客観的、観察法・質問法、自己記入式等）を理解し使用できる 4. 得られた結果を解釈しプログラム立案に役立てることが出来る
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション・高齢者の評価基本的態度 <担当：鈴木></p> <p>第2回：高齢者への面接と統合的評価法 <担当：鈴木></p> <p>第3回：作業療法理論に基づく評価法、生活史とQOL <担当：鈴木></p> <p>第4回：高齢者の意思、興味、価値、作業バランス <担当：鈴木></p> <p>第5回：ADL, 行動面の評価 <担当：鈴木></p> <p>第6回：認知機能・精神機能面の評価 <担当：鈴木></p> <p>第7回：高齢者の身体機能面の評価 <担当：鈴木></p> <p>第8回：人的・物理的環境の評価 <担当：鈴木></p> <p>第9回：介護負担・介護予防・健康増進 <担当：鈴木></p> <p>第10回：終末期における評価 <担当：鈴木></p> <p>第11回：高齢期領域の作業療法の事例1 <担当：鈴木></p> <p>第12回：高齢期領域の作業療法の事例1 <担当：鈴木></p> <p>第13回：高齢期領域の作業療法の事例2 <担当：鈴木></p> <p>第14回：高齢期領域の作業療法の事例2 <担当：鈴木></p> <p>第15回：まとめ <担当：鈴木></p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>
アクティブラーニング	グループワーク、PBL, 施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
評価方法	定期試験 70% レポート 30%

課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパーのコメント、返却
指定図書	日本作業療法協会監修：「作業療法治療学4 老年期」作業療法全書，協同医書出版
事前・事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・ グループで相談し演習計画や評価の練習を行きましょう
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.

科目名	基礎作業学
科目責任者	建木 健
単位数他	2 単位数 (60 時間) 作業必修 2 セメスター
科目の位置付	DP(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	1. 作業療法で利用される活動のうち、陶芸、織物、革細工、木工などの基本的技法を学ぶ。 2. 各作業が人に与える身体的・心理的な影響を、自己を通して洞察出来る。 3. 作業分析の基礎を学ぶ。
到達目標	1. 陶芸、織物、革細工、木工が人にどのような身体的・心理的影響を与えているか自分自身で感じ、述べる事ができる。 2. 共同作品を作成し作業が人とのつながり、広がりをもたらす効果を感じ、述べる事ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回： オリエンテーション・講義 建木健</p> <p>第 2 回： 身体表現 河本のぞみ, 建木健</p> <p>第 3 回： 身体表現 河本のぞみ, 建木健</p> <p>第 4 回： 身体表現 河本のぞみ, 建木健</p> <p>第 5 回： 身体表現 河本のぞみ, 建木健</p> <p>第 6 回： 陶芸 綿貫克彦, 建木健</p> <p>第 7 回： 陶芸 綿貫克彦, 建木健</p> <p>第 8 回： 陶芸 綿貫克彦, 建木健</p> <p>第 9 回： 陶芸 綿貫克彦, 建木健</p> <p>第 10 回： 陶芸 綿貫克彦, 建木健</p> <p>第 11 回： 陶芸 綿貫克彦, 建木健</p> <p>第 12 回： 革細工 永田征司, 建木健</p> <p>第 13 回： 革細工 永田征司, 建木健</p> <p>第 14 回： 革細工 永田征司, 建木健</p> <p>第 15 回： 革細工 永田征司, 建木健</p> <p>第 16 回： 革細工 永田征司, 建木健</p> <p>第 17 回： 革細工 永田征司, 建木健</p> <p>第 18 回： さをり織り 須藤弘子, 清水園恵, 藤田さより, 建木健</p> <p>第 19 回： さをり織り 須藤弘子, 清水園恵, 藤田さより, 建木健</p> <p>第 20 回： さをり織り 須藤弘子, 清水園恵, 藤田さより, 建木健</p> <p>第 21 回： さをり織り 須藤弘子, 清水園恵, 藤田さより, 建木健</p> <p>第 22 回： さをり織り 須藤弘子, 清水園恵, 藤田さより, 建木健</p> <p>第 23 回： さをり織り 須藤弘子, 清水園恵, 藤田さより, 建木健</p> <p>第 24 回： 木工 藤田さより, 建木健</p> <p>第 25 回： 木工 藤田さより, 建木健</p> <p>第 26 回： 木工 藤田さより, 建木健</p> <p>第 27 回： 木工 藤田さより, 建木健</p> <p>第 28 回： 木工 藤田さより, 建木健</p> <p>第 29 回： 木工 藤田さより, 建木健</p> <p>第 30 回： まとめ 建木健</p> <p>外部講師の都合により実施順が変更になる可能性があります。 改めて授業スケジュールを初回に配布します</p>
アクティブラーニング	演習科目です。

評価方法	レポート 100%
課題に対するフィードバック	レポート返却時に、コメントを記入します。
指定図書	山根寛編：『ひとと作業・作業活動』、三輪書店 クラフト学園研究室：革の技法楽しむための基本集、株式会社ヴォーグ社
事前・事後学修	事前学修：作業分析には解剖学、運動学の知識が必要となります。適宜これらについて課題を出していきます。(10分) 事後学修：作業分析を各作業種目で行います。(30分)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (ken-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	作業技術学																																
科目責任者	藤田さより																																
単位数他	1単位 (30時間) 作業必修 3セメスター																																
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につける。																																
科目概要	作業療法として多く利用される活動(紙細工、園芸、籐細工、染物など)の実践を交えながら、各活動の基本的技法を学び、作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を考え、作業分析の基礎を学ぶ。さらに各作業の対象者への導入法を学ぶ。																																
到達目標	①作業療法として多く利用される活動を実践し、基本的技法を理解し、作品を完成できる。 ②作業が人に与える身体的・心理的・社会的な影響を述べることができる。 ③各作業の対象者への導入方法(段階付け)を考え、作業分析シートに記入することができる。 ④実際に対象者に園芸活動を適切な方法で実践できる。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等></td> <td style="text-align: center;"><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、作業分析について</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第2回：非構成的作業の実践と作業分析</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第3回：構成的作業の実践と作業分析</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第4回：構成的作業の実践と作業分析</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第5回：園芸療法と作業療法</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第6回：室内園芸と作業分析</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第7回：園芸活動の実践[施設の方と]</td> <td>藤田 建木健 鈴木達也 伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第8回：園芸活動の実践[施設の方と]</td> <td>藤田 建木健 鈴木達也 伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第9回：集団活動・競争的活動</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第10回：編む作業(マクラメなど)</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第11回：作業療法と音楽活動</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第12回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第13回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第14回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)</td> <td>藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第15回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)</td> <td>藤田さより</td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション、作業分析について	藤田さより	第2回：非構成的作業の実践と作業分析	藤田さより	第3回：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより	第4回：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより	第5回：園芸療法と作業療法	藤田さより	第6回：室内園芸と作業分析	藤田さより	第7回：園芸活動の実践[施設の方と]	藤田 建木健 鈴木達也 伊藤信寿	第8回：園芸活動の実践[施設の方と]	藤田 建木健 鈴木達也 伊藤信寿	第9回：集団活動・競争的活動	藤田さより	第10回：編む作業(マクラメなど)	藤田さより	第11回：作業療法と音楽活動	藤田さより	第12回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)	藤田さより	第13回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)	藤田さより	第14回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)	藤田さより	第15回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)	藤田さより
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：オリエンテーション、作業分析について	藤田さより																																
第2回：非構成的作業の実践と作業分析	藤田さより																																
第3回：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより																																
第4回：構成的作業の実践と作業分析	藤田さより																																
第5回：園芸療法と作業療法	藤田さより																																
第6回：室内園芸と作業分析	藤田さより																																
第7回：園芸活動の実践[施設の方と]	藤田 建木健 鈴木達也 伊藤信寿																																
第8回：園芸活動の実践[施設の方と]	藤田 建木健 鈴木達也 伊藤信寿																																
第9回：集団活動・競争的活動	藤田さより																																
第10回：編む作業(マクラメなど)	藤田さより																																
第11回：作業療法と音楽活動	藤田さより																																
第12回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)	藤田さより																																
第13回：対象者への導入方法とその効果を考える(籐細工)	藤田さより																																
第14回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)	藤田さより																																
第15回：対象者への導入方法とその効果を考える(染色)	藤田さより																																
アクティブラーニング	演習科目です。																																
評価方法	レポート80% 活動への取り組み・作品の完成20%																																
課題に対するフィードバック	提出されたレポートコメントおよび評価を記入し返却致します。																																

指定図書	山根寛編：『ひとと作業・作業活動』、三輪書店
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・作業分析を各作業すべてで実施します。作業分析に必要な解剖学・運動学について事前に復習してください。(毎回 40 分程度) ・事後学修では作業分析シートを記入し、作業が人に与える影響等について分析してください。 ・障害者の方への介入を行いますので、介助方法について事前に復習してください。(7、8 回)
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	神経系作業療法学
科目責任者	建木 健
単位数他	2単位 (60時間) 作業必修 4セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	身体障害領域で主に作業療法の対象となる疾患の病態像および、疾患の特性を学修し、対象者に対しての作業療法実践課程の事例を通して基礎的な理論と知識・技術を学修する。疾患特性の復習を行い、視覚教材を用い疾患の特性と社会生活上の問題点を掘り下げて学習していく。
到達目標	1. 疾患の特徴を理解し、説明ができる 2. 作業療法の対象となる方（疾患特性や社会背景など）に応じた介入の考え方を知ることができる 3. 作業療法の理論的枠組みを持った上で障害を理解することができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>建木健</p> <p>第7～21回までPBLで実施する。</p> <p>第1回 身体障害とは、制度、障害の捉え方、障害受容</p> <p>第2回 トップダウンアプローチとは</p> <p>第3回 ボトムアップアプローチとは</p> <p>第4回 ICFの活用</p> <p>第5回 頭部外傷の基礎知識①参加の制約</p> <p>第6回 頭部外傷の基礎知識②活動の制限</p> <p>第7回 事例検討</p> <p>第8回 事例検討</p> <p>第9回 事例検討</p> <p>第10回 事例検討</p> <p>第11回 事例検討</p> <p>第12回 事例検討</p> <p>第13回 事例検討</p> <p>第14回 事例検討</p> <p>第15回 事例検討</p> <p>第16回 事例検討 進捗状況 発表</p> <p>第17回 事例検討 進捗状況 発表</p> <p>第18回 事例検討</p> <p>第19回 事例検討</p> <p>第20回 事例検討</p> <p>第21回 事例検討</p> <p>第22回 事例検討</p> <p>第23回 フィードバック</p> <p>第24回 中間確認テスト</p> <p>第25回 振り返り（脳血管障害についてのまとめ）</p> <p>第26回 パーキンソン病の基礎知識①参加の制約、活動の制限</p> <p>第27回 パーキンソン病の基礎知識②機能障害</p> <p>第28回 神経・筋疾患の基礎知識①参加の制限、活動の制約、機能障害</p> <p>第29回 がん、廃用症候群</p> <p>第30回 全体の補足</p>

アクティブラーニング	第7～22回までPBLで実施する
評価方法	ポートフォリオ60%（まとめ、自己学修を含む）及び中間確認テスト40%で判断する。 ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認します。
課題に対するフィードバック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックをしていきます。 振り返り表及びポートフォリオ返却時にフィードバックを行う。 また、中間確認テストについては解答を配布する。
指定図書	菅原洋子 編「作業療法学全書：作業治療学1 身体障害」 石川齊，古川宏 編「作業療法技術ガイド」文光堂 齋藤佑季編「作業で語る事例報告作業療法レジメの書きかた・考えかた」
事前・事後学修	グループごとに自ら課題を設定していくこととなりますので、書籍及び文献等で調べてください。事前・事後学修各回最低40分とする。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（ken-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	運動器系作業療法学
科目責任者	中島ともみ
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 4セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	<p>①整形疾患領域の作業療法：骨折、腱損傷、末梢神経損傷、脊髄損傷、リウマチ、義肢装具 熱傷</p> <p>②内部障害の作業療法：腎疾患</p> <p>①・②について、リスク管理を踏まえたうえで、作業療法の評価から作業療法を実施する為の知識・技術・態度について学ぶ。</p>
到達目標	疾患の特性の理解し、評価から作業療法の実践につなげる過程を述べる事ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1～6回：骨折（肩・肘・手・手指、物理療法も含む）・熱傷 拘縮、可動域制限のアプローチ、CRPS Type I・II</p> <p>第7～12回：末梢神経損傷（正中神経・尺骨神経・橈骨神経） 変形予防、知覚のリハビリテーション</p> <p>第13～14回：腱損傷 早期運動療法を含む</p> <p>第15～16回：脊髄損傷 回復過程に合わせたアプローチの原則</p> <p>第17～22回：リウマチ 変形予防と関節保護の動作指導</p> <p>第23～28回：義肢装具 適用・チェックアウトとリハビリテーション</p> <p>第29：腎疾患 リスク管理と疾病に即した作業療法</p> <p>第30：熱傷 リスク管理と疾病に即した作業療法</p> <p><担当教員名></p> <p>スプリント作成回のみ、奥村修也。その他は、中島ともみ。</p>
アクティブラーニング	PBL

評価方法	<p>レポート 50% 定期試験 50%</p> <p>ポートフォリオの評価の視点>要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど使い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。</p> <p>PBL レポート>臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。</p>
課題に対するフィードバック	<p>ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却</p>
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・菅原 洋子（著、編集） 社団法人 日本作業療法士協会（監修） 作業療法学全書 作業治療学身体障害 協同医書出版 ・石川齊・古川宏（編集）「作業療法技術ガイド」 ・古川 宏（編集） 日本作業療法士協会（監修） 作業療法学全書 義肢装具学 協同医書出版
事前・事後学修	<p>40分～80分</p> <p>整形疾患の回前に、筋肉の起始停止、神経支配を理解しておく事。各疾患別の作業療法では、疾患の病理学を見直しておく事。講義後は、学習内容をポートフォリオにまとめる事。</p> <p>以下は、参考とするとよいと考えられる図書。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上羽康夫「手その機能と解剖」金芳堂 ・中村耕三 等訳「新・徒手筋力検査法 第8版」 協同医書出版 ・古川 宏（編集） 作業療法のとらえかた 文光堂 ・齋藤 慶一郎（編纂）ハンドセラピー（リハ実践テクニック）メジカルビュー社
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。</p> <p>上記以外でもメール(tomomi-n@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	日常生活活動技術学
科目責任者	中島ともみ
単位数他	1 単位数 (30 時間数) 作業必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	基本的日常生活における作業の遂行方法を、疾患特有の機能障害、活動の特性をふまえた視点で評価し、作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する。 福祉用具・住宅改装など環境調整の手段を学ぶ。
到達目標	①ADLとは何かを述べる事ができる。 ②ADL評価方法を述べる事ができる。 ③ADLの作業療法（直接的アプローチ・間接的アプローチ）を述べる事ができる。 ④ADLの指導方法を述べる事ができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ADLの定義と評価方法 第 2～5 回：起居 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ（環境調整） 第 6～9 回：座位 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ（環境調整） 第 10～13 回：食事 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ（環境調整） 第 14～15 回：移乗 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応
アクティブラーニング	動作分析はグループワークでの学修を基本とする。
評価方法	レポート 50% 定期試験 50% ポートフォリオの評価の視点>要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど使い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。 PBL レポート>臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	生田宗博 「ADL 作業療法の戦略・戦術・技術」 三輪書店

事前・ 事後学修	40分～80分 動作分析を行う前に、筋肉の起始停止、運動を理解しておく事。講義後に、学習内容をポートフォリオにまとめる事。 以下は、参考とするとよいと考えられる図書。 ・伊藤利之 「ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際」医学書院
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (tomomi-n@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	日常生活活動技術学実習
科目責任者	中島ともみ
単位数他	1単位数(45時間) 作業必修 5セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	日常生活における作業の遂行方法を、疾患特有の機能障害、活動の特性をふまえた視点で評価し、作業療法アプローチを組み立てる方法を理解する。福祉用具・住宅改装など環境調整の手段を学ぶ。
到達目標	①ADL・IADL 評価方法を述べる事ができる。 ②ADL・IADL の作業療法(直接的アプローチ・間接的アプローチ)を述べる事ができる。 ③ADL・IADL の指導方法を述べる事ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>中島ともみ</p> <p>第1～2回：移動 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第3～6回：更衣・入浴 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第7回：ポジショニング 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第8～9回：利き手交換 動作分析と直接的アプローチ間 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応</p> <p>第10回：義肢の使用と調整</p> <p>第11～12回：FIM FIMの採点基準</p> <p>第13～18回： 内部疾患 動作分析と直接的アプローチ 間接的アプローチ移動に必要な福祉用具の選択と適応 吸引喀痰の技術習得も含む</p> <p>第19～23回：住宅改修 頸髄損傷 リウマチ 頸部骨折</p>
アクティブラーニング	動作分析はグループワークでの学修を基本とする。 住宅改修ではPBLを用いる
評価方法	レポート 50% 定期試験 50% ポートフォリオの評価の視点>要点をまとめ、箇条書きにする事。色ペンなど使い、重要事項が一目でわかるようにまとめる事。講義内容が反映されていること。インデックスが貼られ、目次が作成してあること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。 PBLレポート>臨床推論のエビデンスが、図表を用いて述べられていること。参考文献が適切に用いられていること。講義内容が反映されていること。

課題に対するフィードバック	ポートフォリオ・レポートへのコメントと返却
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・生田宗博 「ADL 作業療法の戦略・戦術・技術」三輪書店 ・菅原 洋子（著、編集） 社団法人 日本作業療法士協会（監修） 作業療法学全書 作業治療学身体障害 協同医書出版
事前・事後学修	<p>40分～80分 動作分析を行う前に、筋肉の起始停止、運動を理解しておく事。講義後に、学習内容をポートフォリオにまとめる事。</p> <p>以下は、参考とするとよいと考えられる図書。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤利之 「ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際」医学書院
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール(tomomi-n@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	高次脳機能障害学
科目責任者	建木 健
単位数他	2 単位 (60 時間) 作業必修 3 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	社会的問題としてとりあげられることが多くなった高次脳機能障害について学修を進めていきます。外見ではわかりづらい高次脳機能障害を、視聴覚教材や演習を用いて授業を進めていきます。また、中枢神経機能に関連する構造および高次脳機能の検査測定法について基礎的な理論と知識技術を学修する。さらに、高次脳機能障害者の取り巻く社会資源や環境についても学修する。
到達目標	1. 高次脳機能障害の症状について一般の人に対して説明することができる。 2. 高次脳機能障害の検査測定が学生同士で実施できる。 3. 高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について家族に説明することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>建木健</p> <p>講義及び演習を通して以下の内容を学修する、</p> <p>第1回 脳の構造を理解する(画像の見方・高次脳機能障害とは)</p> <p>第2回 高次脳機能障害者の置かれている環境・資源</p> <p>第3回 注意障害について</p> <p>第4回 注意障害について</p> <p>第5回 記憶障害について</p> <p>第6回 記憶障害について</p> <p>第7回 遂行機能障害について</p> <p>第8回 遂行機能障害について</p> <p>第9回 失行・行為・行動の障害を理解する</p> <p>第10回 失行・行為・行動の障害を理解する</p> <p>第11回 失認と視空間認知の障害を理解する</p> <p>第12回 失認と視空間認知の障害を理解する</p> <p>第13回 失語・失読・失書を理解する</p> <p>第14回 中間確認テスト</p> <p>第15回 評価方法の学修(演習)</p> <p>第16回 評価方法の学修(演習)</p> <p>第17回 評価方法の学修(演習)</p> <p>第18回 評価方法の学修(演習)</p> <p>第19回 評価方法の学修(演習)</p> <p>第20回 評価方法の学修(演習)</p> <p>第21回 事例演習</p> <p>第22回 事例演習</p> <p>第23回 事例演習</p> <p>第24回 事例演習</p> <p>第25回 事例演習</p> <p>第26回 社会的行動障害を理解する</p> <p>第27回 社会的行動障害を理解する</p> <p>第28回 高次脳機能障害を持つ方の生活を理解する(グループワーク)</p> <p>ゲストスピーカー NPO 法人高次脳機能障害サポートネットしずおか 滝川八千代</p> <p>第29回 ゲストスピーカーの話からディベート</p> <p>第30回 高次脳機能障害者を取り巻く社会資源について理解する</p> <p>※達成度の確認には、ルーブリックを用いる</p>

アクティブラーニング	第1～13回までPBLで実施します。15回～25回までは演習となります。
評価方法	ポートフォリオ60%（授業参加、まとめ、自己学修を含む）及び中間確認テスト40%で判断する。ポートフォリオ回収時に事前・事後学修について頻度及び時間を確認します。
課題に対するフィードバック	授業中に各グループを教員が巡回し課題へのヒントまたはフィードバックをしていきます。 振り返り表及びポートフォリオ返却時にフィードバックを行う。 また、中間確認テストについては解答を配布する。
指定図書	作業療法治療学5 高次脳機能障害 作業療法全書, 協同医書出版 和田義明「やさしくわかる高次脳機能障害」秀和システム
事前・事後学修	グループごとに自ら課題を設定していくこととなりますので、書籍及び文献等で調べてください。調べるにあたり以下の参考図書が活用できます。事前・事後学修各回最低40分とする。 石合純夫「高次脳機能障害学」医歯薬出版 日本作業療法士協会「作業療法マニュアル身体障害（I）」日本作業療法士協会 山鳥重, 早川裕子, 博野信次他「高次脳機能障害マエストロシリーズ①」医歯薬出版 鈴木孝治, 早川裕子, 種村留美他「高次脳機能障害マエストロシリーズ③」医歯薬出版 森惟明, 鶴見隆正「PT・OTのための脳画像のみかたと神経所見」医学書院 本田哲三「高次機能障害のリハビリテーション」医学書院
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（ken-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

アクティブラーニング	テーマの内容を深めるために、グループ学修や問題基盤型学習（Problem Based Learning : PBL)を行います。
評価方法	定期試験（60%）、レポート（20%）、ポートフォリオ内容（20%）
課題に対するフィードバック	筆記試験の終了後には個別に解説を行います。 授業最終日に、個別でポートフォリオ面接を実施し学修内容の確認とレポート返却をします。
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 山根寛：精神障害と作業療法 第3版. 三輪書店 2. 日本作業療法士協会：作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業療法治療学2 精神障害. 協同医書出版社 3. 朝田隆、中島直、堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法. 中央法規 4. 精神科ポケット辞典. 弘文堂
事前・事後学修	事前・事後学習は40分を目安とします。事前学習ではテキストの該当箇所を目を通しておいて下さい。事後学習では、授業で示された内容のポイントを確認し、日にちが経ってもその情報にたどり着けるように工夫して下さい。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3501 研究室もしくは学部長室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (naohito-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	精神領域作業療法学の応用																																
科目責任者	藤田 さより																																
単位数他	1 単位(30 時間) 作業必修 5 セメスター																																
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																
科目概要	小グループによる PBL チュートリアル、講義、演習を通じ、精神障害作業療法の主対象となる精神疾患の特徴について理解し、それに起因する生活障害の特性と具体的な作業療法アプローチについて学習する。関連理論や作業活動を軸とする作業療法の視点をいかに治療・援助に活かすのか詳細に検討する。																																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の基礎知識と疾患に伴う生活への影響について説明できる ・作業療法の基本プロセスについて説明できる ・精神系作業療法における評価（症状尺度、社会生活評価尺度等）について説明できる。 																																
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;"></th> <th style="width: 30%; text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL②</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：PBL 発表、重要精神疾患 2 の作業療法について解説</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：精神障害作業療法の評価総論-1</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS, GAF, POMS など）</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：観察法の講義と演習</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：作業面接の講義と演習</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：作業面接の講義と演習-</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：社会機能尺度について演習と講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：社会機能尺度について演習と講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：重要精神疾患 3 の作業療法について講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより、新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：実践家と当事者による講義 1</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：実践家と当事者による講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：面接法と授業のまとめ</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> </tbody> </table> <p>※重要精神疾患は、PBL の効果を高めるため授業が進むにつれ明らかにする。</p>		＜担当教員名＞	第 1 回：オリエンテーション、重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①	藤田さより	第 2 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①	藤田さより、新宮尚人	第 3 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL②	藤田さより、新宮尚人	第 4 回：PBL 発表、重要精神疾患 2 の作業療法について解説	藤田さより、新宮尚人	第 5 回：精神障害作業療法の評価総論-1	藤田さより、新宮尚人	第 6 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS, GAF, POMS など）	藤田さより	第 7 回：観察法の講義と演習	藤田さより	第 8 回：作業面接の講義と演習	藤田さより	第 9 回：作業面接の講義と演習-	藤田さより	第 10 回：社会機能尺度について演習と講義	藤田さより	第 11 回：社会機能尺度について演習と講義	藤田さより	第 12 回：重要精神疾患 3 の作業療法について講義	藤田さより、新宮尚人	第 13 回：実践家と当事者による講義 1	藤田さより	第 14 回：実践家と当事者による講義	藤田さより	第 15 回：面接法と授業のまとめ	藤田さより
	＜担当教員名＞																																
第 1 回：オリエンテーション、重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①	藤田さより																																
第 2 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL①	藤田さより、新宮尚人																																
第 3 回：重要精神疾患 2 の作業療法について PBL②	藤田さより、新宮尚人																																
第 4 回：PBL 発表、重要精神疾患 2 の作業療法について解説	藤田さより、新宮尚人																																
第 5 回：精神障害作業療法の評価総論-1	藤田さより、新宮尚人																																
第 6 回：検査法の講義と演習①精神機能尺度（PANSS, GAF, POMS など）	藤田さより																																
第 7 回：観察法の講義と演習	藤田さより																																
第 8 回：作業面接の講義と演習	藤田さより																																
第 9 回：作業面接の講義と演習-	藤田さより																																
第 10 回：社会機能尺度について演習と講義	藤田さより																																
第 11 回：社会機能尺度について演習と講義	藤田さより																																
第 12 回：重要精神疾患 3 の作業療法について講義	藤田さより、新宮尚人																																
第 13 回：実践家と当事者による講義 1	藤田さより																																
第 14 回：実践家と当事者による講義	藤田さより																																
第 15 回：面接法と授業のまとめ	藤田さより																																
アクティブラーニング	PBL・演習を行います。																																
評価方法	レポート 60% 定期テスト 40%																																
課題に対するフィードバック	フィードバックペーパーに書かれた質問等は次回の講義で解説・返答致します。レポートに関してはコメントを書いて返却致します。テストの結果についてはお知らせ致します。																																

指定図書	<p>山根寛：精神障害と作業療法 第3版. 三輪書店 日本作業療法士協会：作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業療法治療学2 精神障害. 協同医書出版社 朝田隆、中島直、堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法. 中央法規</p>
事前・事後学修	<p>さまざまな精神疾患について学びます。各疾患の該当する箇所を事前事後で教科書を熟読すること。また各評価法に関しては同じ評価を用いた実践例が掲載されている事前事後に読んで重要なポイントをおさえておくこと（事前事後毎回40分）</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（sayori-f@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	発達領域作業療法学の基礎
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業必修 4 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発達障がい領域における作業療法について、基本的概念を学習する。具体的には、① 定型的発達過程を復習する。② 発達障がい領域における対象疾患について学習する。
到達目標	(1) 発達障がい領域における作業療法について説明できる。 (2) 新生児から 1 歳頃までの定型的発達過程と原始反射について説明できる。 (3) 発達障がい領域における対象疾患について簡単に説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>伊藤 信寿</p> <p>第 1 回：発達障がい領域における作業療法</p> <p>第 2 回：原始反射について</p> <p>第 3 回：定型発達過程について</p> <p>第 4 回：定型発達過程について</p> <p>第 5 回：脳性まひについて</p> <p>第 6 回：重症心身障害について</p> <p>第 7 回：知的発達障害について</p> <p>第 8 回：自閉症スペクトラムについて</p> <p>第 9 回：学習障害について</p> <p>第 10 回：注意欠如・多動性障害について</p> <p>第 11 回：進行性筋ジストロフィーについて</p> <p>第 12 回：骨関節疾患について</p> <p>第 13 回：二分脊椎について</p> <p>第 14 回：高次脳機能障害について</p> <p>第 15 回：まとめ</p>
アクティブラーニング	事前課題について、授業の中で学生同士が説明を行い、理解を深める（ピアインストラクション）
評価方法	定期試験（50%）、事前課題（30%）、小テスト（20%）

課題に対するフィードバック	小テストに対しフィードバックを行う
指定図書	福田恵美子 編集 標準作業療法学専門分野「発達過程作業療法学」 医学書院
事前・事後学修	事前学修：各自事前に課題を出す 事後学修：小テストを実施する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	発達領域作業療法学の応用
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	2 単位 (60 時間) 作業必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	発達障がい領域における作業療法実践について学習する。具体的には、①疾患や障害に特有の適切な評価に必要とされる知識と検査の実施方法について学習する。さらに、評価結果を解釈し、総合的な視点から問題点を抽出し、適切な目標設定、作業療法プログラム立案までの過程を学習する。
到達目標	(1)発達障がい領域における評価の目的、種類、およびその手順を説明できる。 (2)発達障がい領域でよく用いられる検査のいくつかを行うことができる。 (3)評価結果から解釈、問題点抽出、目標設定、作業療法プログラムを立案することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>伊藤 信寿</p> <p>第 1 回 発達障がい領域における作業療法の実践</p> <p>第 2 回 発達障がい領域における評価について</p> <p>第 3 回 発達障がい領域における評価について</p> <p>第 4 回 発達障がい領域における評価について</p> <p>第 5 回 動作分析</p> <p>第 6 回 動作分析</p> <p>第 7 回 主に脳性麻痺に対する OT プログラムの立案</p> <p>第 8 回 主に脳性麻痺に対する OT プログラムの立案</p> <p>第 9 回 主に脳性麻痺に対する OT プログラムの立案</p> <p>第 10 回 発達障がい領域における主な治療理論</p> <p>第 11 回 発達障がい領域における主な治療理論</p> <p>第 12 回 発達障害に対する OT プログラムの立案</p> <p>第 13 回 発達障害に対する OT プログラムの立案</p> <p>第 14 回 発達障害に対する OT プログラムの立案</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p>授業計画：各回 80 分×2 コマ</p>

アクティブラーニング	事前課題について、授業の中で学生同士が説明を行い、理解を深める（ピアインストラクション）. 実際に体験しながら学修する. グループワークを行う.
評価方法	定期試験（60%）、事前課題（20%）、小テスト（20%）
課題に対するフィードバック	小テストに対しフィードバックを行う
指定図書	福田恵美子 編集 標準作業療法学専門分野「発達過程作業療法学」 医学書院
事前・事後学修	事前学修：各自事前に課題を出す 事後学修：小テストを実施する
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	老年期作業療法学
科目責任者	田島明子
単位数他	2単位(60時間) 作業必修 4セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	老化(生理的変化)について理解し、またそれに伴う障害(低栄養、転倒、拘縮、褥瘡、寝たきり)についての関連性を理解すると共に、対象者への作業療法の展開を学習する。また、高齢者を取り巻く、社会問題や制度を含め高齢者が抱える問題と高齢者自身のQOL及び健康観について学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的特徴を理解し、説明ができる。 2. 高齢者の心理的特徴を理解し、説明ができる。 3. 高齢者への作業療法の介入を理解し、説明ができる。 4. 高齢者を取り巻く社会的背景を理解し、説明ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等><担当教員名>田島明子、鈴木達也(第22回、第23回を担当)</p> <p>第1回: オリエンテーション</p> <p>第2回: 高齢期の身体機能・運動機能の変化</p> <p>第3回: 高齢期の感覚・認知機能の変化</p> <p>第4回: 高齢期の精神機能の変化</p> <p>第5回: 低栄養、転倒、拘縮、褥瘡、寝たきりについて</p> <p>第6回: 高齢期の疾患特徴</p> <p>第7回: 高齢期の疾患特徴</p> <p>第8回: 認知症の人に対する理解と作業療法(説明+PBL)</p> <p>第9回: 認知症の人に対する理解と作業療法(PBL)</p> <p>第10回: 認知症の人に対する理解と作業療法(PBL)</p> <p>第11回: 認知症の人に対する理解と作業療法(PBL)</p> <p>第12回: 認知症の人に対する理解と作業療法(PBL)</p> <p>第13回: 認知症の人に対する理解と作業療法(PBL)</p> <p>第14回: 認知症の人に対する理解と作業療法(PBL)</p> <p>第15回: 認知症の人に対する理解と作業療法(発表)</p> <p>第16回: これまでの復習、補足等</p> <p>第17回: 入所・在宅における作業療法の役割について</p> <p>第18回: 回想法・バリデーション</p> <p>第19回: 高齢者と家族</p> <p>第20回: 高齢者と家族(高齢者虐待の問題など)</p> <p>第21回: 終末期リハビリテーション</p> <p>第22回: 集団作業療法 演習</p> <p>第23回: 集団作業療法 演習</p> <p>第24回: 形態別作業療法とチームアプローチ</p> <p>第25回: 映画から認知症の人との関わり方を学ぶ</p> <p>第26回: 高齢者支援を具体的に考える(グループワーク)</p> <p>第27回: 高齢者支援を具体的に考える(グループワーク)</p> <p>第28回: 高齢者支援を具体的に考える(グループワーク)</p> <p>第29回: 高齢者支援を具体的に考える(グループワーク)</p> <p>第30回: 発表及びまとめ</p> <p>授業時間により内容が変更になることがある</p>

アクティブラーニング	PBL やグループワークの機会を多く持ちます。積極的・主体的にグループワークに臨み、自ら調べ、考え、問題解決をしていく学修機会を持って下さい。
評価方法	レポート 20%、定期試験 80%
課題に対するフィードバック	適宜、小テスト、ポートフォリオの確認を行い、学修の理解度、習得度を確認していく。必要に応じて、学修を進めるためのアドバイスを行う。
指定図書	村田和香 編集「作業療法治療学 4 老年期」作業療法全書，協同医書出版
事前・事後学修	各講義ごとにレジュメを配布し、教科書での該当箇所を言いますので、必ず確認をすること。認知症の作業療法については PBL で行いますので、主体的・積極的な事前事後学修を期待します。PBL 後に知識の確認のために事後学修となる講義を行います。そこで主体的な学びにおける知識の確認、定着をはかってください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については，初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（akiko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。

科目名	作業療法学内総合実習
科目責任者	鈴木達也
単位数他	1単位（45時間） 作業必修 6セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	これまでに学んだ作業療法の学習を踏まえて、演習協力者に対して面接、観察、検査測定、評価のまとめ、原因の明確化、作業療法プログラムの立案といった一連の作業療法の流れを行う。作業療法の介入方法について学習する施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
到達目標	1. 作業療法介入のリーズニングについて説明できる 2. 作業療法の介入理論について選択できる 3. 対象者の状態をこれまでに学んだ評価を用いて理解できる 4. 評価結果を基に対象者のニーズに適したプログラムを立案できる
授業計画	<p>担当教員：鈴木達也、新宮尚人、伊藤信寿、田島明子、泉良太、建木健、藤田さより、中島ともみ <授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション <担当：鈴木> 第2回：OTIPM（作業療法介入プロセスモデル）作業療法の面接法 <担当：鈴木> 第3回：学内演習1（面接） <担当：全教員> 第4回：学内演習1（面接） <担当：全教員> 第5回：学内演習1（面接） <担当：全教員> 第6回：作業遂行分析の視点とAMPS <担当：鈴木> 第7回：作業遂行分析の視点とAMPS <担当：鈴木> 第8回：クリニカルリーズニングと理論選択 <担当：鈴木> 第9回：クリニカルリーズニングと理論選択 <担当：鈴木> 第10回：学内演習2（作業遂行観察と評価） <担当：全教員> 第11回：学内演習2（作業遂行観察と評価） <担当：全教員> 第12回：学内演習2（作業遂行観察と評価） <担当：全教員> 第13回：介入方法の選択とエビデンス <担当：鈴木> 第14回：介入方法の選択とエビデンス <担当：鈴木> 第15回：学内演習3（プログラム立案と介入） <担当：全教員> 第16回：学内演習3（プログラム立案と介入） <担当：全教員> 第17回：学内演習3（プログラム立案と介入） <担当：全教員> 第18回：評価結果の解釈 <担当：鈴木> 第19回：回復期リハ病棟の実践とマネジメント <担当：鈴木、特別講師> 第20回：事例報告のまとめかた <担当：全教員> 第21回：事例検討 <担当：全教員> 第22回：事例検討 <担当：全教員> 第23回：作業療法実践の実際 <担当：鈴木></p>
アクティブラーニング	グループワーク学習・学内実習 施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。
評価方法	レポート70%、ポートフォリオ30%

課題に対するフィードバック	レポート、リアクションペーパーのコメント・返却
指定図書	齋藤佑樹：作業で語る事例集, 医学書院
事前・事後学修	事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・ グループで相談し演習計画や評価の練習を行いましょう
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください.

科目名	老年期作業療法学演習	
科目責任者	鈴木達也	
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業選択 5 セメスター	
科目の位置付	DP(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	老年期領域の作業療法の実践に必要な技能を学び、高齢期領域に特徴的な疾病と病態、障害特性の関係を推論し、高齢者へ作業療法を実践する技能を経験し学びます、	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者に作業暦を含めた面接が行えるようになる ・ 高齢者と信頼関係と治療的な共同関係を気づくことができる ・ 高齢期領域で用いられる技法を知り、対象者の特性に合わせて実践する ・ 高齢者に適したプログラムを立案実践できる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション・高齢領域における実践</p> <p>第2回：高齢者への面接方法</p> <p>第3回：傾聴の技法、自己の治療的利用</p> <p>第4回：作業療法とナラティブストーリー</p> <p>第5回：作業療法と回想法</p> <p>第6回：作業療法とリアリティーオリエンテーション</p> <p>第7回：ストーリーテリングとストーリーメイキング1</p> <p>第8回：ストーリーテリングとストーリーメイキング2</p> <p>第9回：高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践</p> <p>第10回：高齢者施設の見学とコミュニケーションの実践</p> <p>第11回：集団作業療法の計画</p> <p>第12回：集団作業療法の計画</p> <p>第13回：高齢者の集団作業療法の実践</p> <p>第14回：高齢者の集団作業療法の実践</p> <p>第15回：施設実習報告とまとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木・建木></p> <p><担当：鈴木・建木></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木></p> <p><担当：鈴木・建木></p> <p><担当：鈴木・建木></p> <p><担当：鈴木></p>
アクティブラーニング	グループワーク、PBL、施設見学、演習・施設・病院などの課題解決に主体的に関与することを目的とした授業です。	
評価方法	定期試験 50% レポート 50%	
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーの返却、コメント	
指定図書	<p>事前学修時間 40 分、事後学修時間 40 分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学んだ評価法を復習しましょう ・ グループで相談し演習計画や評価の練習を行いましょう 	
事前・事後学修	<p>配付資料は事前に目を通し確認しておきましょう。</p> <p>講義後は配付資料と評価法を振り返り評価法の実践しましょう。</p>	
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室</p> <p>時間については、初回授業時に提示します。</p> <p>上記以外でもメール (tatsuya-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>	

科目名	精神領域作業療法学演習																																
科目責任者	藤田 さより																																
単位数他	1単位 (30時間) 作業選択 6セメスター																																
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																
科目概要	精神科作業療法に関連する評価について臨床事例をベースとしたシナリオに基づき実践的に学習する。評価に基づいて具体的に作業療法プログラムを立案し、最終的に臨床実習で応用できる技術の習得を目指す																																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業活動の特性を、作業療法の治療・援助に応用する視点について説明できる ・精神系作業療法におけるプログラム立案のポイントについて説明できる。 ・模擬的に作業療法プログラムを実践できる 																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></td> <td style="text-align: right;"><担当教員名></td> </tr> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、プログラム計画立案</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：プログラム計画立案</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：プログラムの計画発表・準備</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：プログラム計画準備</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 5 回： 集団の利用</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：プログラム立案演習①</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：プログラム立案演習②</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：プログラム立案演習③</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：プログラム立案演習④</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：プログラム立案演習⑤</td> <td style="text-align: right;">藤田さより・新宮尚人</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：生活技能訓練 (SST) について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：生活技能訓練 (SST) について</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：重要疾患 4 について講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：臨床実習に関する講義</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：授業のまとめ</td> <td style="text-align: right;">藤田さより</td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回：オリエンテーション、プログラム計画立案	藤田さより	第 2 回：プログラム計画立案	藤田さより	第 3 回：プログラムの計画発表・準備	藤田さより	第 4 回：プログラム計画準備	藤田さより	第 5 回： 集団の利用	藤田さより	第 6 回：プログラム立案演習①	藤田さより・新宮尚人	第 7 回：プログラム立案演習②	藤田さより・新宮尚人	第 8 回：プログラム立案演習③	藤田さより・新宮尚人	第 9 回：プログラム立案演習④	藤田さより・新宮尚人	第 10 回：プログラム立案演習⑤	藤田さより・新宮尚人	第 11 回：生活技能訓練 (SST) について	藤田さより	第 12 回：生活技能訓練 (SST) について	藤田さより	第 13 回：重要疾患 4 について講義	藤田さより	第 14 回：臨床実習に関する講義	藤田さより	第 15 回：授業のまとめ	藤田さより
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第 1 回：オリエンテーション、プログラム計画立案	藤田さより																																
第 2 回：プログラム計画立案	藤田さより																																
第 3 回：プログラムの計画発表・準備	藤田さより																																
第 4 回：プログラム計画準備	藤田さより																																
第 5 回： 集団の利用	藤田さより																																
第 6 回：プログラム立案演習①	藤田さより・新宮尚人																																
第 7 回：プログラム立案演習②	藤田さより・新宮尚人																																
第 8 回：プログラム立案演習③	藤田さより・新宮尚人																																
第 9 回：プログラム立案演習④	藤田さより・新宮尚人																																
第 10 回：プログラム立案演習⑤	藤田さより・新宮尚人																																
第 11 回：生活技能訓練 (SST) について	藤田さより																																
第 12 回：生活技能訓練 (SST) について	藤田さより																																
第 13 回：重要疾患 4 について講義	藤田さより																																
第 14 回：臨床実習に関する講義	藤田さより																																
第 15 回：授業のまとめ	藤田さより																																
アクティブラーニング	この科目はPBLと演習を行います。																																
評価方法	レポート 100%																																
課題に対するフィードバック	毎回のフィードバックペーパーに書かれた内容について次回の講義で回答致します。レポートの内容には評価・コメントをつけて返却致します。																																
指定図書	山根寛：精神障害と作業療法. 三輪書店 山根寛他：ひとと集団・場・集まり、集めることの利用-. 三輪書店																																
事前・事後学修	精神障害領域の作業療法では集団作業療法が多く実践されます。そのためこの授業では主に集団作業療法を企画、実践したいと思いますので、集団についての要点および集団作業療法に関する実践例等の文献を事前・事後に読むようにしてください【事前事後学修 40分】																																
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。																																

科目名	発達領域作業療法学演習
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業選択 5 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	近隣にある児童通所施設を利用している対象児に対して、評価、観察、解釈、作業療法プログラムを立案し、治療法の一部を実施する。施設等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。
到達目標	(1)対象児に対して評価を実施することができる。 (2)評価結果を解釈し問題点を抽出することができる。 (3)プログラムを立案し実施することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>伊藤 信寿</p> <p>第1回 オリエンテーション, 児童通所施設について</p> <p>第2回 児童通所施設に通園している子どもたちに対して評価の実施</p> <p>第3回 評価結果から問題点抽出, 目標設定, OT プログラムの立案</p> <p>第4回 児童通所施設に通園している子どもたちに対して OT 実践</p> <p>第5回 児童通所施設に通園している子どもたちに対して OT 実践</p> <p>第6回 児童通所施設に通園している子どもたちに対して OT 実践</p> <p>第7回 児童通所施設に通園している子どもたちに対して OT 実践</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>授業計画：各回 80 分×2 コマ</p>
アクティブラーニング	実際に子どもたちと触れ合い、学生同士でプログラムを立案、実施する
評価方法	レポート (50%), 実施に向けての取り組み方 (25%), 子どもとの接し方 (25%)
課題に対するフィードバック	評価の実施, プログラム立案, プログラム実施に対して, 毎回フィードバックを行う
指定図書	福田恵美子 編集 標準作業療法学専門分野「発達過程作業療法学」 医学書院

事前・ 事後学修	事前学修：実施に向けての準備をする 事後学修：振り返りを行う
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	地域作業療法学
科目責任者	田島明子
単位数他	2 単位 (30 時間) 作業必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	地域作業療法の基本的な考え方とライフステージに沿った、QOL の維持・向上を目指した作業療法の実際を学ぶ。作業療法実践に必要な法制度や作業療法実践を学ぶことで、作業療法対象者の全体像を捉えること、介入の方法・考え方を習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活するクライアントの QOL を支援するために必要な基本的考え方を知る。 ・ライフステージに沿った法制度や作業療法実践を理解する。 ・作業療法士として地域に貢献するために必要な基礎的知識を身に付ける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1 回：地域リハビリテーションの流れ-1 田島明子</p> <p>第2 回：地域リハビリテーションの流れ-1 田島明子</p> <p>第3 回：ライフステージに沿った浜松市における法制度 田島明子、特別講師：浜松市障害福祉職員</p> <p>第4 回：子どもの生活を支える作業療法-1 伊藤信寿</p> <p>第5 回：保育・療育・教育における作業療法-1 伊藤信寿</p> <p>第6 回：保育・療育・教育における作業療法-2 伊藤信寿</p> <p>第7 回：就労支援・職業・社会生活における作業療法（総論・制度）-1 建木健</p> <p>第8 回：就労支援・職業・社会生活における作業療法（総論・制度）-2 建木健</p> <p>第9 回：就労支援・職業・社会生活における作業療法（総論・制度）-3 建木健</p> <p>第10 回：病院と地域をつなぐ支援 田島明子、特別講師</p> <p>第11 回：病院と地域をつなぐ支援 田島明子、特別講師</p> <p>第12 回：当事者として地域で生きる-1 田島明子、特別講師</p> <p>第13 回：当事者として地域で生きる-2 田島明子、特別講師</p> <p>第14 回：高齢者と地域作業療法-1 田島明子</p> <p>第15 回：高齢者と地域作業療法-2 田島明子</p> <p>※講義内容は変更の可能性があります。 ※グループワークを行うことがあります。</p>
アクティブラーニング	ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を沢山持ちましょう。また、特別講師を招いた授業では、実践的、体験的な内容を学ぶため、質問を行うなど積極的に学んでください。
評価方法	定期試験 70% レポート 30%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーを用いて学修への関心や進行状況を確認していく。必要に応じて遂行のためのアドバイスを行う。

指定図書	太田睦美 編集 「作業療法学全書 改訂第3版 第13巻 地域作業療法学」 協同医書出版
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤、建木、田島で主に講義を行います。各担当教員の指示に従ってください。 ・ボランティア活動などを通して障害を持たれた方の地域での生活に触れる機会を沢山持ちましょう。
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3515 研究室</p> <p>時間については、初回授業時に提示します。</p> <p>上記以外でもメール（akiko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。</p>

科目名	職業リハビリテーション学	
科目責任者	藤田 さより	
単位数他	2 単位 (30 時間) 作業必修 5 セメスター	
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。	
科目概要	地域作業療法の中で、近年、その活躍の場が広がりつつある職業関連活動を中心に、講義、演習を行います。また近隣地域での障害者に対する制度や取りくみや作業療法活動を調査し、作業療法士が地域で果たすべき役割、視点について理解します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業リハビリテーションに関する制度、支援を理解する。 2. 職業関連活動で用いる各種評価法について理解し、実践できる。 3. 障害者に対する就労支援において重要なポイントを理解できる。 4. 障害者に対する就労支援において作業療法士の果たすべき役割を理解できる。 5. 地域で生活する障害者に対する施策について理解できる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>担当教員：藤田さより 建木健 田島明子</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 地域における課題（講義）</p> <p>第 2 回：就労支援における作業療法の役割（PBL）</p> <p>第 3 回：就労支援における作業療法の役割（PBL）</p> <p>第 4 回：就労支援における作業療法の役割（PBL）</p> <p>第 5 回：就労支援における作業療法の役割（PBL）</p> <p>第 6 回：障害者特性に応じた就労支援の実際</p> <p>第 7 回：障害者特性に応じた就労支援の実際</p> <p>第 8 回：障害者特性に応じた就労支援の実際</p> <p>第 9 回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）</p> <p>第 10 回：職業関連活動で用いる各種評価について（講義と実践）</p> <p>第 11 回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（PBL）</p> <p>第 12 回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）</p> <p>第 13 回：地域のニーズに応える作業療法の可能性（講義）</p> <p>第 14 回：障害者に対する地域支援のあり方（講義）</p> <p>第 15 回：まとめ（講義）</p>	<p><担当教員名></p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>建木健</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>藤田さより</p> <p>建木健・藤田さより</p> <p>建木健</p> <p>藤田さより</p> <p>田島明子</p> <p>藤田さより</p>
アクティブラーニング	PBL を行います。	
評価方法	レポート 100%	
課題に対するフィードバック	フィードバックペーパーに記載いただいた内容について、次回の授業時に回答、解説等を致します。レポートには、評価、コメントを記載し、返却致します。	

指定図書	平賀昭信, 岩瀬義昭編集『作業療法学全書改訂第3版 職業関連活動』協同医書出版社
事前・事後学修	各種障害に応じた就労支援のあり方について学びますので、精神障害、知的障害、高次脳障害、発達障害についての障害特性について事前事後に学修してください。また就労支援に関する法制度に関しては、関連するホームページを閲覧するようにしてください。(毎回事前事後40分)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	臨床作業療法基礎実習
科目責任者	建木 健
単位数他	1 単位数 (45 時間) 作業必修 1 セメスター
科目の位置付	DP(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	作業療法の実践現場（病院や施設）にて 5 日間の見学を中心とした実習を行います。実践現場で作業療法士の行っていることを見学し、対象者とのコミュニケーションを通じて、作業療法のイメージを具体化する機会となります。また各自が今後作業療法士になるために必要な知識、学習、介入や対人交流技能等の課題に気づき、課題の克服に取り組むための 4 年間の学習の動機づけとします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士を目指す学生にふさわしい基本的な態度や行動をとることができる。 2. 作業療法士の仕事内容と役割について、概要を説明することができる。 3. 作業療法士の働く各種施設や対象者について、概要を説明することができる。 4. 実習初日に指導を受けたことについて、最終日までに改善に取り組む。
授業計画	<p><担当教員名> 建木健、鈴木達也、藤田さより、中島ともみ</p> <p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内オリエンテーション 建木・鈴木・藤田・中島 実習前学内オリエンテーションは 7 月と 8 月の 2 回を予定 2. 実習施設における臨床実習 建木・鈴木・藤田・中島 体験実習時期は一人 5 日間 (9 月上旬に予定) 体験実習施設は未定。 3. 学内セミナー 建木・鈴木・藤田・中島 学内セミナーは実習終了から 10 月上旬までに開催を予定している <p>オリエンテーション、実習時期、実習施設・学内セミナーは追って連絡する</p> <p>学内オリエンテーション及び学内セミナーへの出席は必須。</p>
アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	実習先の評価 90%、レポート 10% 提出物の未提出や遅延により減点する。

課題に対するフィードバック	実習先指導者より、フィードバックを受ける
指定図書	なし
事前・事後学修	<p>事前学修：実習前に、実習先の特徴を調べておくこと。(10分)</p> <p>事後学修：実習期間中においては、自宅にてその日の振り返りを行いレポートしてまとめること。(30分)</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3511 研究室</p> <p>時間等：毎週水曜日 12時～13時。</p> <p>上記以外でもメール（ken-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	臨床作業療法評価実習
科目責任者	中島ともみ
単位数他	8単位 (360時間) 作業必修 6セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	<p>学内外で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、作業療法士としての自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習へ向けて準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下 8 週間作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、作業療法士として臨床現場で活用できる基盤をつくることの 3 本柱で構成される。なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	(1)職業人としての望ましい態度や行動をとる ことができる。(2)対象者の全体像を把握できる。(3)対象者の作業療法計画を立案できる。(4)記録・報告をすることができる。(5)管理・運営について理解することができる。
授業計画	<p><担当教員名> 中島ともみ、伊藤 信寿、泉 良太、田島明子、建木健、鈴木達也、藤田さより</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する</p> <p>2. 実習施設における臨床実習 1) 実習地オリエンテーション 2) 担当する対象者に対する作業療法 3) 担当外対象者の作業療法の補助、見学 4) 管理的組織的業務内容の見学・理解 5) 各実習地で提示される課題の遂行 6) その他</p> <p>3. 学内セミナー 1) 学んだことの整理 2) 担当事例（症例）および施設の報告 3) その他</p> <p>学内オリエンテーションは、第1回 8月上旬に実施予定 第2回 9月上旬に実施予定 第3回 9月下旬・10月中旬予定</p> <p>臨床実習時期は、10月下旬 学内セミナーは、1月上旬と下旬 臨床実習施設は未定、追って連絡する。 臨床実習指導者会議は9月第3土曜日実施予定</p>

アクティブラーニング	学内セミナーでは、グループワークを含む。
評価方法	臨床実習指導者による最終評価をもとに、学内セミナーにおける報告内容と報告書、およびポートフォリオの内容を考慮して、総合的に判断する。なお実習の成績評価は、実習中の教員訪問や電話などによる確認の中で、指導者・学生・教員の3者の協議も含めて判断する。 なお、症例報告の達成度の確認には、ルーブリックを用いる。
課題に対するフィードバック	学内セミナー、提出書類を基に担当教員が面接を行い、本実習の振り返りを行い、達成できた点、課題となった点を内省を促し、確認する
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
事前・事後学修	ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。 学内で学習するすべての科目のポートフォリオの作成、検査測定手法の復習を必ず行ってください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール(tomomi-n@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	臨床作業療法総合実習 I
科目責任者	泉 良太
単位数他	7 単位 (315 時間) 作業必修 7 セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習への準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下、7 週間の作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。</p> <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<p>臨床実習 I を踏まえ、さらに実践的な臨床能力を養うために 1 点目を最低限の目標とするが、2 点目についてもさらなる発展的な学習機会として経験を積むことが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 2. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。
授業計画	<p><科目担当教員> 泉良太、田島明子、伊藤信寿、建木健、藤田さより、鈴木達也、中島ともみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする。 2. 実習施設における臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習地オリエンテーション 2) 担当する対象者に対する作業療法 3) 担当外対象者の作業療法の補助、見学 4) 管理的組織的業務内容の見学・理解 5) 各実習地で提示される課題の遂行 6) その他 3. 学内セミナー <ol style="list-style-type: none"> 1) 学んだことの整理 2) 担当事例（症例）および施設の報告 3) その他 <p>・臨床実習 I の経験を踏まえ、十分な準備をして臨むこと。 ・実習中は、心身両面の自己管理が求められるので、健康管理に留意し作業療法士としての基本的な姿勢や技術、知識を習得すること。</p> <p>*達成度の確認には、ルーブリックを用いる。</p>

アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	実習指導者による最終評価 75% その他（症例報告書、セミナーでの報告、ポートフォリオ） 25% 計 100%
課題に対するフィードバック	実習指導者による中間・最終評価 教員による実習地訪問指導 学内セミナーでの指導（事例報告指導含む）
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）
事前・事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上 ・ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。 ・総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。

科目名	臨床作業療法総合実習Ⅱ
科目責任者	田島明子
単位数他	7単位(315時間) 作業必修 7セメスター
科目の位置付	DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	<p>学内で習得した作業療法に関する知識・技術の統合を図り、将来作業療法士として自立するための能力を養う総合的な実習である。</p> <p>具体的には、①臨床実習への準備すること、②それぞれの実習施設において、実習指導者の監督の下 7 週間作業療法を実施すること、③実習終了後の学内セミナーを通じて、臨床実習で学んだ知識や経験を整理し、将来作業療法士として臨床現場で活用できる基盤を作る。</p> <p>なお、作業療法の技術等の習得にとどまらず、人を支援する専門職としての基本的な姿勢を習得することも含まれる。</p>
到達目標	<p>臨床実習Ⅰ、Ⅱにおける内省を通して、指導者の指導のもと、以下の4点について模倣実施することを目標とする。</p> <p>(1)対象者に対し適切な評価を選択、実施し、目標設定することができる。</p> <p>(2)対象者に対し適切な治療・指導・援助を計画し、実施することができる。</p> <p>(3)作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直し、修正することができる。</p> <p>(4)記録・報告を適切に行うことができる。</p>
授業計画	<p>担当教員：田島明子、伊藤信寿、泉良太、建木健、鈴木達也、中島ともみ、藤田さより</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内オリエンテーション 臨床実習に臨むにあたっての準備をする 臨床実習指導者会議に出席する 実習施設における臨床実習 <ol style="list-style-type: none"> 実習地オリエンテーション 担当する対象者に対する作業療法 担当外対象者の作業療法の補助、見学 管理的組織的業務内容の見学・理解 各実習地で提示される課題の遂行 その他 学内セミナー <ol style="list-style-type: none"> 学んだことの整理 担当事例（症例）および施設の報告 その他
アクティブラーニング	Ⅱ期終了後、Ⅲ期実習までに2週間の期間があるので、その間にⅡ期の振り返りを踏まえ、課題となった点を整理し、Ⅲ期実習に向けた知識・技術確認などの準備を行うことが求められる。
評価方法	臨床実習指導者による最終評価 75% その他（学内セミナーにおける報告、症例報告書、ポートフォリオ） 25%
課題に対するフィードバック	学内セミナー、提出書類を基に担当教員が面接を行い、本実習の振り返りを行い、達成できた点、課題となった点の内省を促し、確認する。
指定図書	臨床実習ガイドブック（最新版）

事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none">・ボランティアへの参加等を通して、円滑なコミュニケーションが取れるよう経験を積んでおいてください。・総合的な学習の場となるため、学内で学習したすべての科目の復習を必ず行ってください。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間等：毎週水曜日 13時～14時（他の時間でもアポを取って頂けば大丈夫です）

科目名	臨床マネジメント論																		
科目責任者	伊藤 信寿																		
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業必修 8 セメスター																		
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。																		
科目概要	<p>4 年間の総まとめとして、獲得した知識・技能の整理と統合をはかり不足している知識を補完する。また作業療法士として働くうえで必要な制度、組織、運営等について学び、臨床実践に備える。また、実習で作成したレポート等を活用し、MTDLP に関する理解を深める。</p> <p>さらに昨今の作業療法界においてトピックスになっている話題や、臨床現場で活躍されている実践を学び、今後の作業療法界を担っていく一員として必要な知識について学修する。</p> <p>2 年生や 3 年生の専門授業にサポート的に参加し、臨床実習等で獲得した知識や技能を後輩に教授する過程において再確認する。</p>																		
到達目標	<p>(1) 作業療法の実践に必要な制度、組織、管理・運営等を理解することができる。</p> <p>(2) 様々な分野における作業療法の実践を理解することができる。</p> <p>(3) MTDLP について理解し、概要を説明することができる。</p> <p>(4) 臨床実習等で獲得した知識や技能を後輩に教授することができる。</p>																		
授業計画	<p>担当教員：伊藤信寿，鈴木達也，建木健，中島ともみ</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回 オリエンテーション</td> <td style="text-align: right;">伊藤</td> </tr> <tr> <td>第 2, 3 回 特別講義：精神科領域における地域生活支援</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第 4, 5 回 特別講義：人間作業モデル</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第 6, 7 回 特別講義：介護老人保健施設における作業療法の実際と可能性</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第 8, 9 回 組織、管理運営について</td> <td style="text-align: right;">鈴木・建木</td> </tr> <tr> <td>第 10, 11 回 生活行為マネジメントについて（概論 2 コマ）</td> <td style="text-align: right;">ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第 12, 13 回 生活行為マネジメントについて（演習 2 コマ）</td> <td style="text-align: right;">建木、鈴木、中島</td> </tr> <tr> <td>第 14, 15 回 教育について</td> <td style="text-align: right;">鈴木・建木</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業計画：第 2 回から第 15 回までは、各回 80 分×2 コマで連続</p>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回 オリエンテーション	伊藤	第 2, 3 回 特別講義：精神科領域における地域生活支援	ゲストスピーカー	第 4, 5 回 特別講義：人間作業モデル	ゲストスピーカー	第 6, 7 回 特別講義：介護老人保健施設における作業療法の実際と可能性	ゲストスピーカー	第 8, 9 回 組織、管理運営について	鈴木・建木	第 10, 11 回 生活行為マネジメントについて（概論 2 コマ）	ゲストスピーカー	第 12, 13 回 生活行為マネジメントについて（演習 2 コマ）	建木、鈴木、中島	第 14, 15 回 教育について	鈴木・建木
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回 オリエンテーション	伊藤																		
第 2, 3 回 特別講義：精神科領域における地域生活支援	ゲストスピーカー																		
第 4, 5 回 特別講義：人間作業モデル	ゲストスピーカー																		
第 6, 7 回 特別講義：介護老人保健施設における作業療法の実際と可能性	ゲストスピーカー																		
第 8, 9 回 組織、管理運営について	鈴木・建木																		
第 10, 11 回 生活行為マネジメントについて（概論 2 コマ）	ゲストスピーカー																		
第 12, 13 回 生活行為マネジメントについて（演習 2 コマ）	建木、鈴木、中島																		
第 14, 15 回 教育について	鈴木・建木																		
アクティブラーニング	グループワークを行う																		
評価方法	各授業後におけるレポート（70%），リアクションペーパー（30%）																		

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの質問に対して解説する
指定図書	なし
事前・事後学修	事前学修：実習で学んだことを復習する 事後学修：授業で学んだことをまとめる
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール（nobuhisa-i@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	卒業研究
科目責任者	藤田 さより
単位数他	4単位（120時間） 作業必修 8セメスター
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	4年間の専門的な授業や臨床実習を通して、疑問に思ったことや調べたいことを研究テーマとして、その疑問を解決する研究方法を学習し実施する。各担当教員のもと、研究課題の立案、研究課題の立案、研究方法の確立・実施、研究課題の考察を深め、発表及び論文作成を行う。
到達目標	1. 研究疑問を明確にすることが出来る 2. 研究疑問に対して解決する方法を期日までに実施する事が出来る。 3. 研究結果をまとめることが出来る 4. 研究結果を発表する事が出来る
授業計画	<p><担当教員名> 鈴木達也、新宮尚人、宮前珠子、小田原悦子、伊藤信寿、田島明子、泉良太、藤田さより、建木健、中島ともみ</p> <p><授業内容・テーマ等> 前年度学生の卒業論文集を用いたクリティカルシンキング 研究疑問の設定 文献レビュー 研究目的と研究テーマの明確化 研究方法の決定 研究計画の作成 研究実施 研究分析 考察 論文執筆 発表用プレゼンテーションの作成 口頭発表（発表7分 質疑3分）</p> <p>卒業論文提出 11月9日（金）（予定） 卒業論文発表 11月15日（木）（予定） 1～3年生参加</p>
アクティブラーニング	グループ学修、ピアインストラクション、フィールドワーク等のいずれかをゼミ単位で実践
評価方法	研究論文 70%、研究への取り組み 20%、口頭発表 10% 指定図書
課題に対するフィードバック	研究への取り組み、発表内容に関しての指導教員からのコメントを行う

指定図書	鎌倉矩子・宮前珠子・清水 一：作業療法士のための研究法入門. 三輪書店, 東京, 1997
事前・ 事後学修	自らの関心領域に関する文献を収集し、熟読, 文献リストを作成すること (1本80分×文献10本以上)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間については, 初回授業時に提示します. 上記以外でもメール (sayori-f@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	言語聴覚障害学概論																																
科目責任者	柴本 勇																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 言語必修 1 セメスター																																
科目の位置付	DP (3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。																																
科目概要	コミュニケーションの意義、種類、過程を学修した上で、言語聴覚障害学の歴史、現状、展望および言語聴覚障害の概要を学ぶ。小グループによるグループワークを通じて、言語聴覚障害学の基礎を主体的に学ぶ。さらに職業倫理、他職種との協働活動や連携の重要性、職能団体の役割と活動参加の意義を学ぶ。また、言語聴覚障害や言語聴覚士の臨床像を理解した上で、臨床見学を実施する。臨床見学を通じて言語聴覚士の業務を理解する。																																
到達目標	1. コミュニケーションの意義、種類、過程が説明できる。 2. 言語聴覚障害学の歴史、言語聴覚療法の対象、言語聴覚療法の概要が説明できる。 3. 言語聴覚士の臨床が説明できる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション(講義・グループワーク)</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：言語聴覚障害と言語聴覚療法の歴史</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：グループワーク①</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：グループワーク②</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：グループワーク③</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：グループワーク④</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：グループワーク発表</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：グループワーク発表</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：小児言語障害の臨床</td> <td>木原ひとみ</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：発声発語障害の臨床</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床</td> <td>谷 哲夫</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：聴覚障害の臨床</td> <td>大原重洋</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：摂食嚥下障害の臨床</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：まとめ</td> <td>柴本 勇</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1 回：オリエンテーション(講義・グループワーク)	柴本 勇	第 2 回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程	柴本 勇	第 3 回：言語聴覚障害と言語聴覚療法の歴史	柴本 勇	第 4 回：グループワーク①	柴本 勇	第 5 回：グループワーク②	柴本 勇	第 6 回：グループワーク③	柴本 勇	第 7 回：グループワーク④	柴本 勇	第 8 回：グループワーク発表	柴本 勇	第 9 回：グループワーク発表	柴本 勇	第 10 回：小児言語障害の臨床	木原ひとみ	第 11 回：発声発語障害の臨床	中村哲也	第 12 回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床	谷 哲夫	第 13 回：聴覚障害の臨床	大原重洋	第 14 回：摂食嚥下障害の臨床	佐藤豊展	第 15 回：まとめ	柴本 勇
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第 1 回：オリエンテーション(講義・グループワーク)	柴本 勇																																
第 2 回：言語とコミュニケーション：意義、種類、過程	柴本 勇																																
第 3 回：言語聴覚障害と言語聴覚療法の歴史	柴本 勇																																
第 4 回：グループワーク①	柴本 勇																																
第 5 回：グループワーク②	柴本 勇																																
第 6 回：グループワーク③	柴本 勇																																
第 7 回：グループワーク④	柴本 勇																																
第 8 回：グループワーク発表	柴本 勇																																
第 9 回：グループワーク発表	柴本 勇																																
第 10 回：小児言語障害の臨床	木原ひとみ																																
第 11 回：発声発語障害の臨床	中村哲也																																
第 12 回：成人言語障害・高次脳機能障害の臨床	谷 哲夫																																
第 13 回：聴覚障害の臨床	大原重洋																																
第 14 回：摂食嚥下障害の臨床	佐藤豊展																																
第 15 回：まとめ	柴本 勇																																
アクティブラーニング	Moodle を用いて事前・事後学修を行う。 グループワークで主体的に学習する。																																

評価方法	定期試験 40% レポート 20% グループ活動・発表 30% 小テスト 10% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対するフィードバック	毎回の講義のリアクションペーパーに対して、次回講義時又は講義前にフィードバックする。 レポート・グループ学習では、評価視点を公開し自身でもフィードバックできるようにする。
指定図書	藤田郁代編 「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論」 医学書院 廣瀬肇監修 「言語聴覚士テキスト」 医歯薬出版 2010
事前・事後学修	グループ学習では、指定された課題をグループで討議し、同時に自ら調べて答えを導き出す手法で行っていきます。言語聴覚障害については、講義前にあらかじめ指定図書を読み予習するように心がけてください。 Moodle を用いて、事前事後学修課題を提示します。
オフィスアワー	研究室：3号館4階 3408 研究室 毎週火曜日 3限とします。 上記以外でも、メール(isamu-s@seirei.ac.jp)にて面談予約を受け付けます。

科目名	言語聴覚障害診断学																																
科目責任者	佐藤順子																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター																																
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。																																
科目概要	言語聴覚障害へのアプローチは、問題の本質を捉え、障害を正しく評価・診断することから始まる。まず、情報収集や各種の検査結果に基づいて行う言語病理学的評価・診断の重要性を理解する。評価・診断のプロセスを経て、訓練・指導・助言の方針を決定する。本講義では、言語聴覚障害の評価・診断の基本理念について、視聴覚教材を用いて学習を進め、演習を交えて具体的に学ぶ。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害者に対して、自由会話・情報収集からその障害像を予測し、必要で正しい評価が実施できる。 2. 評価結果を適切に解釈し、それを基にした診断ができる。 3. 訓練のための評価ができ、個々の障害に適した訓練計画の立案ができる。 4. 言語聴覚士として、対象者に対する責任を明確に認識した行動ができる。 																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、評価・診断の意義</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：成人の言語聴覚障害（症例提示）</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：情報収集 1</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：情報収集 2</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：SLTA 分析 1</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：SLTA 分析 2</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：deep 検査 1</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：deep 検査 2</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：訓練立案</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：訓練実施 1</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：訓練実施 2</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：検査結果の解釈と言語病理学的診断</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：報告書作成 1</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：報告書作成 2</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：本人・家族への結果説明（OSCE）</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：オリエンテーション、評価・診断の意義	佐藤順子	第 2 回：成人の言語聴覚障害（症例提示）	佐藤順子	第 3 回：情報収集 1	佐藤順子	第 4 回：情報収集 2	佐藤順子	第 5 回：SLTA 分析 1	佐藤順子	第 6 回：SLTA 分析 2	佐藤順子	第 7 回：deep 検査 1	佐藤順子	第 8 回：deep 検査 2	佐藤順子	第 9 回：訓練立案	佐藤順子	第 10 回：訓練実施 1	佐藤順子	第 11 回：訓練実施 2	佐藤順子	第 12 回：検査結果の解釈と言語病理学的診断	佐藤順子	第 13 回：報告書作成 1	佐藤順子	第 14 回：報告書作成 2	佐藤順子	第 15 回：本人・家族への結果説明（OSCE）	佐藤順子
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：オリエンテーション、評価・診断の意義	佐藤順子																																
第 2 回：成人の言語聴覚障害（症例提示）	佐藤順子																																
第 3 回：情報収集 1	佐藤順子																																
第 4 回：情報収集 2	佐藤順子																																
第 5 回：SLTA 分析 1	佐藤順子																																
第 6 回：SLTA 分析 2	佐藤順子																																
第 7 回：deep 検査 1	佐藤順子																																
第 8 回：deep 検査 2	佐藤順子																																
第 9 回：訓練立案	佐藤順子																																
第 10 回：訓練実施 1	佐藤順子																																
第 11 回：訓練実施 2	佐藤順子																																
第 12 回：検査結果の解釈と言語病理学的診断	佐藤順子																																
第 13 回：報告書作成 1	佐藤順子																																
第 14 回：報告書作成 2	佐藤順子																																
第 15 回：本人・家族への結果説明（OSCE）	佐藤順子																																
アクティブラーニング	演習科目です。																																

評価方法	定期試験（60％）提出物（20％）OSCE（20％）
課題に対するフィードバック	各自フィードバックし、授業内に解説します。
指定図書	『言語聴覚療法技術ガイド』深浦順一編 文光堂
事前・事後学修	<p>[事前学修] 指定図書の該当箇所を読んでおくこと。</p> <p>[事後学修] 授業での課題について随時まとめを作成すること。</p>
オフィスアワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部</p> <p>研究室：3407 研究室</p> <p>時間等：毎週月曜日 IV限</p> <p>上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	失語症学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	2 単位 (30 時間) 言語必修 3 セメスター
科目の位置付	DP(2) 保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している
科目概要	失語症学では、失語症について全般的に理解する。古典的分類と失語症タイプ別の特徴、および言語情報処理モデルによる言語症状の分析、症候群などについて学ぶとともに、評価・鑑別について理解する。
到達目標	1. 様々な言語障害の症状を理解し、症候群としての失語症を捉える事ができる。 2. 言語障害の症状を言語情報処理モデルに当てはめることが出来る。 3. 言語障害の症状を階層的に理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <授業内容・テーマ等> 谷 哲夫</p> <p>第 1 回：失語症の定義，歴史，原因疾患，病巣，言語症状</p> <p>第 2 回：言語の神経学的基盤</p> <p>第 3 回：失語症の古典的分類① ウェルニッケーリヒトハイムの図</p> <p>第 4 回：失語症の古典的分類② ボストン学派の分類</p> <p>第 5 回：失語症の言語症状</p> <p>第 6 回：失語症周辺の症状</p> <p>第 7 回：前半の復習① 言語の神経学的基盤，失語の古典的分類を中心に</p> <p>第 8 回：前半の復習② 失語症の症状，周辺症状を中心に</p> <p>第 9 回：認知神経心理学的情報モデルの構造と意味</p> <p>第 10 回：認知神経心理学的解釈 ログジェンモデルを用いて 症状の当てはめ</p> <p>第 11 回：認知神経心理学的解釈 ログジェンモデルを用いて 階層性の理解</p> <p>第 12 回：認知神経心理学的解釈 ログジェンモデルを用いて 掘り下げ検査の選択法</p> <p>第 13 回：認知神経心理学的解釈 二重経路仮説を用いて 失読・失書の当てはめ</p> <p>第 14 回：後半の復習① ログジェンモデルを中心に</p> <p>第 15 回：後半の復習② 掘り下げ検査を中心に</p>
アクティブラーニング	Moodle を活用します

評価方法	定期試験 80% 小テスト 20%
課題に対するフィードバック	小テストの解説は授業の中で行います.
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
事前・事後学修	Moodle による予習・復習 (各 40 分)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します

アクティブラーニング	演習科目です(各グループで演習をし、授業では検査者として他の学生に検査を実施します)
評価方法	定期試験(70%) 提出物(30%)
課題に対するフィードバック	演習中に各グループを巡回し解説をします。最後に質疑応答を行います。各検査のまとめのフィードバックをします。
指定図書	『標準失語症検査マニュアル』日本高次脳機能障害学会編集 新興医学出版 『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著 医学書院 『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第2版』小寺富子監修 協同医書出版社
事前・事後学修	[事前学修] 各グループで各検査のマニュアルを作成すること。(検査目的、手続き、評価基準等) [事後学修] 授業で実施した検査のまとめを作成すること。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：毎週月曜日 IV限 上記以外でもメール(junko-sa@seirei.ac.jp)で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	失語症治療学
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 5 セメスター
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している
科目概要	失語症治療学では、臨床における一連の流れについて学習する。病期別に具体的なアプローチ方法を提示し、実際の症例を通して症状の分析、採用すべき治療法、および予後予測の方法を学ぶ。
到達目標	1. 病期別に失語症治療のあるべき姿を理解できる。 2. 検査結果をまとめ訓練プログラムの立案ができる。 3. 患者の生活場면을想定した準備の必要性が理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回:失語症治療の概要 病期別治療目的 谷</p> <p>第 2 回:急性期の失語症治療 リスク管理 谷</p> <p>第 3 回:回復期の失語症治療 治療目的 検査 谷</p> <p>第 4 回:回復期の失語症治療 結果解釈 治療プラン・方法 谷</p> <p>第 5 回:維持期(生活期)の失語症治療 介護保険制度 社会資源の活用 谷</p> <p>第 6 回:維持期(生活期)の失語症治療 治療方法・効果 谷</p> <p>第 7 回:治療の理論と技法① 刺激法の 6 原則 機能再編成法 遮断除去法 ほか 谷</p> <p>第 8 回:治療の理論と技法② 評価サマリー 経過報告書の書き方 谷</p>
アクティブラーニング	Moodle を使用する
評価方法	定期試験 80% レポート・小テスト 20%
課題に対するフィードバック	小テストを授業の中で実施します。

指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院 小島知幸編集「なるほど失語症の評価と治療」金原出版
事前・ 事後学修	Moodleによる予習・復習（各40分）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11:15～13:15 上記以外でも在室時随時対応します

アクティブラーニング	演習科目（PBL：第2, 4, 6, 8, 10, 12回 発表：第3, 5, 7, 9, 11, 13回）
評価方法	定期試験（80%）発表（20%）
課題に対するフィードバック	各障害の発表後に解説を行います。
指定図書	『高次脳機能障害学』藤田郁代、関啓子編著 医学書院 『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第2版』小寺富子監修 協同医書出版社
事前・事後学修	〔事前学修〕 事前に指定図書の該当箇所を読んでまとめておくこと。 〔事後学修〕 各症例をまとめて発表できるように準備をする。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：毎週月曜日 IV限 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	失語・高次脳機能障害治療演習																																
科目責任者	谷 哲夫																																
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター																																
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能などを総合的に活用し、それぞれの人に合わせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																
科目概要	失語症例への評価・鑑別及びその言語聴覚療法を演習を通して学ぶ。演習は失語症の方のご協力を頂き、S L T Aほか適切な検査を選択し実施する。その結果を集約・解釈し、掘り下げ検査を選択、実施する。さらに全体像を把握し、訓練プログラムを立案し一部を実施し、報告書作成を行う。																																
到達目標	1. 失語症例に対するリハビリテーション理論、およびリハビリテーション技法を学修する。 2. 理論に基づいた訓練計画をグループで立案し、学生同士で実施できる。 3. 実際の患者様の評価、診断、治療プログラムの立案ができる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：演習の準備説明 企画書説明</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：企画書作成</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：企画書の見直し</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：演習の一連の流れ確認</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：演習 1 日目① ラポート付け S L T A 開始</td> <td style="text-align: right;">谷 佐藤順 佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：演習 1 日目② S L T A 2 回目</td> <td style="text-align: right;">谷 佐藤順 佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：演習 2 日目① S L T A 3 回目</td> <td style="text-align: right;">谷 佐藤順 佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：演習 2 日目② S L T A 4 回目</td> <td style="text-align: right;">谷 佐藤順 佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：演習 3 日目① S L T A 5 回</td> <td style="text-align: right;">谷 佐藤順 佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：演習 3 日目② S L T A 6 回目 掘り下げ検査</td> <td style="text-align: right;">谷 佐藤順 佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：演習 4 日目① 掘り下げ検査 治療実施</td> <td style="text-align: right;">谷 佐藤順 佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：演習 4 日目② 掘り下げ検査 治療実施</td> <td style="text-align: right;">谷 佐藤順 佐藤豊</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：結果分析</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：報告書作成 (三方原病院 S T 室宛など)</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：症例発表会</td> <td style="text-align: right;">谷</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：演習の準備説明 企画書説明	谷	第 2 回：企画書作成	谷	第 3 回：企画書の見直し	谷	第 4 回：演習の一連の流れ確認	谷	第 5 回：演習 1 日目① ラポート付け S L T A 開始	谷 佐藤順 佐藤豊	第 6 回：演習 1 日目② S L T A 2 回目	谷 佐藤順 佐藤豊	第 7 回：演習 2 日目① S L T A 3 回目	谷 佐藤順 佐藤豊	第 8 回：演習 2 日目② S L T A 4 回目	谷 佐藤順 佐藤豊	第 9 回：演習 3 日目① S L T A 5 回	谷 佐藤順 佐藤豊	第 10 回：演習 3 日目② S L T A 6 回目 掘り下げ検査	谷 佐藤順 佐藤豊	第 11 回：演習 4 日目① 掘り下げ検査 治療実施	谷 佐藤順 佐藤豊	第 12 回：演習 4 日目② 掘り下げ検査 治療実施	谷 佐藤順 佐藤豊	第 13 回：結果分析	谷	第 14 回：報告書作成 (三方原病院 S T 室宛など)	谷	第 15 回：症例発表会	谷
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：演習の準備説明 企画書説明	谷																																
第 2 回：企画書作成	谷																																
第 3 回：企画書の見直し	谷																																
第 4 回：演習の一連の流れ確認	谷																																
第 5 回：演習 1 日目① ラポート付け S L T A 開始	谷 佐藤順 佐藤豊																																
第 6 回：演習 1 日目② S L T A 2 回目	谷 佐藤順 佐藤豊																																
第 7 回：演習 2 日目① S L T A 3 回目	谷 佐藤順 佐藤豊																																
第 8 回：演習 2 日目② S L T A 4 回目	谷 佐藤順 佐藤豊																																
第 9 回：演習 3 日目① S L T A 5 回	谷 佐藤順 佐藤豊																																
第 10 回：演習 3 日目② S L T A 6 回目 掘り下げ検査	谷 佐藤順 佐藤豊																																
第 11 回：演習 4 日目① 掘り下げ検査 治療実施	谷 佐藤順 佐藤豊																																
第 12 回：演習 4 日目② 掘り下げ検査 治療実施	谷 佐藤順 佐藤豊																																
第 13 回：結果分析	谷																																
第 14 回：報告書作成 (三方原病院 S T 室宛など)	谷																																
第 15 回：症例発表会	谷																																
アクティブラーニング	演習科目																																

評価方法	準備の協力的態度 30% 演習中の態度 30% 症例発表（レポート）の内容 40%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメント
指定図書	藤田郁代、立石雅子編集「失語症学第2版」医学書院
事前・事後学修	事前：企画書の作成 事後：症例報告書の作成
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します

科目名	言語発達障害学基礎実習（保育園）
科目責任者	木原 ひとみ
単位数他	1単位（45時間） 言語必修 3セメスター
科目の位置付	DP（6）保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	9月前半に保育園にて5日間実習を行う。指定されたクラスに入り、朝から夕方まで子どもたちと一緒に過ごす。乳幼児の全体的な発達や言語発達の実際に触れ、1年次と2年次春セメスターに学んだ知識を現場で再確認し、再統合することを目的とする。同時に、保育士の業務内容や幼児との接し方、保育園の社会的役割を学ぶ。
到達目標	1. 健常発達を理解する。 2. 保育士の仕事を理解する。 3. 社会人としての基本的態度を養う。
授業計画	<p><担当教員名> 木原ひとみ、柴本勇、佐藤順子、石津希代子、谷哲夫、大原重洋、中村哲也、佐藤豊展</p> <p><授業内容> 社会人としての基本的態度を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育園職員に対する適切な態度、ことば遣い 2) 園児や保護者に対する適切な態度、ことば遣い 3) 実習生としての適切な身なり、服装、態度 <p>言語聴覚学科の学生として学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事、着替え、排泄など、日常生活上の行為の発達 2) コミュニケーションや言語の発達 3) 遊びの内容の発達 4) 運動能力の発達 5) 幼児の個性、個人差について 6) 保育士の業務全般 7) 保育士の幼児との係わり方 8) 保育園の社会的役割 <p>※定期試験終了後に、事前オリエンテーションを実施する。</p>
アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	事前・事後指導 20%、実習日誌 40%、実習後のレポート課題 40%。

課題に対するフィードバック	実習後レポートは返却時にコメントする。
指定図書	なし
事前・事後学修	事前学修（80分）：Moodle上にアップされた課題を行う。 事後学修（160分）：課題のまとめ、レポート作成を行う。 ※担当教員と事前・事後学修は行なう。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週木曜 11：30～13：30 上記以外でも在室時随時対応します

科目名	言語発達障害学
科目責任者	木原 ひとみ
単位数他	2 単位 (30 時間) 言語必修 3 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発達段階別の特徴を理解し、応じた指導・訓練法を学ぶ。その後、各種障害の病態と障害像、原因と発現メカニズムを学び言語発達支援に必要な考え方を理解する。 指導・訓練については、子どもの発達段階に応じた支援、障害特性に即した支援、個別的な特性に応じた支援を行う。講義のみではなく、ビデオ分析や演習を通して、学修する。
到達目標	1. 発達段階別の特徴を捉えることができる。 2. 言語発達を阻害する各種障害の病態と障害像を説明することができる。 3. 脳性麻痺、重複障害の基本的な知識、言語を習得する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：言語発達障害とはなにか、働きかけの原理 木原</p> <p>第 2 回：前言語期・語彙獲得期の言語発達と障害 木原</p> <p>第 3 回：幼児期・読み書きと学童期の言語発達と障害 木原</p> <p>第 4 回：自閉症スペクトラム障害 木原</p> <p>第 5 回：知的障害・先天異常 木原</p> <p>第 6～9 回：認知・運動発達の評価・指導・訓練 伊藤・木原</p> <p>第 10 回：学習障害、特異的言語発達障害 木原</p> <p>第 11 回：注意欠陥/多動性障害 木原</p> <p>第 12 回：脳性麻痺の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価 木原</p> <p>第 13 回：脳性麻痺の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価 木原</p> <p>第 14 回：重複障害の基本的知識、言語聴覚障害の特徴と評価 木原</p> <p>第 15 回：まとめ 木原</p>
アクティブラーニング	Moodle 上の課題を踏まえて、授業中はグループ学修を中心に行う。
評価方法	定期試験 70%、課題 30%
課題に対するフィードバック	授業（リフレクションペーパー含）、プレゼンテーションのフィードバック、課題の返却、定期試験の解答例の提示を行う。
指定図書	玉井ふみ他 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」医学書院 2015
事前・事後学修	毎回の事前学習（40分）：Moodle 上にアップされた課題を行う。 毎回の事後学修（40分）：グループワークのまとめ、課題の発表の準備を行う。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週木曜 11：30～13：30 上記以外でも在室時随時対応します

科目名	言語発達障害評価演習
科目責任者	中村哲也
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 4 セメスター
科目の位置付	DP (5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる
科目概要	言語発達障害児の評価について、代表的な検査法について、学生同士のグループ演習により検査の手順、結果の集約と解釈、問題点の抽出などについて学ぶ。症例を通して、検査結果を解釈し、言語発達の段階と障害機序を分析し、報告書作成を行う。
到達目標	1. 各検査の概要・解説を説明できる 2. 各検査を正しく実施できる 3. 各検査の結果、診断ができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員> 中村哲也</p> <p>第 1 回：ガイダンス、評価の流れ</p> <p>第 2 回：言語検査① 「絵画語彙発達検査」</p> <p>第 3 回：言語検査② 「質問-応答関係検査」</p> <p>第 4 回：言語検査③ 「国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査」</p> <p>第 5 回：言語検査③ 「国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査」</p> <p>第 6 回：発達検査① 「新版-K 式発達検査 2001」</p> <p>第 7 回：発達検査① 「新版-K 式発達検査 2001」</p> <p>第 8 回：症例演習 言語検査：評価・報告書の作成</p> <p>第 9 回：症例演習 言語検査：評価・報告書の作成</p> <p>第 10 回：知能検査① 「WISC-IV」</p> <p>第 11 回：知能検査① 「WISC-IV」</p> <p>第 12 回：知能検査② 「K-ABC II 心理・教育アセスメントバッテリー」</p> <p>第 13 回：知能検査② 「K-ABC II 心理・教育アセスメントバッテリー」</p> <p>第 14 回：症例演習 知能検査：評価・報告書の作成</p> <p>第 15 回：症例演習 知能検査：評価・報告書の作成</p>
アクティブラーニング	演習科目です

評価方法	定期試験 60%、レポート 40%
課題に対するフィードバック	言語・発達検査、知能検査の報告書はグループで作成します。グループごとに適宜フィードバックを行います。
指定図書	小寺富子・倉井成子・佐竹恒夫 「国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査マニュアル」エスコアール
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを事前によく読みこんでおくこと ・検査は何度も繰り返し練習すること
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、時間については初回授業時に提示します

科目名	言語発達障害治療学
科目責任者	木原 ひとみ
単位数他	2 単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	言語発達障害学 I、II を踏まえて、言語発達障害児への具体的な指導方法について、グループで討議するなどして多様な方法を共有することができる。
到達目標	1. 様々な発達障害に対する指導法を学修し理解することができる。 2. 指導法を通して、様々な場面における支援について考えることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：指導方法 (1) インリアルアプローチ 木原</p> <p>第 2 回：指導方法 (2) インリアルアプローチ 木原</p> <p>第 3、4、5 回： 柴田</p> <p>① 障害が重く運動が制限されている子どもたちの豊かな言語の世界について。</p> <p>② 寝たきりの子どもが体を起こし、手を使い始める段階における感覚と運動の世界</p> <p>③ 物と物との関係づけの始まりである「入れる」という行為からはめ板学習への展開</p> <p>第 6 回：指導方法 (3) TEACCH プログラム 木原</p> <p>第 7 回：指導方法 (4) TEACCH プログラム 木原</p> <p>第 8 回：指導方法 (5) ソーシャルスキルトレーニング 木原</p> <p>第 9 回：指導方法 (6) ソーシャルスキルトレーニング 木原</p> <p>第 10 回：指導方法 (7) 応用行動分析 木原</p> <p>第 11 回：指導方法 (8) 応用行動分析 木原</p> <p>第 12 回：指導方法 (9) AAC 拡大代替コミュニケーション 木原</p> <p>第 13 回：様々な場面における支援① 木原</p> <p>第 14 回：様々な場面における支援② 木原</p> <p>第 15 回：まとめ 木原</p>
アクティブラーニング	Moodle 上の課題を踏まえて、授業中はグループ学修を中心に行う。
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%
課題に対するフィードバック	毎回の授業、発表時のフィードバック、課題レポート返却時のコメント。
指定図書	大石敬子 「ことばの障害の評価と指導」大修館書店 2001
事前・事後学修	毎回の事前学習 (40 分) : Moodle 上にアップされた課題を行う。 毎回の事後学修 (40 分) : グループワークのまとめ、課題の発表の準備を行う。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3510 研究室。時間については初回授業時に提示します。

科目名	言語発達障害治療演習	
科目責任者	木原 ひとみ	
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター	
科目の位置付	DP (5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	言語発達障害学 I、II を踏まえて発達段階別・障害別ごとの指導・訓練の立案を行ない、教材を作成し発表する。また、脳性麻痺、重複障害についての知識・理解を深める。	
到達目標	1. 様々なアプローチ技術を理解し、事例を通して応用することができる。 2. 発達段階や障害を考慮しつつ指導・訓練計画をグループで立案し実施することができる。 3. 脳性麻痺、重複障害の基本的知識を理解し、	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、指導・訓練の立案の考え方 第 2 回：前言語期の指導・訓練立案 第 3 回：前言語期の指導・発表 第 4 回：語彙獲得期の指導・訓練立案① 第 5 回：語彙獲得期の指導・訓練立案② 第 6 回：語彙獲得期の指導・発表 第 7 回：幼児期前期の指導・訓練立案① 第 8 回：幼児期前期の指導・訓練立案② 第 9 回：幼児期の指導・発表 第 10 回：学童期の発達段階別の指導・訓練立案① 第 11 回：学童期の発達段階別の指導・発表 第 12 回：自閉症スペクトラム障害の指導・訓練立案① 第 13 回：自閉症スペクトラム障害の指導・訓練立案② 第 14 回：自閉症スペクトラム障害の指導・発表 第 15 回：まとめ</p>	<p><担当教員名></p> <p>木原 木原 木原 木原 木原 木原 木原 木原 木原 木原 木原 木原、大原 木原、大原 木原、大原 木原</p>
アクティブラーニング	Moodle 上の課題を踏まえて、授業中はグループ学修を中心に行う。	
評価方法	レポート 60%、発表 40%	
課題に対するフィードバック	毎回の授業、発表時のフィードバック、課題レポート返却時のコメント。	
指定図書	なし	
事前・事後学修	毎回の事前学習 (40 分) : Moodle 上にアップされた課題を行う。 毎回の事後学修 (40 分) : グループワークのまとめ、課題の発表の準備を行う。	
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3510 研究室 時間等：毎週木曜 11:30~13:30 上記以外でも在室時随時対応します	

科目名	発声発語障害学総論																		
科目責任者	柴本 勇																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 3 セメスター																		
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	発声発語障害は、発声発語器官の構造・機能の問題によって、発話が音響学的に変化した状態である。本科目では、発声発語障害を構造・機能の側面から学び、それぞれがどのような症状と関連するかについて概要を学ぶ。疾患と発声発語障害についても学ぶ																		
到達目標	1. 発声発語障害の種類と特徴を説明することができる。 2. 発声発語障害を構造・機能・音響学的側面から分析できる。 3. 疾患と発声発語障害の関係を説明できる。 4. 事例検討時に、症状や特徴を把握できる。																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション・発声発語メカニズム</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：構造的要因による発声発語障害</td> <td style="text-align: right;">中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：機能的要因による発声発語障害</td> <td style="text-align: right;">中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：運動的要因による発声発語障害</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：その他の要因による発声発語障害</td> <td style="text-align: right;">佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：発声発語障害の特徴と分析手法</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：疾患と発声発語障害の症状</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：事例検討</td> <td style="text-align: right;">柴本 勇</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：オリエンテーション・発声発語メカニズム	柴本 勇	第 2 回：構造的要因による発声発語障害	中村哲也	第 3 回：機能的要因による発声発語障害	中村哲也	第 4 回：運動的要因による発声発語障害	佐藤豊展	第 5 回：その他の要因による発声発語障害	佐藤豊展	第 6 回：発声発語障害の特徴と分析手法	柴本 勇	第 7 回：疾患と発声発語障害の症状	柴本 勇	第 8 回：事例検討	柴本 勇
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：オリエンテーション・発声発語メカニズム	柴本 勇																		
第 2 回：構造的要因による発声発語障害	中村哲也																		
第 3 回：機能的要因による発声発語障害	中村哲也																		
第 4 回：運動的要因による発声発語障害	佐藤豊展																		
第 5 回：その他の要因による発声発語障害	佐藤豊展																		
第 6 回：発声発語障害の特徴と分析手法	柴本 勇																		
第 7 回：疾患と発声発語障害の症状	柴本 勇																		
第 8 回：事例検討	柴本 勇																		
アクティブラーニング	Moodle の活用																		
評価方法	定期試験 50% 小テスト 30% レポート 20%																		
課題に対するフィードバック	小テストの解説、リアクションペーパーを用いてフィードバックを行います。																		
指定図書	なし 授業に必要な資料を毎回 Moodle に掲示します。																		
事前・事後学修	毎回の講義では小テストを行って、知識の定着確認をします。講義前には予習テストを Moodle で行います。そのための学修が、事前事後となります。																		
オフィスアワー	初回講義時に提示します。																		

科目名	音声障害学
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 5 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発声にかかわる喉頭の解剖と生理を理解し、音声障害を来す病理的メカニズムを学ぶ。異常な音声の評価方法(聴覚的評価・内視鏡検査・空気力学的検査・音響学的検査など)を知り、評価・診断に基づく治療方針の立て方を理解する。また、音声訓練の考え方や様々な手法を理解し、基礎的な技術を習得する。喉頭摘出後の代替音声についても理解する。
到達目標	1. 正常発声のメカニズム・病的発声のメカニズムを説明できる。 2. 音声障害の問題を適正に捉え、評価・分析できる。 3. 音声障害患者の問題を解決する適切な方法を具体的に提示できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：オリエンテーション・発声のメカニズム 柴本 勇</p> <p>第 2 回：音声障害と喉頭病変(医学的立場から) 山口宏也</p> <p>第 3 回：喉頭の観察と治療への応用 山口宏也</p> <p>第 4 回：音声障害の診断と医学治療(薬物療法、外科的治療など) 山口宏也</p> <p>第 5 回：音声障害の評価法 柴本 勇</p> <p>第 6 回：音声障害の訓練法 柴本 勇</p> <p>第 7 回：無喉頭音声・気管切開とコミュニケーション 柴本 勇</p> <p>第 8 回：事例検討 柴本 勇</p>
アクティブラーニング	Moodle の活用・反転授業
評価方法	定期試験：60%、事前課題：20%、事前テスト 10%、事後テスト 10%
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、事前課題・リアクションペーパーに対するコメントをします。毎回講義終了時に、事前テストの解説を行います。
指定図書	「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第 2 版」(医学書院)
事前・事後学修	Moodle を用いて、事前課題・事前テスト・事後テストを行います。Moodle の機能を活用して質問を受けます。
オフィスアワー	初回講義時に提示します。

科目名	小児構音障害学
科目責任者	中村哲也
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 4 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	主に小児の構音障害について学ぶ。まず正常な構音の発達を理解し、構音障害を来す器質的問題や運動障害がない機能性構音障害について、評価方法、鑑別診断、訓練方法について学ぶ。また実際の症例の音声サンプルを用いて、評価・訓練プログラム考案の演習を行う。次に器質性構音障害（口蓋裂）について、基礎的知識、口蓋裂に伴う様々な問題点や、チームアプローチについて学ぶ。さらに鼻咽腔閉鎖機能検査や構音検査の種類と実施、治療計画の立て方や構音訓練の方法について、演習を交えながら学ぶ。
到達目標	1. 小児の機能性構音障害について評価・訓練方法を理解できる。 2. 器質性構音障害（口蓋裂）について、必要な評価・治療方法を理解できる。 3. 評価に基づき訓練プログラムを立てることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 中村哲也</p> <p>第 1 回：ガイダンス・構音障害の概念と鑑別診断</p> <p>第 2 回：機能性構音障害の臨床の流れ</p> <p>第 3 回：構音の発達、機能性構音障害に関連する要因</p> <p>第 4 回：器質性構音障害の臨床の流れ</p> <p>第 5 回：口蓋裂に伴う発話障害の特徴とその要因</p> <p>第 6 回：小児の構音障害にみられる構音の誤り① 置換、省略、側音化構音、口蓋化構音</p> <p>第 7 回：小児の構音障害にみられる構音の誤り② 鼻咽腔構音、声門破裂音、咽頭破裂音、咽頭摩擦音</p> <p>第 8 回：小児における構音障害のまとめ</p>
アクティブラーニング	症例を提示して、グループで演習を行います
評価方法	定期試験（80%）、演習参加態度・グループ発表（20%）
課題に対するフィードバック	症例検討の演習では、グループ学修および発表を行います
指定図書	「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学」（医学書院、2010 年） 「構音障害の臨床 -基礎知識と実践マニュアル- 改訂第 2 版」（金原出版、2003 年）

事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none">・ 講義の範囲の教科書は読んでおくこと。・ 演習はグループで行う。協力してディスカッションして報告書をまとめること。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、時間については初回授業時に提示します

科目名	成人構音障害学
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 5 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	運動障害性構音障害と口腔癌治療後など後天性の器質性構音障害について、発声メカニズムや症状を原因と関連づけて理解する。各種評価について、学生同士の演習を交えて習得する。タイプ分類と特徴を理解し、症例の評価分析からタイプ分類ができるようになる。そのうえで、問題点を抽出し、障害に応じた訓練プログラムの立案ができるようになることを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人構音障害の種類と原因が説明できる 2. 運動障害性構音障害のタイプ分類と特徴を説明できる 3. 運動障害性構音障害の評価法を説明できる 4. 評価から問題点を抽出し、訓練プログラムの立案ができる 5. 症例報告書が作成できる
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： 発声発語の神経学的基盤とその病理 ★レポート</p> <p>第2回： 成人構音障害の種類と原因(運動障害・器質障害) ★小テスト</p> <p>第3回： 運動障害性構音障害のタイプ・病態・症状①</p> <p>第4回： 運動障害性構音障害のタイプ・病態・症状② ★小テスト</p> <p>第5回： 評価理論①</p> <p>第6回： 評価理論②</p> <p>第7回： 問題点の抽出・症例報告書の書き方 ★レポート</p> <p>第8回： 訓練理論</p>
アクティブラーニング	事例検討では、グループ学修形式で行います。 moodle を活用して、レポート課題を行います。
評価方法	定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 20%
課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。
指定図書	荻安誠編「運動性構音障害-基礎・鑑別診断・マネジメント」医歯薬出版
事前・事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題（指定図書、呼吸発声発語系の構造・機能・病態などによる予習内容）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1 回の事前・事後学修時間は 40 分と考えています。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15:00～17:30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。

科目名	発声発語障害評価演習																															
科目責任者	佐藤 豊展																															
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター																															
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																															
科目概要	小児構音障害学、成人構音障害学を踏まえて、実際に発声発語障害のある方にご協力頂き、適切な検査を選択し、実施する。その結果を分析し、掘り下げ検査を選択して実施する。その上で、障害部位と程度を評価分析し、鑑別とタイプ分類を行い、報告書作成を行う。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の構音検査の評価ができる 2. 構音検査で IPA 表記できる 3. 演習協力者の計画書を作成し、評価を実施できる 4. 結果を分析し、訓練プログラムを立案できる 5. 症例報告書が作成できる 																															
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、中村哲也</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回： 小児の構音障害検査① 新版・構音検査</td> <td><担当教員名> 中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 2 回： //</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 3 回： 小児の構音障害検査② 口蓋裂言語検査</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 4 回： 演習：構音検査の聴き取り、IPA 表記</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 5 回： //</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 6 回： 基本的臨床態度・行動演習</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第 7 回： 演習：症例演習計画発表 ★評価計画書提出(各 G)</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 8 回： 演習：症例演習(評価)①A/B</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 9 回： 演習：症例演習(評価)①C/D</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 10 回： 演習：症例演習結果・分析発表 ★評価計画書提出(各 G)</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 11 回： 演習：症例演習内容討議</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 12 回： 演習：症例演習(評価)③A/B</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 13 回： 演習：症例演習(評価)③C/D</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 14 回： 症例報告書の作成</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 15 回： 症例発表</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> </table> <p>*講義内容、順序が変更する可能性あり</p>		第 1 回： 小児の構音障害検査① 新版・構音検査	<担当教員名> 中村哲也	第 2 回： //	中村哲也	第 3 回： 小児の構音障害検査② 口蓋裂言語検査	中村哲也	第 4 回： 演習：構音検査の聴き取り、IPA 表記	中村哲也	第 5 回： //	中村哲也	第 6 回： 基本的臨床態度・行動演習	佐藤豊展	第 7 回： 演習：症例演習計画発表 ★評価計画書提出(各 G)	佐藤豊展・柴本 勇	第 8 回： 演習：症例演習(評価)①A/B	佐藤豊展・柴本 勇	第 9 回： 演習：症例演習(評価)①C/D	佐藤豊展・柴本 勇	第 10 回： 演習：症例演習結果・分析発表 ★評価計画書提出(各 G)	佐藤豊展・柴本 勇	第 11 回： 演習：症例演習内容討議	佐藤豊展・柴本 勇	第 12 回： 演習：症例演習(評価)③A/B	佐藤豊展・柴本 勇	第 13 回： 演習：症例演習(評価)③C/D	佐藤豊展・柴本 勇	第 14 回： 症例報告書の作成	佐藤豊展・柴本 勇	第 15 回： 症例発表	佐藤豊展・柴本 勇
第 1 回： 小児の構音障害検査① 新版・構音検査	<担当教員名> 中村哲也																															
第 2 回： //	中村哲也																															
第 3 回： 小児の構音障害検査② 口蓋裂言語検査	中村哲也																															
第 4 回： 演習：構音検査の聴き取り、IPA 表記	中村哲也																															
第 5 回： //	中村哲也																															
第 6 回： 基本的臨床態度・行動演習	佐藤豊展																															
第 7 回： 演習：症例演習計画発表 ★評価計画書提出(各 G)	佐藤豊展・柴本 勇																															
第 8 回： 演習：症例演習(評価)①A/B	佐藤豊展・柴本 勇																															
第 9 回： 演習：症例演習(評価)①C/D	佐藤豊展・柴本 勇																															
第 10 回： 演習：症例演習結果・分析発表 ★評価計画書提出(各 G)	佐藤豊展・柴本 勇																															
第 11 回： 演習：症例演習内容討議	佐藤豊展・柴本 勇																															
第 12 回： 演習：症例演習(評価)③A/B	佐藤豊展・柴本 勇																															
第 13 回： 演習：症例演習(評価)③C/D	佐藤豊展・柴本 勇																															
第 14 回： 症例報告書の作成	佐藤豊展・柴本 勇																															
第 15 回： 症例発表	佐藤豊展・柴本 勇																															
アクティブラーニング	事例検討では、グループ学修形式で行います。 VE・VF は、moodle を活用して、レポート課題を行います。																															
評価方法	定期試験 60%、症例計画書・報告書 20%、レポート 20%																															
課題に対するフィードバック	症例計画書・報告書、レポートの解説、返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。																															

指定図書	苅安誠編「運動性構音障害-基礎・鑑別診断・マネージメント」医歯薬出版
事前・事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題（指定図書における予習内容）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1 回の事前・事後学修時間は 40 分と考えています。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。

科目名	発声発語障害治療演習																														
科目責任者	佐藤 豊展																														
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター																														
科目の位置付	DP(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																														
科目概要	発声発語障害学総論、各論で学んだ治療理論を踏まえて、発声発語障害のある児者にご協力頂き、評価・診断に基づいた、障害に応じた治療プログラムを立案する。実際に協力者へ治療を実施させて頂くことで具体的に治療の手技を習得する。																														
到達目標	1. 小児の構音検査の評価から治療プログラムを立案し、治療ができる 2. 演習協力者の治療プログラムを立案し、治療を実施できる 3. 症例報告書が作成できる 4. 症例について発表ができる																														
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、中村哲也</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回： 症例演習① 新版・構音検査：IPA 表記</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 2 回： 症例演習② 新版・構音検査：評価表のまとめ</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 3 回： 症例演習③ 治療立案</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 4 回： 症例演習④ 症例全体のまとめ</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 5 回： 症例演習⑤ 症例発表</td> <td>中村哲也</td> </tr> <tr> <td>第 6 回： 治療①：機能改善訓練</td> <td>佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第 7 回： 治療②：代償的訓練</td> <td>★確認テスト 佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第 8 回： 治療③：AAC</td> <td>★確認テスト 佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第 9 回： 演習：症例演習内容討議</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 10 回： 演習：症例演習計画発表 ★評価計画書提出(各 G)</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 11 回： 演習：症例演習(治療)①A/B</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 12 回： 演習：症例演習(治療)①C/D</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 13 回： 演習：症例演習結果・分析発表 ★評価計画書提出(各 G)</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 14 回： 症例報告書の作成</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 15 回： 症例発表 / 総括</td> <td>佐藤豊展・柴本 勇</td> </tr> </table> <p>*講義内容、順序が変更する可能性あり</p>	第 1 回： 症例演習① 新版・構音検査：IPA 表記	中村哲也	第 2 回： 症例演習② 新版・構音検査：評価表のまとめ	中村哲也	第 3 回： 症例演習③ 治療立案	中村哲也	第 4 回： 症例演習④ 症例全体のまとめ	中村哲也	第 5 回： 症例演習⑤ 症例発表	中村哲也	第 6 回： 治療①：機能改善訓練	佐藤豊展	第 7 回： 治療②：代償的訓練	★確認テスト 佐藤豊展	第 8 回： 治療③：AAC	★確認テスト 佐藤豊展	第 9 回： 演習：症例演習内容討議	佐藤豊展・柴本 勇	第 10 回： 演習：症例演習計画発表 ★評価計画書提出(各 G)	佐藤豊展・柴本 勇	第 11 回： 演習：症例演習(治療)①A/B	佐藤豊展・柴本 勇	第 12 回： 演習：症例演習(治療)①C/D	佐藤豊展・柴本 勇	第 13 回： 演習：症例演習結果・分析発表 ★評価計画書提出(各 G)	佐藤豊展・柴本 勇	第 14 回： 症例報告書の作成	佐藤豊展・柴本 勇	第 15 回： 症例発表 / 総括	佐藤豊展・柴本 勇
第 1 回： 症例演習① 新版・構音検査：IPA 表記	中村哲也																														
第 2 回： 症例演習② 新版・構音検査：評価表のまとめ	中村哲也																														
第 3 回： 症例演習③ 治療立案	中村哲也																														
第 4 回： 症例演習④ 症例全体のまとめ	中村哲也																														
第 5 回： 症例演習⑤ 症例発表	中村哲也																														
第 6 回： 治療①：機能改善訓練	佐藤豊展																														
第 7 回： 治療②：代償的訓練	★確認テスト 佐藤豊展																														
第 8 回： 治療③：AAC	★確認テスト 佐藤豊展																														
第 9 回： 演習：症例演習内容討議	佐藤豊展・柴本 勇																														
第 10 回： 演習：症例演習計画発表 ★評価計画書提出(各 G)	佐藤豊展・柴本 勇																														
第 11 回： 演習：症例演習(治療)①A/B	佐藤豊展・柴本 勇																														
第 12 回： 演習：症例演習(治療)①C/D	佐藤豊展・柴本 勇																														
第 13 回： 演習：症例演習結果・分析発表 ★評価計画書提出(各 G)	佐藤豊展・柴本 勇																														
第 14 回： 症例報告書の作成	佐藤豊展・柴本 勇																														
第 15 回： 症例発表 / 総括	佐藤豊展・柴本 勇																														
アクティブラーニング	事例検討では、グループ学修形式で行います。 VE・VF は、moodle を活用して、レポート課題を行います。																														
評価方法	定期試験 60%、症例計画書・報告書 15%、レポート 15%、確認テスト 10%																														
課題に対するフィードバック	症例計画書・報告書、レポート、確認テストの解説、返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。																														
指定図書	荻安誠編「運動性構音障害-基礎・鑑別診断・マネージメント」医歯薬出版																														

事前・ 事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題（指定図書における予習内容）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1 回の事前・事後学修時間は 40 分と考えています。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。

科目名	流暢性障害学																		
科目責任者	谷 哲夫																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 6 セメスター																		
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	吃音は様々な要因によって引き起こされる。吃音症状は個別的であり、訓練方法も個別的でなければならない。吃音の改善に取り組む言語聴覚士は、言語症状だけでなく対象者の生育環境や人間関係などにも目を向ける必要がある。																		
到達目標	1. 吃音の基礎的知識を学ぶ。 2. 吃音臨床の基本を習得する。 3. 吃音児(者)の抱えている問題や悩みを理解できる。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td><授業内容・テーマ等></td> <td><担当教員></td> </tr> <tr> <td>第 1 回：発話の流暢性の障害 原因論と進展</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：幼児期の言語発達と発話の非流暢性 発達障害との合併</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：吃音の評価方法① 概説</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：吃音の評価方法② 実際</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法① 環境調整</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法② 直接法</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：成人の吃音に対する訓練法</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：吃音児者を取り巻く環境 セルフヘルプグループ</td> <td>谷</td> </tr> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員>	第 1 回：発話の流暢性の障害 原因論と進展	谷	第 2 回：幼児期の言語発達と発話の非流暢性 発達障害との合併	谷	第 3 回：吃音の評価方法① 概説	谷	第 4 回：吃音の評価方法② 実際	谷	第 5 回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法① 環境調整	谷	第 6 回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法② 直接法	谷	第 7 回：成人の吃音に対する訓練法	谷	第 8 回：吃音児者を取り巻く環境 セルフヘルプグループ	谷
<授業内容・テーマ等>	<担当教員>																		
第 1 回：発話の流暢性の障害 原因論と進展	谷																		
第 2 回：幼児期の言語発達と発話の非流暢性 発達障害との合併	谷																		
第 3 回：吃音の評価方法① 概説	谷																		
第 4 回：吃音の評価方法② 実際	谷																		
第 5 回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法① 環境調整	谷																		
第 6 回：幼児・学齢期の吃音に対する訓練法② 直接法	谷																		
第 7 回：成人の吃音に対する訓練法	谷																		
第 8 回：吃音児者を取り巻く環境 セルフヘルプグループ	谷																		
アクティブラーニング	Moodle を使用																		
評価方法	定期試験 80% レポート・小テスト 20%																		
課題に対するフィードバック	小テストを授業の中で行います																		
指定図書	小林宏明・川合紀宗編著「特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援」学苑社																		
事前・事後学修	Moodle による予習・復習 (各 40 分)																		
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11:15~13:15 上記以外でも在室時随時対応します																		

事前・ 事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題（指定図書における予習内容）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1 回の事前・事後学修時間は 40 分と考えています。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15：00～17：30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。

科目名	摂食嚥下障害総合演習																																													
科目責任者	佐藤 豊展																																													
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター																																													
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。																																													
科目概要	摂食嚥下障害学概論で学んだ知識を背景とし、ビデオ、スライド等の視覚教材を多用し、摂食嚥下障害の評価、問題点の抽出、訓練プログラムの立案、訓練手技について学ぶ。さらに、事例検討をとおして総合的な技能を修得する。そして、医師や他職種との連携をとりつつ臨床現場で対応できる知識と技術を身につける。																																													
到達目標	1. スクリーニング検査、理学的所見から問題点の抽出、訓練プログラムの立案ができる。 2. VF、VE 画像をみて評価用紙への記入、問題点の抽出、訓練プログラムの立案ができる。 3. 問題に見合った適切な訓練手技を選択・実施できる。 4. 事例検討を通して、計画書・報告書を作成できる。																																													
授業計画	<p><担当教員名>佐藤豊展、柴本勇、ゲストスピーカー <授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：</td> <td>摂食嚥下障害の評価①スクリーニング、理学的所見</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第2回：</td> <td>〃 ②VE の評価・記録 ★レポート</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第3回：</td> <td>〃 ③VF の評価・記録 ★レポート</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第4回：</td> <td>〃 ④問題点の抽出、訓練プログラムの立案</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第5回：</td> <td>摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第6回：</td> <td>〃 ② 〃</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第7回：</td> <td>摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法</td> <td>柴本 勇・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第8回：</td> <td>〃 ②嚥下手技</td> <td>柴本 勇・佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第9回：</td> <td>〃 ③食事介助</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第10回：</td> <td>口腔ケアの実際</td> <td>ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>第11回：</td> <td>肺理学療法の実際</td> <td>有菌 信一・佐藤豊展</td> </tr> <tr> <td>第12回：</td> <td>計画書・報告書の書き方 ★症例計画書の作成</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第13回：</td> <td>事例検討①(情報収集/評価)</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第14回：</td> <td>事例検討②(問題点抽出、訓練プログラム立案) ★症例報告書の作成</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> <tr> <td>第15回：</td> <td>症例発表/ 総括</td> <td>佐藤 豊展</td> </tr> </table> <p>*講義内容、順序が変更する可能性あり *この他に1コマ聖隷三方原病院で嚥下造影の見学を少人数ずつ行なう</p>	第1回：	摂食嚥下障害の評価①スクリーニング、理学的所見	佐藤 豊展	第2回：	〃 ②VE の評価・記録 ★レポート	佐藤 豊展	第3回：	〃 ③VF の評価・記録 ★レポート	佐藤 豊展	第4回：	〃 ④問題点の抽出、訓練プログラムの立案	佐藤 豊展	第5回：	摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定	佐藤 豊展	第6回：	〃 ② 〃	佐藤 豊展	第7回：	摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法	柴本 勇・佐藤 豊展	第8回：	〃 ②嚥下手技	柴本 勇・佐藤 豊展	第9回：	〃 ③食事介助	佐藤 豊展	第10回：	口腔ケアの実際	ゲストスピーカー	第11回：	肺理学療法の実際	有菌 信一・佐藤豊展	第12回：	計画書・報告書の書き方 ★症例計画書の作成	佐藤 豊展	第13回：	事例検討①(情報収集/評価)	佐藤 豊展	第14回：	事例検討②(問題点抽出、訓練プログラム立案) ★症例報告書の作成	佐藤 豊展	第15回：	症例発表/ 総括	佐藤 豊展
第1回：	摂食嚥下障害の評価①スクリーニング、理学的所見	佐藤 豊展																																												
第2回：	〃 ②VE の評価・記録 ★レポート	佐藤 豊展																																												
第3回：	〃 ③VF の評価・記録 ★レポート	佐藤 豊展																																												
第4回：	〃 ④問題点の抽出、訓練プログラムの立案	佐藤 豊展																																												
第5回：	摂食嚥下障害の間接訓練①訓練の種類、負荷量の設定	佐藤 豊展																																												
第6回：	〃 ② 〃	佐藤 豊展																																												
第7回：	摂食嚥下障害の直接訓練①代償的手法	柴本 勇・佐藤 豊展																																												
第8回：	〃 ②嚥下手技	柴本 勇・佐藤 豊展																																												
第9回：	〃 ③食事介助	佐藤 豊展																																												
第10回：	口腔ケアの実際	ゲストスピーカー																																												
第11回：	肺理学療法の実際	有菌 信一・佐藤豊展																																												
第12回：	計画書・報告書の書き方 ★症例計画書の作成	佐藤 豊展																																												
第13回：	事例検討①(情報収集/評価)	佐藤 豊展																																												
第14回：	事例検討②(問題点抽出、訓練プログラム立案) ★症例報告書の作成	佐藤 豊展																																												
第15回：	症例発表/ 総括	佐藤 豊展																																												
アクティブラーニング	事例検討では、グループ学修形式で行います。 VE・VF は、moodle を活用して、レポート課題を行います。																																													
評価方法	定期試験 60%、症例計画書・報告書 15%、レポート 15%、小テスト 10%																																													
課題に対するフィードバック	小テストの解説、レポートの返却を行います。 リアクションペーパーでの質問を次回の講義でフィードバックします。																																													
指定図書	倉智雅子編集：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学（医歯薬出版）																																													

事前・事後学修	Moodle を利用して、事前学修課題（指定図書における予習内容）を提示します。事後学修課題は授業の際に提示します。1 回の事前・事後学修時間は 40 分と考えています。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3512 研究室、月曜 15 : 00～17 : 30 上記以外でも研究室に在室している際は対応します。

科目名	聴覚障害学
科目責任者	石津希代子
単位数他	2 単位 (30 時間) 言語必修 3 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	1 年次に学んだ聴覚のメカニズムと聴覚疾患に関する知識をもとに、この科目では聴覚機能の診断に必要とされる聴覚検査の総合的な理解をめざします。標準純音聴力検査、語音聴力検査、中耳機能・内耳機能検査、聴性脳幹反応検査など、各種聴覚検査の原理と方法、解釈を学習します。加えて、難聴者の聴こえと聴覚補償の概要を学ぶとともに、聴覚特別支援学校を見学し、教育現場における指導の実際を理解します。
到達目標	1. 各種聴覚検査を体験し、検査意義や適応、検査方法を説明できる。 2. 各種聴覚検査の検査結果から分かることが説明できる。 3. 聴覚補償の方法とコミュニケーション手段について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>石津希代子</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、 (概要と受講ルール、耳の構造、伝導路) 聴覚障害による問題、検査の種類 (伝音難聴、感音難聴、ライフステージ別問題)</p> <p>第 2 回：オーディオメータとオーディオグラム、 (オーディオグラムの書き方・分かること)</p> <p>第 3 回：標準純音聴力検査① (目的、準備、検査説明、受話器の装着)</p> <p>第 4 回：標準純音聴力検査② (測定手続き、データの読みとり)</p> <p>第 5 回：陰影聴取とマスキング (陰影聴取、両耳間移行減衰量、マスキング手続き)</p> <p>第 6 回：語音聴力検査 (目的、語表、測定手続き、データの読みとり)</p> <p>第 7 回：インピーダンスオーディオメトリ (目的、仕組み、わかること)</p> <p>第 8 回：自記オーディオメトリ (目的、仕組みと記録、Jerger の分類)</p> <p>第 9 回：閾値上聴力検査 (バランステスト、SISI、MCL、UCL、目的)</p> <p>第 10 回：耳音響放射検査 (耳音響放射、発声機序、分かること) 聴性脳幹反応 (目的、方法、分かること)</p> <p>第 11 回：選別聴力検査 (選別検査の方法、検査周波数と音圧) 機能性難聴 (機能性難聴の分類、鑑別検査)</p> <p>第 12 回：後迷路障害の鑑別</p> <p>第 13 回：聴覚特別支援学校の指導・教育① (聴覚補償機器、コミュニケーション方法)</p> <p>第 14 回：聴覚特別支援学校の指導・教育② (教育方法、コミュニケーション手段、環境面の工夫)</p> <p>第 15 回：聴覚特別支援学校の指導・教育③</p>
アクティブラーニング	本科目は、反転授業形式で行います。授業内では各回のテーマについて、ペアワーク、グループワーク、演習を通して学修を深めます。
評価方法	提出物・レポート 30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	提出物・実技内容については、ルーブリックを用いて確認し、随時、フィードバックをします。 毎回の小テストは Moodle 上で実施、フィードバックを行います。
指定図書	日本聴覚医学会編：聴覚検査の実際 改訂 4 版、南山堂、2017 中村公枝、城間将江、鈴木恵子編：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第 2 版、医学書院、2015

事前・ 事後学修	<p>※当該科目の学習資料を整理するためのファイル（2 穴リングファイル）を用意して下さい。</p> <p>※毎回の講義終了時に次回の予習範囲を示します。同時に、事前・事後学修の資料を Moodle に呈示します。必ず事前学修をした上で受講して下さい。講義は、事前学修をもとに進めます。</p> <p>※事前・事後学修ではシラバスに示したキーワードを「説明できる」ように学習を進めて下さい。</p> <p>※授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodle の当該コースに随時示します。</p>
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3502 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	聴覚機能評価演習
科目責任者	石津希代子
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 4 セメスター
科目の位置付	DP (5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人に合わせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	3 セメスターで学んだ聴覚機能の評価に関する理論をもとに、実際に各種検査法の具体的技法を取得することをめざします。標準純音聴力検査、語音聴力検査、中耳機能・内耳機能検査、聴性脳幹反応検査など、各種聴覚検査の原理を再確認し、具体的技法を学習します。
到達目標	1. 各種聴覚検査の検査意義や適応を理解した上で、具体的検査方法を説明できる。 2. 純音聴力検査・語音聴力検査を実施でき、結果を正しく記録できる。 3. 各種聴覚検査の検査結果を読みとることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>石津希代子</p> <p>第 1 回：標準純音聴力検査：気導 (検査準備、説明、受話器の装着、測定手続き)</p> <p>第 2 回：標準純音聴力検査：骨導 (受話器の装着、測定手続き)</p> <p>第 3 回：標準純音聴力検査：マスキング (マスキング手続き、記録)</p> <p>第 4 回：標準純音聴力検査：気導・骨導 (測定手続き、データの読みとり、マスキング)</p> <p>第 5 回：語音聴力検査：語音了解閾値検査 (測定手続き、データの読みとり、マスキング)</p> <p>第 6 回：語音聴力検査：語音弁別検査 (測定手続き、データの読みとり)</p> <p>第 7 回：語音聴力検査 (データの読みとり、解釈)</p> <p>第 8 回：インピーダンスオージオメトリ (測定手続き、データの読みとり、解釈)</p> <p>第 9 回：自記オージオメトリ (測定手続き、解釈)</p> <p>第 10 回：閾値上検査：バランステスト (測定手続き、解釈)</p> <p>第 11 回：閾値上検査：SISI、MCL、UCL (測定手続き、解釈)</p> <p>第 12 回：耳音響放射検査 (測定手続き、解釈)</p> <p>第 13 回：聴性脳幹反応 (測定手続き、解釈)</p> <p>第 14 回：実技チェック (標準純音聴力検査、語音聴力検査)</p> <p>第 15 回：まとめ</p>
アクティブラーニング	本科目は、演習科目です。反転授業形式で行います。
評価方法	提出物 30%、レポート 20%、小テスト 20%、実技チェック 30%
課題に対するフィードバック	提出物・レポート・実技内容については、ルーブリックを用いて確認し、随時、フィードバックをします。 毎回の小テストは Moodle 上で実施、フィードバックを行います。
指定図書	日本聴覚医学会編：聴覚検査の実際 改訂 4 版. 南山堂, 2017 中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第 2 版. 医学書院, 2015

事前・ 事後学修	<p>※当該科目の学習資料を整理するためのファイル（2 穴リングファイル）を用意して下さい。</p> <p>※毎回の講義終了時に次回の予習範囲を示します。同時に、事前・事後学修の資料を Moodle に呈示します。必ず事前学修をした上で受講して下さい。講義は、事前学修をもとに進めます。</p> <p>※事前・事後学修ではシラバスに示したキーワードを「説明できる」ように学習を進めて下さい。</p> <p>※授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodle の当該コースに随時示します。</p>
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3502 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	小児聴覚障害学
科目責任者	大原 重洋
単位数他	2 単位 (30 時間) 言語必修 5 セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる 専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	乳幼児聴力検査の講義を通じて、小児の発達特性を踏まえた聴力評価法について理解し、実際の機器を用いて検査を実施する。
到達目標	新生児聴覚スクリーニングに用いる検査の原理と手技について理解できる。 乳幼児聴力検査の原理を理解し、検査を実施することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋</p> <p>第 1 回：オリエンテーション、小児聴覚障害概論 第 2 回：聴覚障害の早期発見と療育 第 3 回：聴覚障害児の発達過程とライフステージに応じた評価・支援の実際 第 4 回：乳幼児の聴覚発達 第 5 回：新生児聴覚スクリーニングの理論 (AABR、OAE、ABR、ASSR) 第 6 回：乳幼児の聴力検査の理論 (BOA、COR、VRA) 第 7 回：乳幼児の聴力検査の実際 第 8 回：演習① (学生同士) 第 9 回：演習② (学生同士) 第 10 回：乳幼児の聴力検査の理論 (PEEP SHOW、Play Audiometry) 第 11 回：乳幼児の聴力検査の実際 第 12 回：演習③ (学生同士) 第 13 回：演習④ (学生同士) 第 14 回：演習⑤ (学生同士) 第 15 回：演習⑥ (学生同士)</p>
アクティブラーニング	乳幼児検査法については、学生同士で検査を実施する。さらに、手法や留意点について、グループで協議し、乳幼児検査のあり方について報告する。
評価方法	定期試験 50%、乳幼児検査手技 (グループへの参加度、平常点含む) 50%、
課題に対するフィードバック	学生同士の検査演習における手技については、その場でフィードバックする。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
事前・事後学修	シラバスの内容に該当する教科書を事前に学修し授業に臨むこと。 グループ毎に演習の準備・練習を行う。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8 時 50 分～10 時 10 分 上記以外でもメール (shigehiro-o@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	小児聴覚障害演習
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位（30時間） 言語必修 5セメスター
科目の位置付	DP (5)獲得した専門分野の知識・理論や 技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	小児固有の聴性行動を理解した上で、先天性聴覚障害児の認知・言語・心理的側面の典型的症状と評価法について学習し、協力者の協力を得て、実際に聴覚障害幼児学童を評価して、訓練指導プログラムを立案する。
到達目標	小児の聴覚評価と言語指導のプログラムを立案し、実際の聴覚障害児に実施し、報告書としてまとめることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋</p> <p>第 1回：聴覚障害児臨床における関連情報の収集</p> <p>第 2回：聴覚障害児の言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方①</p> <p>第 3回：聴覚障害児の言語・コミュニケーションの評価と支援のあり方②</p> <p>第 4回：言語・コミュニケーション評価計画の立案と作成①</p> <p>第 5回：言語・コミュニケーション評価計画の立案と作成②</p> <p>第 6回：評価計画の実施（学生同士で確認）①</p> <p>第 7回：評価計画の実施（学生同士で確認）②</p> <p>第 8回：演習⑦（聴覚障害児）</p> <p>第 9回：演習⑧（聴覚障害児）</p> <p>第 10回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討</p> <p>第 11回：評価サマリーの作成と指導プログラムの検討</p> <p>第 12回：演習⑨（聴覚障害児）</p> <p>第 13回：演習⑩（聴覚障害児）</p> <p>第 14回：報告会①</p> <p>第 15回：報告会②</p>
アクティブラーニング	演習科目である。
評価方法	評価訓練計画書 40%、評価訓練の実施 30%、報告書と発表 30%
課題に対するフィードバック	評価訓練計画書の作成、学生同士の検査演習における手技については、その場でフィードバックする。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
事前・事後学修	グループ毎に演習の準備、評価・訓練プログラムの立案を行う。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	成人聴覚障害学
科目責任者	石津希代子
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 6 セメスター
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	この科目では聴覚障害学、聴覚機能評価演習、聴覚補償演習で学んだ評価・支援に関する知識を整理・統合することが目標です。成人期の聴覚障害者の聴覚障害の特徴を理解し、評価・診断、指導・支援について考えていきます。また視覚聴覚二重障害がコミュニケーションに及ぼす影響について知識を深め、支援方法および代替コミュニケーション手段について学習します。
到達目標	1. 中途失聴者・難聴者の聴覚保障およびコミュニケーション支援について説明できる。 2. 視覚聴覚二重障害の方の特徴を挙げることができる。 3. 聴覚障害者のための各種支援機器、社会福祉制度、社会資源について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>石津希代子</p> <p>第 1 回： 成人期の聴覚障害の特徴</p> <p>第 2 回： 聴覚障害者の評価と指導①：補聴と聴力活用</p> <p>第 3 回： 聴覚障害者の評価と指導②：コミュニケーション手段</p> <p>第 4 回： 聴覚障害者の評価と指導③：コミュニケーション指導</p> <p>第 5 回： 聴覚障害者の評価と指導④：読話指導</p> <p>第 6 回： 視覚聴覚二重障害① : 概要、評価・支援方法</p> <p>第 7 回： 視覚聴覚二重障害② : 概要、評価・支援方法</p> <p>第 8 回： 福祉機器と社会資源 : 各種福祉機器、社会福祉制度、社会資源</p>
アクティブラーニング	本科目は、反転授業形式で行います。授業内では各回のテーマについて、ペアワーク、グループワーク、演習を通して学修を深めます。
評価方法	提出物・小テスト 30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	提出物・実技内容については、ルーブリックを用いて確認し、随時、フィードバックをします。 毎回の小テストは Moodle 上で実施、フィードバックを行います。
指定図書	日本聴覚医学会編：聴覚検査の実際 改訂 4 版. 南山堂, 2017 中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第 2 版. 医学書院, 2015
事前・事後学修	※当該科目の学習資料を整理するためのファイル (2 穴リッパファイル) を用意して下さい。 ※毎回の講義終了時に次回の予習範囲を示します。同時に、事前・事後学修の資料を Moodle に呈示します。必ず事前学修をした上で受講して下さい。講義は、事前学修をもとに進めます。 ※授業内容の概略やポイント、参考資料、課題は、Moodle の当該コースに随時示します。
オフィスアワー	リハビリテーション学部、3502 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	聴覚補償演習
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位（30時間） 言語必修 6セメスター
科目の位置付	DP (5)獲得した専門分野の知識・理論や 技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力 につなげることができる。
科目概要	聴覚障害児・者の聴覚感覚を保証する補聴器や人工内耳の原理と特性を理解し、適合法を学習する。
到達目標	1. 補聴器の原理と機能を理解し、聴力レベルに応じて実際に調整することができる。 2. 人工内耳の原理・機能・マッピング法を理解できる。 3. 無線補聴システムの利用について理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大原重洋</p> <p>第 1回：オリエンテーション、乳幼児の補聴器の適合理論 第 2回：補聴器の構造と機能 第 3回：補聴器適合プログラム 第 4回：補聴器特性の測定 第 5回：補聴器の装用効果 第 6回：演習① 第 7回：演習② 第 8回：演習③ 第 9回：演習④ 第 10回：演習⑤ 第 11回：人工内耳の構造と機能、種類 第 12回：人工内耳の音声情報処理と調整、装用効果 第 13回：人工中耳・聴性脳幹インプラント 第 14回：無線補聴システムの原理と機能 第 15回：教育現場における無線補聴システムの活用</p>
アクティブラーニング	演習科目です。
評価方法	定期試験 60%、補聴器適合手技 40%
課題に対するフィードバック	演習における手技について、その場でフィードバックする。
指定図書	中村公枝、城間将江、鈴木恵子編「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」医学書院
事前・事後学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。 グループ毎に演習の準備、補聴器の測定練習を行う。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	臨床言語聴覚療法基礎実習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1単位（45時間） 言語必修 1セメスター
科目の位置付	DP (6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	本実習は、言語聴覚士の臨床活動の理解・言語聴覚障害者の理解を目的に、近隣の医療・福祉・教育施設で言語聴覚療法の実際を見学する。臨床見学を通じて、言語聴覚士を志す動機を高め、医療職としての態度、社会でのマナーを身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 見学施設の特徴を説明できる。 2. 言語聴覚士の臨床活動を説明できる。 3. 言語聴覚障害者・摂食嚥下障害者の症状や様子を説明できる。 4. 医療施設で自身の立場をわきま見学できる。 5. 見学を通じて自身で考えたことを発表できる。
授業計画	<p><担当教員名> 柴本勇、佐藤順子、石津希代子、谷哲夫、大原重洋、中村哲也、佐藤豊展、木原ひとみ</p> <p><授業内容・テーマ等> 以下の日程及び内容を実施する。</p> <p>7月：実習オリエンテーション・事前学習 9月4日～8日 の期間中に5日間医療・福祉・教育施設で見学をする 9月19日以降に見学報告会及びレポート提出</p> <ol style="list-style-type: none"> ①事前学習：実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー ②実習施設への電話連絡 ③実習施設での見学：言語聴覚士の活動、言語聴覚療法の実際、言語聴覚障害者の症状、守秘義務の理解、記録 ④臨床言語聴覚療法基礎実習報告会での発表 ⑤臨床言語聴覚療法基礎実習レポート
アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、見学施設での活動 40%、報告会 20%、レポート 20%
課題に対するフィードバック	オリエンテーション及び事前学習内容は、科目責任者が提示します。その後、各課題を実習施設担当教員に提出し、適時担当教員からフィードバックをします。見学施設での活動は、実習施設での担当言語聴覚士から担当教員を通じてフィードバックをします。

指定図書	必要に応じて資料を配布します。
事前・ 事後学修	実習施設の特徴、言語聴覚障害の種類と症状、服装・マナー、実習施設への連絡方法を事前学習で行います。事後学修では、自身の基礎実習を振り返りながら、実習報告会の準備をし、自身の学びをレポートにまとめます。
オフィス アワー	研究室：3号館4階 3408 研究室 毎週火曜日3限とします。 上記以外でも、メール(isamu-s@seirei.ac.jp)にて面談予約を受け付けます。

科目名	臨床言語聴覚療法評価実習
科目責任者	石津希代子
単位数他	2 単位 (90 時間) 言語必修 6 セメスター
科目の位置付	DP (6) 保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、他職種と連携、共同して、その責務を果たすことができる。
科目概要	言語聴覚障害の評価・診断・目標設定などについて学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例を通して学ぶ。これまで学内で学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認し、再統合する機会とする。また、臨床におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	1. 教員および実習指導者に適切に報告・連絡・相談ができる。 2. 情報収集に始まり、適切な検査法を選択できる。 3. 検査・観察などを通して患児・者の全体像を把握し、文章化できる。 4. 社会人としての基本的態度を養う。
授業計画	<p><担当教員></p> <p>石津希代子、柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、中村哲也、佐藤豊展、木原ひとみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について 2 週間の実習を行う。</p> <p>①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成</p> <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>
アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
事前・事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習 I の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodle の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オフィスアワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。

科目名	臨床言語聴覚療法総合実習 I
科目責任者	石津希代子
単位数他	6 単位 (270 時間) 言語必修 7 セメスター
科目の位置付	DP (6) 保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、他職種と連携、共同して、その責務を果たすことができる。
科目概要	学外の実習施設において、実習指導者の指導の下、これまで学んだ専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、実際の症例の言語聴覚障害を評価・診断し、目標設定を行う。さらに訓練プログラムの立案ならびにその実践を通し、専門技術について学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。さらに障害像や取り組みの多様性についても学ぶ。
到達目標	1. これまでに学修してきた専門知識や技術を臨床の現場で再確認、再統合する。 2. 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行、結果の解釈と鑑別診断、目標の設定などが行えるようになる。
授業計画	<p><担当教員></p> <p>石津希代子、柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、中村哲也、佐藤豊展、木原ひとみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>言語聴覚障害（嚥下障害含む）の評価・訓練に関する諸事項について 6 週間の実習を行う。</p> <p>①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成</p> <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>
アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	実習評価表 70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など 30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
事前・事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習 I の事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodle の当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オフィスアワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。

科目名	臨床言語聴覚療法総合実習Ⅱ
科目責任者	石津希代子
単位数他	6単位(270時間) 言語必修 7セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる
科目概要	言語聴覚療法の実践について学ぶ。総合実習では臨地施設において、実習指導者の指導の下、実際の症例の言語聴覚障害の評価・診断から目標設定をし、訓練プログラムの立案ならびにその実践を通して専門技術を総合的に学ぶ。また、臨床の場におけるチームアプローチの重要性を知り、専門職の一員としての協調性や独自性を養う。
到達目標	1. 最後の臨床実習としてこれまでに学修してきた専門知識や技術を再確認、再統合する。 2. 情報の収集に始まり、適切な検査法の選択と実行を通して障害を正しく評価できる。 3. 訓練プログラムを設定し、訓練を行うことができる。 4. 報告書としてまとめ発表する。
授業計画	<p><担当教員> 石津希代子、柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、中村哲也、佐藤豊展、木原ひとみ</p> <p><授業内容・テーマ等> 言語聴覚障害(嚥下障害含む)の評価・訓練に関する諸事項について、6週間の実習を行う。</p> <p>①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③結果の解釈と問題点の抽出 ④鑑別診断 ⑤訓練目標の設定と訓練プログラム案の立案 ⑥報告書作成 ⑦訓練プログラムの立案・検討 ⑧訓練の実践 ⑨症例レポートの作成</p> <p>言語聴覚障害の評価に関する諸事項について、実習施設での方法に従ってすすめる。</p>
アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	実習評価表70%、「事前学習」「事後学習」の内容・提出物・事後報告会など30%
課題に対するフィードバック	実習前後の学習内容は、担当教員に提出します。適時、担当教員がフィードバックをします。実習評価については、実習指導者および担当教員より評価内容、今後の課題、改善点についてフィードバックします。
指定図書	臨床実習ガイドブック
事前・事後学修	<p>※総合演習や学内演習等で明らかとなった課題を振り返り、臨床実習Ⅰの事前学習を行う。</p> <p>※これまでの授業で使用した教科書以外に、様々な書籍にあたって学修を深めることを勧めます。</p> <p>※臨床実習に関する説明、諸注意、各種書類のテンプレート等は、Moodleの当該コースに示します。</p> <p>※事前準備、実習中、事後指導については、担当教員に連絡・報告・相談をしながら進めます。</p> <p>※実習中は実習指導者の指導の下、十分な事前準備をして取り組みます。</p> <p>※指摘された問題に対しては謙虚に改善に努め、どのように改善したかを報告します</p>
オフィスアワー	時間については実習オリエンテーション時に提示します。

科目名	地域言語聴覚療法学																													
科目責任者	谷 哲夫																													
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語必修 8 セメスター																													
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。																													
科目概要	地域言語聴覚療法の概念を理解し、生活期の言語聴覚療法について学修する。介護保険制度における言語聴覚療法の実施条件を理解する。地域言語聴覚療法の実践例を通して具体的なイメージを促すとともに、地域言語聴覚療法の現実的な問題点を整理する。																													
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険下の言語療法と介護保険下の言語聴覚療法の質的違いを理解できる（制度、目的） 2. 地域言語聴覚療法の特徴を理解できる（地域性、個別性） 3. 地域言語聴覚療法に何が求められているのかを理解できる。 																													
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員名＞</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回:日本の医療・福祉の問題点</td> <td>地域包括ケアシステム</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 2 回:地域言語聴覚療法の概要</td> <td></td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 3 回:地域言語聴覚療法に必要な知識① 疾患と評価</td> <td></td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 4 回:地域言語聴覚療法に必要な知識② 問題抽出と目標設定</td> <td></td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 5 回:地域言語聴覚療法に必要な知識③ 介護保険制度と障害者福祉制度</td> <td></td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 6 回:地域言語聴覚療法の実践例</td> <td>教科書と動画による紹介</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 7 回:地域言語聴覚療法の実践例</td> <td>訪問言語聴覚士の講話</td> <td>谷</td> </tr> <tr> <td>第 8 回:まとめ</td> <td></td> <td>谷</td> </tr> </tbody> </table>			＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞		第 1 回:日本の医療・福祉の問題点	地域包括ケアシステム	谷	第 2 回:地域言語聴覚療法の概要		谷	第 3 回:地域言語聴覚療法に必要な知識① 疾患と評価		谷	第 4 回:地域言語聴覚療法に必要な知識② 問題抽出と目標設定		谷	第 5 回:地域言語聴覚療法に必要な知識③ 介護保険制度と障害者福祉制度		谷	第 6 回:地域言語聴覚療法の実践例	教科書と動画による紹介	谷	第 7 回:地域言語聴覚療法の実践例	訪問言語聴覚士の講話	谷	第 8 回:まとめ		谷
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																													
第 1 回:日本の医療・福祉の問題点	地域包括ケアシステム	谷																												
第 2 回:地域言語聴覚療法の概要		谷																												
第 3 回:地域言語聴覚療法に必要な知識① 疾患と評価		谷																												
第 4 回:地域言語聴覚療法に必要な知識② 問題抽出と目標設定		谷																												
第 5 回:地域言語聴覚療法に必要な知識③ 介護保険制度と障害者福祉制度		谷																												
第 6 回:地域言語聴覚療法の実践例	教科書と動画による紹介	谷																												
第 7 回:地域言語聴覚療法の実践例	訪問言語聴覚士の講話	谷																												
第 8 回:まとめ		谷																												
アクティブラーニング	Moodle を活用します																													
評価方法	定期試験 80% レポート・小テスト 20%																													
課題に対するフィードバック	小テストの解説は授業の中で行います																													

指定図書	森田秋子, 黒羽真美「在宅・施設リハビリテーションにおける言語聴覚士のための地域言語聴覚療法」三輪書店
事前・事後学修	Moodle による予習・復習
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11：15～13：15 上記以外でも在室時随時対応します

科目名	拡大代替コミュニケーション演習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 8 セメスター
科目の位置付	DP (5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	コミュニケーションを音声言語から拡大する方法、音声言語を代替する方法について演習を通じて学ぶ。本科目では、ローテクノロジー・ハイテクノロジー・スイッチの適応等のコミュニケーション方法の選択とその訓練法について模擬的に実施しながら理解を深めていく。
到達目標	1. 拡大代替コミュニケーションの種類と適応を説明できる。 2. 適切な拡大代替コミュニケーション方法選択ができる。 3. 拡大代替コミュニケーションの訓練を模擬的にできる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：オリエンテーション・人のコミュニケーション 柴本 勇</p> <p>第 2 回：拡大代替コミュニケーションとは 柴本 勇</p> <p>第 3 回：拡大代替コミュニケーションの種類と適応 柴本 勇</p> <p>第 4 回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法① 柴本 勇</p> <p>第 5 回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法② 柴本 勇</p> <p>第 6 回：ローテクノロジーを用いたコミュニケーション法③ 柴本 勇</p> <p>第 7 回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法① 柴本 勇</p> <p>第 8 回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法② 柴本 勇</p> <p>第 9 回：ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション法③ 柴本 勇</p> <p>第 10 回：スイッチの選択と適応① 柴本 勇</p> <p>第 11 回：スイッチの選択と適応② 柴本 勇</p> <p>第 12 回：拡大代替コミュニケーション訓練① 大原重洋</p> <p>第 13 回：拡大代替コミュニケーション訓練② 大原重洋</p> <p>第 14 回：拡大代替コミュニケーション訓練③ 大原重洋</p> <p>第 15 回：まとめ 柴本 勇</p>
アクティブラーニング	演習科目です
評価方法	定期試験：40%、実技演習 60%
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、課題遂行・リアクションペーパーに対するコメントをします。毎回講義終了時に、毎回ディスカッションを行います。
指定図書	なし
事前・事後学修	演習科目ですので、殆ど実技を行っていきます。実技に必要な知識(復習)が必要です。
オフィスアワー	初回講義時に提示します。

科目名	言語聴覚学研究法
科目責任者	佐藤順子
単位数他	1単位（15時間） 言語必修 5セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	研究論文の理解と研究計画書作成のために必要となる研究の基礎知識を学ぶ。論文を読み、内容を正確に理解し要約することや、自ら疑問を持つこと、自分の意見を他者に伝えることができることを目指す。また、研究計画の立案と実験・調査の修正の過程を演習を通じて学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の読み方、書き方の基本を学ぶ。 2. キーワードでテキスト等の書籍から解説文を探し、内容を理解するためにさらに他の文献を探ることができる。 3. 先行研究の論文を読み、教員や他の学生に概要を伝えることができる。 4. 研究の種類を学び、適切な研究方法を選択できる。 5. 簡単なテーマでの研究計画書を立案し、発表できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：基本的な文献の読解 佐藤順子</p> <p>第2回：文献検索 佐藤順子</p> <p>第3回：文献の要約 佐藤順子</p> <p>第4回：研究の意義・研究の種類 佐藤順子</p> <p>第5回：研究テーマを考える（先行文献検索） 佐藤順子</p> <p>第6回：研究計画の立案① 佐藤順子</p> <p>第7回：研究計画の立案② 佐藤順子</p> <p>第8回：研究発表 佐藤順子</p>
アクティブラーニング	演習科目です。
評価方法	レポート（70%）発表（30%）

課題に対するフィードバック	授業内に解説をします。
指定図書	『よくわかる卒論の書き方』 白井利明他 ミネルヴァ書房 『論文の教室-レポート作成から卒論まで-』 戸田山和久 NHK ブックス
事前・事後学修	〔事前学修〕 事前に指定図書の該当箇所を読んでおくこと。 〔事後学修〕 授業で課題として出されたレポートを作成する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：毎週月曜日 IV限 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	言語聴覚学研究法演習
科目責任者	谷 哲夫
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	言語聴覚障害学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員のゼミに所属して指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身につけることを目標とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。 2. 先行研究の論文を読み、教員や他のメンバーに概要を伝えることができる。 3. 調査・実験計画を立案できる。 4. 適宜、ゼミで中間報告・ディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正する。 5. 研究目的、関連する先行研究（5 編以上）、研究方法、今後のスケジュールを記載した中間報告書を作成し、中間報告会で発表する。
授業計画	<p><担当教員名> 柴本勇、佐藤順子、石津希代子、谷哲夫、大原重洋、中村哲也、</p> <p><授業内容・テーマ等> 各ゼミで、また個々のテーマによって進行は異なるが、大枠は次のように予定し、毎回、進捗状況の報告をしながら進めていく。</p> <p>第 1 回：卒業研究の概要説明</p> <p>第 2 回：研究法の多様性を知る</p> <p>第 3 回：テーマの仮設定</p> <p>第 4 回：関係資料の収集</p> <p>第 5 回：関係資料の整理</p> <p>第 6 回：抄読会</p> <p>第 7 回：先行研究の収集と整理</p> <p>第 8 回：ゼミ報告（先行研究と自分のテーマとの関連性について）</p> <p>第 9 回：ゼミ報告（先行研究に学ぶ研究法の選択）</p> <p>第 10 回：研究計画の立案</p> <p>第 11 回：ゼミ発表・報告</p> <p>第 12 回：研究計画の修正</p> <p>第 13 回：テーマの再確認と年間計画立</p> <p>第 14 回：中間報告会</p> <p>第 15 回：中間報告会</p>

アクティブラーニング	演習科目
評価方法	ゼミの参加・態度 50% 中間発表会 50% (中間発表内容 25% 中間報告書内容 25%)
課題に対するフィードバック	添削・返却など
指定図書	なし
事前・事後学修	研究家計画に関する課題の遂行と修正 (各 40 分)
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3406 研究室 時間等：毎週月曜 11:15~13:15 上記以外でも在室時随時対応します

科目名	言語聴覚障害学総合演習
科目責任者	石津希代子
単位数他	1 単位 (30 時間) 言語必修 6 セメスター
科目の位置付	DP (5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人に合わせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	1 セメスターから 5 セメスターまでに学修した内容の総まとめとして、獲得した知識・技術の整理と統合をはかり、臨床実習に備える。実習生としての基本的な姿勢（身だしなみや態度、ことば遣い、症例や家族、他のスタッフに対する配慮など）を身につけるとともに、情報収集や観察記録の取り方、各種検査の実施と記録、評価のまとめと症状分析、日誌の作成とカルテ記入、Deep Test の作成、訓練プログラムの立案、症例報告やレポート作成など、言語聴覚療法の臨床に関する一連の内容を総合的に再学習し整理する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション専門職を目指す実習生としての確かな行動がとれるよう、専門知識に偏らない社会常識を身につける。 2. 学修した知識を口頭で説明することができる。 3. 対象者の状態に適したリハビリテーションを実践できるように、評価技術を身につける。 4. 実習を想定した演習で観察・記録したことを、効率よく文章化し、報告することができる。
授業計画	<p><担当教員></p> <p>石津希代子、柴本勇、佐藤順子、谷哲夫、大原重洋、中村哲也、佐藤豊展、木原ひとみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： オリエンテーション</p> <p>第 2 回： 心構え、報告・連絡・相談</p> <p>第 3 回： 安全管理</p> <p>第 4 回： 行動観察、記録</p> <p>第 5 回： 情報収集</p> <p>第 6 回： スクリーニングテストの作成</p> <p>第 7 回： 実技チェック</p> <p>第 8 回： 実技チェックの振り返り</p> <p>第 9 回： 症例検討①</p> <p>第 10 回： 症例検討②</p> <p>第 11 回： 症例検討③</p> <p>第 12 回： 報告書の作成</p> <p>第 13 回： トランスファー、バイタルチェック ①</p> <p>第 14 回： トランスファー、バイタルチェック ②</p> <p>第 15 回： 実習オリエンテーション</p>
アクティブラーニング	授業内では、適時、ペアワーク、グループワーク、演習を通して学修を深めます。
評価方法	提出物 20%、レポート 20%、実技チェック 20%、定期試験 40%
課題に対するフィードバック	提出物・実技内容については、適時、フィードバックをします。

指定図書	深浦順一、長谷川賢一、立石雅子、佐竹恒夫編：図解 言語聴覚療法技術ガイド．文光堂，2014
事前・事後学修	※指定図書以外に、これまでの授業で使用した教科書に戻って学修を深めることを勧めます。 ※毎回の講義終了時に、次回までの予習・復習内容を示します。
オフィスアワー	時間については初回のオリエンテーション時に提示します。

科目名	国際社会福祉論
科目責任者	田島明子
単位数他	2 単位 (30 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4 セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国際社会福祉の概念や理論、グローバリゼーションと社会福祉問題を学ぶ。後半は参加型の開発型福祉を踏まえ、自らの実践を考察するグループワークを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会福祉とは何か、現状と課題について概略を述べることができる。 ・講義で取り上げた地球規模の問題やこれからの日本の社会福祉のあり方について意見を述べることができる。 ・国際的な社会福祉問題に関心が持てるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法等の説明）…田島明子</p> <p>第 2 回：国際社会福祉の概念と理論 …田島明子</p> <p>第 3 回：グローバリゼーションと社会福祉 …田島明子</p> <p>第 4 回：グローバリゼーションと社会福祉問題の実相 …田島明子</p> <p>第 5 回：世界人権宣言と国際人権規約の概要 …田島明子</p> <p>第 6 回：精神保健福祉における人権と思想 …佐々木正和</p> <p>第 7 回：精神保健福祉における人権に関する具体的事例検証 …佐々木正和</p> <p>第 8 回：開発型社会福祉の事例－カンボジアでの幼児・初等教育支援 …鈴木光男</p> <p>第 9 回：開発型社会福祉の事例－カンボジアでの幼児・初等教育支援 …鈴木光男</p> <p>第 10 回：国際社会福祉における国際協力の理念と実際 …田島明子</p> <p>第 11 回：国際社会福祉の具体例を学び、実践を考察する（PBL） …田島明子</p> <p>第 12 回：国際社会福祉の具体例を学び、実践を考察する（PBL） …田島明子</p> <p>第 13 回：国際社会福祉の具体例を学び、実践を考察する（PBL） …田島明子</p> <p>第 14 回：国際社会福祉の具体例を学び、実践を考察する（PBL） …田島明子</p> <p>第 15 回：発表とまとめ …田島明子</p>
アクティブラーニング	PBL を行うので、主体的・積極的に参加をし、自ら調べ、考えることで、国際社会福祉の具体例を学び、どのような実践を行っていくとよいか考察を行ってください。

評価方法	筆記試験（60%）、グループワークへの参加度（20%）、小テスト（20%）
課題に対するフィードバック	グループワークや小テストにおいて学修状況を適宜把握し、必要に応じて、学修の進行を促す アドバイスをを行う。
指定図書	中村優一他編著「グローバリゼーションと国際社会福祉」（中央法規）
事前・事後学修	普段から地球規模の問題や課題に積極的に関心を抱き、問題意識を深めること。 事前：指定図書、関係資料等、授業に関連する箇所を読んでおくこと。 事後：授業内容の復習を行い自分の考えをまとめておくこと。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3515 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（akiko-t@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。

科目名	薬理・薬剤
科目責任者	大場 浩
単位数他	2単位（30時間）理学選択・作業選択・言語選択 4 Semester
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	主な疾患をとりあげて、その代表的な薬物の作用機序が講義内容の中心であるが、薬物の性質、体内動態および副作用等の問題、さらには新薬の動向にも言及する。
到達目標	疾病の理解を通して、その代表的な薬物の作用機序などについて理解するとともに、薬物のもつ副作用をも学び、臨床現場で役立てることが目標となる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>大場 浩</p> <p>第 1 回：ガイドランス、薬物が作用するしくみ</p> <p>第 2 回：自律神経系に作用する薬物</p> <p>第 3 回：花粉症などのアレルギーに作用する薬物</p> <p>第 4 回：リウマチなどの炎症に作用する薬物</p> <p>第 5 回：血液・輸液に関連する薬物</p> <p>第 6 回：心臓・血管などの循環器に作用する薬物</p> <p>第 7 回：呼吸器に作用する薬物（ぜんそく治療薬を中心に）</p> <p>第 8 回：消化器に作用する薬物（胃腸薬・肝炎を中心に）</p> <p>第 9 回：糖代謝に関連する薬物（糖尿病を中心に）</p> <p>第 10 回：脂質代謝に関連する薬物（脂質異常症を中心に）</p> <p>第 11 回：中枢神経系に作用する薬物（パーキンソン病治療薬を中心に）</p> <p>第 12 回：中枢神経系に作用する薬物（てんかん・うつ病治療薬を中心に）</p> <p>第 13 回：鎮痛薬・麻酔薬</p> <p>第 14 回：抗生物質</p> <p>第 15 回：抗癌薬</p>
アクティブラーニング	毎回の講義で理解した事柄を具体的にリアクションペーパーに記載し、提出。評価の対象(1～2点/回)とする
評価方法	リアクションペーパー評価（30%）具体的な設問形式のレポート（70%）で評価する。

課題に対するフィードバック	講義内容の質問、意見、感想は、リアクションペーパーを利用してフィードバック
指定図書	著者：田中越郎「イラストで学ぶ薬理学」医学書院発行
事前・事後学修	教科書やインターネットなどで病気の概要や薬物の作用機序を知っておくと、講義が理解しやすい。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	カウンセリング
科目責任者	福永 博文
単位数他	1単位 (30時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4セメスター
科目の位置付	DP (3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	1. 人が、精神的健康を回復、維持して生きる力を身につけるための知識・技術を学修する。 2. 障害がある人の心理の理解及び支援に関する心理臨床的治療の知識や技術を学修する。 3. クライエントの状態に応じてカウンセリングの技法を組み合わせる方法について学習する。
到達目標	1. カウンセリングに関する多様な理論と技法について理解する。 2. リハビリテーションの効果を促進するためのカウンセリングの有効性について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>福永 博文</p> <p>第1回： カウンセリングの意味、相談とカウンセリング 第2回： カウンセリングと心理療法との関係—印象形成、他者認知の歪み 第3回： カウンセリングに必要な条件や基本的態度① —人間関係の質、積極的傾聴・受容・共感的理解—(事例検討) 第4回： カウンセリングに必要な条件や基本的態度② —感情の反射、明確化、守秘義務—(事例検討) 第5回： カウンセリングを展開するための方法と内容 —カウンセリング過程における心理的問題、転移現象— 第6回： カウンセリングの理論と技法—来談者中心カウンセリング① —傾聴、感情の受容、共感的言葉と態度—(ロールプレイ) 第7回： カウンセリングの理論と技法—来談者中心カウンセリング② —場面構成、カウンセリッツの過程と問題点— 第8回： カウンセリングの理論と技法—指示的カウンセリング① —他の技法との関係、示唆・助言などの導入—(事例検討) 第9回： カウンセリングの理論と技法—指示的カウンセリング② —適用上の留意点と効果的に実施するための法則— 第10回： カウンセリングの理論と技法—折衷的カウンセリング —解釈と受容、共感的態度の適正な活用— 第11回： カウンセリングの理論と技法—行動カウンセリング① —行動理論に基づく方法の理解と実践の学修—(事例検討) 第12回： カウンセリングの理論と技法—行動カウンセリング② —具体的な実践例の学修—(事例検討) 第13回： 障害のある人を持つ家族の心理を理解したカウンセリング —家族の心理的变化を理解した支援—(事例検討) 第14回： 治療関係における患者の心理を理解したカウンセリング —入院患者とその家族の心理を理解した支援— 第15回： クライエントの状態によるカウンセリング技法の構造的理解と適用 —多様なカウンセリング技法のバッテリーとしての活用—(事例検討)</p>
アクティブラーニング	適応に困難をきたしているクライエントの理解と支援に必要なカウンセリング技法を、ロールプレイングをとおして又具体的な事例を検討することにより、臨床場面で活かせる確かな実践力を身につける。

評価方法	定期試験レポート 60%、中間レポート 40% 計 100%
課題に対するフィードバック	定期試験のレポートは解答例を提示する。中間レポートは、解説して提示する。
指定図書	毎回、プリントを用意し、事前に配布する。
事前・事後学修	事前に配布した資料を 25 分程度読んで理解を深めておく。 同時に当日の授業について 15 分程度の復習をし、さらに理解を深める。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	リハビリテーション栄養学																		
科目責任者	柴本 勇																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学選択・作業選択・言語選択 4 セメスター																		
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																		
科目概要	リハビリテーションの効果を最大限発揮するためには、栄養状態がよいことが望まれる。近年では、サルコペニア・フレイルなど栄養と関連したリハビリテーションに影響する病態も報告されている。今後、保健・医療・福祉分野で活躍するリハビリテーション職者に必要な栄養学的知識を得る。Nutrition Support Team(NST)の活動も学ぶ																		
到達目標	1. 栄養評価・栄養マネジメントの概要を説明できる 2. 栄養アセスメントができる 3. リハビリテーション職種として栄養介入を模擬的にできる 4. NST の概要を説明できる																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</td> <td style="text-align: center;">＜担当教員名＞</td> </tr> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション・リハビリテーション栄養とは</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：栄養補給とエネルギー代謝</td> <td>田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：必要栄養素と栄養量</td> <td>田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：栄養アセスメントとその実際</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：栄養療法とは</td> <td>田中真希</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：病態別栄養療法の実際</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：疾患別栄養療法の実際</td> <td>柴本 勇</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：栄養療法のチームアプローチ</td> <td>田中真希</td> </tr> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：オリエンテーション・リハビリテーション栄養とは	柴本 勇	第 2 回：栄養補給とエネルギー代謝	田中真希	第 3 回：必要栄養素と栄養量	田中真希	第 4 回：栄養アセスメントとその実際	柴本 勇	第 5 回：栄養療法とは	田中真希	第 6 回：病態別栄養療法の実際	柴本 勇	第 7 回：疾患別栄養療法の実際	柴本 勇	第 8 回：栄養療法のチームアプローチ	田中真希
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：オリエンテーション・リハビリテーション栄養とは	柴本 勇																		
第 2 回：栄養補給とエネルギー代謝	田中真希																		
第 3 回：必要栄養素と栄養量	田中真希																		
第 4 回：栄養アセスメントとその実際	柴本 勇																		
第 5 回：栄養療法とは	田中真希																		
第 6 回：病態別栄養療法の実際	柴本 勇																		
第 7 回：疾患別栄養療法の実際	柴本 勇																		
第 8 回：栄養療法のチームアプローチ	田中真希																		
アクティブラーニング	Moodle を用いて行います																		
評価方法	定期試験：70%、小テスト 20% 事前事後学修 10%																		
課題に対するフィードバック	毎回の講義では、課題遂行・リアクションペーパーに対するコメントをします。毎回講義終了時に、毎回ディスカッションを行います。																		
指定図書	「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」(医歯薬出版)																		
事前・事後学修	事前・事後学修は Moodle を用いて行います。																		
オフィスアワー	初回講義時に提示します。																		

科目名	国際リハビリテーション援助論
科目責任者	木原ひとみ
単位数他	1 単位 (30 時間) 理学選択 (5 セメスター) ・ 作業選択 (3 セメスター) ・ 言語選択 (3 セメスター)
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	<p>本科目では、将来国際的視野に立ったリハビリテーションが提供できる基盤作りを行う。国内において、国際援助機関や団体の見学演習、リハビリテーション分野の国際活動演習、災害時のリハビリテーション援助に関する学修、海外ボランティア活動などを通じて、リハビリテーション専門職者として将来国際活動ができる</p> <p>本科目は演習を中心に行う。各団体への訪問や活動支援、リハビリテーション支援等の演習を通じて、国際リハビリテーション援助の実際について学ぶ。実際に現場 (国内) に出かける場合もある。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの国際情勢について説明できる。 2. 国際活動におけるリハビリテーション専門職者の活動を説明できる。 3. 見学で得られたことを自身の学修に反映させることができる。 4. 海外活動の基礎を模擬的に実践できる。
授業計画	<p>< 授業内容 ・ テーマ等 > < 担当教員名 > 木原ひとみ、坂本飛鳥、鈴木達也、柴本 勇</p> <p>第 1 回 : オリエンテーション</p> <p>第 2 回 : リハビリテーション領域の国際情勢</p> <p>第 3 回 : リハビリテーション領域の国際支援</p> <p>第 4 回 : 国際活動における理学療法士の専門性</p> <p>第 5 回 : 国際活動における作業療法士の専門性</p> <p>第 6 回 : 国際活動における言語聴覚士の専門性</p> <p>第 7 回 : JICA ・ JOCV 活動の実際①</p> <p>第 8 回 : JICA ・ JOCV 活動の実際②</p> <p>第 9 回 : 国際ボランティア団体の活動①</p> <p>第 10 回 : 国際ボランティア団体の活動②</p> <p>第 11 回 : 災害リハビリテーションと援助手法①</p> <p>第 12 回 : 災害リハビリテーションと援助手法②</p> <p>第 13 回 : 海外活動の基礎 (危機管理 ・ 衛生管理 ・ 疾病管理 ・ 救急対応 ・ 語学 ・ 文化)①</p> <p>第 14 回 : 海外活動の基礎 (危機管理 ・ 衛生管理 ・ 疾病管理 ・ 救急対応 ・ 語学 ・ 文化)②</p> <p>第 15 回 : 海外活動の基礎 (危機管理 ・ 衛生管理 ・ 疾病管理 ・ 救急対応 ・ 語学 ・ 文化)③</p>

アクティブラーニング	グループ演習、見学、インタビュー等を行います。
評価方法	定期試験 50%、見学レポート 30%、海外活動シミュレーション 20%
課題に対するフィードバック	毎回、リアクションペーパーで得られた質問・課題をフィードバック及び指導する。
指定図書	なし
事前・事後学習	演習内容を事前に提示するので、知識を得ると同時に・手技等の確認をおこなう。事前学習は、演習の振り返りを各自で行い担当教員にフィードバックする。
オフィスアワー	初回講義時に提示します。

科目名	国際理学療法実習
科目責任者	坂本飛鳥
単位数他	2単位(90時間) 理学選択 7・8セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	異なる文化に触れ、生活習慣の異なる地域を訪れるだけでなく、リハビリテーション機関及び専門施設において、本学教員(引率教員)の指導によるクリニカルクラークシップ(CCS)での実習を行い、当該地域における理学療法技術を体験し、学修することを目的とする。合わせて、異なる文化圏の医療について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当地の医療機関とリハビリテーション関連施設を見学する。 2. 当地の医療機関とリハビリテーション関連施設において実習を行い、実際に技術を体験し、日本との理学療法との違いについて理解する。 3. 異なる文化圏の医療について理解を深める。
授業計画	<p><担当教員名>坂本 有菌 金原</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 事前研修 (10コマ)</p> <p>研修する国の言語について習得するだけでなく、当該地域の文化、歴史について学ぶ。また、当該地域の保健医療福祉、リハビリテーション特に理学療法の歴史と現状について事前に学習する。</p> <p>(中国理学療法実習の場合)</p> <p>第1・2回目(坂本)</p> <p>中国語講座(顧先生)</p> <p>医療現場で使用する言葉を学ぶ。</p> <p>日本のリハビリテーション医療や理学療法について知識の再確認を英語・中国語を交え学修する。 ・医療現場でよく使用される言葉やフレーズを学ぶ。</p> <p>・英語で(自分の言葉で)日本の理学療法・リハビリテーション医療について説明できる。</p> <p>第3回目(坂本)</p> <p>中国語講座(顧先生)</p> <p>中国の文化・医療について学修する。</p> <p>・中国の文化・医療について知る。</p> <p>・日本との違いについて知る。</p> <p>第4・5回目(坂本)</p> <p>中枢神経障害について知識の再確認と評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交え学修する。 ・中枢神経障害について理解する。</p> <p>・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる(実技も含む)。</p> <p>・医療現場で使われる英語・中国語を学ぶ。</p> <p>第6・7回目(坂本)</p> <p>中国語講座(顧先生)</p>

	<p>運動器障害について知識の再確認と評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交え学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動器障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、実践できる（実技も含む）。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。 <p>第8・9回目（坂本）</p> <p>疼痛障害、熱傷障害について学修する。また、評価・問題点抽出・プログラム立案の流れを英語・中国語を交え学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疼痛障害と熱傷障害について理解する。 ・評価・問題点・プログラムについて説明し、 ・実践できる（実技も含む）。 ・医療現場で使用される英語・中国語を学ぶ。 <p>第10回目（坂本）</p> <p>日本の文化・医療を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化・医療・福祉について、プレゼンテーションの方法を学ぶ。 <p>2. 異文化圏における医療機関・施設にてクリニカルクラークシップでの実習 現地の医療機関で本学教員の指導のもと実施する（5日間）（引率教員）</p> <p>3. 異文化圏における医療機関・施設における体験実習（3日間）（引率教員）</p> <p>4. 課題レポート（海外体験実習報告書）の作成・実習で学んだことの内省（2コマ） 報告会を実施する（2コマ）（有菌 金原 坂本）</p> <p>実習協力施設：中国 重慶 第三軍医大学 西南病院</p>
アクティブラーニング	<p>グループ学修を通して、渡航先の文化、歴史、社会情勢、医療情勢、健康問題、リハビリテーション医療の現状、実習先の医療機関・施設について情報を収集し、Moodleを使用してeポートフォリオを作成していく。また、事前学習で集めた情報から、問題点を導き、解決策についてディスカッションを行う。PBLなどを利用して、問題点や課題に対する解決策を立案し、実践していく。自らの意見を構築していく。また、柔軟性、積極性、行動力などグローバル人材に必要な人間力を養う。</p>
評価方法	<p>事前研修：10% 実習内容：50% 課題提出物（レポート プレゼンテーション）：40%</p> <p>①事前学修の内容（10%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席日数 ・自己紹介が英語または中国語でできる ・中国の文化・リハビリテーション医療について説明できる→Presentation ・日本の文化・リハビリテーション医療について説明できる→Presentation ・中枢神経障害・運動器障害・熱傷についての知識確認テスト・口頭試問 ・各障害について評価実技テスト（英語・中国語を使用する） <p>成績は上記の内容について責任科目者と担当者が判定する。</p> <p>②Learning Contract の内容（50%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に学修目的（Learning Objective）、方法（Method）欄を記載し、実習実施時にその内容について実習指導者（本学の引率教員）の評価を受ける。 ・帰国後に責任科目者に提出する。 ・成績は責任科目者と担当者により判定する。

	<p>③提出レポート (40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：課題について以下の例を参考に記載する ・現地のリハビリテーション医療やリハビリテーション技師の役割について学んだこと ・この研修の経験をいかし、国際的な視野で、今後理学療法士が取り組むべき役割、課題、学びについて ・今後医療従事者に必要とされるグローバルな人材とは <p>成績は上記の内容について責任科目者が判定する。</p>
課題に対するフィードバック	フィードバックは引率教員、科目責任者が口頭で行う。
指定図書	指定図書なし 臨床実習ハンドブック、事前学習時の配布資料使用、eポートフォリオ
事前・事後学修	英語は日常会話レベルがこなせるよう、毎日15分から30分英会話学習を行ってください。又、渡航先の言語で挨拶と自己紹介ができるように自己学修を行ってください。渡航先の文化、医療情勢、医療機関について調査し、ポートフォリオを作成してください。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3518 研究室 時間等：月、木、金曜日 3限目、17時~18時 上記以外でもメール (asuka-s@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	理学療法教育学
科目責任者	有菌信一
単位数他	1単位（15時間） 理学選択 8セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	保健医療福祉領域において、自らの専門性を自覚し、その責務を果たすことが求められます。理学療法士は、理学療法学生や若手理学療法士の教育を担い、また新しい評価方法や治療法の開発などによって理学療法の発展に寄与しなければなりません。そのためには、理学療法の教育指導の理念と方法を身につけることが大切です。本授業では、理学療法士の教育方法、特に臨床実習における学生指導についての基礎を学び、リハビリテーションの専門職業人として将来を展望した理学療法教育への関心を深めます。
到達目標	1. 医学教育の動向、課題と方略を概説することができる 2. 理学療法の教育方法（CBT、PBL、OSCEなど）を概説することができる 3. 理学療法士の臨床実習における学生指導についての基礎理論と基本技能を修得する
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>有菌信一，吉本好延</p> <p>第1回：医学教育の動向、理学療法士の現状と教育の課題を考える（有菌信一，吉本好延）</p> <p>第2回：理学療法士の大学教育におけるカリキュラムプランニングを学ぶ：教育理念、教育目標、教育課程、授業、成績評価（有菌信一，吉本好延）</p> <p>第3-4回：医学教育の教育手法：CBT、PBL、OSCE、ロールプレイなどを学習し、演習を行う（有菌信一，吉本好延）</p> <p>第5-6回：臨床実習における教育方法について学び、また自身の体験からより良い実習指導のあり方を検討する（有菌信一，吉本好延）</p> <p>第7-8回：理学療法士の「生涯学習」とキャリア形成について学ぶ（有菌信一，吉本好延）</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 各セッションの課題をグループワークで解決・発表する 授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする 授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの発表と内容：40% レポート提出と内容：60%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 発表会の途中で教員が随時補足していく 他の班の発表や教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う

指定図書	なし（講義時に資料を配布する）
事前・ 事後学修	事前に関係論文を配布するので、事前に読んで授業に出席すること。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3503 研究室 時間については、初回授業時に提示します。 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください。

科目名	発展的理学療法学
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	1 単位 (15 時間) 理学選択 8 セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	この授業では、将来、理学療法学の発展に寄与したいと考えている学生、大学院に進学したいと考えている学生を対象に、各理学療法分野の臨床および研究のトレンド、トピックスを学び、高度専門職者としての理学療法士になるために求められる知識、技術、思考力の基礎を学ぶ。
到達目標	1. 理学療法をさらに発展させるための高度専門職者とは何かを考え、述べることができる 2. 大学院、専門技術を学ぶために必要な基本的な知識、技術、思考力を身につける 3. 理学療法士として、将来を展望した生涯学習への関心を深め自己研鑽することができる
授業計画	※本授業の担当者は、大学院を兼務する教員とする。 <授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回：コースオリエンテーション、発展的理学療法学とは 矢倉千昭 第2回：運動器系理学療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 根地嶋誠 第3回：神経系理学療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 吉本好延 第4回：内部障害系理学療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 有菌信一 第5回：物理療法学分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 金原一宏 第6回：健康増進分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 矢倉千昭 第7回：介護予防分野の臨床・研究のトレンド、トピックス 吉本好延 第8回：世界で活躍する理学療法学士の研究活動について 有菌信一
アクティブラーニング	・教員研究活動について概要を説明し、授業前に調べる。 ・受講した内容をリアクションペーパーに記載、提出する。
評価方法	授業態度 40%、レポート 60%
課題に対するフィードバック	・リアクションペーパーに記載された質問にはメールなどで回答する。
指定図書	なし（講義時に資料を配布します）
事前・事後学修	各回の授業テーマについて、調べ考えて授業に出席する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	音楽療法
科目責任者	山田 美代子
単位数他	1 単位 (30 時間) 作業選択・言語選択 1 セメスター
科目の位置付	DP (3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	我が国における音楽療法の動向を様々な理論や技法から学ぶ。ビデオなど視聴覚教材を通じて、また実践現場を実際に見学し、体験的に理解を深める。さらに関心領域における音楽セッションをグループで計画し、発表をする。模擬的であってもその過程（計画～発表）で学んだことをディスカッションし、音楽療法を総括する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽療法の基本的な理論や技法を知る。 2. 対象者のニーズに合わせた具体的な音楽療法またその技術の実際を体験的に習得する。 3. 歌うという音楽活動を科学的な側面から理解する。 4. 医療音楽療法からコミュニティ音楽療法への関係とその実際を体験的に理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 山田美代子</p> <p>第 1 回：音楽療法とは 歴史・定義</p> <p>第 2 回：音楽療法の実践 セッションの実際</p> <p>第 3 回：コミュニティ音楽療法</p> <p>第 4 回：リハビリテーション領域における音楽療法</p> <p>第 5 回：精神科領域の音楽療法</p> <p>第 6 回：高齢者の音楽療法</p> <p>第 7 回：実践現場「The 合唱団」を体験</p> <p>第 8 回：実践現場「The 合唱団」を体験</p> <p>第 9 回：発達障害児の音楽療法</p> <p>第 10 回：生活の中での音・音楽療法</p> <p>第 11 回：音楽認知における脳機能画像（光トポグラフィ装置）に関する研究</p> <p>第 12 回：音楽療法の計画から模擬セッション ～ケアプラン内容を基に～</p> <p>第 13 回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング</p> <p>第 14 回：音楽療法の計画から模擬セッションプランニング</p> <p>第 15 回：発表とまとめ</p>
アクティブラーニング	第 7・8 回は、実習。第 12～15 回は、関心領域におけるセッションの計画から実践までをグループによる PBL で行い、取り組み発表する。
評価方法	授業態度 30%、課題提出物 10%、レポート 10%、定期試験 50%

課題に対するフィードバック	第7・8回終了後、レポートを作成し提出する。通常授業リアクションペーパーへの回答は次の授業の最初に回答する。内容によっては個別にコメントし返却する。
指定図書	プリント配布を原則
事前・事後学修	対象領域や対象者によって用いる音楽は様々である為、事前学習として関連音楽について調べ、授業終了後に聞いたり歌ったりする等、実践的に楽しみながら修得する。
オフィスアワー	質問のある場合には、授業終了時前に申し出てほしい。終了後の場合、教務事務センターを介して受け付けをする。

科目名	ケアマネジメント
科目責任者	川根徳雄
単位数他	2単位 (30時間) 作業選択 3セメスター 言語選択 5セメスター
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけることができる。
科目概要	私たちが生活を送る際には様々な資源（仕組みや制度等）に支えられている。病気や障害、社会的不利により生活上の困難が発生した場合に活用する政策用語、方法論がケアマネジメントである。生活上の困難を持つ人の立場にたって多様な領域の多様な資源を結びつけながら、援助を計画的に提供する方法論でもある。一般的に日本の中で、ケアマネジメントは、介護支援専門員（ケアマネージャー）が、この手法を用いて支援（援助）を行う事を指す場合が多い。この講義では医療専門職として必要だと考えるケアマネジメントについて講義と具体的な事例を通して理解・修得することを目指す。
到達目標	① ケアマネジメントの基本的理解ができる。ソーシャルワークとの関係性についても学ぶ。 ② 介護保険制度の概要と、介護支援専門員（ケアマネージャー）の役割が分かる。 ③ 対人援助の基本原則が理解できる。ケアマネジメントと福祉・医療・介護等の関係性に興味を持つ事ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>川根徳雄</p> <p>第1回：講義概要紹介・ケアマネジメントの概略</p> <p>第2回：社会資源の基本である社会保障制度の概要</p> <p>第3回：高齢者のケアマネジメントと介護保険制度概要</p> <p>第4回：ケアマネジメントの機能と基本的理解</p> <p>第5回：ケアマネジメントの過程 ① インテーク（受理）</p> <p>第6回：ケアマネジメントの過程 ② 査定（アセスメント）</p> <p>第7回：ケアマネジメントの過程 ③ 援助計画策定（プランニング）</p> <p>第8回：ケアマネジメントの過程 ④介入（インターベンション）</p> <p>第9回：ケアマネジメントの過程 ⑤実態把握（モニタリング）</p> <p>第10回：ケアマネジメントの過程 ⑥評価（エバリュエーション）</p> <p>第11回：ケアマネジメントの過程 ⑦再アセスメント・援助計画修正</p> <p>第12回：ケアマネジメントにおける多職種連携</p> <p>第13回：障害者総合支援法とケアマネジメント</p> <p>第14回：事例検討 ①</p> <p>第15回：事例検討 ② まとめ</p>

アクティブラーニング	原則、講義ごとにリアクションペーパーを提出し、それに回答する形式で講義を展開。講義中に、課題を示し、それに合わせてグループワークを行う等。適宜、学生に対して質問を行う。或いは質問を受ける形態での講義を展開。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業への参加態度 30% ② 提出物 30% ③ 定期試験 40%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答ポイントを紹介します。リアクションペーパーに対する回答を行います。講義期間中に小テストを実施した場合には、その回答（正答例）の説明を行います。
指定図書	なし
事前・事後学習	<p>事前学習：病気後遺症や障がいにより生活上の困難が発生した場合に、どのような対応や課題ができるかについて、また、どのような制度やサービスが利用できるかについて、毎回の講義前に学習を行う。</p> <p>事後学習：毎回の講義後、講義内容を整理し、自分の言葉で語る事ができるようになる。</p>
オフィスアワー	授業に関する質問・希望等は講義時間前後に直接受け付けます。並びに教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	国際作業療法実習
科目責任者	建木 健
単位数他	2 単位数 (90 時間) 作業選択 3~8 セメスター
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	国内で学修した作業療法の基礎知識を土台に、海外のリハビリテーション関連施設での作業療法の実践に触れる実習である。作業療法士を目指す学生として、国際的な視野に立った視点の形成と、それに基づく新たな自己課題の発見および目標設定の機会とする。 国内での教員の指導に加え、現地での教員による指導、作業療法関連スタッフの指導により実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地のリハビリテーションの現状、作業療法士の役割について理解できる ・ 国際的な視野に立ち、作業療法士を目指す自己の課題を発見できる
授業計画	<p><担当教員名>建木 健、鈴木 達也 (全てを2人で担当) ※現地での指導は、現地教員および、実習受入施設作業療法職員が行う。</p> <p><授業内容・テーマ等> 実施期間：2018年3月上旬から2週間 対象人数：2名の予定</p> <p>臨床実習 1週目 現地オリエンテーション、臨床実習施設にて実習 2週目 臨床実習施設にて実習 帰国 ・実習期間中は事前に作成した Learning Contract に基づき実施し、その内容について現地教員の評価を受ける</p>
アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ Learning Contract の内容 80% ・ 提出レポート 20%
課題に対するフィードバック	臨床実習施設にてフィードバックを受ける。帰国後にその記録を担当教員に提出し、フィードバックを受ける。
指定図書	なし
事前・事後学修	事前学修 (15 時間) <ul style="list-style-type: none"> ・ Leaning Contract (学習目的、方法) の作成指導 ・ 渡航・現地生活に関する指導・英会話講習 (国際交流センター職員による) 事後学修 (15 時間) <ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国後はレポート (A4 サイズ 2~3 ページ) と感想を提出し、教員の指導を受ける
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3511 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時~13 時。 上記以外でもメール (ken-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	レクリエーション演習																																	
科目責任者	泉 良太																																	
単位数他	1単位（30時間） 作業選択 4セメスター																																	
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。																																	
科目概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な領域で用いられるレクリエーションを体験・企画し、その身体的・心理的効果を学修する。 2. パラリンピック競技を体験し、余暇活動でもあるスポーツ面からの障害体験をする。 3. 発達障害領域における治療法のひとつである感覚統合療法について理論、方法等について学修する。さらに、様々な対象グループに適応した感覚統合療法の企画から準備を行い、実際に対象児・者に対する指導を体験することにより、導入から感覚統合療法実施の実際を学修する。 																																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションを企画することができる。 2. レクリエーションによる身体的・心理的効果について説明ができる。 3. スポーツ面から障害児・者の理解ができる。 4. 感覚統合療法を実施する対象児・者の理解ができる。 5. 対象児・者に適した感覚統合療法の企画と準備ができる。 																																	
授業計画	<p><科目担当教員>泉良太、伊藤信寿</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第2回：レクリエーションについて</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第3回：レクリエーションの体験</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第4回：レクリエーションの企画</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第5回：レクリエーションの発表</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第6回：レクリエーションの発表</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第7回：パラリンピックについて</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第8回：パラリンピック競技の体験</td> <td>泉 良太</td> </tr> <tr> <td>第9回：感覚統合療法について</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第10回：遊具で遊ぶ体験</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第13回：手づくり遊びの発表</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第14回：手づくり遊びの発表</td> <td>伊藤信寿</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>泉 良太</td> </tr> </tbody> </table>		<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：オリエンテーション	泉 良太	第2回：レクリエーションについて	泉 良太	第3回：レクリエーションの体験	泉 良太	第4回：レクリエーションの企画	泉 良太	第5回：レクリエーションの発表	泉 良太	第6回：レクリエーションの発表	泉 良太	第7回：パラリンピックについて	泉 良太	第8回：パラリンピック競技の体験	泉 良太	第9回：感覚統合療法について	伊藤信寿	第10回：遊具で遊ぶ体験	伊藤信寿	第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿	第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿	第13回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿	第14回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿	第15回：まとめ	泉 良太
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																	
第1回：オリエンテーション	泉 良太																																	
第2回：レクリエーションについて	泉 良太																																	
第3回：レクリエーションの体験	泉 良太																																	
第4回：レクリエーションの企画	泉 良太																																	
第5回：レクリエーションの発表	泉 良太																																	
第6回：レクリエーションの発表	泉 良太																																	
第7回：パラリンピックについて	泉 良太																																	
第8回：パラリンピック競技の体験	泉 良太																																	
第9回：感覚統合療法について	伊藤信寿																																	
第10回：遊具で遊ぶ体験	伊藤信寿																																	
第11回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿																																	
第12回：遊具等を使用した手づくり遊びの企画	伊藤信寿																																	
第13回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿																																	
第14回：手づくり遊びの発表	伊藤信寿																																	
第15回：まとめ	泉 良太																																	

アクティブラーニング	グループ学修、体験学習 演習科目です
評価方法	レポート 40%、課題に対する取り組み 30%、発表 30%、計 100%
課題に対するフィードバック	レポート・発表・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	なし
事前・事後学修	事前学修時間 20 分、事後学修時間 20 分 ・解剖学（特に感覚）・運動学について復習しておくこと。 ・レクリエーション、感覚、発達障害についてまとめること。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。

科目名	絵画療法
科目責任者	中道 芳美
単位数他	1単位 (30時間) 理学選択 3セメスター 言語選択 5セメスター
科目の位置付	DP (3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	絵を描くことで、身体の諸機能への働きかけ、残存機能の維持と回復を促すことを知る。創造的な治療方法として、精神のリラックス効果、QOLの向上、心のケアを促すことを学ぶ。絵画による表現活動が人間に与える身体的、精神的、心理的、社会的な影響や効果について理解する。
到達目標	1. 絵画を通して、自己表現や他者との関わりを学ぶ。 2. 絵画制作の実技を通して、表現技術を学ぶ。(学生各自の実習体験) 3. 他者への共感的態度をもち、豊かな対人関係を築いて、チーム医療の実践ができる能力を身につける。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>中道 芳美</p> <p>第1回：ガイダンス、知的障害児者、心身障害児者、高齢者(認知症)作品紹介</p> <p>第2回：実技体験、クレヨン、水彩絵の具の使い方表現、方法を学ぶ</p> <p>第3回：実技体験、模写</p> <p>第4回：実技体験、自分の作品を描く</p> <p>第5回：実技、自分の作品を仕上げる、継続する大切さを学ぶ</p> <p>第6回：共同制作に取り組む、グループに分かれて話し合う</p> <p>第7回：共同制作作品のテーマに合う画材を学ぶ</p> <p>第8回：春の花の共同制作</p> <p>第9回：夏の花の共同制作</p> <p>第10回：行事用の共同制作</p> <p>第11回：右ききの人は左手で描くということ…</p> <p>第12回：残存機能の維持と回復を促す体験実技</p> <p>第13回：精神的影響、リラックス効果の体験実技</p> <p>第14回：絵てがみを描く、小さな画用紙使用</p> <p>第15回：作品完成、全体評価</p>
アクティブラーニング	演習科目です。
評価方法	実技 30%、授業態度 50%、レポート 20%
課題に対するフィードバック	なし

指定図書	なし
事前・ 事後学修	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	発達心理学
科目責任者	細田 直哉
単位数他	2単位 (30時間) 作業選択 3セメスター
科目の位置付	DP (2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	発達心理学の概論ではありません。生涯発達を見通しつつ、その初期段階としての乳幼児期を教科書とDVDを使って丁寧に見ながら、発達とその援助を心理学的に理解する授業です。学生は授業を受けるだけでなく、学んだことを主体的にまとめ、関連した事柄を調べ、最終的に各年齢についての自分の学びを1冊のファイルにして提出する必要があります。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践にかかわる心理学の基礎知識を身につける。 2. 子どもの発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。 3. 発達が人やモノとの相互的にかかわりの中で起こることを理解し、説明できる。 4. 生涯発達の観点から発達過程や初期経験の重要性がわかり、保育との関連性が説明できる。
授業計画	<p><授業計画・テーマ等> <担当教員名>細田 直哉</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の概要・評価基準・発達とは何か</p> <p>第2回：子どもの「自分づくり」の発達過程と保育</p> <p>第3回：0歳児前半の発達</p> <p>第4回：0歳児後半の発達</p> <p>第5回：1～2歳児の発達</p> <p>第6回：2～3歳児の発達</p> <p>第7回：ポートフォリオ中間発表会</p> <p>第8回：3～4歳児の発達</p> <p>第9回：4～5歳児の発達</p> <p>第10回：5～6歳児の発達</p> <p>第11回：生涯発達と発達援助</p> <p>第12回：発達障害と発達支援</p> <p>第13回：「発達」とは何か？：子ども観と保育観</p> <p>第14回：心理学理論のまとめ ①ピアジェ・ヴィゴツキー</p> <p>第15回：心理学理論のまとめ ②エリクソン・ロゴフ</p>
アクティブラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。

評価方法	ポートフォリオ 100%ですが、授業態度を含めて総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	河原紀子『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』(学研)
事前・事後学修	事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む。 事後：ポートフォリオ作りを各自進める。
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示します。

科目名	発展的作業療法学
科目責任者	泉 良太
単位数他	1 単位 (15 時間) 作業選択 8 セメスター
科目の位置付	DP(5)獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	作業療法領域における最近の研究内容を調べ、臨床実習で学修した知識および理論との統合を行う。また、最新の作業療法についてその方法と根拠について理解を深め、実際の対象者に合わせた作業療法が提供できるようにする。
到達目標	1. 各領域の最近の研究内容について説明できる。 2. 最新の作業療法の方法と根拠について列挙できる。
授業計画	<p><科目担当教員> 泉良太、新宮尚人、田島明子、伊藤信寿、建木健、藤田さより、鈴木達也、中島ともみ</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : 身体領域作業療法における最近の研究内容について (神経系) 泉 良太</p> <p>第2回 : 精神領域作業療法における最近の研究内容について 新宮尚人</p> <p>第3回 : 地域作業療法における最近の研究内容について 田島明子</p> <p>第4回 : 発達領域における最近の研究内容について 伊藤信寿</p> <p>第5回 : 就労支援における最近の研究内容について (高次脳領域) 建木 健</p> <p>第6回 : 就労支援における最近の研究内容について (精神領域) 藤田さより</p> <p>第7回 : 老年期作業療法における最近の研究内容について 鈴木達也</p> <p>第8回 : 身体領域作業療法における最近の研究内容について (運動器系) 中島ともみ</p> <p>*全ての回において、事前の文献抄読を必須とします。*</p>
アクティブラーニング	グループ学修、moodle の活用
評価方法	レポート (文献抄読) 50%、定期試験 50%、計 100%

課題に対するフィードバック	レポートへのコメント (moodle 使用)
指定図書	山田孝 (編) : 作業療法研究法 第 2 版、医学書院、2012
事前・事後学修	事前学修時間 20 分以上、事後学修時間 20 分以上
オフィスアワー	所属学部 : リハビリテーション学部 研究室 : 3414 研究室 時間については初回授業時に提示します。 上記以外でもメール (ryota-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントをとってください。

科目名	卒業研究
科目責任者	佐藤順子
単位数他	1単位（30時間） 言語選択 8セメスター
科目の位置付	DP(4) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	言語聴覚療法学ならびに関連領域において研究課題を設定し、研究計画を立案する。自らの研究課題に関連した文献を検索し、自己の研究テーマの背景を知り、研究目的やその意義について理解を深め、研究課題を絞り込む。プレ実験や調査を行い、研究計画書を作成する。指導教員のゼミに所属して指導教員による個別指導はもちろん、ゼミのメンバーとも互いに協力しながら研究を進めていく。これらを通し、研究課題を解決する方法論と能力を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 6. 言語聴覚障害学ならびに関連領域に関する研究疑問を発見し、研究テーマを設定する。 7. 先行研究の論文を検索し、概要をまとめる。 8. 調査・実験計画を立案できる。 9. ゼミごとにディスカッションを行い、研究計画・実験計画を修正する。 10. 研究目的、関連する先行研究、研究方法を記載した研究計画書を作成する。 11. 研究計画書をもとにデータを収集する。 12. データを解析し、理論的な考察ができる。 13. 研究内容をまとめ、論文を作成し、報告会でプレゼンテーションを実施する。
授業計画	<p><担当教員名>柴本 勇、佐藤順子、石津希代子、谷 哲夫、大原重洋（すべての内容を全員で担当する）</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：卒業研究の概要の説明</p> <p>第2回：テーマの選定</p> <p>第3回：先行研究の収集と要約</p> <p>第4回：研究計画の立案</p> <p>第5回：研究計画の修正</p> <p>第6回：試験的データの収集・分析</p> <p>第7回：本実験の方法の再検討</p> <p>第8回：研究計画に基づいた実験・調査の遂行</p> <p>第9回：データの収集・整理</p> <p>第10回：統計処理・分析</p> <p>第12回：論文の作成・草稿の提出</p> <p>第13回：プレゼンテーションの作成</p> <p>第14回：卒業論文報告会で発表</p> <p>第15回：卒業論文の最終修正・提出</p>

アクティブラーニング	演習科目です。
評価方法	卒業論文の完成度（70%）ゼミの態度（15%）発表（15%）
課題に対するフィードバック	授業内に解説をします。
指定図書	なし
事前・事後学修	ゼミの教員から出された課題を期日までに提出する。
オフィスアワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：毎週月曜日 IV限 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	言語聴覚障害学特別講義
科目責任者	佐藤順子
単位数他	1単位（8時間） 言語選択 8セメスター
科目の位置付	DP (5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	4年間学んだ言語聴覚士国家試験対象科目である専門基礎科目、専門科目の学習内容を振り返りながら、各科目の理解度と習得状況を確認する。また、知識が不十分な科目について学生自ら自覚し、必要な知識の再学習を行なう。
到達目標	1.国家試験、頻出用語を説明できる。 2.調べたこと・覚えたことを人に教えることができる。 3.毎日の学習スケジュールを記録できる。 4.模擬試験の結果をもとに、自己学習内容・時間を計画できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>第1回：オリエンテーション 佐藤順子</p> <p>第2回：基礎医学（医学総論、解剖学、生理学、病理学）、リハビリテーション概論 佐藤豊展</p> <p>第3回：臨床医学①（内科学、臨床神経学、リハ医学、精神医学、小児科学、神経系の構造・機能・病態、形成外科学、耳鼻咽喉科学、聴覚系の構造・機能・病態、臨床歯科医学、口腔外科学、呼吸発声系の構造・機能・病態） 中村哲也</p> <p>第4回：心理学（認知・学習心理学、臨床心理学、生涯発達心理学、心理測定法）、言語学、社会福祉・関係法規 石津希代子</p> <p>第5回：言語発達学心理学、言語発達障害学 木原ひとみ</p> <p>第6回：音声学、発声発語・嚥下障害学 柴本 勇</p> <p>第7回：音響学・聴覚心理学、聴覚障害学 大原重洋</p> <p>第8回：失語・高次脳機能障害 谷 哲夫</p>
アクティブラーニング	演習科目（事前学修をして授業で質問、解説をします）
評価方法	中間試験・定期試験（80%） 提出物（20%）
課題に対するフィードバック	各担当教員から各自にフィードバックします。

指定図書	『言語聴覚士テキスト』廣瀬肇監、医歯薬出版、2010
事前・ 事後学修	<p>[事前学修] 各教科について事前にしっかり予習をすること。</p> <p>[事後学修] 各科目で出された課題を提出すること。</p>
オフィス アワー	<p>所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3407 研究室 時間等：毎週月曜日 IV限 上記以外でもメール（junko-sa@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。</p>

科目名	国際言語聴覚療法実習
科目責任者	柴本 勇
単位数他	2 単位 (90 時間) 言語選択 7 セメスター
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	本科目は国際的視点に立った言語聴覚療法の提供を目指し、国内外の連携施設において言語聴覚療法に関する実習を行う。本科目は単に言語聴覚療法の実習にとどまらず、地域社会や国際社会のニーズを的確にとらえ専門職としての貢献を考えることも含む。
到達目標	1. 地域社会・国際社会において言語聴覚療法のニーズを分析し説明できる。 2. 言語聴覚療法の必要性に応じ、専門職として対応ができる。 3. 国際社会で活動できるスキルを身につけることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 柴本 勇</p> <p>事前学習(1W)：地域援助、文化、語学、言語聴覚学 実習(2W)：連携施設において、言語聴覚療法に関する実習 事後学修(1W)：自身の活動と地域社会・国際社会との関係性についてレフレクション</p>
アクティブラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学修 20% 達成度は、ルーブリックに基づいて確認する。
課題に対するフィードバック	実習中は毎日振り返りを行い、フィードバックをする。
指定図書	なし
事前・事後学修	連携施設に行く前に、援助方法・文化・語学等の事前学習を実施する。事後学修として、自身の活動が地域社会とどのような関係かを検討する。同時に自身の専門性の向上についても検討する。
オフィスアワー	研究室：3号館4階 3408 研究室 毎週火曜日 3 限とします。 上記以外でも、メール(isamu-s@seirei.ac.jp)にて面談予約を受け付けます。

科目名	発展的言語聴覚療法学	
科目責任者	柴本 勇	
単位数他	1 単位 (15 時間) 言語選択 8 セメスター	
科目の位置付	DP (7) 保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。	
科目概要	4 年次まで学んできた言語聴覚学や言語聴覚療法に関する、最新知見・最新研究動向・最新臨床手技・最新トピック等更に発展的かつ最新情報を含めて学ぶ。学部から大学院への移行にふさわしい内容の学修を行う。高度専門職を目指す基盤を学ぶ。	
到達目標	1. 言語聴覚療法の、最新知見・最新研究動向・最新臨床手技・最新トピックを説明できる。 2. 最新の知識等を用いて発展的な言語聴覚療法を提供できる。	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 発展的言語聴覚療法学</p> <p>第 2 回：言語障害の最新トピック</p> <p>第 3 回：発話障害の最新トピック</p> <p>第 4 回：摂食嚥下障害の最新トピック</p> <p>第 5 回：聴覚障害の最新トピック：教育領域も含めて</p> <p>第 6 回：地域言語聴覚療法の最新トピック</p> <p>第 7 回：言語聴覚療法と倫理</p> <p>第 8 回：言語聴覚学研究と臨床</p>	<p><担当教員名></p> <p>柴本 勇</p> <p>佐藤順子</p> <p>柴本 勇</p> <p>柴本 勇</p> <p>大原重洋</p> <p>谷 哲夫</p> <p>佐藤順子</p> <p>柴本 勇</p>
アクティブラーニング	ディスカッション・文献検討・症例検討等を行います。 小グループでの学修を行います。	
評価方法	定期試験 50%、レポート（事前事後学修課題） 50%	
課題に対するフィードバック	都度、口頭にてフィードバックを行います。	
指定図書	なし	
事前・事後学修	ディスカッションの内容、文献の内容、症例に関する内容を事前・事後学修します。	
オフィスアワー	研究室：3 号館 4 階 3408 研究室 毎週火曜日 3 限とします。 上記以外でも、メール(isamu-s@seirei.ac.jp)にて面談予約を受け付けます。	